

# 唐堀遺跡(2)

— 縄文時代編 —

第1分冊

本文・遺構図版編

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

群馬県上信自動車道建設事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第707集

## 唐堀遺跡(2)

縄文時代編

第1分冊  
遺構図版編

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二二

群馬県上信自動車道建設事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 唐 堀 遺 跡 (2)

— 縄文時代編 —

第 1 分冊

本文・遺構図版編

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う  
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2022

群馬県上信自動車道建設事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





唐城遺跡全景(奥に岩櫃山、南西から)



水場遺構全景(下流側(40)から)

## 口絵 2



彫刻のある木柱の出土状況(下流側から)



彫刻のある木柱の出土状況(右が下流側)



彫刻のある木柱



唐堀遺跡出土の縄文土器



唐堀遺跡出土の石製品(玉類、軽石製品)、土製玉類



唐堀遺跡出土の石製品(石棒、石剣、石冠、独鈷石、岩版)

口絵 4



唐堀遺跡出土の石箭



唐堀遺跡出土の耳飾り

# 序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約80kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「7つの交通軸構想」のうちの「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。

上信自動車道の整備区間の一つである吾妻西バイパスは、吾妻郡東吾妻町大字厚田から同町大字松谷に至る約7kmの区間で、平成21年3月に整備区間に指定され完成を目指して建設事業が進められているところです。

唐堀遺跡は、吾妻郡東吾妻町大字三島に所在し、群馬県教育委員会による試掘調査によって事業対象地において埋蔵文化財が確認されました。群馬県県土整備部と群馬県教育委員会との調整を経て、平成27年度から平成30年度にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。その結果、天明三年(1783年)の浅間山の噴火に伴う泥流で被災した江戸時代の水田、古墳時代後期の古墳、そして縄文時代の水場遺構や土坑・配石などが発見され、多数の縄文土器や石鏃をはじめとする石器、彫刻のある木柱、遮光器土偶、耳飾り、玉類など貴重な遺物が出土しました。

本報告書は、縄文時代の調査成果について報告し、とりわけ水場遺構の発掘により縄文時代の食生活の様子を解明する成果が得られました。唐堀遺跡の調査成果は、吾妻地域だけではなく群馬県における縄文時代の人々の生活や他地域との文化交流を考える上で貴重な資料になるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県県土整備部、群馬県中之条土木事務所、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会および東吾妻町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご協力とご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 向田 忠 正



# 例 言

1. 本書は、上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成27～30年度に発掘調査された唐櫃遺跡の発掘調査報告書であり、縄文時代の調査成果をまとめたものである。
2. 唐櫃遺跡(からほりいせき)は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字唐櫃地内に所在する。  
地番は、B3473、B3478、B3478-2、B3500-1、B3500-2、3512、3513、3514、3515、3516、B3517、3518、3519、3520、B3521、B3525、B3526、3527、3528、3532、B3529、C3529、B3530、3531、B4018、B3478とB3500-1・3512・3513・3514・3515の間の無番地(中央水路部)である。
3. 事業主体：群馬県中之条土木事務所(平成27・28年度)、群馬県上信自動車道建設事務所(平成29年度以降)
4. 調査主体：公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。
  - ① 平成27年度  
履行期間 平成27年5月8日～平成28年3月31日  
調査期間 平成27年9月1日～平成27年12月31日  
調査担当 長澤典子(主任調査研究員)、飯田陽一(専門調査役)  
遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
  - ② 平成28年度  
履行期間 平成28年3月31日～平成29年3月31日  
調査期間 平成28年4月1日～平成28年12月31日  
調査担当 松村和男(主任調査研究員)、坂本和之(主任調査研究員)、立野喜紀(調査研究員)  
遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
  - ③ 平成29年度  
履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日  
調査期間 平成29年4月1日～平成29年12月31日  
調査担当 立野喜紀(調査研究員)、鈴木佑太郎(専門員)、飯田陽一(専門調査役)、木津博明(専門調査役)  
遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
  - ④ 平成30年度  
履行期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日  
調査期間 平成30年6月1日～平成30年12月31日  
調査担当 関口博幸(主任調査研究員)、坂本和之(主任調査研究員)  
遺跡掘削工事 歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。
  - ① 平成28年度  
履行期間 平成28年3月31日～平成29年3月31日  
整理期間 平成28年11月1日～平成29年3月31日  
整理担当 石守 晃(上席専門員・資料統括)
  - ② 平成29年度  
履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

整理期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

整理担当 松村和男(主任調査研究員・資料統括)

③ 平成30年度

履行期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

整理期間 平成30年7月1日～平成31年3月31日

整理担当 大西雅広(専門調査役)、松村和男(主任調査研究員・資料統括)

④ 平成31年度・令和元年度

履行期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

整理期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

整理担当 松村和男(上席調査研究員)、関口博幸(主任調査研究員)、唐沢友之(主任調査研究員)

⑤ 令和2年度

履行期間 令和2年3月31日～令和3年3月31日

整理期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

整理担当 松村和男(上席調査研究員)、関口博幸(主任調査研究員)、齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)

⑥ 令和3年度

履行期間 令和3年3月31日～令和4年3月31日

整理期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

整理担当 関口博幸(上席調査研究員・資料統括)、橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)

7. 本書作成の担当者は次の通りである。

編集：関口博幸

デジタル編集：齊田智彦

遺構写真：調査担当者

遺物分類

縄文土器分類：関口博幸(平成31～令和2年度)、橋本 淳(令和3年度)、石坂 茂(専門調査役 平成30年度)

石器・石製品分類：津島秀章(資料2課長・平成31・令和元年度)、松村和男(令和2年度)、

岩崎泰一(専門調査役・令和3年度)

石畿形態分類：関口博幸

木製品・堅果類：板垣泰之(専門員(主任))、関 邦一(専門調査役)

獣歯骨類：松村和男

遺物実測・観察表作成

縄文土器・土製品(土偶・耳飾り・土製円板・土製品)実測：橋本 淳

縄文土器観察表：橋本 淳、鈴木佑太郎(専門員)

耳飾り・土製円板・土偶・土製品観察表：関口博幸

石器・石製品実測：津島秀章、松村和男、岩崎泰一

石器・石製品観察表：関口博幸、津島秀章、松村和男、岩崎泰一

石畿観察表：関口博幸

木製品観察表：板垣泰之

クルミ観察表：関口博幸、板垣泰之

獣歯骨観察表：松村和男

## 遺物写真撮影

縄文土器・土製品：関口博幸

石器・石製品：津島秀章、松村和男、岩崎泰一

木製品・堅果類：関口博幸、板垣泰之

獣歯骨関係：関口博幸、松村和男

口絵：関口博幸

保存処理：板垣泰之、関 邦一

## 本文執筆

第1章～第4章：関口博幸、第5章第1～9節：関口博幸、第10節：林 克彦、第11～13節：関口博幸、第14節：松村和男、第15・16節：関口博幸、第17節：上條信彦、第18節：関口博幸、第19節：板垣泰之、第20節：関口博幸

## 8. 発掘調査および整理作業での委託は次の通りである。

地上測量：株式会社測研

航空写真：技研コンサル株式会社

遺物洗浄注記業務：株式会社歴史の杜・株式会社シン技術コンサル・山下工業株式会社

彫刻のある木柱保存処理業務：株式会社東都文化財保存研究所

遺物分類接合業務：株式会社歴史の杜

石器分類集計業務：株式会社歴史の杜

彫刻のある木柱3次元実測業務：株式会社測研

石器実測トレース業務：株式会社シン技術コンサル

自然科学分析(花粉、植物珪酸体、樹種・樹皮・大型植物遺体同定、昆虫化石、黒曜石産地推定、石礫付着物、

赤色顔料、漆塗膜、胎土、動物遺体同定、炭素窒素安定同位体比、放射性炭素年代測定)：株式会社パレオ・ラボ

## 9. 縄文時代の発掘調査に際し、次の方々へ調査の指導助言を依頼した(所属は調査時点)。

設楽博己(東京大学大学院人文社会系考古学研究室教授、群馬県文化財保護審議委員)

佐々木由香(株式会社パレオ・ラボ総括部長、博士(環境学))

国木田 大(東京大学人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター特任助教)

樋泉岳二(早稲田大学教育学部非常勤講師、明治大学黒曜石研究センター)

## 10. 遺物の分類及び観察に際し、次の方々にご協力をいただいた。

縄文土器：林 克彦(公益財団法人五島美術館)

獣歯骨等：高柴裕司(群馬県立自然史博物館)、姉崎智子(群馬県立自然史博物館)

石材同定：飯島静男(群馬県地質研究会)

## 11. 本文の原稿執筆に際し、次の方々にご協力をいただいた。

林 克彦、上條信彦(弘前大学人文社会科学部)

## 12. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 13. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、次の方々へ関係機関にご指導並びにご協力をいただきました。記して感謝申し上げます(敬称略)。

群馬県県土整備部、群馬県中之条土木事務所、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県教育委員会事務局及び群馬県地域創生部文化財保護課、東吾妻町教育委員会、阿部芳郎、石坂 茂、上條信彦、国木田 大、栗島義明、小林達雄、佐々木由香、設楽博己、大工原 豊、角田祥子、樋泉岳二、能登 健、林 克彦

## 凡 例

1. 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第IX系を用い、座標北で示した。調査区の範囲は、概ねX=61670~61680、Y=-94125~94450である。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
3. 遺構図については、基本的に下記の縮尺で掲載し各挿図中にスケールを示した。  
各種全体図：1/400・1/450、竪穴・竪穴建物・土坑・列石・遺物集中・落ち込み・ピット：1/40、配石：1/40・1/80、集石：1/40・1/60、埋喪・屋外炉・石囲い・しみ状遺構・立木：1/20、溝：1/60・1/160、遺物包含層：1/60、水場遺構全体図：1/150、水場遺構貯水場・作業場・水路・廃棄場・谷地部：1/40、種子ブロック・灰層ブロック・セクション図：1/20、水場遺構断削セクション図：1/20、彫刻のある木柱出土図：1/20
4. 遺物実測図については、基本的に下記の縮尺で掲載し各挿図中にスケールを示した。  
縄文土器：1/2・1/3・1/4、土製品類(土製玉類、耳飾り、土偶、土版、土製円板など)：1/1・1/2・1/3・4/5、石器(石鏃、石錐(ドリル)、石匙、楔形石器、異形石器、打製石斧、磨製石斧、石核など)：1/1・1/2・1/3、礫石器(磨石、敲石、凹石、石皿、多孔石、砥石など)：1/2・1/3・1/4・1/6、石製品(石棒、石剣、岩版、石製玉類、軽石製品など)：1/1・1/2・1/3、木製品：1/2・1/3・1/4・1/6、彫刻のある木柱：1/10
5. 写真図版編に掲載した遺物写真の縮尺については、基本的に遺物実測図と同一の縮尺で掲載した。
6. 挿図番号・表番号については、分冊ごとに第1図・第1表から付した。PL.番号については、第4分冊(写真図版編)にPL.1から付した。
7. 本文中で各分冊の挿図番号・表番号を記載する場合、次の方法で表記した。  
例：第1分冊第1図→1-1図、第2分冊第55図→2-55図、第1分冊第1表→1-1表、第2分冊第50表→2-50表
8. 遺物図版・遺物観察表については、第2分冊(遺物図版・観察表編)に掲載した。
9. 遺物の計測値の単位については、基本的に長さ・幅・厚さはmmで表記し(一部cm)、重量はgで表記した。
10. トチノキ・オニグルミについては、基本的にトチノミ、クルミと表記した(一部トチノキの表記)。
11. 炭化物付着土器や漆塗土器、石器などについては、登録No等を付して写真のみの掲載としたものもある。
12. 第2分冊(遺物図版・観察表編)の掲載遺物のうち土製品、石器、石製品については、器種別遺物実測図に掲載するとともに、基本的に遺構別遺物出土図にも共伴土器と併せて掲載した(一部展開図を加工)。
13. 本書で使用した地形図は下記の通りである。  
国土地理院：地形図 1:50,000 「中之条」(平成11年発行)、国土地理院：地形図 1:200,000 「長野」(平成18年発行)、国土地理院地理院地図タイルを編集加工、吾妻町都市計画図1:2500 (東吾妻町提供)を編集加工して使用した。

# 唐堀遺跡(2)報告書総目次

## 1. 第1分冊 本文・遺構図版編

口絵	(5) 耳飾り一覧表
序	(6) 石鏃一覧表
例言	(7) 石鏃(ドリル)一覧表
凡例	(8) 剥片石器・石製品・軽石製品ほか一覧表
総目次	(9) 礫石器一覧表
目次	(10) 石製・土製玉類一覧表
挿図目次	(11) 木製品一覧表
表目次	(12) クルミー一覧表

第1章 調査に至る経緯

第2章 調査の方法と調査経過

第3章 地理的環境と周辺遺跡・基本土層

第4章 縄文時代の遺構と遺物

第5章 調査成果

報告書抄録

## 3. 第3分冊 自然科学分析編

目次

第1節～第29節

## 2. 第2分冊 遺物図版・観察表編

挿図目次・表目次

### 1. 遺物図版

- (1) 遺構出土遺物
- (2) 遺構外出土土器
- (3) 人面付き土器・土偶・土製品・耳飾り
- (4) 弥生土器
- (5) 縄文石器
- (6) 木製品・堅果類・獣骨(焼骨片)

### 2. 遺構・遺物観察表

- (1) 縄文時代遺構一覧表
- (2) 縄文土器観察表
- (3) 人面付き土器・土偶・土製品一覧表
- (4) 土製円板一覧表

## 4. 第4分冊 写真図版編

写真図版目次

1. 遺構写真
2. 遺物写真

付図1 唐堀遺跡 縄文時代遺構遺物全体図

付図2 唐堀遺跡 縄文時代遺構全体図

# 目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
総目次	
目次	
挿図目次	
表目次	
第1章 調査に至る経緯	1
第1節 概要	1
第2節 調査に至る経緯	2
第2章 調査の方法と調査経過	5
第1節 調査区とグリッドの設定	5
第2節 発掘調査の方法	6
第3節 縄文時代の調査方法	7
第4節 土壌水洗選別法	9
第5節 調査経過	11
第6節 整理作業	16
第3章 地理的環境と周辺遺跡・基本土層	20
第1節 地理的環境	20
第2節 唐堀遺跡の立地地形	24
第3節 周辺遺跡	26
第4節 基本土層	30
第4章 縄文時代の遺構と遺物	33
第1節 概要	33
第2節 竪穴・竪穴建物	34
第3節 土坑	53
第4節 配石	110
第5節 集石	158
第6節 列石	177

第7節 埋甕	180
第8節 遺物集中	190
第9節 その他の遺構・遺物包含層	198
第10節 水場遺構	231
第5章 調査成果	277
第1節 縄文時代の石器の概要	277
第2節 石製品	280
第3節 石製・土製玉類	289
第4節 剥片石器	292
第5節 石錐(ドリル)	302
第6節 礫石器	307
第7節 黒曜石産地推定	320
第8節 唐堀遺跡出土の石鏃	323
第9節 剥片類	352
第10節 唐堀遺跡の縄文土器について	381
第11節 唐堀遺跡出土の耳飾り	391
第12節 土製円板	413
第13節 人面付き土器・土偶・土製品	424
第14節 獣骨・赤色顔料	426
第15節 獣骨(焼骨片)	452
第16節 水場遺構出土のクルミ	459
第17節 唐堀遺跡トチノキ種皮堆積の分析	469
第18節 年代測定	475
第19節 彫刻のある木柱	491
第20節 まとめ	492

## 報告書抄録

付図1 唐堀遺跡 縄文時代遺構遺物全体図

付図2 唐堀遺跡 縄文時代遺構全体図

# 挿図目次

第1図	上信自動車道計画路線図	1	第56図	280・282号土坑遺物出土状況	106
第2図	上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図	3	第57図	290・291号土坑	107
第3図	岩屋遺跡事業地全体図	5	第58図	292～294号土坑	108
第4図	調査区・グリッド設定図	6	第59図	292号土坑遺物出土状況	109
第5図	土壌水洗選別法	10	第60図	配石全体図	119
第6図	遺跡位置図	20	第61図	配石・集石・列石全体図	120
第7図	吾妻地域の地理的環境	21	第62図	1号配石1～3面	121
第8図	吾妻川流域の地理的環境	22	第63図	1号配石1・2面	122
第9図	周辺地形と段丘面	25	第64図	1号配石3面	123
第10図	隣接遺跡(上信自動車道吾妻西バイパス)位置図	27	第65図	1号配石1面エレベーション図	124
第11図	周辺遺跡分布図	28	第66図	1号配石1面エレベーション図	125
第12図	3区上層堆積模式図	31	第67図	1号配石1面エレベーション図	126
第13図	1・2区基本上層模式図	32	第68図	1号配石1・2面遺物出土状況	127
第14図	遺構全体図	39	第69図	1号配石3面遺物出土状況	128
第15図	竪穴・竪穴建物全体図	40	第70図	2号配石	129
第16図	1号竪穴	41	第71図	2号配石エレベーション図	130
第17図	1号竪穴セクション	42	第72図	2号配石遺物出土状況	131
第18図	1号竪穴床面	43	第73図	3号配石	132
第19図	1号竪穴掘り方	44	第74図	3号配石エレベーション図	133
第20図	1号竪穴突出部付き3重石囲い壁	45	第75図	3号配石遺物出土状況(1)	134
第21図	1号竪穴遺物出土状況(1)	46	第76図	3号配石遺物出土状況(2)	135
第22図	1号竪穴遺物出土状況(2)	47	第77図	4・5号配石	136
第23図	1号竪穴遺物出土状況(3)	48	第78図	4号配石遺物出土状況	137
第24図	2号竪穴建物	49	第79図	6号配石	138
第25図	2号竪穴建物遺物出土状況	50	第80図	6号配石遺物出土状況	139
第26図	2号竪穴建物掘り方	51	第81図	7～12号配石	140
第27図	2号竪穴建物石囲い壁	52	第82図	13～16号配石	141
第28図	土坑全体図	78	第83図	17～21・23号配石	142
第29図	配石土坑全体図	79	第84図	24～27・29号配石	143
第30図	土坑、配石、集石全体図	80	第85図	28・30～33号配石	144
第31図	78～82号土坑	81	第86図	22号配石(1)	145
第32図	80～84号土坑	82	第87図	22号配石(2)	146
第33図	85～87号土坑	83	第88図	22号配石セクション・エレベーション図	147
第34図	88～90号土坑	84	第89図	22号配石分割図1	148
第35図	88～91号土坑	85	第90図	22号配石分割図2	149
第36図	92～94・100号土坑	86	第91図	22号配石分割図3	150
第37図	93～95・100号土坑	87	第92図	22号配石分割図4	151
第38図	96～99・102・103号土坑	88	第93図	22号配石遺物出土状況(1)	152
第39図	101・104～107号土坑	89	第94図	22号配石遺物出土状況(2)	153
第40図	108～110・122～124号土坑	90	第95図	22号配石遺物出土状況(3)	154
第41図	125・131～138号土坑	91	第96図	22号配石遺物出土状況(4)	155
第42図	140～145・147～149号土坑	92	第97図	22号配石遺物出土状況(5)	156
第43図	151～155号土坑	93	第98図	22号配石遺物出土状況(6)	157
第44図	156～162号土坑	94	第99図	1・2号集石	163
第45図	163～178号土坑	95	第100図	3号集石	164
第46図	179～192号土坑	96	第101図	3号集石遺物出土状況	165
第47図	193～203・224・223号土坑	97	第102図	3号集石断面図、4号集石	166
第48図	204～220号土坑	98	第103図	5・6号集石	167
第49図	221～223・225～232・234～236号土坑	99	第104図	7～9号集石1面	168
第50図	237～248・251～254号土坑	100	第105図	7～9号集石2面・10号集石	169
第51図	249・250・255～257号土坑	101	第106図	11・12号集石	170
第52図	258～260・262～267号土坑	102	第107図	11・12号集石遺物出土状況	171
第53図	268～275号土坑	103	第108図	13号集石	172
第54図	276～281号土坑	104	第109図	14・18～20号集石	173
第55図	282～289号土坑	105	第110図	21・22号集石	174

第111図	23～25号集石	175
第112図	27～31号集石	176
第113図	1号列石	178
第114図	2号列石	179
第115図	1号配石1～6号埋費	184
第116図	3号配石0号埋費、1号埋費	185
第117図	3～6号埋費	186
第118図	7～11号埋費	187
第119図	7～9号埋費	188
第120図	10・11号埋費	189
第121図	1号集中	192
第122図	1号集中完備状況	193
第123図	1号集中1面遺物出土状況	194
第124図	1号集中2・3面遺物出土状況	195
第125図	1号集中4・5面遺物出土状況	196
第126図	2号集中	197
第127図	1号屋外炉、1・2号立木、1号しみ状遺構	202
第128図	1・2号落ち込み	203
第129図	3号落ち込み	204
第130図	1号落ち込み西側露部	205
第131図	15号溝	206
第132図	15号溝セクション図	207
第133図	21号溝	208
第134図	21号溝セクション図、22号溝	209
第135図	21～27号ピット	210
第136図	遺物包含層全体図	211
第137図	遺物包含層セクション位置図	212
第138図	遺物包含層分割全体図	213
第139図	遺物包含層セクション図(1)	214
第140図	遺物包含層セクション図(2)	215
第141図	遺物包含層出土状況分割図1	216
第142図	遺物包含層出土状況分割図2	217
第143図	遺物包含層出土状況分割図3	218
第144図	遺物包含層出土状況分割図4	219
第145図	遺物包含層出土状況分割図5	220
第146図	遺物包含層出土状況分割図6	221
第147図	遺物包含層出土状況分割図7	222
第148図	遺物包含層出土状況分割図8	223
第149図	遺物包含層出土状況分割図9	224
第150図	遺物包含層出土状況分割図10	225
第151図	遺物包含層出土状況分割図11	226
第152図	遺物包含層出土状況分割図12	227
第153図	遺物包含層出土状況分割図13	228
第154図	遺物包含層出土状況分割図14	229
第155図	遺物包含層出土状況分割図15	230
第156図	水場遺構位置図	251
第157図	遺跡全体と水場遺構	252
第158図	水場遺構全体図	253
第159図	水場遺構貯水場・作業場	254
第160図	水場遺構貯水場・作業場の木材と植物繊維	255
第161図	水場遺構水路	256
第162図	水場遺構水路の木材	257
第163図	水場遺構貯水場・作業場セクション	258
第164図	水場遺構水路セクション	259
第165図	水場遺構・形のある木柱の出土状況	260

第166図	水場遺構廃棄場	261
第167図	水場遺構廃棄場の木材	262
第168図	水場遺構谷地部の巨木	263
第169図	水場遺構谷地部の巨木断面セクション図	264
第170図	水場遺構1・3号種子ブロック	265
第171図	水場遺構2号種子ブロック	266
第172図	水場遺構4号種子ブロック	267
第173図	水場遺構1号灰層ブロック	268
第174図	水場遺構2号灰層ブロック	269
第175図	水場遺構断面セクションA-A'(1)	270
第176図	水場遺構断面セクションA-A'(2)	271
第177図	水場遺構断面セクションB-B'	272
第178図	水場遺構階層分布全体図	275
第179図	水場遺構木材分布全体図	276
第180図	石版分布全体図	283
第181図	石棒・石刺分布全体図	284
第182図	石製五面石材別点数グラフ	290
第183図	石核石材別点数グラフ	294
第184図	原石石材別点数グラフ	294
第185図	石鏝(ドリル)石材別点数グラフ	303
第186図	石鏝(ドリル)石材別重量グラフ	303
第187図	石鏝(ドリル)長さ別点数グラフ	304
第188図	石鏝(ドリル)重量別点数グラフ	304
第189図	磨石階級別頻度図	312
第190図	磨石重量別頻度図	313
第191図	磨石散布図	313
第192図	黒曜石産地エリア・判別別点数	322
第193図	石鏝分類図(1)	324
第194図	石鏝分類図(2)	325
第195図	石鏝石材別点数	327
第196図	石鏝形態別組成図	327
第197図	石鏝形態別別点数	331
第198図	石鏝の計測	332
第199図	石鏝形態別散布図	334
第200図	石鏝長さ別点数	200
第201図	石鏝重量別点数	201
第202図	石鏝数量別分布図	338
第203図	石鏝分布全体図	339
第204図	薄片類と石鏝の大量出土グリッド	354
第205図	薄片類石材別グラフ	357
第206図	薄片類(緻密質石)石材別グラフ	358
第207図	土器型式と地域間関係図(1の1)	382
第208図	土器型式と地域間関係図(1の2)	383
第209図	土器型式と地域間関係図(2の1)	384
第210図	土器型式と地域間関係図(2の2)	385
第211図	耳飾り分類図(1)	392
第212図	耳飾り分類図(2)	393
第213図	耳飾り推定個体数	395
第214図	耳飾り推定個体数の形態別割合	395
第215図	耳飾りの層間図と計測方法	397
第216図	耳飾り散布図	403
第217図	耳飾り数量別分布図	405
第218図	耳飾り分布全体図	406
第219図	耳飾り長さ別頻度図	407
第220図	耳飾り厚さ別頻度図	408

第221図	耳飾り重量別頻度図	409
第222図	土製円盤の平面形状	414
第223図	平面形差別数量グラフ	415
第224図	土製円盤の計測	416
第225図	土製円板長調別散布図	417
第226図	土製円板長重別散布図	417
第227図	土製円板の出土数量	418
第228図	土製円板頻度図	420
第229図	人面付土器・土偶・土製品分布全体図	425
第230図	骨類グリッド別出土量	433
第231図	イノシシ下顎骨模式図	431
第232図	イノシシの推定月齢・年齢と狩猟季節①	436
第233図	イノシシの推定月齢・年齢と狩猟季節②	437
第234図	イノシシの推定月齢・年齢と狩猟季節③	438
第235図	イノシシの推定月齢・年齢と狩猟季節④	439
第236図	唐槌遺跡出土サメ歯	444
第237図	16号住居址出土骨角器・遺構外出土骨角器	450
第238図	星野宅内1・2号住居跡出土骨角器	450

第239図	唐槌遺跡出土骨角器	451
第240図	出土したケルミ	460
第241図	食痕のあるケルミ	462
第242図	ケルミ散布図	463
第243図	ケルミの頻度(長さ)	465
第244図	ケルミの頻度(幅)	466
第245図	ケルミの頻度(厚さ)	467
第246図	ケルミの頻度(長幅)	468
第247図	試料の採取と分析方法	469
第248図	トチ屑の詳細観察	470
第249図	トチノキ、オニグルミの遺存状態	472
第250図	年代測定結果(1)	477
第251図	年代測定結果(2)	478
第252図	年代測定結果(3)	479
第253図	年代測定結果(4)	480
第254図	年代測定結果(5)	481
第255図	年代測定結果(6)	482

## 表 目 次

第1表	上信自動車吾妻西バイパス調査道路一覧表	3
第2表	出土遺物量	17
第3表	周辺道路一覧表	29
第4表	遺構集計表	33
第5表	貯水場・横木の年代測定	232
第6表	作業場・横木と杭の年代測定	235
第7表	水路横木の年代測定	236
第8表	弧状石組み横木の年代測定	237
第9表	鹿寮場・横木の数値年代	238
第10表	彫刻のある本柱の年代測定	240
第11表	1号種子ブロックの年代測定	243
第12表	2号種子ブロックの年代測定	244
第13表	3号種子ブロックの年代測定	246
第14表	4号種子ブロックの年代測定	247
第15表	水場遺構断層セクション上層注記(A-A)	273
第16表	水場遺構断層セクション上層注記(B-B)	274
第17表	石器集計表	277
第18表	石器種別集計表	277
第19表	石器集計表(遺構種別)	279
第20表	石製品集計表(器種別)	280
第21表	石製品石材別組成表	280
第22表	岩版集計表	280
第23表	石棒集計表	281
第24表	石棒・石剣集計表	281
第25表	石製品集計表(器種別・石材別・点数)	285
第26表	石製品集計表(器種別・石材別・重量g)	286
第27表	石製品集計表(遺構別・点数)	287
第28表	石製・土製玉類集計表	289
第29表	石製・土製玉類石材別集計表	290
第30表	玉類・遺構別集計表	291

第31表	湖片石器集計表	292
第32表	湖片石器集計表(点数)	295
第33表	湖片石器集計表(重量g)	296
第34表	湖片石器・器種別遺構別集計表(点数)	297
第35表	石鏢(ドリル)集計表	302
第36表	石鏢(ドリル)集計表(遺構別点数)	305
第37表	礫石器集計表	307
第38表	鹿石集計表	307
第39表	磨石石材別組成表	308
第40表	磨石の平均値	308
第41表	水場遺構及び周辺グリッド出土の礫石器点数と割合	309
第42表	磨石階級別点数(長さ・幅・厚さ・重量)	311
第43表	礫石器集計表(石材別点数)	314
第44表	礫石器集計表(石材別重量g)	314
第45表	礫石器集計表(遺構別点数)	315
第46表	黒曜石製石器と分析点数	320
第47表	黒曜石製石器の器種別分析点数	320
第48表	分析結果集計表	320
第49表	黒曜石産地器種別分析結果	322
第50表	石鏢石材別集計表	326
第51表	石鏢石材別点数	327
第52表	石鏢石材別集計表(製品・点数)	329
第53表	石鏢石材別集計表(製品・重量g)	329
第54表	石鏢石材別集計表(完形・形態別・点数)	330
第55表	石鏢石材別集計表(完形・形態別・重量g)	330
第56表	石鏢集計表(完形・形態別・長さ)	333
第57表	石鏢集計表(完形・形態別・重量)	333
第58表	石鏢石材別集計表(完形・形態別・点数)	337
第59表	石鏢石材別集計表(完形・形態別・重量g)	337
第60表	石鏢集計表(遺構・グリッド別点数)	340

第61表	石叢集計表(遺構・グリッド別重量g)	346
第62表	剥片類・石材別組成表	352
第63表	石材別集計表(緻密質石材)	353
第64表	石叢と剥片類の大量出土グリッド	354
第65表	剥片類集計表(石材別・遺構別点数)	359
第66表	剥片類集計表(石材別・遺構別重量g)	370
第67表	耳飾り集計表	394
第68表	耳飾り個体数の推定	394
第69表	耳飾りの文様・赤彩・漆の集計表	399
第70表	耳飾りの年代測定	399
第71表	耳飾りの平均値	400
第72表	耳飾りの遺構・グリッド別集計表(10点以上出土)	401
第73表	耳飾り遺構別集計表	410
第74表	土製門板集計表	413
第75表	土製門板集計表(部位)	413
第76表	土製門板集計表(文様)	413
第77表	土製門板集計表(顔縁)	414
第78表	土製門板集計表(長さ別)	415
第79表	土製門板集計表(幅別)	415
第80表	平面形状別・文様有無別集計表	415
第81表	土製門板集計表(長さ・厚さ・重量)	416
第82表	土製門板遺構別組成表	421
第83表	土製品集計表	424
第84表	イノシシ歯の萌出・摩耗(現生資料と伊川津遺跡出土資料)	434
第85表	兵庫県イノシシの年齢査定表	434
第86表	唐屋遺跡出土イノシシの年齢査定	435
第87表	イノシシ歯の萌出・咬耗段階	436
第88表	イノシシ歯の萌出・咬耗段階—①—	437
第89表	イノシシ歯の萌出・咬耗段階—②(千瀬谷戸遺跡上・下層)	438
第90表	イノシシ歯の萌出・咬耗段階—③(伊川津遺跡1～VI層)	438
第91表	唐屋遺跡出土シカ角等一覧表	441
第92表	唐屋遺跡サメ歯観察表	444
第93表	唐屋遺跡骨角器一覧表	449
第94表	獣骨(焼骨片)集計表	452
第95表	獣骨(焼骨片)集計表(上位20グリッド)	452
第96表	獣骨(焼骨片)遺構・グリッド別集計表	453
第97表	クルミ集計表	459
第98表	クルミ全体集計表(平均/長さ・幅・厚さ)	461
第99表	水場遺構第1号種子ブロック集計表(平均長さ・幅・厚さ)	461
第100表	水場遺構第2号種子ブロック集計表(平均長さ・幅・厚さ)	461
第101表	トチノキ分類別重量	471
第102表	オニグルミ分類別個数	471
第103表	ブロックサンプル中の大型植物遺体	473
第104表	年代測定点数	475
第105表	年代測定点数(詳細)	475
第106表	水場遺構関連の年代測定結果	476
第107表	放射性炭素年代測定一覧表	483
第108表	放射性炭素年代測定一覧表(ウィグルマッピング)	489



## 第1章 調査に至る経緯

インターチェンジ付近から群馬・長野県境の鳥居峠付近を經由し、長野県側の上信越自動車道・東部湯の丸インターチェンジ付近に至る総延長約80km(群馬県側65km・長野県側15km)の地域高規格道路である。

また、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、都市部と農村地域の連携強化と災害時の緊急輸送道路として国道353号及び国道145号のバイパス機能を発揮するために計画された道路で、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待されている。

上信自動車道は、群馬県側では波川市から吾妻郡長野原町の区間が事業化され、東から上信自動車道波川西バイパス、金井バイパス、川島バイパス、祖母島～箱島バイパス、吾妻東2期バイパス、吾妻東バイパス、吾妻西バイパス、ハッ場バイパス、長野原バイパス、長野原嬉恋バイパスの各バイパス区間で建設事業が進められることとなった。また、このうち波川西、金井、川島、祖母島～箱島、ハッ場の各バイパスではすでに供用開始されている。

唐堀遺跡の発掘調査は、このうちの上信自動車道吾妻西バイパスの建設事業に伴い実施されたものである。

### (3) 上信自動車道吾妻西バイパス

上信自動車道吾妻西バイパス(以下、吾妻西バイパスという)は、吾妻郡東吾妻町大字厚田の厚田インターチェンジから同町大字松谷の松谷東交差点に至る延長約7kmの区間である。厚田インターチェンジから吾妻大橋の間は吾妻川右岸側、吾妻大橋から松谷東交差点の間は吾妻川左岸側を走る。

吾妻西バイパスは、吾妻地域の高速交通網空白地帯、災害時の陸の孤島化というこれまでの地域弱点を克服し、産業振興や観光振興、くらしの安心・安全の向上など、地域の期待を大きく担う道路として建設されることとなった。

また、吾妻川左岸側の国道145号の危険箇所を回避し、災害時の代替道路となる新たな道路ネットワークとして地域高規格道路を整備することにより、速達性と定時性の高い走行が可能となり、移動時間の短縮が大きく期待されている道路でもある。

こうした情勢のもと吾妻西バイパスの建設事業が進められることとなった。



上信自動車道吾妻西バイパス・唐堀地区完成予想図  
(群馬県HP「上信自動車道」より引用)

## 第2節 調査に至る経緯

### (1) 概要

唐堀遺跡の発掘調査は、吾妻西バイパス建設事業に伴い実施されることとなった。唐堀遺跡は東吾妻町大字三島字唐堀地内に所在し、吾妻西バイパスのほぼ中央部に位置する。

平成27年度から平成30年度にかけて発掘調査が行われ、縄文時代から近世の遺構・遺物が発見された。とりわけ、縄文時代後期から晩期の水場遺構の発掘という大きな成果があった。

本報告書は、唐堀遺跡の調査成果のうち縄文時代の調査成果をまとめたものである。古墳時代から近世の調査成果については、『唐堀遺跡(1) - 古墳時代以降編 -』として令和3年3月に報告書を刊行した。

### (2) 調査に至る経緯

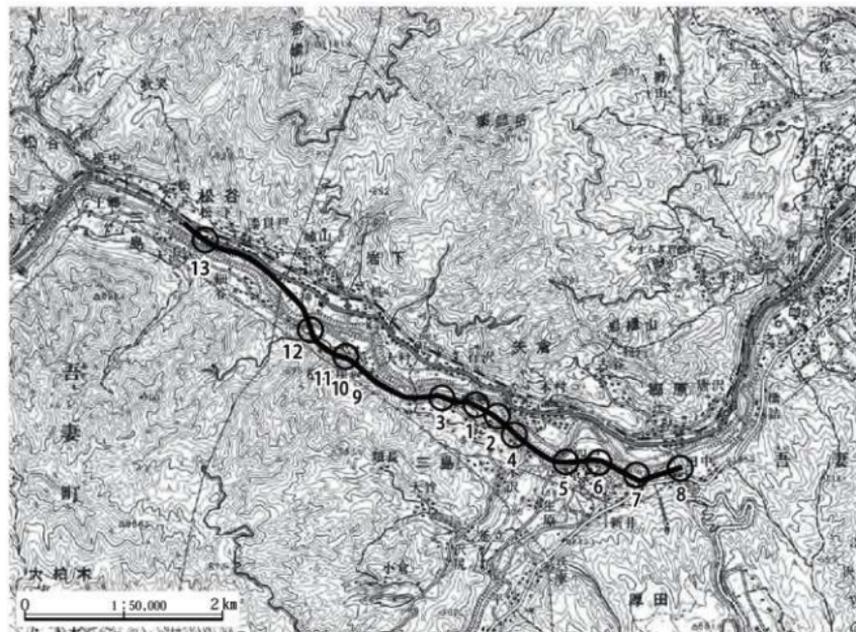
唐堀遺跡は、吾妻郡東吾妻町大字三島字唐堀に所在する。東吾妻町遺跡台帳において、東吾妻町遺跡番号

0067、縄文時代の遺物散布地として登録された周知の遺跡であった。

唐堀遺跡は、1980年に吾妻町民スポーツ広場建設の際に発見された。それに伴い、同年に吾妻町教育委員会により発掘調査され、大量の縄文土器・石器が出土したことにより、縄文時代後期から晩期の遺跡として周知され

ていた。

吾妻西バイパス建設事業を担当する群馬県中之条土木事務所(以下、中之条土木という)は、群馬県教育委員会文化財保護課(以下、保護課という)に対し、唐堀遺跡の事業対象地内の試掘調査を数回に分けて依頼した。それを受けて保護課はその都度試掘調査を実施し、その結果



第2図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院1/50,000地形図「草津」「中之条」図幅を編集・加工)

第1表 上信自動車道吾妻西バイパス調査遺跡一覧表

遺跡名	調査年度						
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
1 唐堀遺跡			○	○	○	○	
2 唐堀B遺跡		○	○				
3 唐堀C遺跡				○		○	
4 万木沢B遺跡				○	○		
5 四戸遺跡	○	○		○		○	
6 四戸の古墳群				○		○	
7 新井遺跡	○			○		○	
8 厚田中村遺跡		○	○	○			
9 根小屋遺跡				○			
10 根小屋B遺跡				○			
11 根小屋城跡				○			○
12 細谷E遺跡				○		○	
13 松谷松下遺跡							○

## 第1章 調査に至る経緯

を回答した。主な経過は次の通りである。

平成25(2013)年11月、中之条土木は保護課に事業地の試掘調査を依頼した。これを受けて保護課は同年12月に試掘調査を実施し、縄文時代から近世の遺構・遺物が確認され、事業地の本調査が必要であることを平成26年1月に中之条土木に回答した。

次に平成26(2014)年8月に中之条土木は保護課に事業地の試掘調査を依頼した。これを受けて保護課は同年12月に試掘調査を実施した。この結果、近世・天明泥流堆積物下の遺構・遺物、縄文時代の遺構・遺物が確認され、事業地の本調査が必要であると中之条土木に回答した。こうした経過のもと、平成27(2015)年4月、中之条土木は保護課による試掘調査の結果にもとづき、東吾妻町三島地区(唐堀B遺跡及び唐堀遺跡地内)における、吾妻西バイパスの建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を保護課に依頼した。

平成27年5月、中之条土木は新規に事業地になった吾妻町民スポーツ広場のグラウンド部分の試掘調査を依頼した。これを受けて保護課は同年5月に試掘調査を実施した。この結果、縄文時代の遺構・遺物が確認され、事業対象地の本調査が必要であることを中之条土木に回答した。

そして、保護課による調整にもとづき、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下、事業団という)が発掘調査を担当することになった。中之条土木は保護課による調整を受け、事業団に対して発掘調査の依頼とこれに関わる関係書類の提出を求め、事業団は関係書類を提出した。

こうして平成27年、中之条土木と事業団は唐堀B遺跡・唐堀遺跡の埋蔵文化財の発掘調査の委託契約を締結した。契約締結は保護課に通知された。

以上のような経過を経て、平成27年度より事業団が唐堀遺跡の埋蔵文化財の発掘調査を実施するに至った。

## 第2章 調査の方法と調査経過

### 第1節 調査区とグリッドの設定

#### (1) 調査区の設定

調査区は、調査対象地の中央部に導水路が南北に縦断していたため、導水路を境界にして設定した。導水路の西側を1区、東側を2区、導水路の下の部分をも3区として設定した。

2区は、1980年にランド造成時に発見され吾妻町教育委員会によって調査された部分を含んでいる。3区は、縄文時代の水場遺構の中心部で遺構・遺物の密度が最も高い調査区であった。

#### (2) グリッドの設定

調査対象地は、概ね $X=61670\sim 61800$ 、 $Y=-94125\sim -94450$ の範囲で、南北約130m、東西約325mに及ぶ。

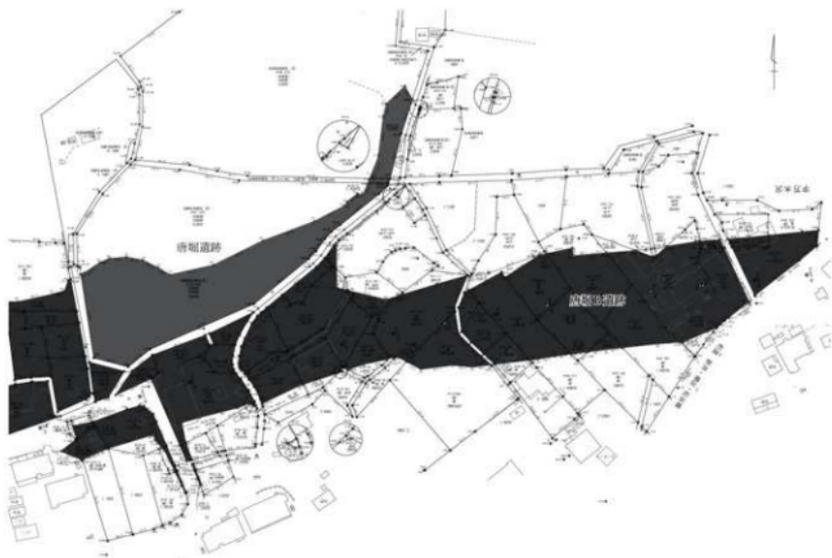
グリッド設定には、世界測地系(X系)を用い、北は座標北で示した。

グリッド番号の基点は、 $X=61530m$ 、 $Y=-94120m$ とした。一つのグリッドの大きさは、東西 $5m\times$ 南北 $5m$ とした。この $5m\times 5m$ のグリッドが本遺跡の標準グリッドの大きさである。

また、平成28年度調査では、遺物の出土状況に応じて $5m\times 5m$ の標準グリッドの中をさらに中グリッド、小グリッドに分割して調査することもあった。

中グリッドは、標準グリッドを $2.5m\times 2.5m$ の中グリッドに4分割したものである。中グリッド番号は、4分割した南東部をA、南西部をB、北東部をC、北西部をDとした。中グリッド番号の表記方法は、例えば、2P40グリッドの南東部であれば、2P40-Aとした。

さらに、 $5m\times 5m$ の標準グリッドのなかを $1m\times 1$



第3図 唐堀遺跡事業地全体図

mの小グリッドに25分割することもあった。小グリッド番号は、グリッド南東交点を基点に西へ1mごとに1～5と番号を付け、最後の25番がグリッドの北西端になるようにした。小グリッド番号の表記方法は、例えば2M35グリッドの中の25番の小グリッドであれば、2M35-25とした。

ただし、平成28年度調査で実施した中グリッド・小グリッド方式は、刻々と大量の遺物が出土するグリッドでは遺物回収が複雑で進捗も非効率的であった。このため、縄文時代の調査が本格化した平成29・30年度調査では採用せずに標準グリッド方式で調査した。

### (3) グリッドの表記

グリッドの表記方法は、グリッド方眼の東西方向をアルファベット表記、南北方向を数字表記とした。

東西方向は、基点から西に向かって5m毎にA、B、C・・・Zと順に表記し、Zの次は2A、2B、2C・・・2Zというかたちで、アルファベットの前に数字を付加して番号を表記した。

南北方向は、基点から北に向かって5m毎に順に1、2、3というかたちで番号を表記した。

### (4) グリッド番号

グリッド番号は、グリッド方眼の南東交点を基点にして表記した。例えば、南東交点の番号が2Aと30ならば、グリッド番号は2A30となる。

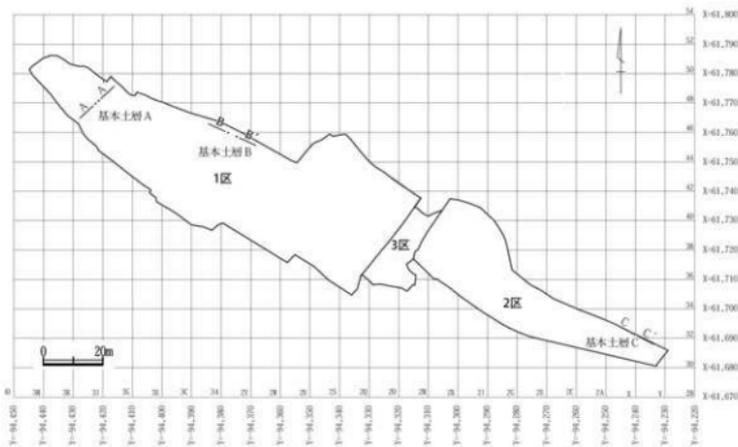
## 第2節 発掘調査の方法

### (1) 唐堀遺跡における遺跡調査面

唐堀遺跡は縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。遺跡調査面(遺構確認面)は次のとおりである。

- 第1面(近世):天明泥流堆積物直下の水田、畑、土坑。
  - 第2面(中近世):第1面より古い水田、畑、土坑。
  - 第3面(古墳時代から平安時代):平安時代の竪穴建物、土坑、畑、古墳時代後期の古墳など。
  - 第4面(縄文時代):縄文時代後期から晩期の遺物包含層、水場遺構、竪穴、竪穴建物、土坑、配石、集石など。
- 本報告書で扱う内容は第4面(縄文時代)の調査成果である。

調査は、第1面→第2面→第3面→第4面の順で行った。第1面は、まず表土及び天明泥流堆積物までをバックホーで除去しその後は人力により調査した。第2面以降は、部分的に堆積した土石流堆積物についてはバック



第4図 調査区・グリッド設定図

ホーで除去したが、基本的に人力で調査した。第4面は縄文時代の遺跡であり人力で調査した。

## (2) 記録方法と遺物の取り上げ方法

図面は、各遺構の平面図と土層断面セクション図を作成した。図面の作成は、電子平板によるデジタル測量を委託した。遺構は1/10～1/40の個別平面図を測量してデジタルデータ化し紙出力で作成した。

土層断面セクション図の作成は、平面図に対応する縮尺でデジタル測量した。土層観察は調査担当者が行い注記した。注記には土色帳(新版標準土色帖1988年版)を使用した。また、迅速な調査のためアナログ実測も併用して図化し、図面はデジタル化した。

遺構写真及び遺物出土状況写真は、35ミリデジタルカメラとモノクロフィルムを用いて撮影した。デジタル写真はRAWデータで記録し、外付けハードディスク・DVDに保存した。モノクロフィルムはiso400プローニー版120タイプを使用し、6×7サイズで記録した。

航空写真は委託して実施した。ラジヘリにより35ミリデジタルカメラ、6×7サイズのモノクロフィルム、カラーフィルムで撮影した。

遺物は、遺構・グリッドごとに出土状況をチェックし、図化が必要なのは遺物番号を付与して取り上げた。写真撮影のほか出土状況や座標値をデジタル測量して取り上げた。特に、耳飾りや土偶、土版などの土製品、石冠や石棒、石剣、岩版、玉類などの石製品などの特殊な遺物については、可能な限り遺物番号を付与し、出土状況を記録し測量して取り上げた。

遺物番号は、遺構・グリッド毎にNoを付け、遺物台帳に遺物の属性、出土層位、出土状況、所見、測量、写真、取り上げ日等を記録した。

出土位置や写真の記録が不要な遺物は、遺構・グリッド別に取り上げた。遺構名、グリッド名、出土層位、内容物、日付を記録した荷札をビニール袋に付け収納した。収納の際は、必ず土器、石器、剥片類、礫石器、骨片など遺物の種類ごとに区分してビニール袋に収納した。

## (3) 遺物の洗浄・注記作業

遺物洗浄・注記業務は調査担当者の指導のもと遺跡掘削請負JVが実施した。本遺跡では微細遺物、脆弱遺物、

炭化物付着土器、赤彩土器、塗漆土器など特殊な遺物が多数出土した。これらの遺物が発掘段階で識別できた場合には、基本的に洗浄・注記の対象外として別途保管したが、これらが通常の遺物に混入している場合もあるため、細心の注意を払って業務を行うよう指導管理した。

## 第3節 縄文時代の調査方法

### (1) 概要

縄文時代の調査は、基本的に上位の遺物包含層調査と下位の遺構調査の二つに分けられる。遺跡形成時の生活面が存在していたと考えられる遺物包含層調査を進めながら、配石や集石のように遺物包含層中に構築された遺構が検出されれば遺構調査も並行して調査した。

そして、遺物包含層調査が終了した後に水場遺構や土坑などの遺構調査を本格的に行った。

### (2) 遺跡の構造

縄文時代の遺跡構造は次のようにまとめられる。下位から順に、水場遺構、竪穴、竪穴建物、土坑、埋費などの掘り込みを持つ遺構群。これらの遺構群の上位に遺物包含層。遺物包含層のなかに形成された配石や集石、列石、遺物集中などの掘り込みを持たない遺構群。そして、遺物包含層のなかのこれらの遺構群を構築した生活面、という構造である。

### (3) 遺物包含層

遺物包含層は、2区のグランド部分では残存状況が悪かったものの、1区や3区では良好であった。特に、3区では遺跡の基盤となる下位段丘面の礫層及びシルト層の上位に遺物包含層が良好に形成されており、厚い部分で1m近くもあった。

遺物包含層の上位に第3面の黒色土、その上位に浅間粕川テフラ(As-Kk)、浅間Bテフラ(As-B)、土石流堆積物、その上位に第1面・第2面の耕作土及び石垣や水路などの構造物、その上位に天明泥流堆積物、そして最上位に表土が堆積していた。特に天明泥流堆積物は後世の擾乱を防ぐ遺構保護層になっていた。このように遺物包含層の上位の土層が厚く堆積していたことにより3区では後世の擾乱を免れ、とりわけ水場遺構が良好な状態で

検出された。

また、遺物包含層の上位に遺構保護層が厚く堆積していたことと並行して、遺跡が下位段丘崖直下に立地したことにより、遺跡埋没後も地下水の安定供給があったと考えられる。これにより、遺物の残存状態が良好で、特に彫刻のある木柱や杭などの木製品をはじめ大量のトチノミヤクルミ、獣骨などの有機質遺物が大量かつ良好な状態で検出された。

遺物包含層は、縄文時代後期から晩期の遺物を大量に含む砂質の黒色土である。遺跡からは遺物収納パン箱1,755箱もの遺物が出土したが、その大部分はこの遺物包含層から出土したものである。

#### (4) 遺物包含層と生活面

遺物包含層は、縄文時代後期から晩期の遺物が大量に出土する土層であるとともに、遺跡形成当時の生活面(地表面)が存在していた土層でもある。15号配石や22号配石のように大型礫を配置した配石下面は構築当時の生活面すなわち地表面であった可能性が高いと考えられる。

平成30年度調査の3区のように、厚く堆積した遺物包含層の中に竪穴や土坑の掘り込み面、配石や集石の構築面、そして水場遺構の使用面という、当時の縄文人が活動した生活面が存在しているはずで、その生活面が検出できれば当時の生活の様子を具体的な遺構・遺物を通して詳細に復元できると考え調査を進めた。

#### (5) 遺物包含層の調査

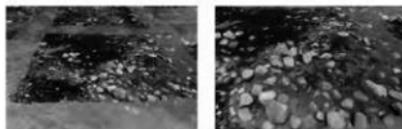
遺物包含層には大量の土器や石器が包含され、なおかつ石鏃や玉類、耳飾り、焼骨片、剥片類などの微細な遺物が包含されていた。

このため、遺物包含層の調査は、次の2段階の調査工程で行った。

①第1段階で、通常の調査と同様に移植して精査して遺物を回収する。

②第2段階で、精査で発生した排土から土壌水洗選別法により微細遺物を回収する。

遺物包含層の遺物の取り上げは、グリッド単位とした。平成28年度調査では、部分的に中グリッド、小グリッド単位を採用した。平成29・30年度調査では、グリッド単位を採用した。中グリッド・小グリッド方式はグリッド



遺物包含層上位の自然礫密集部

内における遺物の出土範囲を細分して特定できる利点はあったが、刻々と出土する大量の遺物の出土位置を区別しながら調査を進めるには、作業範囲が狭く仕分けも煩雑で混乱が予想された。特に2N39や2039のように一つのグリッドだけでも土器およそ7万点・330kgを超えるグリッドでは、中グリッド・小グリッド方式は煩雑で非効率的であった。このため、一定の調査精度を保ち効率的に調査を進めるためには、通常の5m×5mグリッド方式が最も効率的・効果的であった。

また、遺物包含層からは、遺物と一緒に5cm以下の小礫から人頭大を越すような大型礫まで大小様々な自然礫も大量に混入していた。遺物包含層調査では、刻々と出土してくる回収不要な自然礫と回収すべき遺物である礫石器や配石・集石の構築礫とを即座に区別しながら調査を進めていくのがとても大変であった。

特に、3区遺物包含層の上面には、自然礫密集部が点々と広がっていた。自然礫密集部は黒色土の上面から検出され、一見しただけでは配石や集石と見間違ってしまうが、これは人為的な遺構ではなく自然の礫層の堆積物であった。遺物包含層の上位の堆積した礫層が、その上位に形成された土圧によって押し込められたものと考えられる。

その理由は、自然礫密集部の礫は大小様々で規格がない、小礫や砂を多く混入している、人為的な配置が認

められない、礫の底面のレベルが一定しない、直上にAs-BやAs-kkが一次堆積している部分がある、遺物をほとんど含まないことである。

自然礫密集部は遺物包含層の調査開始段階において所々で検出された。最終的に自然の礫層と判断したが、一見しただけでは配石や集石との区別は難しく、すぐに判断できたわけではない。一旦は遺構の可能性を考え、前述した方法で人為的な遺構か自然の礫層かを判断しながら調査を進めた。

## (6) 遺構の調査

遺構の調査は、遺物包含層と並行して行った。遺物包含層の調査途中で遺構が検出されれば、遺構番号を付与して図面や写真を記録して調査した。

配石や集石のように生活面に構築された遺構は、遺物包含層の中で形成された遺構である。一方、竪穴や土坑のように生活面を掘り込んで構築した遺構は、黒色土である遺物包含層の中でその掘り込み面を検出することは困難であったため、遺構確認面を遺物包含層下位のシルト層上面まで下げて調査した。

遺構出土の遺物取り上げは、グリッド出土遺物とは分けて行った。また、複数のグリッドに展開する大型の遺構の場合は、遺構一括出土とはせずに、遺構名+グリッド名を付けて取り上げた。例えば、22号配石の2M40グリッド、2N40グリッドから出土した一括遺物は、「22号配石2M40」、「22号配石2N40」と表記して取り上げた。その後の整理で、グリッド出土遺物と遺構出土遺物もすべてグリッド単位で分類接合を行うことを想定したもので、遺構・グリッド間で一体的に分類接合が可能となり、本来の帰属遺構に遺物を戻すのに効果的でおおかつ接合率も高くなる方式であった。

## 第4節 土壌水洗選別法

### (1) 概要

平成28年から開始した縄文時代の調査で、土器や石器はもちろんのこと、移植ごてによる通常の調査法では回収が困難な微細遺物(玉類、骨製品、耳飾り及び破片類、石鏃、石錐、剥片・破片類、土製品、石製品など)が出土していた。これらの微細遺物を効率的に回収する方法

として、平成29年度は電動乾燥篩器を導入した。

そして、平成30年度はさらに効率的かつ最も効果的な回収方法として、土壌水洗選別法(ウォーターセパレーション)を実践した。

目的は、遺跡に包含されている微細遺物を可能な限り徹底して回収して行くことである。これにより、遺跡の構造や遺跡形成過程をより詳細に解明しようと考え、それを実現するための発掘方法の一つとして実施した。

水洗にした理由は、洗浄することで内容物がきれいになり、その後の遺物の選別作業が誰でも簡単にできるからであり、乾燥篩による選別作業よりもはるかに効率的であった。

なお、今回実践した土壌水洗選別法は石鏃や玉類、骨製品、耳飾りなどの微細遺物の回収を目的にしたもので、種実等の検出を目的としたウォーターフローテーションとは区別した。ウォーターフローテーションについては、対象土壌とその体積量を別途設定して実施した。

### (2) 土壌水洗選別法

土壌水洗選別法の対象とした主な調査区は平成30年度調査の3区である。対象土量は、遺物包含層と遺構埋土を合わせた計約300m<sup>3</sup>と見積もった。この土量は膨大だが、決して効果の薄い(遺物の回収が期待できない)土量まで含めたわけではなく、対象とすべきと判断した土量である。

土壌水洗選別法は、次の手順で行った。

- ①土壌洗浄用柵を設置し貯水(長さ4m×幅1m×深さ0.5mを計4本) → ②グリッド・遺構毎に排土を分け洗浄柵に運搬 → ③農業用防風ネット(4mmメッシュ)の中に排土を投入して土壌洗浄 → ④洗浄後の内容を育苗ケース(3mmメッシュ)に移して仕上げの洗浄 → ⑤育苗ケースに入れた内容を天日で乾燥 → ⑥乾燥後グリッド・遺構ごとに仮収納 → ⑦選別作業 → ⑧不要物の廃棄。

この手順を基本としながら常に工夫と改善を図りながら実施した。

洗浄柵は調査に支障がなく標高の低い場所に1号機から4号機の4本を設置した。洗浄用の水は遺跡内に湧き出していた湧水を利用した。縄文人が水場遺構に利用した湧水を今度は発掘に利用したわけである。排水は排水柵

## 第2章 調査の方法と調査経過

をつくり雨水と一緒に自然浸透させた。土壌の洗浄には農業用防風ネットを利用した。対象土量が大量であったため、園芸用篩では非効率的であった。農業用防風ネットは4mmメッシュが最適かつ効率的であった。耐久性に優れ大型で一度に大量の排土を洗浄できる利点があり、なおかつ微細遺物の回収にも支障はないメッシュの細かさであった。もちろんさらに細かいメッシュにすれば、より微細な遺物の回収が可能となるが、目詰まりして余分な手間がかかり不要な小礫もたくさん回収してしまい、その後の選別の手間が大きくなった。一方、反対に粗いメッシュにすると微細遺物の回収率が低くなった。土壌水洗選別法による微細遺物の回収にはやはり4mmメッシュの農業用防風ネットが最適であった。

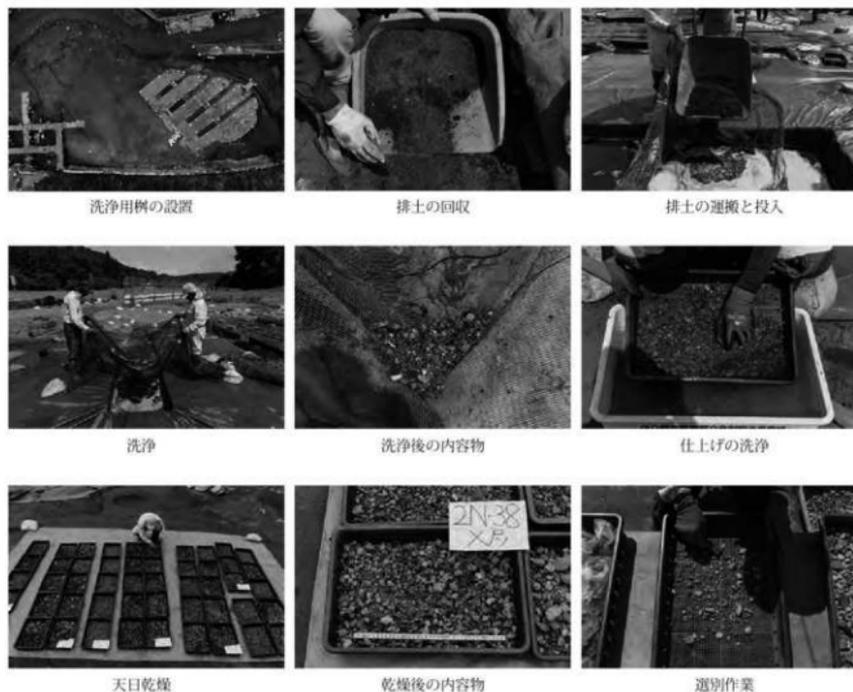
土壌水洗選別法で対象とした土壌は粘性のない砂質の黒色土であった。これが幸いし大量の土量であったもの

の洗浄が比較的簡単に効率的に進められた。洗浄槽の中で防風ネットを数回濯げば簡単に土は落ち、あとは仕上げで濯げばよいだけであった。土壌水洗選別法は、乾燥篩法よりも相当に効率的で効果的な微細遺物の回収方法であったといえる。

乾燥に利用した育苗ケースは微細遺物の落下がない3mmメッシュが最適であった。

選別作業は肉眼観察で行った。乾燥終了した育苗箱にある回収物から遺物を丁寧に選別し回収する作業である。グリッド・遺構ごとに仕分けした育苗箱から回収物を育苗箱や白紙の上に紙コップ1杯程度の少量ずつ広げ、そこから肉眼観察で遺物のみを回収するという方法であり、これをひたすら繰り返すというものである。

また、選別作業は発掘調査の進捗が最優先であるから、天候不順の時や空掘の待機時間など、発掘の隙間の時間



第5図 土壌水洗選別法

を利用して効率的に行った。

### (3) 土壌水洗選別法の成果

土壌水洗選別法を行った結果、大量の微細遺物を回収し大きな調査成果を上げることができた。例えば、玉類約50点、微細な耳飾り及び破片類約200点、サメ歯・骨製品等10点、石鏃・石錐(ドリル)約1000点、軽石製品約30点などを回収できた。このほか、焼骨片が遺物収納パン箱10箱相当、石鏃・石錐(ドリル)製作に伴う微細判片類が遺物収納パン箱20箱相当を回収した。本遺跡から出土した微細遺物の多くはこの土壌水洗選別法によるもので、いわば第二の発掘調査といえる大きな調査成果をもたらした。

これらの回収遺物は、第1段階での丁寧な精査でも検出できず、第2段階の土壌水洗選別でようやく検出できた遺物である。移植ごてで丁寧に精査したにもかかわらず相当量の遺物が回収できなかった実態を示したもので、決して雑な発掘で遺物を見逃していたわけではない。

今回実践した土壌水洗選別法は、多量の掘削土量がある発掘では大きな成果をもたらす方法であった。特に微細遺物や特殊遺物が出上る縄文時代後晩期の遺跡では効果的な発掘方法の一つと考えている。

唐櫃遺跡で今回計300㎡もの土量の土壌水洗選別法が実践できたのは、洗浄槽を設置できる一定の広い場所、排水を自然濾過浸透できる場所、洗浄が容易な砂質土壌、そして安定した水量の湧水の確保など様々な条件をクリアできたからである。どの遺跡でも今回報告した方法が実践できるとは限らないが、今後の発掘での参考なることを期待しここに報告した。

## 第5節 調査経過

### (1) 概要

発掘調査は、平成27・28・29・30年度の計4か年度にわたって行った。なお、平成27・28・29年度の1月～3月は冬季の調査中断期間である。以下、縄文時代の調査に関わる調査経過について報告する。

### (2) 平成27年度の調査

平成27年9月から12月まで実施した。調査面積は



平成27年度の調査(1区1面)

4,697.99㎡である。唐櫃遺跡の調査は、既に6月より開始していた唐櫃B遺跡から調査班を分けて9月より開始し、以後二つの遺跡の調査を同時に進めた。

主に1区を調査し平成28年度に継続した。唐櫃B遺跡の調査は12月ですべて終了した。

- 9月
- 3日 唐櫃B遺跡より分所し、平成27年の唐櫃遺跡の調査開始。
- 7日 表土掘削、遺構確認作業開始。
- 16日 1面(天明泥流堆積物下位)の石垣調査開始。
- 18日 1面の畑調査開始
- 10月
- 6日 空撮
- 13日 1号墳・周溝調査
- 14日 1号墳・断面セクション実測、玄室調査
- 23日 1号墳・石室内写真撮影、遺物取り上げ
- 29日 縄文面のトレンチ調査開始
- 11月
- 4日 1号墳・写真撮影
- 10日 水田の精査
- 12日 3号畑調査
- 17日 1号墳・石室解体調査・計測・計量
- 18日 1号墳・玄室及び茨道部の構築石材鑑定
- 12月
- 3日 トレンチより縄文時代晩期の土器出土
- 18日 1号墳・調査終了
- 28日 平成27年度の調査終了

以上のように、平成27年度は、主に1区の古代から近

世の1面・2面・3面を調査した。4面の縄文時代の調査については、平成27年度は確認までとし、次年度に本格的に実施することにした。

### (3) 平成28年度の調査

平成28年4月から12月まで実施した。1区と2区を調査した。調査面積は4,017.66㎡である。2区は町民スポーツ広場グラウンドの一部に相当し、1980年の吾妻町教育委員会による調査範囲が含まれていた。

平成28年度は、1面の水田と石垣、2面の畑を主に調査し、前年度に確認した縄文時代の遺構の調査も開始した。縄文時代の調査では、1区での遮光器土偶の出土、2区でのトチノミ堆積層(その後の水場遺構廃棄場)を検出し、新聞報道等で取り上げられ唐堀遺跡の調査が話題となった。遺跡の重要性に大きな関心が集まり、多くの関係者や考古学研究者が遺跡見学に訪れた。

先述したように、2区には吾妻町教育委員会によるグラウンドの調査範囲が含まれていた。この範囲は当初、調査対象外として唐堀遺跡全体の調査対象面積から除外されていた。上位の遺物包含層の大半は消滅していたものの、下位の遺構が良好に残存していることが判明した。このため、2区の調査対象面積の見直しを保護課並びに中之条土木と協議した。その結果、吾妻町教育委員会による調査範囲も調査対象面積に含めて調査することになった。

4月

1日 平成28年度の調査開始

14日 1区・As-Kk混黒色土、縄文包含層の調査開始

25日 1区・中近世石組み、縄文時代・配石等調査開始

5月

11日 2区調査区・グリッド設定

24日 1980年の吾妻町教育委員会による調査範囲について、当時の調査担当者と現地確認

6月

1日 1区全景写真、

20日 調査指導者 佐々木由香氏、現地確認

24日 2区水場遺構トチノミ廃棄場の調査開始

7月

20日 元文化庁調査官 岡村道雄氏、現地確認

29日 佐々木氏による調査指導(水場遺構の調査方法、



平成28年度の調査(2区縄文)

土壌サンプリング、木製品の取り上げ等)

8月

2日 1区縄文遺物包含層調査進行。

8日 國學院大学教授 谷口康浩氏、同大学講師 大工原豊氏、現地確認

10日 1区で遮光器土偶が出土

16日 空撮

27日 國學院大学名誉教授 小林達雄氏、同大学 大工原豊氏、日本大学 鈴木克彦氏による調査助言

30日 遺跡の重要性を保護課に報告。調査方法、調査期間について調整を依頼

31日 保護課、事業団、調査指導者 設楽博己氏(東京大学教授 群馬県文化財保護審議委員)による調査方法、調査範囲、調査期間についての協議

9月

5日 保護課、事業団による調整会議

9日 保護課、東吾妻町教委、事業団事業局長、調査部長、現地確認

14日 県土整備部、保護課、事業団事業局長、調査部長による現地確認。國學院大学名誉教授 小林達雄氏による現地確認

16日 保護課、出土遺物及び現地確認

26日 地域住民を対象とした現地説明会を開催(主催：中之条土木、49名来訪)

10月

1日 設楽博己氏、事業団調査部長による現地確認。

3日 保護課と今後の調査計画について協議

11日 元文化庁調査官 小林克氏、現地確認

13日 東吾妻町観光協会、保護課、現地確認

- 14日 事業団常務理事、事業局長、現地確認  
 18日 2区全景写真  
 28日 保護課、2区水場遺構現地確認  
 29日 設楽博己氏、事業団事業局長、調査部長による現地確認及び水場遺構の調査方法について協議。  
 31日 2区全景写真、事業団事業局長、調査部長による調査方法について協議

11月

- 9日 県土整備部長・道路整備課、中之条土木事務所長・担当者、保護課、事業団事業局長、調査部長、現地視察。  
 16日 設楽博己氏、国木田大氏、佐々木由香氏、自然科学分析のための現地確認

21日 1区・2区全景写真

25日 1区・2区空撮

30日 佐々木氏による調査指導、分析試料採取。

12月

- 1日 1区・2区遺物取り上げ  
 12日 1区・2区空中写真測量  
 15日 2区水場遺構の遺物取り上げ  
 19日 1区2区養生、2区水場遺構遺物取り上げ  
 28日 平成28年度の調査終了

以上のように、平成28年度の調査は12月に越冬対策を施して終了した。その後、保護課、県土整備部、中之条土木と協議した結果、平成29年度に調査は継続することになった。

#### (4) 平成29年度の調査

平成29年度は4月～12月に実施した。調査面積は4,358.19㎡である。平成28年度から継続の1区と2区の縄文時代の調査を本格的に進めた。新たに導水路部分を3区として調査を開始し、天明泥流堆積物下位の水田を調査した。水田下位の縄文時代の遺構については、平成30年度に調査することとした。

4月

3日 平成29年度の調査開始

7日 事業団事業局長、調査部長、調査課長、現場確認。

13日 1区縄文時代の遺構の調査を開始

5月

10日 1区埋喪調査。



平成29年度の調査(2区縄文)

11日 事業団調査部長・調査課長・遺跡掘削工事JVによる調査区南側の法面安全対策について協議

12日 保護課、現場確認

31日 1区獣骨出土状況写真。

6月

27日 1区・獣骨骨の出土状況写真、調査指導者 桶泉岳二氏による獣骨鑑定

29日 1区・獣骨骨の出土状況測量

30日 事業団調査部長、調査課長、保存処理担当、1区・獣骨骨の出土状況確認

7月

5日 調査指導者 桶泉氏による1区・獣骨骨の鑑定、保存処理担当による獣骨骨の取り上げと収納

7日 事業団理事長、事業局長、現場確認

8月

2日 3区・中央導水路部分の撤去について打ち合わせ

17日 2区・南側法面の現況確認、中央導水路の改修

9月

4日 1区・12号集石遺物取り上げ

20日 1区・全景写真

21日 重機転倒事故、事業団常務理事、調査部長、調査課長、状況確認、調査中断

26日 調査再開

10月

6日 1区1号配石調査

20日 電動乾燥機を導入し、微細遺物の検出作業を開始

24日 東吾妻町町議会議員、現地視察

11月

## 第2章 調査の方法と調査経過

- 27日 2区全景写真
- 28日 2区土坑群全景写真
- 30日 3区天明泥流堆積物下位の水田調査開始
- 12月
- 7日 3区水田の継続
- 13日 3区水田の水路石組み精査
- 15日 3区全景写真
- 28日 平成29年度の調査終了

以上のように、平成29年度は縄文時代の遺構調査を本格的に進めた。前年度に検出した2区水場遺構廃棄場の調査については、平成29年度は現況確認にとどめ平成30年度に3区の水場遺構中心部と合わせて一体的に調査することとした。

### (5) 平成30年度の調査

平成30年度調査は6月から12月まで実施した。本年度は調査最終年度で、平成27年9月から4か年度にわたった調査は平成30年12月にすべて終了した。調査面積は3,168.94㎡、内訳は1区：1,150㎡、2区：1,678.41㎡、3区：340.53㎡である。

1区・2区の縄文時代の調査を継続し、新たに3区の水田時代の調査を本格的に開始した。平成30年度は3区の調査が主体となった。3区は、調査面積は約340㎡であったが、水場遺構の中心部分に相当し貯水場・作業場・水路・廃棄場が検出され、他にも土坑、配石、集石などの遺構が密集し、なおかつ遺物包含層が厚く堆積し膨大な量の遺物が出土した。

平成30年度は、水場遺構を本格的に調査し、調査指導者による指導と助言を参考にしながら計画的に調査を進めた。

また、最大1mにも及ぶ遺物包含層が厚く堆積し、土器や石器はもちろんのこと玉類、骨製品、耳飾り、石鏃、微細剥片類、土製品、石製品などの微細遺物の出土が想定された。そこで平成30年度は、縄文時代の調査開始とともに土壌水洗選別法を実施して微細遺物を徹底して回収した。その結果、玉類、耳飾り及び破片、サメの歯、骨製品、石鏃、石鏝、軽石製品などの微細遺物を多数回収し大きな調査成果を上げることができた。

一方、平成30年度は前年度に発生した事故の反省と教訓に立ち発掘現場での安全管理を徹底し再発防止に努め

た。その対策の一環として、事業団は安全衛生巡回監視員を配置して定期的に安全点検を実施し、発掘現場でも毎月の安全対策強化日を設定し遺跡掘削工事JVと協力して安全管理の徹底を図った。

また、平成30年度は6月中の早い梅雨明けとその後の猛暑に見舞われたが、例年以上に熱中症対策をしながら計画的に調査を進めた。

- 6月
- 1日 平成30年度の調査開始
- 4日 保護課、現地確認
- 6日 事業団調査部長、調査課長、現地確認
- 7日 3区2面水田の調査開始
- 18日 上信自動車道建設事務所担当者、調査課長、残土置場の継続使用について現地協議
- 19日 3区2面水田の空撮
- 21日 東吾妻町より東吾妻町民スポーツ広場の一部を残土運搬通路として追加借用許可
- 22日 3区2面水田の調査終了
- 25日 2区1号竪穴の継続調査、耳飾り多数出土
- 28日 全国安全週間、事業団常務理事、事業局長、調査部長、調査課長、現場安全対策の巡回指導
- 7月
- 2日 土壌水洗選別法のための洗浄機設置
- 3日 3区グリッド設定、遺物包含層の調査開始
- 4日 2区1号竪穴掘り方全景写真
- 17日 1区1号遺物集中の調査開始
- 20日 3区遺物包含層の空撮
- 27日 東吾妻町教育委員会文化財委員、現地視察
- 8月
- 1日 1区1号集中遺物出土状況写真・取り上げ
- 3日 3区遺物包含層調査継続
- 10日 平成30年度第1回調査指導(設楽博己氏、水場遺構の調査指導、助言)
- 17日 水場遺構の調査を本格的に開始
- 20日 3区空撮。
- 27日 2区水場遺構の土偶・耳飾り出土状況写真
- 30日 保護課、現地確認
- 9月
- 10日 縄文時代文化研究会・遺跡見学
- 18日 中之条土木、2区先行引き渡し部分の工事開始

- 19日 保護課、現地確認。
- 27日 3区遺物包含層・遺物出土状況の空撮
- 28日 安全衛生巡回指導(事業団理事長、常務理事、事業局長、調査課長、総務課)
- 10月
- 9日 3区獣骨出土状況写真
- 11日 平成30年度第2回調査指導(設楽博己氏、国木田大氏による水場遺構の調査指導助言)
- 15日 3区水場遺構調査継続
- 17日 平成30年度第3回調査指導(佐々木氏による水場遺構調査、土壌サンプル採取等の指導、助言)。
- 18日 調査工程会議(12月まで延長で調整、調査部長、調査課長、調査担当者)
- 19日 事業団理事会・評議員会による合同視察
- 23日 3区水場遺構1面流路全景写真
- 24日 2区配石、集石精査継続
- 26日 佐々木氏による土壌サンプル採取・ウォーターローテーション等の調査指導助言
- 30日 3区水場遺構空撮
- 11月
- 1・2日 平成30年度第4回調査指導(榎泉岳二氏による獣骨鑑定、獣骨の取り上げ)
- 8日 3区水場遺構水路の調査
- 12日 3区水場遺構全景写真、土壌サンプル採取
- 15日 3区水場遺構、埋甕、配石、集石調査継続
- 16日 現地説明会打ち合わせ(事業団調査部長、調査課長、調査担当、保護課)
- 20日 空撮
- 22日 3区土坑・ピット調査
- 26日 記者発表(水場遺構の調査)、獣骨取り上げ
- 27日 現地説明会打ち合わせ(保護課、調査課長、調査担当者)
- 29日 現地説明会を開催(午前：報道関係者対象、午後：地域住民対象)、事業団常務理事、調査部長、調査課長、保護課、上信自動車道建設事務所担当者、視察
- 30日 唐堀遺跡の水場遺構の調査について新聞報道
- 12月
- 5日 平成30年度第5回調査指導(設楽氏、国木田氏、佐々木氏による水場遺構の観察所見、記録方法、土



7月の調査



9月の調査



10月調査指導



11月調査指導



11月現地説明会



11月現地説明会



11月の調査



12月の調査

平成30年度の調査(3区縄文)

壤サンプル採取方法等について)

- 7日 3区空撮、出土状況写真・遺物取り上げ。
- 10日 弘前大学准教授 上藤信彦氏(現地確認、サンプル採取、遺物発見)。保護課、現地視察(7名)。
- 11日 明治大学教授 阿部芳樹教授、同大学 栗島義明氏・能城修一氏、現地視察。
- 12日 積雪、除雪後調査再開。3区水場遺構から彫刻のある木柱出土
- 13日 3区水場遺構・水路解体、掘り方の調査開始、彫刻のある木柱の出土状況写真、測量、取り上げ、293号土坑より完形の耳飾り出土
- 14日 3区水場遺構断削土層セクション写真、測量
- 17日 3区水場遺構断削土層セクションの土層剥ぎ取り、3区水場遺構2号灰層ブロック調査

## 第2章 調査の方法と調査経過

- 18日 3区水場遺構最下面より巨木検出、土壌サンプル採取。
- 20日 3区水場遺構最下面の空撮、水場遺構巨木の断割セクション写真、測量
- 21日 北側調査区境界の最終調査
- 25日 現場内の湧水対策(パイプ敷設し導水路を復旧)  
調査事務所の撤収作業、遺物収納バン箱の搬出作業
- 26日 調査指導者 佐々木氏調査指導
- 27日 器材等、撤収作業完了
- 28日 調査事務所プレハブ搬出完了。平成30年度の調査終了

平成30年度は主に3区の縄文時代の遺構を調査した。中心的に調査した遺構が水場遺構で、ほかに配石や集石なども多数調査した。さらに、遺構の上位に堆積した遺物包含層を調査し、膨大な量の遺物を回収した。

以上のように、唐堀遺跡の調査は平成27年9月から開始し、以後冬季の中断期間を挟みながら平成28年・29年・30年と計4カ年度にわたって継続し、平成30年12月にすべて終了した。

## 第6節 整理作業

### (1) 概要

発掘調査は、平成27年9月から平成30年12月まで計4カ年度にわたって実施した。

調査の結果、縄文時代から近世まで複数の遺構が重層的に検出された。出土遺物の総量は、遺物収納バン箱に換算して計1,755箱であった。

整理作業は、発掘調査と並行して平成28年度から開始した。平成28・29年度は主に古墳時代以降の遺構・遺物について整理を実施した。

平成30年度は、引き続き古墳時代以降の遺構・遺物について整理作業を行った。縄文時代の整理については、当該年度は発掘調査を継続していたため縄文土器の基礎整理の一部のみ開始した。

平成31・令和元年度は、平成30年度に発掘調査がすべて終了したため、整理班を3班体制にして、古墳時代以降の整理と縄文時代の整理を本格的に開始した。

令和2年度は、引き続き3班体制(途中から2班体制)で縄文時代と古墳時代以降の整理を並行して行った。古

墳時代以降の整理については、報告書『唐堀遺跡(1) - 古墳時代以降編 -』を令和3年3月に刊行して終了した。

令和3年度は、引き続き2班体制で縄文時代の整理を行った。令和4年3月に本報告書『唐堀遺跡(2) - 縄文時代編 -』を刊行し、唐堀遺跡の整理作業はすべて終了した。

以下、縄文時代に関わる整理作業について報告する。

### (2) 出土遺物量

発掘調査は平成27年度から平成30年度の4カ年度に実施した。縄文時代の発掘調査は主に平成28年度・29年度・30年度の3カ年度に実施した。出土した遺物収納バン箱数は次の通りである。

総数：1,755箱。内訳は、縄文土器：1,200箱、縄文石器：300箱、木製品・植物遺存体等：225箱、獣骨・骨片・骨製品等：20箱、古墳時代以降の遺物：10箱である。

縄文時代の整理作業では、古墳時代以降の10箱を除く1,745箱の遺物を対象とした。

### (3) 整理作業の方法

縄文時代の整理作業は、平成30年12月に発掘調査がすべて終了した後の平成31年1月より一部を開始した。その後、平成31年度から本格的に開始し、令和3年度まで行った。

整理作業は、対象遺物ごとに縄文土器専門班、縄文石器専門班、木製品・植物・動物遺存体保存処理班に分かれて行った。そして、報告書の編集担当が全体の整理方法や進捗状況を総括しながら進めた。

### (4) 縄文土器の整理作業

縄文土器は1,200箱を対象とし、悉皆調査により分類接合した。縄文時代の整理作業の中心はこの縄文土器の分類接合で平成31・令和元年度、令和2年度に行った。

分類接合は、一つのグリッドで出土量がバン箱30箱を超えるグリッドが多数あったため、作業スペースの関係上、グリッド単位で行った。遺構については各グリッドと並行して行った。遺物包含層調査の際に、本来は遺構に帰属する土器もグリッドで回収されているものもあるため、グリッドと遺構を並行して分類接合して本来の遺構に帰属させた。基本的な工程は次の通り。

①グリッド・遺構ごとに、遺物No付き土器や一括遺物を図面・台帳と照合しながら基礎整理 → ②器種別、文様別、部位別、色調別にグループ化した基礎分類 → ③グループ単位で同一個体の抽出と接合(反復) → ④分類接合終了。未掲載遺物の数量・重量を集計し収納。この作業をグリッドごとに繰り返した。また、接合により器体復元が進んだ土器は、隣接グリッドとも比較してさらに同一個体を抽出して接合を進めた。その結果、多数の隣接グリッド間接合を持つ土器を確認でき器形復元が進んだ。

また、②の基礎分類では、回収した土器のなかに耳飾りや土偶、土製円板、土製品などの破片が含まれているため、すべての土器を観察し抽出した。③の接合では、摩滅した土器や概ね3cm以下の無文粗製土器の小破片は対象外とした。④の集計・収納では、出土した土器の数量と重量の概算を知るために集計を行った。小破片の土器は各グリッドとも大量であったため、計量モデルで集計した。計量モデルとは、遺物収納パン箱(箱型)に100%状態で、点数=4500点、重量=13,000gとした。この数値は実際に計量して算出したモデルである。

集計の結果、出土した縄文土器の総点数は約105万点、総重量は約11tとなった。この数値は、実際の集計した部分と計量モデルから算出した部分を合わせた概算のものである。概算ではあるものの10tを超える大量の土器が出土したことは確かである。

縄文土器は分類接合終了後、実測対象遺物の選別、補強復元を行った。実測対象遺物は登録番号を付し、写真撮影と実測・トレース作業を行った。

## (5) 縄文石器の整理作業

縄文石器は300箱を対象とし悉皆調査した。グリッド・遺構ごとに器種別、石材別に分類した。

石鏃や石錐、打製石斧、磨製石斧、玉類、石棒、石剣、磨石、台石など、器種認定した石器は登録番号を付し、出土位置、石材名、計測値(長さ・幅・厚さ・重量)を台帳登録した。器種認定した石器から実測対象石器を抽出し、写真撮影、実測・トレース作業を行った。

器種認定から除外された剥片類については、グリッド・遺構ごとに石材別分類した後に石材別に点数と重量を集計して収納した。

第2表 出土遺物量

	遺物収納パン箱数
縄文土器	1,200
縄文石器	300
木製品・植物遺存体等	225
動物遺存体(骨製品・獣骨等)	20
古墳時代以降	10
合計	1,755

## (6) 木製品、植物・動物遺存体の整理作業

木製品については、器種分類、実測・トレース作業を行い、保存処理を行った。

彫刻のある木柱は、樹種同定、年代測定、3次元(3D)実測を行った後に保存処理を行った。保存処理は令和元年度から令和3年度まで行った。

トチノミは回収してきた試料を洗浄して計量し、写真撮影を行った。クلميについては、洗浄した後に分類、計測、集計作業、写真撮影を行いデータ入力して分析した。

骨片については、グリッド・遺構ごとに重量を計量し収納した。骨片は1cm程度の小型の焼骨片が大部分であったが、すべてに目を通し骨製品や関節等部位がわかるものを抽出し鑑定した。同時に骨角器等の骨製品の抽出も行った。骨製品については、写真撮影し実測・トレース作業を行った。

## (7) 整理作業の経過

### ① 平成31年度・令和元年度

縄文土器については、1,200箱という大量の土器を対象とした。まず基礎整理から開始し、分類・接合作業、集計作業等を行った。分類・接合作業については、一部を外委託した。また、耳飾りや土偶などの土製品の計測、観察表作成、写真撮影、実測も一部開始した。

縄文石器については、土器と同様に300箱という大量の石器を対象とした。基礎整理から器種分類、石材分類、計測、集計を行い、実測対象遺物の選別から実測・トレース作業も開始した。

木製品、トチノミ・クلميなどの堅果類については、洗浄や分類などの基礎整理、器種分類、集計、保存処理

## 第2章 調査の方法と調査経過

作業を行った。獣骨等については、基礎整理、分類、集計・収納作業を行った。

編集作業については、遺構測量図面、写真データの基礎整理作業を開始した。

水場遺構から出土した縄文時代の大型の彫刻のある木柱については、群馬県では初めての出土例となる縄文時代の彫刻木製品であり、また全国的に見ても石川県真船遺跡と岩手県料内遺跡で出土例が確認されているだけの貴重な遺物であった。このため、詳細な属性観察と記録保存のために3D実測を外部委託した。また、実測終了後すぐに保存処理業務（PEG含浸・真空凍結乾燥）を外部委託した。保存処理業務は令和3年度まで行った。

自然科学分析について、木製品の樹種同定、放射性炭素年代測定、黒曜石製石器の産地推定、土壌サンプルの花粉分析、微細物分析、獣骨の鑑定などの業務を外部委託して実施した。

### ② 令和2年度

縄文土器については、前年度から引き続き分類・接合作業を行った。分類接合作業については、一部を外部委託した。令和2年度で分類・接合作業はすべて終了した。その後、復元補強作業、報告書掲載土器の選別作業、写真撮影を行った。

縄文土器の型式分類も行った。出土した縄文土器は総量が大量であることから、土器型式の構造も広域かつ複雑で、地元の群馬や北関東に分布する土器型式だけでなく、南関東や東関東、さらに東北地方、中部地方、北陸地方、近畿地方など広範囲にわたる複雑な土器型式の様相を呈することが判明してきた。このため型式分類に際しては、指導者による指導助言を参考に実施した。

縄文石器については、基礎整理、器種分類、石材分類、実測・トレース作業、計測作業、集計作業、データ入力作業を行った。

木製品については、器種分類、実測・トレース作業、保存処理作業を行った。また、クルミヤトチノミなど堅果類については、基礎整理、計測、集計作業を行った。

獣骨等については、前年度から引き続いて基礎整理、分類、集計作業を行った。

遺構測量図面、写真データの基礎整理作業、デジタル編集作業も前年度に引き続き行った。

彫刻のある木柱については、前年度から引き続き保存



縄文土器の基礎整理



縄文土器の分類・接合



縄文土器の補強・復元

縄文石器の分類



堅果類の基礎整理



木柱3D実測

縄文土器の型式分類

平成31・令和元・令和2年度の整理

処理業務を委託しPEG含浸を行った。

自然科学分析について、土器付着物の放射性炭素年代測定、黒曜石製石器の産地推定、石器付着物同定分析、土壌サンプルの花粉分析、微細物分析、赤色顔料同定分析などの業務を委託して実施した。

### ③ 令和3年度

縄文土器については、前年度から引き続き報告書掲載対象土器の抽出、写真撮影、観察表作成、実測・トレー

ス作業を行った。

令和3年度は、本格的に縄文土器の実測・トレース作業、遺物写真撮影、遺物観察表の作成を行った。出土した縄文土器の量が大量であったため報告書掲載対象の土器の量も比例して多くなった。その結果、実測対象とした縄文土器は土製品等を含め総計3,000点以上になった。

縄文土器については、写真撮影、観察表作成、器種分類、石材分類、実測・トレース作業を行った。

また、出土石器の中心を占め、総数約6,000点以上を確認した石鏃については、形態分類を行いデータ入力と分析を行った。これにより唐櫃遺跡から出土した石鏃の形態と石材、大きさなどの特徴を抽出することができた。

木製品については、引き続き実測・トレース作業、保存処理作業を行った。クルマヤトチノミなどの堅果類については、引き続き計測、集計作業、写真撮影を行った。

獣骨等については、分類、集計作業を行った。骨製品については写真撮影、実測・トレース作業を行った。

遺構図面・遺構写真の物実測図・遺物写真のデジタル編集作業を前年度に引き続き行った。

彫刻のある木柱については、前年度から引き続き保存処理業務を委託し、本年度は真空凍結乾燥を行った。

自然科学分析については、年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析などの業務を委託して実施した

報告書の編集作業も本格的に開始した。遺構図版、遺構・遺物写真図版のデジタル編集作業を行い、報告書原稿の執筆、レイアウトも継続して行った。

以上の整理作業の経過により、本報告書を令和4年3月に刊行した。

以上により、令和4年3月に唐櫃遺跡に関わる事業はすべて終了した。



縄文土器の実測



縄文土器の実測・トレース



縄文土器の写真撮影



報告書図版の編集作業



石鏃分類

報告書原稿の作成



彫刻のある木柱の属性観察

令和3年度の整理

## 第3章 地理的環境と周辺遺跡・基本土層

### 第1節 地理的環境

#### (1) 唐堀遺跡の所在地

本遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字唐堀地内に所在する。J R 吾妻線・矢倉駅の南西約400mに位置する。

#### (2) 緯度・経度と標高

調査対象地の中心部(水場遺構の中心付近)で、北緯36度33分5.8秒・東経138度46分47秒である。

標高は、調査対象地の西端部(1区)で約410m、東端部(2区)で約400m、縄文時代の水場遺構の遺構確認面で概ね約402mである。

#### (3) 地理的環境

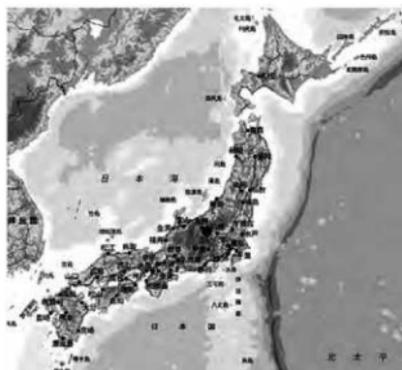
##### ① 吾妻地域

本遺跡が所在する吾妻郡は群馬県の北西部に位置し、吾妻地域と呼ばれる。吾妻地域の中央部に東に流れる吾妻川に沿って国道145号・353号、J R 吾妻線などの幹線交通が走り、沿線一帯に市街地が形成され、社会基盤強化のために上信自動車道の整備が進められている。長野原町にはハッ場ダムが完成して「ハッ場あがつま湖」が誕生し、新たな街づくりが進められている。ダム下流部は吾妻渓谷で国指定名勝「吾妻峡」である。

吾妻川は、わが国最大の流域面積を持つ利根川の支流の一つで、吾妻地域のほぼ中央部を東流している。吾妻川は、群馬・長野県境の吾妻郡嬭恋村大字田代の烏居峠付近に水源を発し、吾妻郡内の嬭恋村、長野原町、東吾妻町、中之条町を東流して渋川市内へ至り、大正橋上流の渋川市白井付近で利根川に合流している。流路延長は約76km、流域面積は約1,274km<sup>2</sup>である。

吾妻川にはいくつもの支流が南北方向から直交するように合流している。主な支流には、北側から合流する支流として万座川、白砂川、四万川、多久田川など、南側から合流する支流として熊川、温川などがある。

##### ② 利根川水系最北西端部の吾妻地域と分水嶺



遺跡位置 (●) (国土地理院・地理院地図を編集加工)



遺跡位置 (●) (国土地理院・地理院地図を編集加工)

第6図 遺跡位置図

吾妻地域は、吾妻川流域に相当する範囲で、周囲を山地に囲まれた山間地である。また、太平洋に注ぐ利根川水系の最北西端部、すなわち吾妻地域は、関東地方における太平洋側地域の最北西端部でもある。

吾妻地域には、太平洋側地域と日本海側地域とを画する分水嶺がある。吾妻地域の北部から北西部、西部、南部にかけての一带は、群馬県と新潟県、長野県の県境地帯で上信越高原国立公園に指定されている。

県境地帯は、太平洋側地域と日本海側地域を画する分水嶺となる山岳地帯であり、標高約1600～2500m級の山地が連なる。主な山地には、稲包山、上ノ倉山、白砂山、地蔵山、横手山、草津白根山、本白根山、万座山、四阿山、湯ノ丸山、浅間山、鼻曲山などがある。

吾妻地域は、関東地方における太平洋側地域の最北西端部である。また、分水嶺を挟んで日本海側地域や中部高地に接した地域であり、太平洋側と日本海側、中部高地との地域間の文化的交流の橋渡しを果たしてきた地域といえる。

#### (4) 吾妻川流域の地形

吾妻川流域の地形について、上流域、中流域、下流域の3つに区分して概観する。

##### ① 上流域の地形

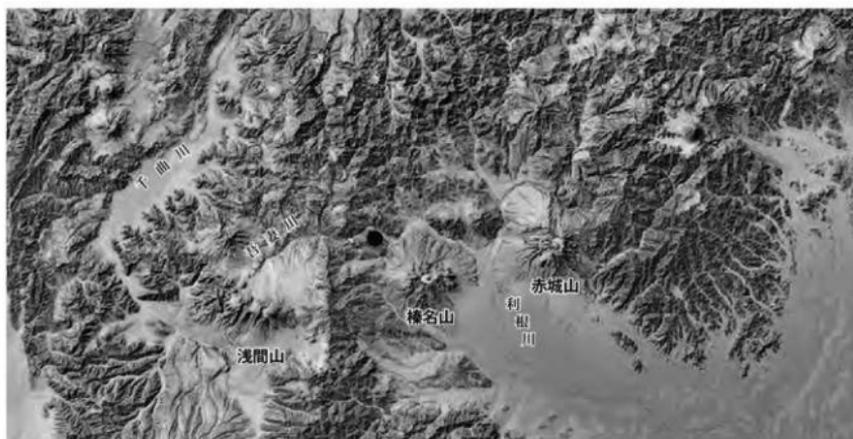
吾妻川の源流部から支流の白砂川合流点までの範囲。上流域は関東地方における太平洋側地域北西端部で、さらにその最奥部にあたる。嬬恋村、長野原町、中之条町、草津町に相当する。北側、西側、南側は新潟県、長野県

との県境で、約2000～2500m級の山地が取り囲む山岳地帯である。主な山地に草津白根山、本白根山、四阿山、湯ノ丸山、篁ノ登山、浅間山などがある。最高峰は浅間山の2568mである。この一帯は、上信越高原国立公園に相当する。これらの山地には太平洋側と日本海側を画する分水嶺があり、分水嶺を越えた新潟・長野県側は日本海に注ぐ信濃・千曲川流域となる。

浅間山の北麓には、後期旧石器時代に発生した黒斑山の山体崩壊に伴う応桑泥流とその流れ山がある。また、江戸時代、天明3(1783)年の噴火の溶岩が流下した鬼押出溶岩があり、吾妻火砕流で形成された浅間熔岩樹型は国の特別天然記念物となっている。

上流域では、山岳部から流れる支流が吾妻川に直交するように合流している。北側から合流する支流として、万座川、白砂川などがある。かつて、これらの支流は上流の火山や温泉水による強い酸性水が直接流れ込む河川であったが、現在では中和工場やダムにより水質改善されて利水が図られている。一方、南側から合流する支流として、小宿川、熊川などがある。

これらの支流を遡ると、日本海側地域と太平洋側地域と画する分水嶺に至り、地蔵峠、渋峠、鳥居峠、角間峠、車坂峠など地域間を連絡する峠がある。これらの峠は標高約1300～2000mにあり、鳥居峠は最も標高が低く



遺跡位置 (●) (国土地理院・地理院地図を編集加工)

第7図 吾妻地域の地理的環境

約1370m、地蔵峠は約1730mである。群馬県側から峠を越えれば千曲川流域へと至り、さらに中部高地へと至る。また、白砂川を廻り分水嶺を越えれば、信濃川の支流・中津川最上流部の野反ダム・野反湖に至り、中津川を下れば秋山郷から津南、信濃川に到達し日本海側地域に連絡できる。縄文時代早期の埋葬人骨が多数出土した居家以岩陰遺跡は白砂川の下流部左岸、吾妻川との合流点から約1100m上流に位置する。

## ② 中流域の地形

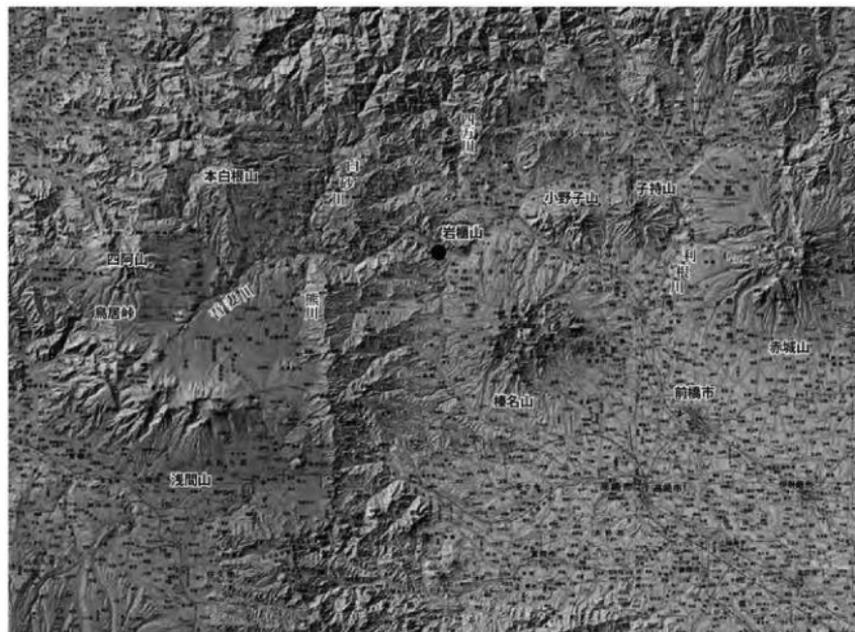
白砂川合流点から名久田川合流点までの範囲。本遺跡は中流域の中に位置する。長野原町、中之条町、東吾妻町、草津町、高山村が相当する。北側は上信越高原国立公園の山岳地帯で、稲包山、上ノ倉山などがある。白砂川合流点の下流にはハッ場ダムが完成してハッ場あがつま湖が誕生した。湖の右岸側には独特の山容の丸岩が聳える。満水時の標高は583mで、かつての吾妻川沿いの河岸段丘とそこに暮らした人々の営みは湖底に沈み、ま

た東宮遺跡や石川原遺跡などハッ場ダム建設に伴い発掘された縄文遺跡の多くも湖底に沈んだ。

ダムサイトの下流は吾妻渓谷で、国指定名勝の「吾妻峽」である。本遺跡はダムサイトから約7km下流の右岸側に位置する。

吾妻川は、吾妻渓谷を流下した後、東吾妻町大字三島上郷付近でくの字形に流れを南東方向に変え、同町大字三島四戸付近で温川が南方から合流する。同町大字郷原付近で再びくの字形に北東方向へと流れを変える。この左岸側には岩櫃山が聳えている。右岸側の同町大字三島付近から見える岩櫃山の雄大な断崖絶壁は中流域のランドマークとなっている。上郷から郷原の間、吾妻川は山間を南東方向に流れ、左右両岸に狭く細長い河岸段丘を形成している。吾妻川を挟んだ左右両岸の河岸段丘の幅は、上郷付近で約750m、岩島駅付近で約700m、本遺跡付近で約660m、郷原駅付近で約650mである。

左岸側の北側には、薬師岳や吾嬭山など約1100m級の



第8図 吾妻川流域の地理的環境(●遺跡、国土地理院・地理院地図を編集加工)

山地が東西に連なる。右岸側の南側には、約700～1100m級の山地が東西に連なる。名久田川と四万川が合流する吾妻川左岸側は中之条盆地である。

中流域でもいくつもの支流が合流する。北側から合流する主な支流として四万川、名久田川があり、南側から合流する主な支流として温川、深沢川などがある。温川合流点下流の吾妻川右岸側の地形は、榛名山の北麓端部に相当する。

### ③ 下流域の地形

名久田川合流点から利根川合流点までの範囲。中之条町、東吾妻町、渋川市が相当する。北側は小野子山、子持山の南麓地形である。南側は榛名山の北麓から東麓地形である。

吾妻川は、これらの山地に挟まれながら南東方向に流れ、渋川市白井付近で利根川に合流する。両岸に河岸段丘が発達する。右岸側の下位段丘面には水田が広がる。榛名山の北麓から東麓には古墳時代に噴火したHr-FAに伴う火砕流堆積物やHr-FPの噴火に伴うテフラの堆積が見られる。金井東遺跡・金井下新田遺跡は吾妻川右岸の榛名山東麓に形成された河岸段丘に立地し、これらのテフラで埋没した遺跡である。

## (5) 吾妻川沿いの標高

吾妻川の流路延長は約76kmである。この間の吾妻川の標高について、吾妻川に面した主な河岸段丘の上の場所で見ると、上流側から順に、最上流部の鳥居峠付近で約1350m、万座鹿沢口駅付近で約770m、長野原草津口駅付近(白砂川合流点、ダム湖最上流部)で約600m、川原畑付近(ダム湖下流部)で600m、上郷付近で約485m、本遺跡で約400m、中之条駅付近で約330m、金鳥駅付近で約220m、利根川合流点の渋川市白井付近で約185mである。最上流部と最下流部との標高差は約1165mである。流路延長76kmで1165mの標高差があるので吾妻川は、かなりの急流であることを示している。

## (6) 吾妻地域の植生・気候

吾妻地域の地形は、最高峰の浅間山2568mを筆頭に標高2000mを超える山岳部から標高200m以下の下流部まで、標高差が顕著である。したがって、吾妻地域の植生や気候も標高差に応じて違いが見られる。



吾妻川中流域の地形(南東から右は岩櫃山、奥は草津白根山)

吾妻地域の植生については、標高差が著しいため多様性に富む。大きくまとめると、標高500m以下の常緑広葉樹林帯、標高500～1600mの落葉広葉樹林帯、標高1600m以上の亜高山針葉樹林帯、浅間山や草津白根山の山頂部や稜線にみられる高山帯となる。

吾妻地域の気候については、太平洋側気候、日本海側気候、中央高地型気候が見られる。

新潟・長野県境の山岳部では、草津温泉スキー場や万座温泉スキー場に見られるように、冬季の多雪が特徴的な日本海側気候である。年間降水量のピークは12月から3月である。

吾妻川上流域では、中央高地型気候が見られる。嬭恋村田代では積雪は多くはないが、冬季の気温は放射冷却によってかなり低くなる。

吾妻川中流域から下流域では、太平洋側気候である。冬季の気温はかなり低いものの、冬季の積雪は少なく群馬県の平野部と大差はない気候である。

また、吾妻地域では標高に応じて年平均気温にも違いが見られる。例えば、上流域の嬭恋村田代で平均7.4°、中流域の中之条町で平均12.2°である(気象庁ホームページ)。下流域の渋川市で平均14.6°である(渋川市ホームページ「土地・気象」)。上流域と下流域では約2倍の差がある。なお、前橋市では15.0°である(気象庁ホームページ)。

以上のように、吾妻地域の植生や気候・気温を理解しておくことは、本遺跡をはじめこの地域における縄文遺跡のあり方を理解するうえで大切な事項である。吾妻地域は、山間部に位置する地域だが、山岳部を除く大部分

の地域が太平洋側気候に属し冬季でも降雪はほとんどない。群馬県の平野部と比べれば、冬季の気温は低いものの同じような太平洋側気候にあるといえる。

## 第2節 唐堀遺跡の立地地形

### (1) 吾妻川中流域右岸側の河岸段丘

唐堀遺跡は、吾妻川中流域の右岸側(南岸側)に形成された河岸段丘に立地する。

吾妻川中流域のうち、吾妻川が吾妻渓谷を抜け、北東方向から南東方向へ「く」の字形に流路を変える東吾妻町大字三島字上郷から温川合流点左岸の同町大字三島字四戸までの約6kmの範囲をみると、吾妻川は左右両岸に狭い河岸段丘を形成し、その間を蛇行しながら南東方向に流れている。両岸を合わせた段丘面の幅は約660mで、右岸側約440m、左岸側130m、その間に吾妻川の川幅が約90mである。

本遺跡の対岸側(左岸側)では、段丘面の標高は約420mである。段丘面の北側には標高700m～1000mの山地が連なる。岩櫃山(標高802.8m)もその一つである。この山地の分水嶺は四万川流域右岸と吾妻川流域左岸とを画する。なお、J R 吾妻線は山地と段丘面の境界付近を走っている。

### (2) 唐堀遺跡の立地地形

唐堀遺跡は、吾妻川中流域の右岸側に形成された河岸段丘に立地する。左右両岸の河岸段丘の後方は山地であり山間地の中に形成された遺跡である。

唐堀遺跡が立地する右岸側の地形を接近してみると、遺跡周辺(北緯36度32分52秒～36度33分11秒付近、東経138度46分21秒～138度47分03秒付近の範囲)では、下位段丘面、中位段丘面、上位段丘面の計3段の河岸段丘面が形成されている。各段丘面の概要は次のとおりである。なお、本遺跡周辺で見た場合、複数の段丘面の形成がわかるのはこの周辺に限られる。

#### ① 下位段丘面

下位段丘面は、最も低く新しい段丘面である。本遺跡はこの下位段丘面の基盤礫層の直上に立地しており、吾妻川が氾濫した直後に縄文人による下位段丘面の土地利用が開始され、遺跡の形成もはじまったと考えられる。



遺跡全景(南東から、奥は岩櫃山)



遺跡周辺の段丘面(北から)



下位段丘崖の石垣湧水点

水場遺構もこの下位段丘面に立地する。

規模は東西約400m、南北約120mである。標高は西端部で約410m、中央部402m、東端部約395mで西から東に傾斜している。本遺跡では発掘前の地表面で概ね約405mであった。

下位段丘面は、段丘崖により中位段丘面と画される。本報告では、この段丘崖を下位段丘とした。下位段丘

崖は500mの長さで調査区の南側全体を貫くように、北西から南東方向に走っている。比高差は5～20mで、下流(東)方向に行くにしたがい比高差は大きくなる。下位段丘崖から現在の吾妻川の段丘崖までの距離は約80m、現河床との比高差は約10mである。水場遺構は比高差約10mの下位段丘崖の直下から検出された。

### ② 中位段丘面

中位段丘面は、下位段丘面の南側に広がる。中位段丘面と上位段丘面を画する段丘崖(以下、中位段丘崖)は北西から南東方向に走る。長さは700mで、西側は隣接する唐堀C遺跡まで延びる。幅は20～50mで、水場遺構の直上では幅は40mである。標高は、西端部で約423m、水場遺構の直上で約415m、東端部で約414mである。中位段丘崖の比高差は約1～8mで、下流(東)方向に行くにしたがい大きくなる。なお、中位段丘面には天明泥流は確認できず、この標高までは到達しなかったようである。

### ③ 上位段丘面

上位段丘面は、中位段丘面の南側に広がる。上位段丘面の南側は山地になる。

上位段丘面は上郷付近から温川合流左岸の三島付近に至る約6kmの広範囲に形成されている。幅は、上郷約

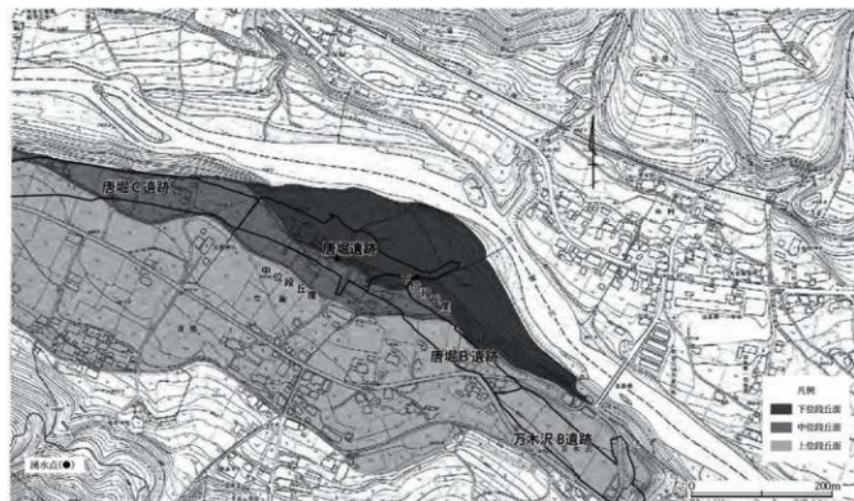
350m、細谷約180m、根古谷約200m、唐堀(本遺跡の南側)約270m、四戸(温川合流点左岸)約450mである。標高は、上郷約490m、細谷約450m、根古谷約437m、唐堀(本遺跡の南側)約425m、四戸(温川合流点左岸)約405mである。上位段丘面の南側の地形は約700～1100mの山地で、分水嶺は吾妻川中流域と温川流域を画する。

### (3) 湧水点

水場遺構の水源を理解するために、まず湧水の現状を確認しておくこととする。下位段丘崖には数か所の湧水点が存在していた。

一つ目は、下位段丘崖法面に石垣で整備された湧水点(以下、石垣湧水点)である。江戸時代から最近まで管理されていた。天明泥流は下位段丘面を埋没させたが、石垣湧水点は埋没を免れた。標高は約414mで、中位段丘面から約2m下の法面に築かれていた。また、石垣湧水点の直下にも別の湧水点があり、発掘の時はこの湧水を土壌水選別法の洗浄に利用した。

二つ目は、2区南側の湧水点である。急勾配の下位段丘崖法面の範囲(X=61690以南、Y=-94230～-94300)の雑木林となっていた部分で確認された。この範囲は唐堀B遺跡の事業地との境界付近であったが調査対象外の



第9図 周辺地形と段丘面(吾妻町都市計画図1:2500を編集加工)

ため詳細は不明である。

このように、下位段丘崖には点々と湧水点があった。水場遺構が構築された縄文時代にも湧水点があったことは確実である。しかし、実際に水場遺構に利用した湧水点の場所は調査では明らかにできなかった。下位段丘面を掘削した湧水点として1号集中を想定したが、水場遺構よりも古い時期の遺構であった。水場遺構貯水場に引水した湧水点は調査区内には確認できなかったことから、下位段丘崖に存在した湧水点から引水した可能性が想定される。水場遺構は石垣湧水点のほぼ直下に構築され、発掘時も直下から湧水があったことから、縄文時代にも石垣湧水点の付近に湧水点が存在したと考えられ、ここから水場遺構貯水場に引水していた可能性が想定される。なお、現在この二つの湧水点は上信自動車道の建設に伴い消滅した。

#### (4) 唐堀遺跡の周辺地形と集落の想定

本遺跡は、下位段丘面に残された縄文時代後期後半から晩期前半の水場遺構を中心とした遺跡である。住居と考えられる竪穴建物は2軒(1号竪穴・2号竪穴建物)のみの検出であるから、集落遺跡と評価するのは困難といえる。

では、水場遺構を残した縄文人が居住した集落はどこにあったのだろうか。出土した遺物の総量や内容から見て、水場遺構の近くに集落が存在した可能性が高いと考えられる。

隣接する遺跡の調査成果や周辺地形から、次のように想定した。

水場遺構を中心にして東西南北方向をみると、東側の上位段丘面に唐堀B遺跡が、西側の中位段丘面には唐堀C遺跡がそれぞれ隣接する。二つの遺跡とも、当該期の遺物は極めて希薄で遺構も検出されなかった。したがって、東側と西側の段丘面には集落はないといえる。

北側は、下位段丘面而现在グラウンドになっている。2区はこの部分に相当する。一見すると、平坦地で面積もあり集落が想定できそうである。しかし、この平坦な地形はグラウンド造成によるもので旧地形ではない。また、下位段丘面は水場遺構の砂礫層・シルト層の堆積が示すように、度々出水に見舞われた場所でもある。さらに、2区では古墳時代や古代の竪穴建物も検出されてい

い。したがって、居住域には適さない場所で、集落が存在した可能性は低いといえる。

南側は、水場遺構が立地する下位段丘面よりも1段高い中位段丘面とさらに南側の上位段丘面である。中位段丘面に集落が想定できそうであるが、中位段丘面の幅は40mと狭く、試掘調査でも遺構は確認されず調査対象外になった部分である。したがって、中位段丘面よりも十分な平坦地の面積を持つ上位段丘面の方が集落が存在した可能性がある。上位段丘面には唐堀D遺跡、唐堀E遺跡があり、この一帯に水場遺構を残した縄文人が居住した集落が存在した可能性が考えられる。

### 第3節 周辺遺跡

#### (1) 概要

本遺跡の周辺遺跡については、第11図に示した通りである。また、弥生時代以降の遺跡については、『唐堀遺跡(1)』で報告している。

#### (2) 隣接遺跡

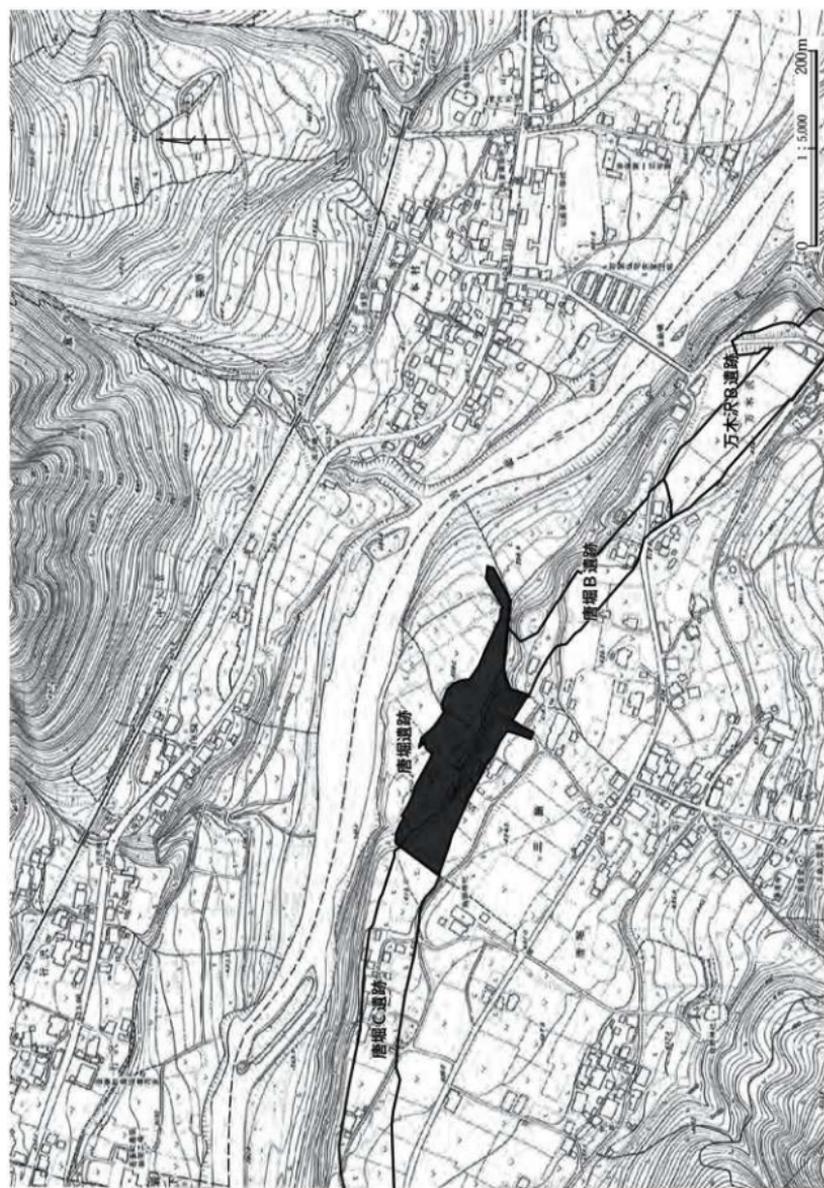
本遺跡の東側の上位段丘面で唐堀B遺跡が調査された。縄文時代の遺構は検出されなかったが、後期から晩期の土器がわずかに出土している。また、西側の上位段丘面で唐堀C遺跡が調査された。縄文時代の早期の土器のほか、前期の竪穴建物や土坑、配石が検出され、遺物も多数出土している。後期から晩期の土器もわずかに出土しているが遺構は検出されなかった。南側の上位段丘面には唐堀D遺跡・E遺跡があり縄文時代の遺物が採集されている。

なお、ハート形土偶で有名な郷原遺跡は東に約2kmの吾妻川左岸側の位置にあり、岩櫃山の麓の郷原駅と県道の境界に出土地点の標識がある。

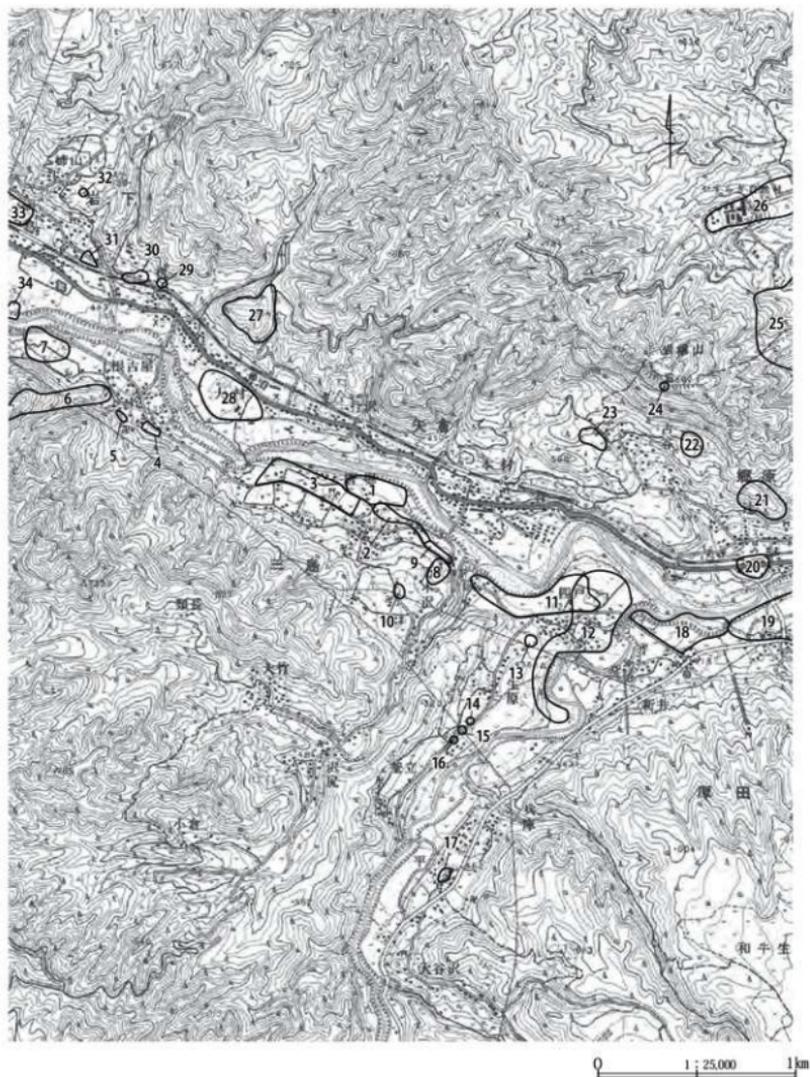
#### (3) 吾妻川流域の縄文遺跡の概要

吾妻流域には、縄文遺跡が多数分布している。特に、多く分布するのが吾妻川沿いの河岸段丘である。長野原町のハッ場ダム周辺から東吾妻町郷原にかけての吾妻川中流域は県内でも屈指の縄文遺跡の密集地帯である。

吾妻川流域の縄文遺跡は、ハート形土偶で有名な郷原遺跡のほか、中山敷石住居跡、勘場木石器時代住居跡、



第108図 隣接遺跡(上)位自動車道吾妻西バイパス位置図(吾妻町都市計画図 1:2500定幅集加工)



第11図 周辺遺跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「群馬原町」図幅平成9年9月1日発行を加工)

第3表 周辺遺跡一覧表

遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世	種別・概要	文献
1 唐櫃遺跡		○	○	○	○	○	○	散布地、水田、畑、建物、古墳。	3,27
2 唐櫃B遺跡		○	○	○	○	○	○	集落、畑。	22
3 唐櫃C遺跡		○		○				集落、その他。	26
4 根小屋遺跡		○		○				その他、不明。	報告書刊行予定
5 根小屋B遺跡						○	○	集落。	報告書刊行予定
6 根小屋城跡(三島根小屋城、根古屋城)						○		城跡。	1,11,13,20,21
7 榎谷E遺跡			○					散布地。	報告書刊行予定
8 万木沢遺跡				○				散布地。	
9 万木沢B遺跡		○	○					集落、墓、その他。	報告書刊行予定
10 上友道跡		○						散布地。	1,11
11 四戸遺跡		○	○	○	○	○	○	集落、生産。	23
12 四戸の古墳群(岩島村13～38号古墳)				○				古墳。町史跡。古墳26基。	2,11,12,14
13 峰遺跡				○				散布地。	
14 生原遺跡			○	○				散布地、古墳。古墳2基。	9,11
15 石村下古墳(岩島村42号古墳)				○				古墳。	11,12
16 上古墳(岩島村43号古墳)				○				古墳。	12
17 平遺跡				○				散布地。	
18 新井遺跡		○	○	○	○			集落。	報告書刊行予定
19 厚田中村遺跡				○	○	○	○	水田、畑。	24
20 郷原遺跡		○			○	○		集落、散布地。国重要文化財(ハート形土偶)出土。縄文住居12・竪穴式遺構2・土坑48、古墳住居1、奈良・平安住居1、中世溝5など。	4,7,10,11
21 郷原城跡						○		城跡。	13
22 清徳院跡(古屋館、古谷館)						○		社寺。	13,20,21
23 古谷遺跡			○					散布地。	1
24 岩瀬山麓の果道跡			○					墓、その他。町史跡。	2,11,15～18
25 岩瀬城跡		○	○	○	○			散布地、城跡。町史跡。	1,2,5,11,13,18～21
26 岩瀬城跡北側遺構群						○		集落、城館。縄文住居2・土坑11、中世堀4など。	6
27 岩下城跡						○		城跡。	1,11,13,20,21
28 前畑遺跡		○	○	○	○	○	○	集落、散布地、墓その他。縄文土坑1、弥生土坑9、古墳住居11、奈良・平安住居13、中世墓坑4、近世竪穴式遺構2など。	8,10,11
29 机古墳				○				古墳。	11
30 北浦遺跡		○						散布地。	
31 赤砥遺跡				○				散布地。	11
32 姉山の石畑かまど				○				集落、県史跡。	11,15
33 天神遺跡			○	○	○			散布地。	
34 弁天湖遺跡		○						散布地。	

## 文献

- 1 吾妻教育会1929『群馬県吾妻郡誌』
- 2 吾妻教育会1936『群馬県吾妻郡誌追録』第1輯
- 3 吾妻町教育委員会1983『唐櫃遺跡』
- 4 吾妻町教育委員会1985『郷原遺跡』
- 5 吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡岩瀬城跡保存整備計画策定報告書』
- 6 吾妻町教育委員会1994『岩瀬城跡北側遺構群遺跡』
- 7 吾妻町教育委員会1998『郷原遺跡』
- 8 吾妻町教育委員会1998『前畑遺跡』
- 9 吾妻町教育委員会1998『生原遺跡』
- 10 吾妻町教育委員会2006『町内遺跡Ⅲ』
- 11 岩島村誌編集委員会1971『岩島村誌』
- 12 群馬県1938『上毛古墳総覧』
- 13 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
- 14 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3
- 15 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編2
- 16 杉原任介1967『群馬県岩瀬山における弥生時代の墓址』『考古学集刊』第3巻第4号 東京考古学会
- 17 轟直行2014『岩瀬山麓の果道跡で採取された瓦片式土器の成り』『考古学集刊』第10号 明治大学文学部考古学研究室
- 18 原町誌編集委員会1960『原町誌』
- 19 東吾妻町教育委員会2016『岩瀬城跡』
- 20 山崎一1972『群馬県古城址の研究』下 群馬県文化事業振興会
- 21 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡城史』西毛新聞社
- 22 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『唐櫃B遺跡』
- 23 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『四戸遺跡』
- 24 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『厚田中村遺跡』
- 25 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『四戸の古墳群』
- 26 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『唐櫃C遺跡』
- 27 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『唐櫃遺跡(1)』

久森環状列石遺跡、上沢渡遺跡群、上反遺跡、唐堀遺跡（吾妻町教育委員会調査）、清水遺跡などが知られていた。

吾妻川中流域では、1990年代後半以降になるとハツ場ダム建設に伴う大規模な発掘調査により多数の縄文遺跡が発見された。その一例として、横壁中村遺跡、石川原遺跡、長野原一本松遺跡、東宮遺跡などの大規模な縄文遺跡が挙げられる。さらに、2010年代後半以降になると上信自動車道建設に伴う発掘調査により多数の縄文遺跡が発見され、さらに遺跡数は増加した。その一例として、唐堀C遺跡、万木沢B遺跡、四戸遺跡、四戸の古墳群、新井遺跡、そして本報告の唐堀遺跡などが挙げられる。さらに、近年では縄文早期の人骨が多数出土した居家以岩除遺跡が発見され、改めて吾妻川流域の縄文遺跡の重要性が浮き上がってきた。

このように、吾妻川中流域一帯には群馬県内でも屈指の密度を誇る縄文遺跡群が形成された地域として評価できる。

#### (4) 吾妻渓谷縄文回廊遺跡群

このように、吾妻川中流域では縄文時代草創期から晩期に至るまで各時期の遺跡が点々と残され、しかも大規模な遺跡も形成されている。吾妻川に沿った中流域一帯はさながら「吾妻渓谷縄文回廊遺跡群」と呼ぶにふさわしい縄文遺跡密集地帯となっている。

吾妻川中流域は周囲を山地に囲まれ、吾妻川やその支流に形成された狭く小さい河岸段丘とそこに限定された平地地、背後に迫る山並み、吾妻川の渓谷で構成された地形である。そこに大規模な縄文遺跡が多数残されているわけであるが、その背景には吾妻地域の地理的環境に起因する部分が大いと考えられる。

吾妻地域は、利根川水系の最北西端部でおおかつ関東地方における太平洋側地域の最北西端部である。海岸から遠く離れた山間部に位置すること、太平洋側地域と日本海側地域とを画する分水嶺に接し中部高地にも連絡できる地域であることという地理的環境に特性がある。つまり、吾妻地域は単に山に隔離された地域ではなく、太平洋側地域と日本海側地域との地域間の文化的交流の橋渡しを果たしてきた地域と考えられ、その交通路として狭い吾妻川流域が回廊としての役割を果たした結果、縄文遺跡が多数残されたと考えられる。

## 第4節 基本土層

### (1) 概要

本遺跡は、下位段丘面に立地し南西から北東方向に傾斜した地形のため、土層堆積は場所によって異なっていた。このため、1区・2区の基本土層については「唐堀遺跡(1)」に報告した内容を示した。3区については、模式図で示した。

また、テフラについては、浅間Aテフラ(As-A)、浅間粕川テフラ(As-Kk)、浅間Bテフラ(As-B)が検出されたが、いずれも遺跡全体での堆積は見られず、部分的に堆積していた程度であった。また、各テフラとも一次堆積層は薄く、部分的に確認できた程度であった。

### (2) 1区・2区の基本土層

遺跡全体の基本土層は、場所によって若干の違いがあるものの、次のようにまとめられる。

- I 表土(現在の耕作土)
- II 天明泥流堆積物 層厚約1~1.8m 第1面の水田の上位に堆積
- III As-A 近世の畑の柵内に堆積
- IV 黄褐色砂礫層
- V 黒褐色土 第1面の水田の耕作土
- VI As-Kk 部分的に堆積。1区西側では10cmほどの層厚で堆積していた。
- VII As-B As-Kkの下位に部分的に堆積。
- VIII 黒色土 粘性あり。第4面上層(晩期包含層)
- IX 黒褐色土 第4面下層(後期包含層)
- X にぶい黄褐色砂礫層

### (3) 3区基本土層

3区は、中央専水路の直下に相当する範囲である。最も遺物包含層が厚く残っていた部分で、水場遺構の中心部が残されていた調査区である。

遺跡全体の土層堆積は、場所によって若干の違いがあるものの基本的には同じ土層堆積である。

3区の土層堆積について、遺物包含層、遺構との関係にを含めて模式的に示す。

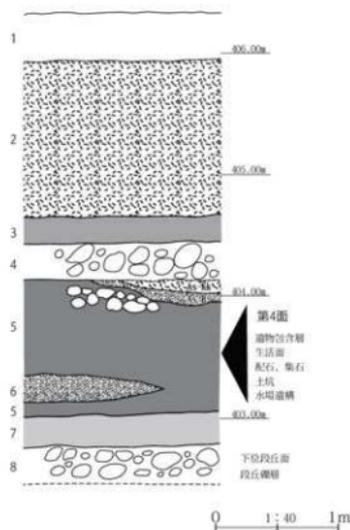
1層 表土 最近まで利用されていた水田の耕作土である。

- 2層 天明泥流堆積物 天明3(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流堆積物である。層厚は約1~1.8mあり、本遺跡の低位段丘面の大部分は天明泥流堆積物に覆われていた。縄文時代の遺構の上位を覆っていた。
- 3層 黒色土 第1面の水田耕作土。3層上面が第1面の遺構確認面で、上面に水田の石垣、水路が形成されていた。3区では第1面の下位に1段階古い水田が検出された。
- 4層 土石流堆積物。縄文時代の遺物包含層の上位を覆う礫層である。砂、小礫、拳大から人頭大の礫で構成される礫層である。
- 5層 黒色土層 砂質の黒色土。縄文時代の遺物包含層である。3区では厚い場所で約1mあった。縄文時代の調査の主体となった土層である。大量の土器、石器とともに微細遺物も出土し、土壌水洗選別法を実施した。

5層の詳細は次の通り。5層上面に自然礫層の礫密集部が点在して堆積していた。礫密集部の上位にはAs-B、As-kkが一次堆積する部分もあった。また、5層上面に第3面(古代から古墳時代)が残っている場所も部分的に確認された。礫密集部の下位から本格的な遺物包含層となる。5層下位に配石や列石、集石等の構築面、また水場遺構や土坑、竪穴などの掘り込み面となった当時の地表面の生活面が存在していたと考えられる。

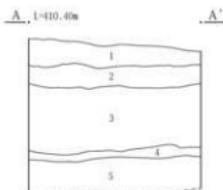
- 6層 砂層 粒径1~2mm程度のきめ細かい砂層で、5層の下位に部分的に堆積。3区北西側から1区北側にかけて確認され、厚い部分で50cmほどの堆積があった。遺跡形成の過程で流水に見舞われたことを示すが、遺構・遺物を流出させる破壊力はなく緩やかに砂を堆積させたと考えられる。
- 7層 シルト層 きめ細かいシルト層で、1区北側から3区北東側、2区にかけて堆積していた。2区では5層の下位の大部分が7層のシルト層になる。
- 8層 礫層 低位段丘面の基盤となる吾妻川の段丘礫層である。1mを超える巨礫も含む。礫には前橋泥流堆積物に由来する赤褐色の礫を含む。低位段丘崖に近い3区南側・1区南側では5層の下位は6層や7層の堆積はなく8層の礫層となる。

3区基本土層 模式図



第12図 3区基本土層 模式図

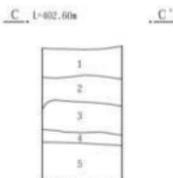
1区基本土層A(上位面)



1区基本土層A(上位面)

- 1 灰黄褐色土(10YR4/3) 耕土と2層上にある漸移層。明確な工具痕等確認できない。
- 2 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 中粒砂サイズの砂質土。ホクホクした感触。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 中～粗粒砂。不均等で細かなラミナ状の堆積。下側ほど粒子細かく、黄色味帯びる。
- 4 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 2層上に近似。締りは強い。
- 5 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粗粒砂・粒径不揃いな礫を含む。河川堆積層と思われるラミナ状の堆積明瞭。確認範囲で礫は最大径20cmほどで、2～5cm大が主体。

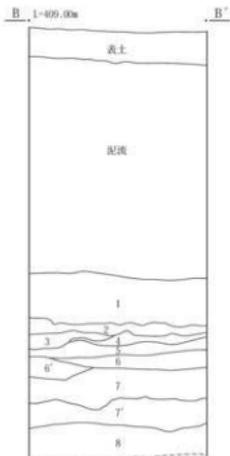
2区基本土層C



2区基本土層C

- 1 表土
- 2 表土(わずかにAs-Kkを含む)
- 3 黒褐色土(10YR3/2) As-Kkを20%含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/4)砂質。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 径5～10mmの礫を1%程度含む。

1区基本土層B(下位面)



1区基本土層B(下位面)

- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-Kkをやや多く含む、ザラザラした感触の畑耕作土。黒色味の強い角礫状の突った礫が下層で目立つ。締りあり。表層に部分的に細礫As-Aが見られる。
- 2 As-Kk層
- 3 暗褐色土(10YR3/3) As-B混じる微細礫混じり層。締りあり。耕作痕ではなく、As-B混じり層が流されたような層。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y5/2) As-Bを多く含む層。As-Bは純層に近い部分もある。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) As-B下に見られる黒色味強い填土的な層。確認範囲で礫は最大径20cmほどで、2～5cm大が主体。
- 6 灰褐色土(7.5YR4/2) 土質は5層に近いが締り強い。鉄分凝集があり赤色味を帯びる。6'では鉄分凝集は少ない。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土への漸移層のような弱粘性土。二次堆積で7'には径20cmを超える川原石が見られる。
- 8 褐色土(10YR4/4) ローム土を基質としているが、黒色粘質土を含む二次堆積ローム。



第13図 1・2区基本土層断面図

## 第4章 縄文時代の遺構と遺物

## 第1節 概要

検出された縄文時代の遺構は、総計242基である。内訳は、竪穴：1基、竪穴建物：1軒、土坑：92基、土坑(配石土坑)：39基、配石：32基、集石：29基、列石：2基、埋喪：17基、遺物集中：2か所、石器集中：1か所、屋外炉：1基、石囲い：1基、立石：1基、落ち込み：2か所、礫群2基、溝：3条、ピット：7基、立木：2基、水場遺構1基、水場遺構種子ブロック4基、水場遺構灰層ブロック2基である。この数字には縄文時代以外の遺構、時期不明の遺構、欠番となった遺構、人為的ではないと判断した遺構は含まない。

本報告では、遺構名称及び遺構番号については、発掘時点で付与されたものを踏襲して使用した。基本的に遺構名称や遺構番号の変更、欠番の補充や振替は行っていない。これは発掘時点で既に登録された記録図面や写真、遺物台帳、遺物注記などと一致・照合させるためである。出土した大量の遺物には発掘段階の遺構名称・番号で注記され、図面や写真データファイルもそれぞれすでに登録されており、新たな遺構名称・番号の設定や振替、変更により生じる混乱を防ぐためでもある。

本報告では、報告段階で遺構の性格が変わったとしても、基本的に遺構名称・番号は変更せずに各遺構の概要や所見にその内容を記載した。

また、整理では検出された遺構の内容や特徴を評価するために、遺構の時期、内容、数量、遺構相互の位置関係、切り合い関係などを再検討した。さらに、遺跡全体の性格の評価に影響するので、調査した遺構が人為的な遺構か、あるいは自然営為による自然地形の痕跡がどうか、調査所見を重視しながら改めて記録図面や写真を再検討した。その結果、土坑については自然地形の痕跡の可能性のあるものが複数確認された。このことについては、各遺構の所見に記載した。

第4表 遺構集計表

No	遺構種	縄文	—	欠番	総計
1	竪穴	1			1
2	竪穴建物	1			1
3	土坑	92	78	2	172
4	土坑(配石土坑)	39			39
5	配石	32			32
6	集石	29		1	30
7	列石	2			2
8	埋喪	17		1	18
9	遺物集中	2			2
10	石器集中	1			1
11	屋外炉	1			1
12	石囲い	1			1
13	立石	1			1
14	落ち込み	2	1		3
15	しみ状遺構		1		1
16	礫群	2			2
17	溝	3			3
18	ピット	7			7
19	立木	2			2
20	水場遺構	1			1
21	水場遺構種子ブロック	4			4
22	水場遺構灰層ブロック	2			2
総計		242	80	4	326

※一は、自然地形の痕跡、遺構から除外したものを。

## 第2節 竪穴・竪穴建物

### (1) 概要

竪穴は1号竪穴の1軒、竪穴建物は2号竪穴建物の1軒が検出された。調査時の登録番号と調査所見から竪穴と竪穴建物に分けているが、いずれも竪穴建物と同じである。したがって、居住施設としての竪穴建物は1号竪穴と2号竪穴建物の計2軒である。

### (2) 調査経過

竪穴・竪穴建物に関する調査経過の概要は次のとおりである。なお、本報告では遺構名について住居から竪穴建物に変換して記載しているが、ここでは調査段階の遺構名の住居を使用する。

縄文時代の調査は、2016年度より開始し、2017年度、2018年度の計3か年度にわたって行った。

2016年度調査では、1区と2区で集落の存在を想定し調査を開始した。その結果、2区で住居の可能性のある遺構を計9軒確認し、遺構番号を付与して調査を進めた。それぞれの住居のグリッド位置は概ね次の通りである。

1号住居(2J38)、2号住居(2I38)、3号住居(2J38)、4号住居(2I39)、5号住居(2J38)、7号住居(2L39)、8号住居(2K37)、9号住居(2J37)、10号住居(2H35)、6号住居は欠番。

このように計9軒の住居を想定して調査し、遺物もこれらの遺構名で回収した。これらの住居の調査は2017年度に継続した。計9軒の住居の展開が想定されていた2区の2H～2L34～39グリッドの範囲(東西約25m×南北約30m)は、1区や3区に比べれば標高はやや低いものの、2区のなかでは平坦でわずかに標高が高い微高地状の地形であった。ただし、この部分はスポーツ広場造成により平坦に削平された範囲でもある。

2017年度調査では、前年度から継続して1区と2区を調査した。2区の1号住居は1号竪穴と遺構名を再設定して調査した。2号住居は住居として調査した。

しかし、1号・2号住居以外の住居は、住居としての明確プランが確認できず、炉も確認できなかったことから、2017年度調査において住居ではないと判断した。また、1区では住居は検出されなかった。この結果、2016

年度調査で当初想定されていた計9軒の住居は2軒になった。なお、2017年度調査で住居認定から除外された遺物については、整理段階でグリッド出土遺物として扱った。

2018年度調査では、主に1区と2区の残りの遺構の継続調査と新たに3区を調査した。この結果、1区・2区・3区とも新たに住居は検出されなかった。

以上の調査経過をもとに本報告では、住居としての性格を持った遺構は、1号竪穴と2号竪穴建物の計2軒のみであったと判断した。

### (3) 竪穴・竪穴建物

1号竪穴は、2区で検出された。1号竪穴は2016年度に1号住居と登録して調査開始し、2017年度に1号竪穴と遺構名を変更して調査した。

また、1号竪穴の突出部付き3重石囲い<sup>4)</sup>は2016年度には11号土坑として調査され、2017年度に1号竪穴に伴う石囲い<sup>4)</sup>として調査した。そして2018年度に1号竪穴と突出部3重石囲い<sup>4)</sup>の掘り方を調査した。

2号竪穴建物は、2区で検出された。2016・2017年度に2号住居として調査された。本報告では遺構番号は変更せず遺構名を住居から竪穴建物に変更した。

調査所見、記録図面・写真等を再検討した結果、1号竪穴は居住施設としての竪穴建物であると認定した。発掘段階で記録図面・写真、遺物注記等は1号竪穴で登録されており、新たに竪穴建物に登録名を変更した場合、混乱が生じる恐れがあるため、本報告では調査段階の竪穴で記載した。

### (4) 所見

1号竪穴(第1-16～23、2-1～6図、PL.10～15、253～255)

**調査区・グリッド** 2区 2J・2K 38・39

**平面形状** 正方形。調査当初、複数の遺構が重複し周囲には遺物や礫も大量に分布していたため、壁の検出や平面形状の確認が困難であった。このため、周辺の遺構調査と遺物回収が終了した後に、2018年度の掘り方調査で平面形状を確認した。第16図に示した平面形状は不整形を呈しているが、これは完備していない調査途中の参考図である。

掘り方調査により、石囲い炉を中心に正方形のみみ状の痕跡が確認できた。これが本来の1号竪穴床面の範囲であると認定し、平面形状は正方形であると判断した。

**規模** 長軸468cm(東西) 短軸445cm(南北)

**主軸方位** N-2°-E

**重複** 110・274号土坑、7～12号配石

**埋土** 炭化物、微細な焼骨を含む。

**床面** 平坦 確認面から床面までの深さは10cm程度。

**炉** 突出部付き3重石囲い炉

**埋藏** 検出できなかった。

**柱穴** 検出できなかった

**所見** 1号竪穴は、突出部付き3重石囲い炉を持つ竪穴建物である。遺構名称は発掘時点の1号竪穴で記載しているが、遺構の性格は竪穴建物と判断した。出土遺物は多種多様な構成で、特に耳飾りの多出が目目される。

土器では、高井東式土器の大型口縁部破片・口縁突起、口縁部破片、安行1式土器の口縁部破片、安行2式土器、瘤付土器の大型口縁部破片、無文粗製深鉢形土器の大型口縁部破片、網代痕を有する土器底部、注口土器注口部破片、ミニチュア形土器、土偶破片、土製円板、耳飾りなどが出土している。高井東式土器と瘤付土器が共存してまとまって出土した。

耳飾りは、計30点出土した。このうち完形が7点あった。1号竪穴出土の耳飾りは、径が100mmを超える大型の円環から小型の円環、小型の耳栓まで形態、大きさのバリエーションが豊富で、文様構成も多種多様であった。こうした耳飾りが1号竪穴にまとまっていたことが判明した。

石器では、石製品、石棒、磨製石斧、打製石斧、石鏃、石錐(ドリル)、スクレイパーなどが出土している。

以上のように、1号竪穴からは、高井東式土器や瘤付土器のほか、多数の耳飾り、ミニチュア形土器、土偶、石製品、石棒のなどが多種多様な遺物が出土した。さらに突出部付き3重石囲い炉という特殊な石囲い炉も設置されていた。

このような特徴から、1号竪穴は通常の竪穴建物ではなく、祭祀にかかわる特殊な竪穴建物であった可能性が考えられる。

## 1号竪穴・突出部付き3重石囲い炉(第1-20図、PL.12・13)

1号竪穴の床面に構築された突出部付き3重石囲い炉である。以下、詳細を報告する。

**規模** 東西130cm(突出部含まない)・152cm(突出部含む)×南北110cm

**平面形状** 正方形(東西がやや長い、長副比1.18でほぼ正方形といえる)。南東部に突出部が付随する。

**埋土** 炭化物、焼骨を少量含む黒褐色土1層で構成される。明瞭な焼土の堆積は確認できなかったが、掘り方調査でわずかに焼土粒子が確認できた。このことから火の使用の可能性が高い。

**構造** 外周部、中央部、内周部の3重に礫を配置して構築した突出部付きの3重構造の石囲い炉である。平面形状は正方形。南東部に突出部が付随。

礫は偏平な円礫を主体に、球状の円礫、垂円礫、小型礫も利用している。割れた礫も素材は円礫である。

礫の大きさは、概ね15cm以下の小型礫、15～25cmの中型礫、25cm以上の大型礫に分けられる。これらの礫を構築する場所に応じて選択し規格的に配置している。

**炉の中心部** 中心部の規模は東西22cm×南北40cm。底面に礫の配置なし、埋設土器なし。使用面に火床面、焼土、炭化物、灰の痕跡は確認できなかった。ただし、掘り方調査でわずかに焼土が確認できたので、中心部が石囲い炉の使用部であったと考えられる。

**礫の配置方法** 3重の石囲い構造について、外周部、中央部、内周部、突出部に分けて説明する。

### ① 外周部

規模は東西130cm×南北110cm。長副比1.18、やや東西が長いものの、東西南北の4辺の長さがほぼ共通した正方形といえる。4辺とも中型礫を利用し、側面(小口面)を上にして正方形に配置(縦置き)している。東辺部は5点の中型礫を配置している。南東部に突出部が付随する。西辺部は6点の中型礫を直線状に配置している。南辺部は4点の中型礫を直線状に配置している。北辺部は6点の中型礫を直線状に配置(北東コーナーの隙間には小型礫を埋めている)している。

以上、外周部は、各辺の長さを整えた正方形に規格化され、共通した大きさ・形状の偏平な中型礫を選択して各辺に直線状に配置している。

また、各辺の礫の配置点数は4～6点でほぼ共通し、すべて側面(小口面)を立てている点(縦置き)でも共通している。側面上端部の標高も同じで(約402.5m付近)、外周部全体が同じ高さで平坦になるように配置していることがわかる。

#### ② 中央部

規模は東西100cm×南北90cm。中央部は外周部と内周部の間に礫を配置して構築されている。外周部と内周部の間は約10～25cm。礫は扁平な大型礫を主体に小型礫、中型礫を利用。大型礫・中型礫は平坦面を上にして平置きして配置している。隙間に小型礫が埋め込まれている。

以上、中央部の配置方法は、外周部よりも大きな大型礫を利用し、すべて横置き(平置き)に配置していることがわかる。外周部が側面(小口面)を縦置きにした配置だったのとは対照的な構築方法である。

#### ③ 内周部

規模は東西65cm×南北65cm。内周部の石囲い部分の規模は2号竪穴建物の石囲いがよりもやや大きい。平面形状は正方形ではなく円形に近い。中央部の内側に、大型礫を配置している。大型礫は側面(小口面)を上にして配置(縦置き)している。内周部の内側が炉の中心部で、礫のない空白部である。火床面や焼土、炭化物、灰などは確認できなかった。内周部は、外周部よりも大きな大型礫を縦置きに配置している。

#### ④ 突出部

南東部に付随する突出部である。規模は東西40cm×南北48cm。大型礫1点(長さ約40cm)と中・小型礫3点の計4点で構成される。大型礫は、突出部付き3重石囲い炉の礫のなかでは最大で厚みのある直角礫である。平坦面を上配置され、その北側に中・小型礫3点が付随して配置されている。

大型礫は中・小型礫の上に乗るように配置され、上端部の標高は外周部の礫よりも厚さの分(約20cm)だけ高い。このため、突出部の大型礫は、横から見た場合には混在とも想定できる。しかし、外周部(東辺部)と突出部の中・小型礫の標高がほぼ同じであること、礫の重なり方に規格性が見られることから、突出部は3重石囲い炉の一部として構築されたもので、外周部(東辺部)を構築した後に配置されたものと判断した。

**礫の選択**：礫の形状・大きさを選択して、外周部、中央

部、内周部、突出部を構築している。

**構築工程**：突出部付き3重石囲い炉は、炉の中心部、外周部、中央部、内周部、突出部から構成される。構築工程について、配置状況から次のように推定した。

①まず、大型礫の側面(小口面)を上にして立てて内周部の石囲いをつくる。②次に、大型礫と中型礫の平坦面を上にして内周部を取り囲むように配置して中央部をつくる。③そして、各辺とも同じ大きさ・同じ形状の中型礫を選択し中央部を取り囲んで4辺とも直線状の外周部をつくり、石囲いが全体を正方形に仕上げる。外周部と内周部の隙間に小型礫を埋め込み、補強して全体形状を整える。④最後に、南東部に突出部の礫を配置する。

以上、内周部から中央部、そして外周部、突出部というように、内側から外側へと構築されたと考えられる。また、配置方法は、内周部が礫を縦置き、中央部が礫を横置き(平置き)、外周部が礫を縦置きというように、縦置きと横置きを交互に行って配置した工夫と強い規格性が認められる。

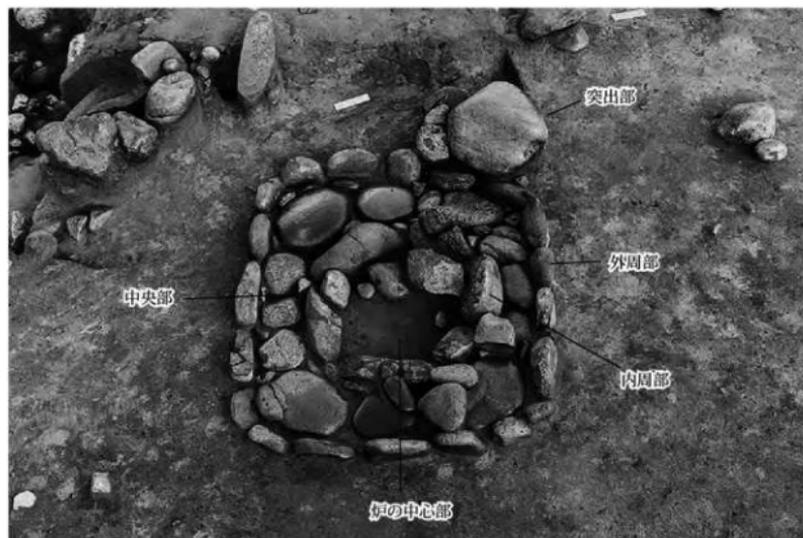
**掘り方**：中央部でやや深くなるが、外周部、中央部、内周部、突出部ともに平坦で浅い掘り方である。

**礫の被熱痕跡**：礫に被熱の痕跡を示す赤化やス状の付着物、表面剥落は確認できなかった。

**所見**：突出部付き3重石囲い炉は、1号竪穴に伴う石囲いである。礫の被熱痕跡や火床面、焼土層、炭化物は検出できなかったが、掘り方調査で底面から少量の焼土が検出された。この焼土の検出から、突出部付き3重石囲い炉は炉として使用されたと考えられる。



1号竪穴・掘り方  
(黒いしみ状の範囲が床面の痕跡、中央の窪みが突出部付き3重石囲い竪穴の掘り方。南から)



1号竪穴・突出部付き3重石囲い竪穴(西から)

2号竪穴建物(2号住居)(第1-24~27、2-6・7図、PL.16・17、256)

発掘段階で、遺構名を2号住居として調査し、本報告で2号竪穴建物とした。

調査区・グリッド 2区 2H・2I 37・38

**平面形状** 正方形と考えられる。掘り込みの深さや壁の残存状況は不明ではなかった。床面や炉の位置から平面形状を正方形と推定。東側は15号溝に切られるため、詳細は不明。

**規模** 長さ：496cm(南北) 幅313cm(東側は15号溝に切られる)

**主軸方位** N-3°-W

**重複** 15号溝(東側は15号溝に切られる)

**床面** 敷石状に礫を配置(規格性は弱い)

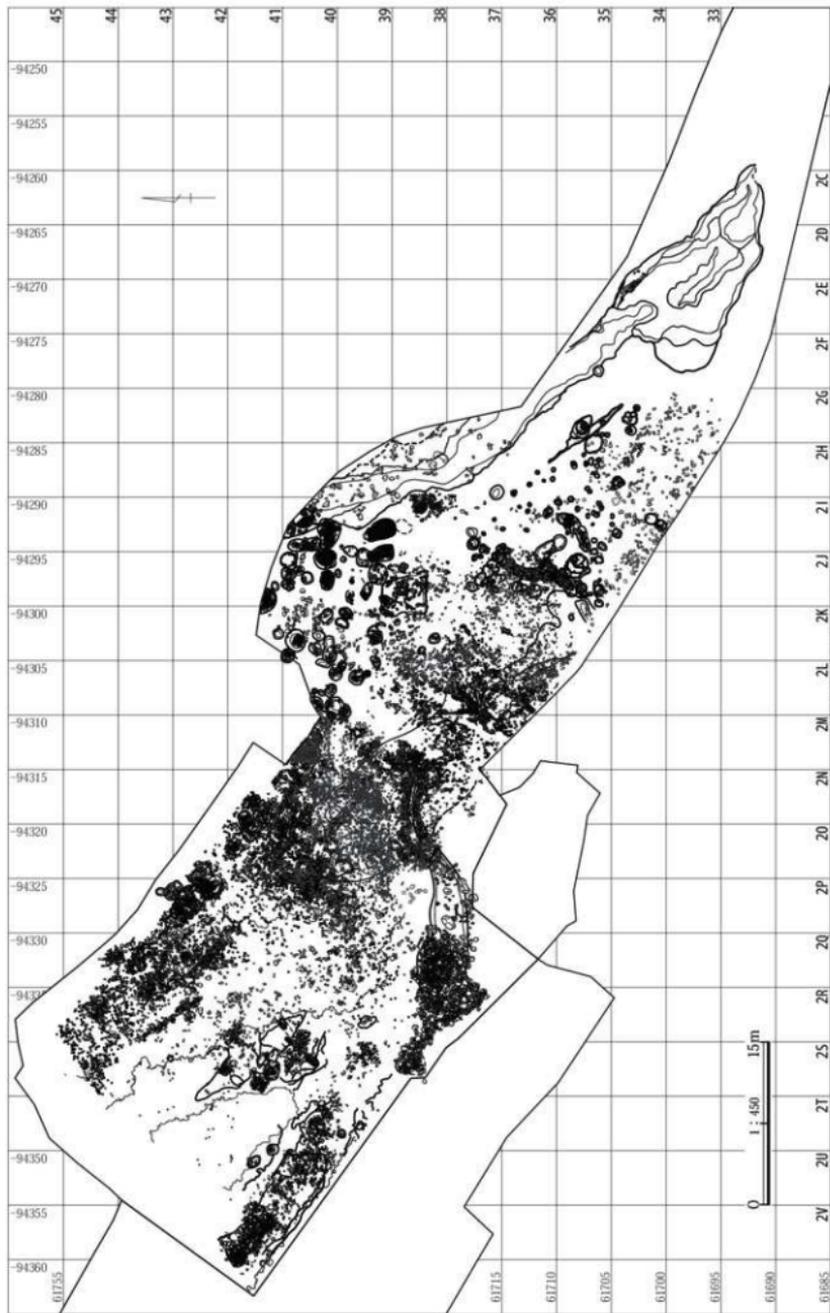
**炉** 石囲い炉。60cm×60cmの正方形。大型の扁平礫を正方形の各辺に1点ずつ配置して正方形に構築している。礫は側面(小口面)を上垂直に立てている。炉の中心部である使用面には礫、埋設土器は確認できなかった。また、火床面や焼土、灰、炭化物などは確認できなかった。

**埋蔵** 土器底部を利用した埋蔵を北西端部で1基検出。大型の扁平角礫が隣接していた。埋土には微細な焼骨片を含むものの特殊な遺物は検出されなかった。

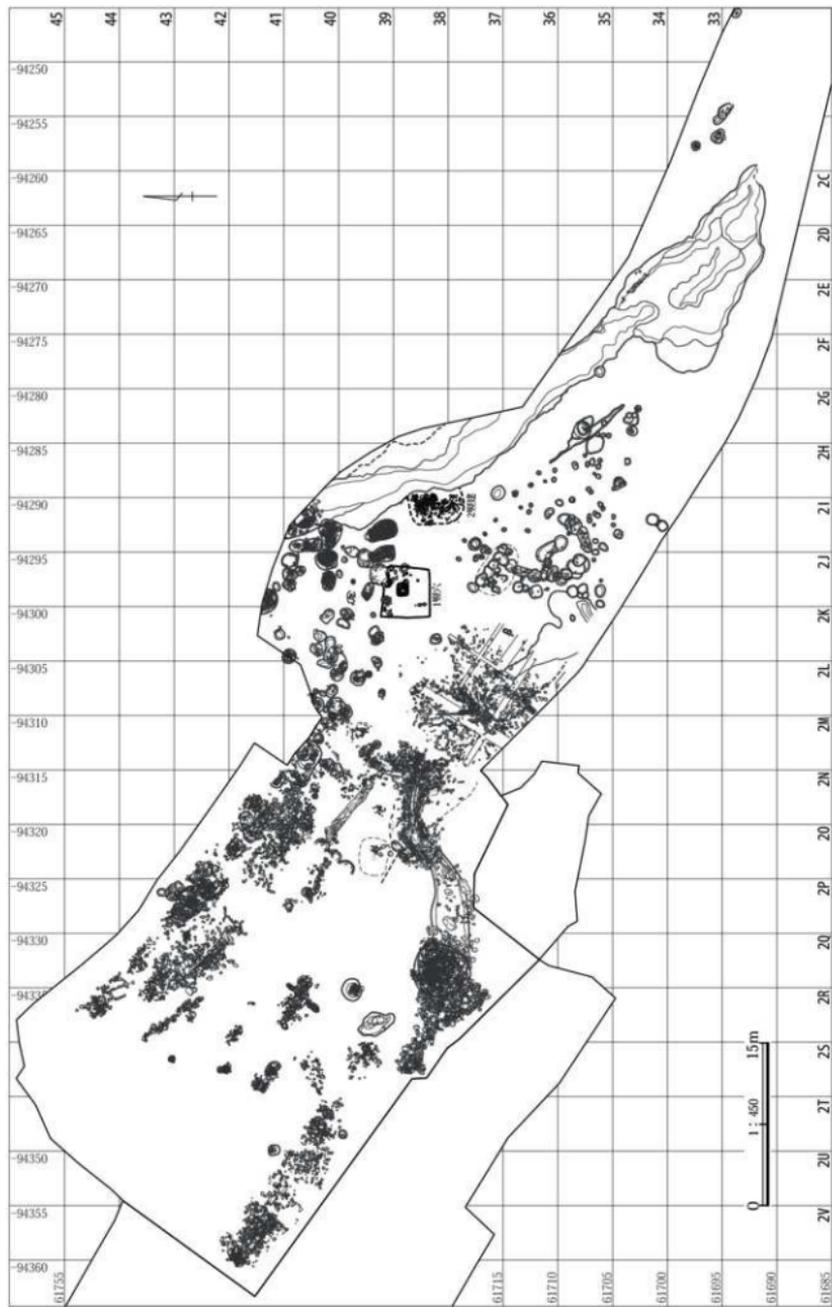
**柱穴** 検出できなかった

**所見** 石囲い炉を持つことから竪穴建物と判断した。15号溝に切られるが、正方形の竪穴建物の痕跡と考えられる。ただし、掘り込みは浅く壁は不明瞭であった。

床面には石囲い炉を中心に礫が配置されるが、礫は形状や大きさが一定ではなく、配置状況も敷石と呼べるほどの規格性は認められない。遺物は、高井東式土器の口縁部破片、佐野式土器の口縁部破片、無文粗製深鉢形土器の大型口縁・胴部破片、縄代痕を有する土器底部のほか、石蕨や石冠などが出土している。



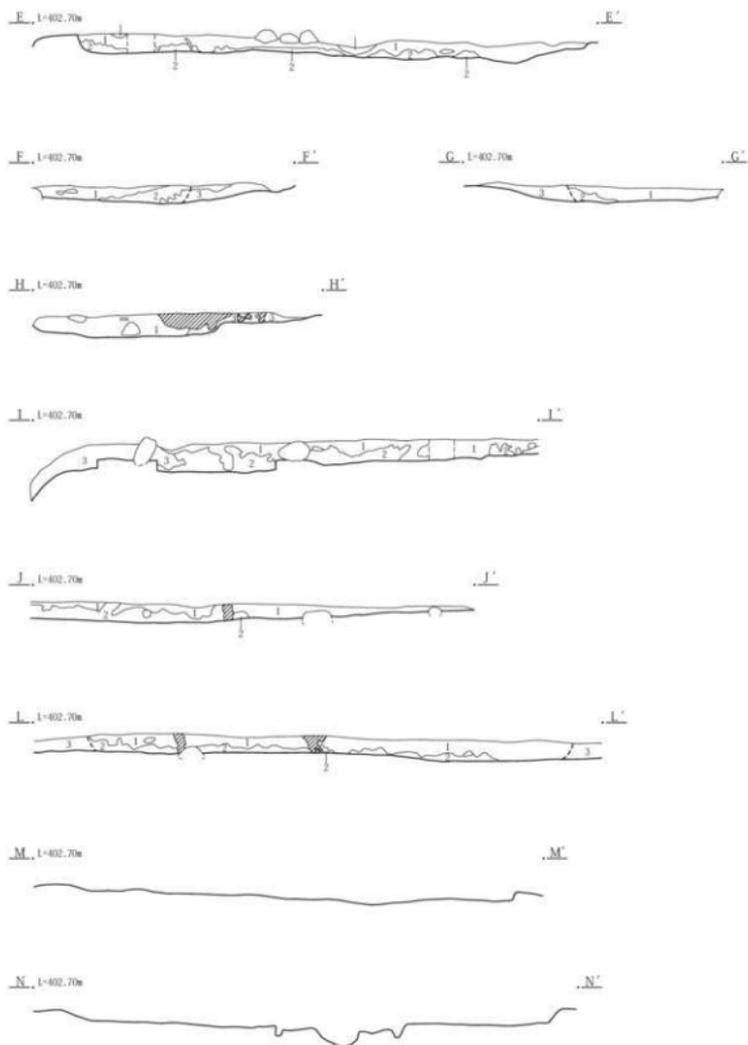
第14号 温棚全体図



第15圖 整穴・整穴建物全体圖

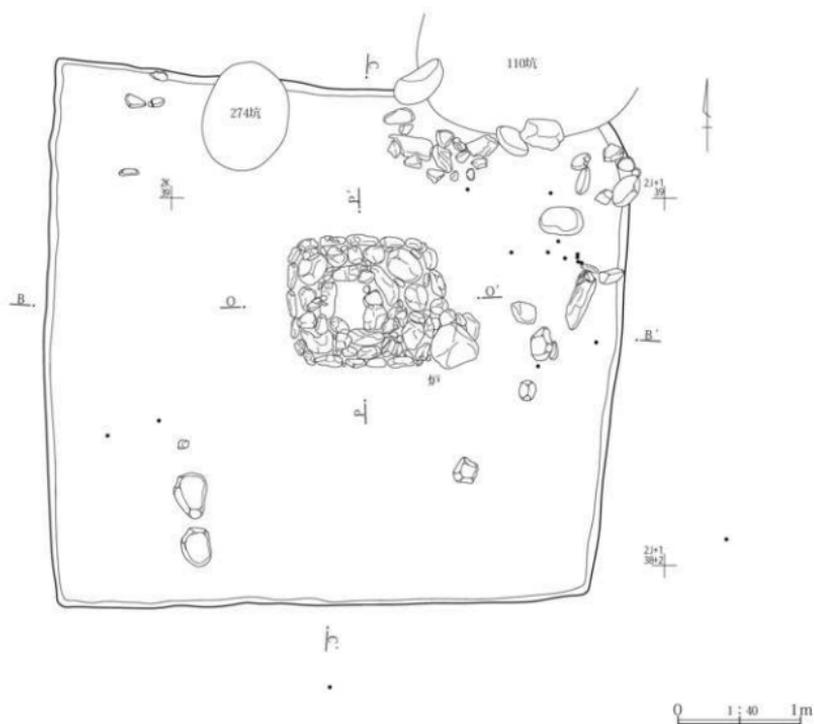


第4章 縄文時代の遺構と遺物



0 1:40 1m

第17図 1号竪穴セクション

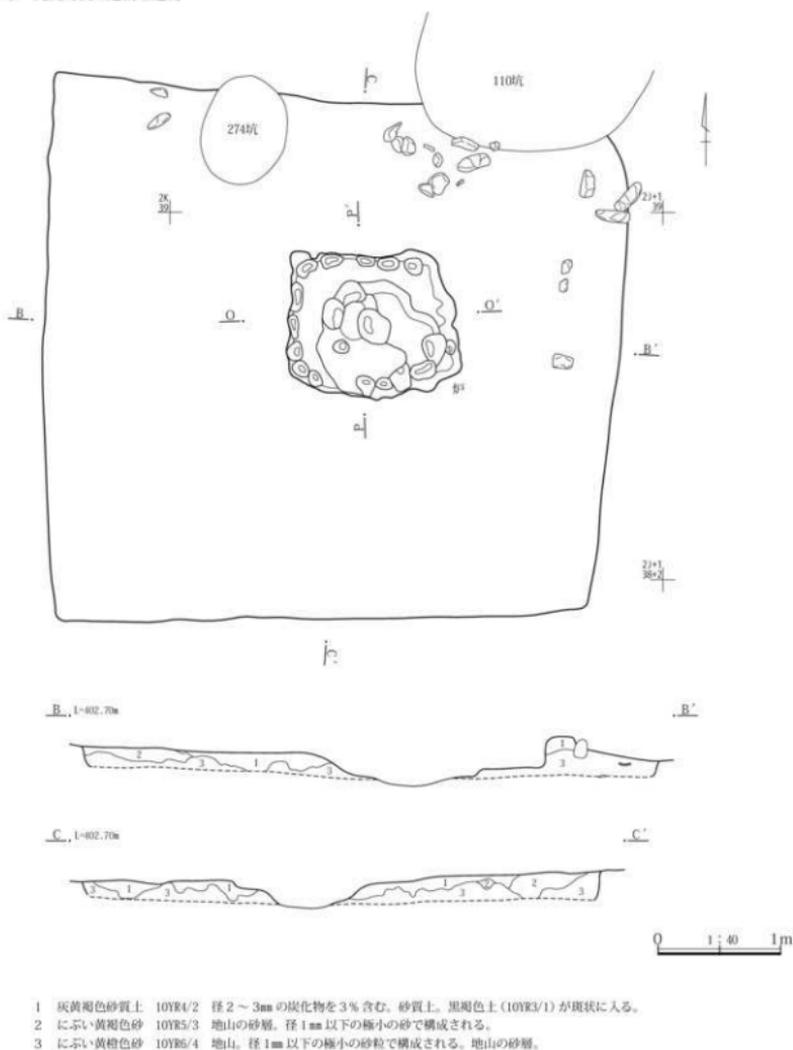


1号竪穴・掘り方(南から)



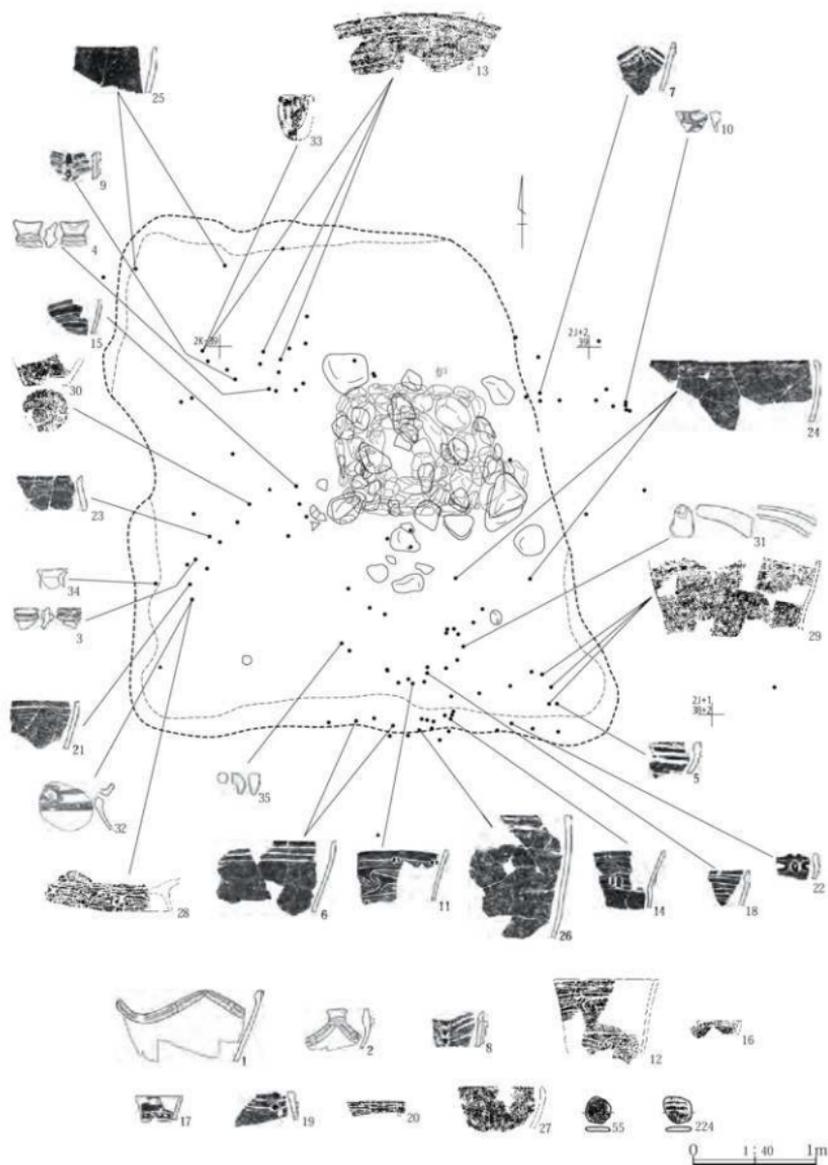
1号竪穴・耳飾り出土状況

第18図 1号竪穴床面

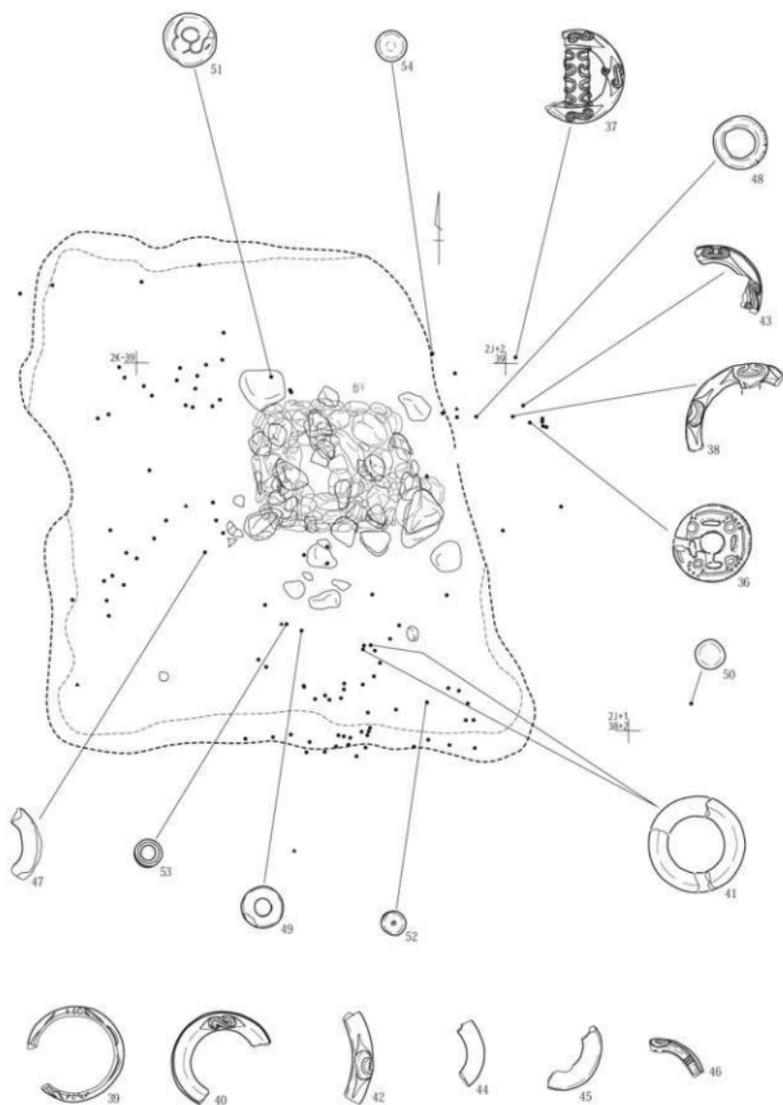


第19図 1号竪穴掘り方

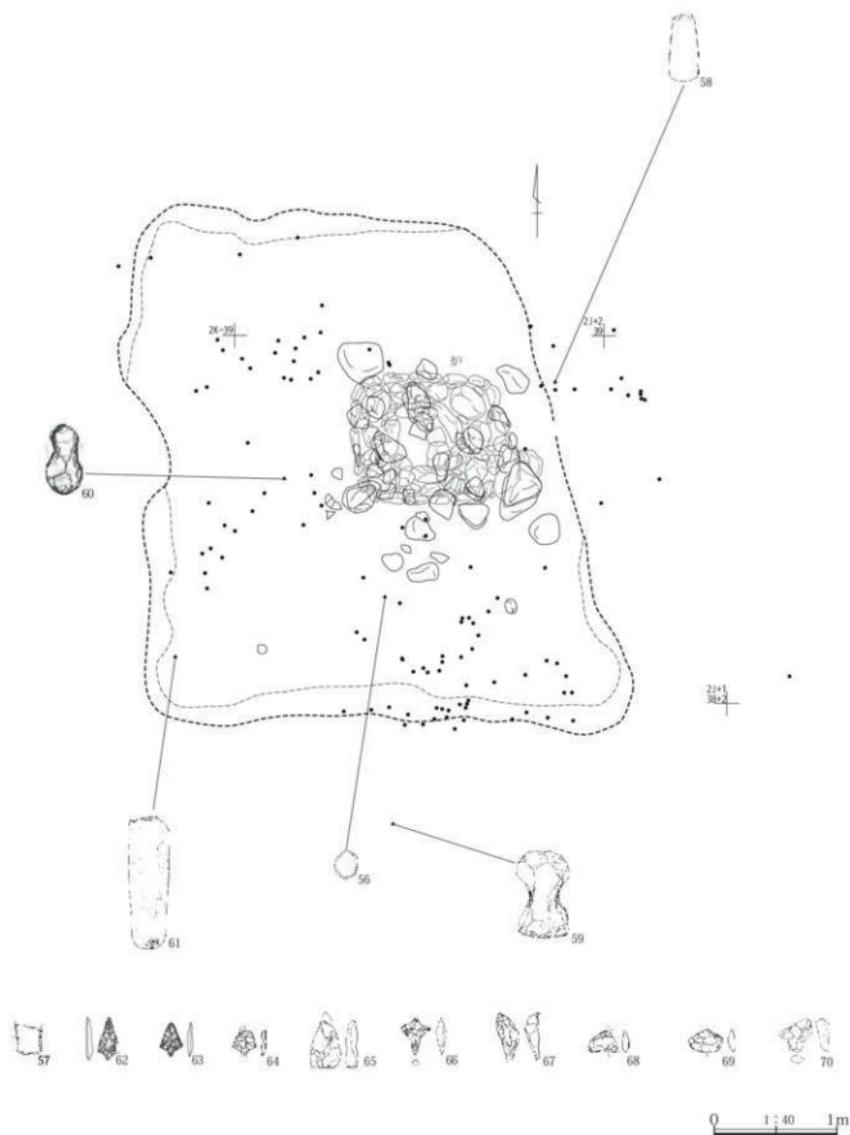




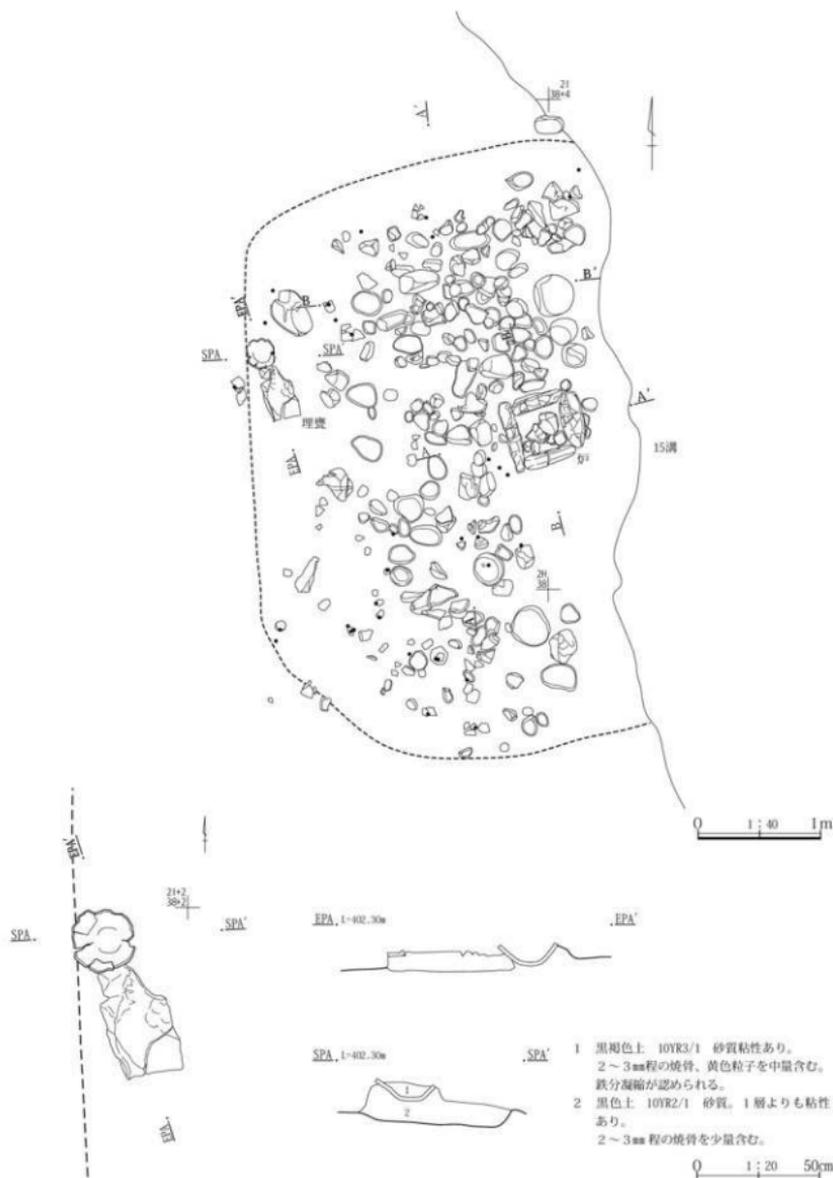
第21図 1号竪穴遺物出土状況(1)



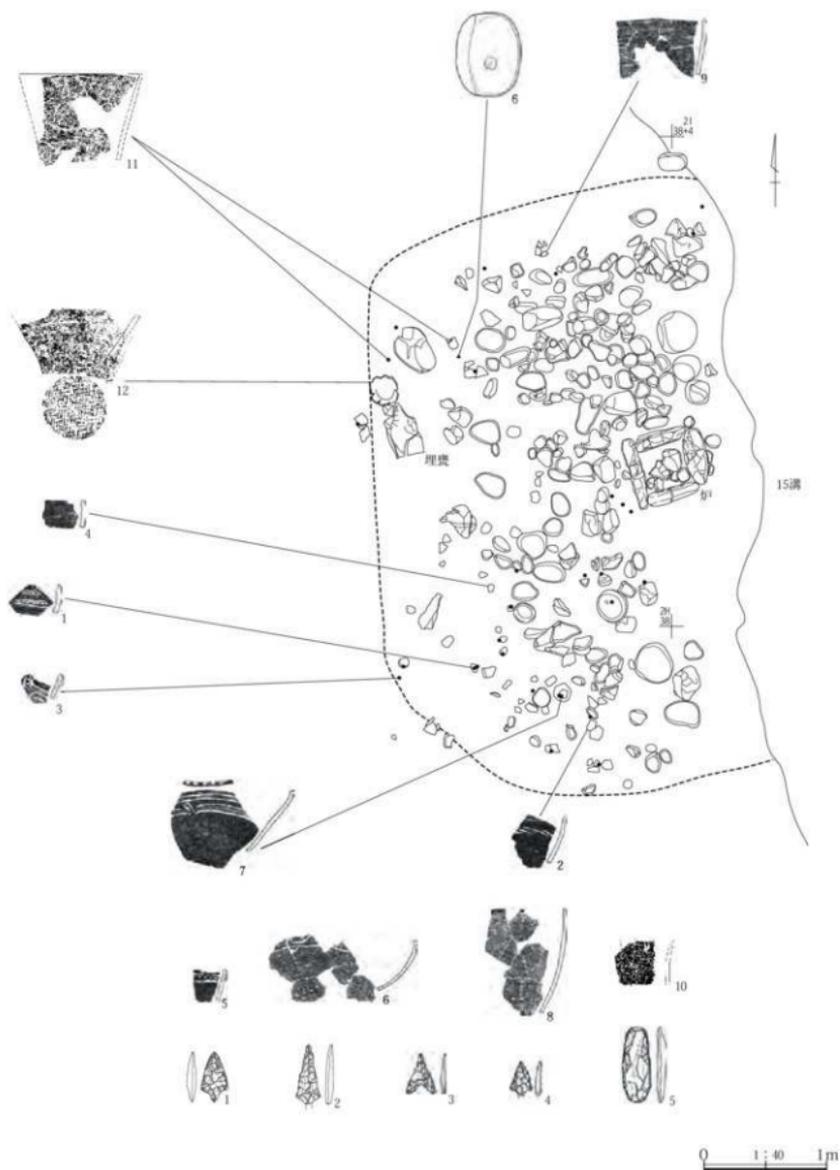
第22図 1号竪穴遺物出土状況(2)



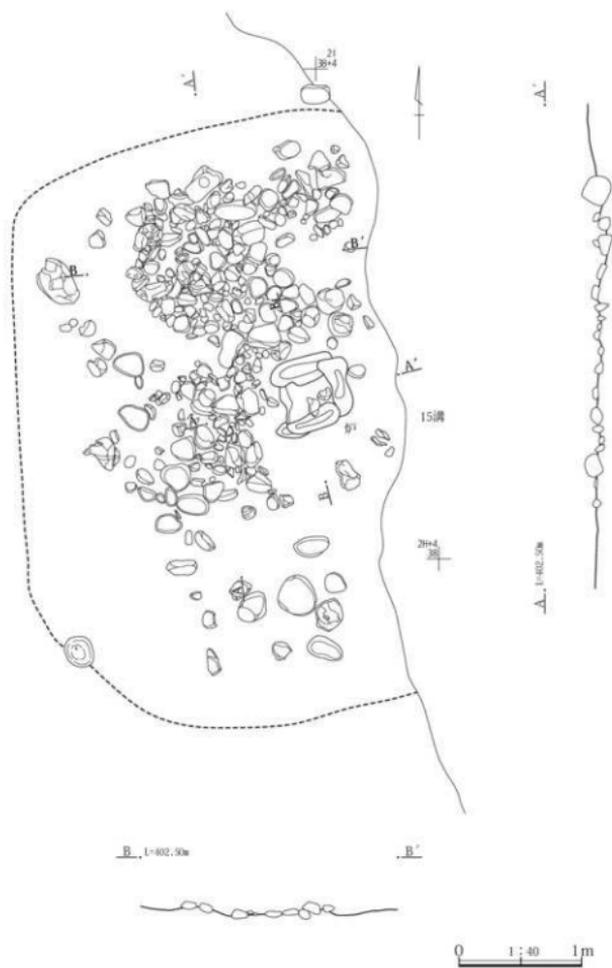
第23図 1号整穴遺物出土状況(3)



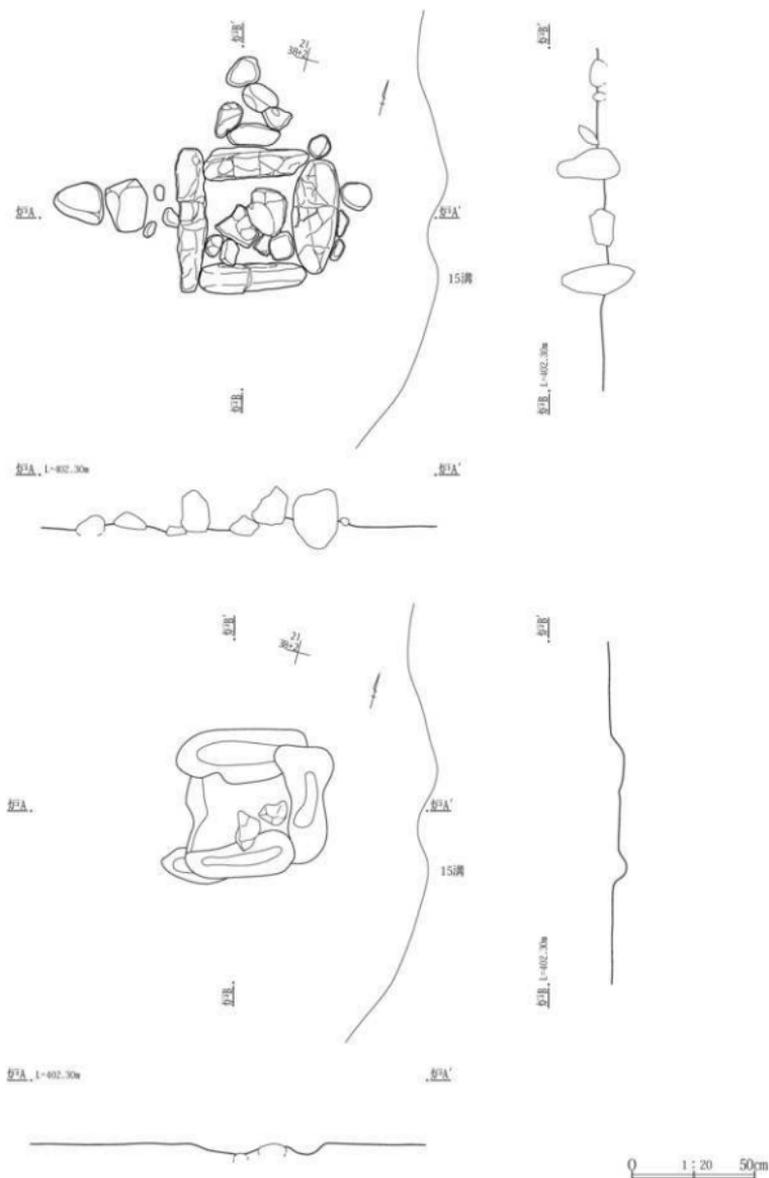
第24図 2号竪穴建物



第25図 2号整穴建物遺物出土状況



第26図 2号竪穴建物掘り方



第27図 2号石囲い建物石囲い好

## 第3節 土坑

### (1) 概要

土坑については、縄文時代から近世までの総計294基を調査した。このうち、172基を縄文時代の土坑として調査した。そして、本報告では調査した172基のうち、92基を人為的な土坑と認定し、80基を自然地形の痕跡の可能性のあるものと判断した。

土坑は、平面形状が円形や楕円形のを主体に、ほかに不整形や正方形などが確認された。断面形状は円筒状や楕円状で深い掘り込みを持つものを主体に、皿状の浅い掘り込みを持つものが確認された。また、遺跡は段丘礫層の直上に形成されていたため、土坑の多くには立地地形の影響により調査時点では人為的に掘削された遺構なのか、あるいは自然営為による自然地形の痕跡なのか判別が難しいものがあった。特に、平面形状が不整形で、掘り込みの浅い底面が不定形な土坑は、人為的に掘削された土坑ではなく、何らかの自然営為で形成された自然地形の痕跡の可能性が考えられた。

遺構の数量は、その後の遺跡の内容や評価、景観復元に影響を及ぼすことになるので、報告段階で人為的な遺構か自然地形の痕跡か改めて検討区分しておくことが必要である。そこで自然地形の痕跡の可能性のある土坑については、調査所見と写真図面等の記録類を再検討した。その結果、人為的に掘削された土坑ではなく、自然地形の痕跡の可能性があると判断した土坑が複数確認された。

また、特徴的な土坑として、配石土坑が検出された。配石土坑は、通常の土坑とは区別して配石土坑として記載して報告した。24号配石、33号配石については、配石で遺構登録し調査したが配石土坑に認定したため、本項で記載した。

### (2) 礫の大きさの区分

ここでは礫の大きさを次のように区分して記載した。小礫：概ね5cm以下、小型礫：概ね5～10cm以下、中型礫：概ね10～30cm、大型礫：概ね30cm以上。

### (3) 配石土坑について

#### ① 概要

本遺跡では特徴的な土坑として配石土坑が多数検出された。配石土坑は計39基を認定した。

配石土坑は、水場遺構と同一時期に形成され水場遺構に関連する遺構と想定された。水場遺構が稼働していた当時の遺跡の景観を復元する際の重要な遺構になるといえるため、ほかの土坑とは区別して扱い、配石土坑として報告することとした。

#### ② 配石土坑の定義

配石土坑とは、掘り込みのなかに礫を規格的に配置した土坑のことである。平面形状が円形あるいは楕円形、断面形状が円筒状あるいは楕円状を呈する深い掘り込みを持つ土坑で、土坑側面に規格的に配置された多数の礫を伴う土坑である。礫は小型礫・中型礫・大型礫が含まれるが、中型礫が多い点特徴である。また、礫は伴うものの断面形状が皿状で掘り込みの浅い土坑は配石土坑には認定していない。

#### ③ 配石土坑の数量

配石土坑として39基を認定した。

#### ④ 配石土坑の分布

配石土坑は、1区・2区・3区に分布していた。水場遺構が南側の段丘崖沿いに位置していたため、配石土坑は水場遺構よりも北側の範囲に分布している。

また、配石土坑は、狭い範囲内に複数が隣接したり重複したりして構築されているものが多かった。例えば、88号土坑・89号土坑・90号土坑の3つの配石土坑は直線状にほぼ等間隔で構築されていた。291号土坑と294号土坑は隣接して構築されていた。277号土坑と33号配石は重複して構築されていた。

#### ⑤ 配石土坑の出土遺物

配石土坑は、覆土に小型礫・中型礫・大型礫の様々な大きさの礫が多数充填していたが、中型礫が占める割合が比較的高く、大型礫も含まれていた。礫は段丘礫層の礫と同じ自然礫で、形状は円礫、垂円礫、偏平礫を主体としていた。

礫だけでなく、土器や石器も出土したが少量である。完形もしくはそれに近い大型の土器が埋設された配石土坑や多数の土器を含む配石土坑は検出されなかった。また、木柱またはその破片、トチノミヤクミなどの堅果

類、大型の動物骨が出土した配石土坑は検出されなかった。

⑥ 配石土坑の形成時期

配石土坑を掘削した生活面は遺物包含層の下位と考えられる。配石と平面的に重複関係をもつ配石土坑は、配石の下位から検出されている。出土土器が少ないため、土器型式から個々の配石土坑の形成時期を判定することは難しいが、層位的には配石よりも古く水場遺構と同一時期と考えられる。水場遺構の形成時期は縄文時代後期後葉から晩期前葉で土器型式では高井東式土器の時期と考えられ、配石土坑もこの時期の可能性が考えられる。

⑦ 礫の出土状況

礫の出土状況は、上面では土坑全体を覆うように密集して分布していた。上面から底面までは、多数の礫が積み重なっていた。配石土坑の大部分が上面に礫が密集して積み重なった状態のものであった。また、偏平礫の側面を立てた状態の配石土坑も多数確認された。

このような礫の出土状況から、礫は土坑の中に長時間かけて自然に堆積したのではなく、短時間のうちに人為的に埋め戻されたものと考えられる。

さらに123号土坑や294号土坑のように、土坑側面の周囲に礫を積み重ね、中央部が礫のない空洞部となった配石土坑も確認された。このような礫の積み重ねと空洞部の存在から、礫は人為的に配置された可能性が高い。

⑧ 配石土坑の機能の推定

配石土坑の内部の礫は、その出土状況からみて何らかの機能的な意図を持って人為的に配置されたものである。したがって、配石土坑は土坑の深い掘り込みと礫の配置とが一体化して機能した土坑と考えられる。以下、その配石土坑の機能について例を挙げて推察する。

一つ目は、柱穴の可能性である。配石土坑の中央部の礫のない空洞部に木柱が存在し、木柱の周囲に礫を囲んで配置したというもので、礫は木柱の根固めの可能性である。ただし、柱穴を裏付ける木柱自体やその破片が検出された配石土坑はなかった。これについては、配石土坑の中に本来はあった有機質の木柱が分解して残存しなかった可能性、あるいは柱穴内の木柱を意図的に抜き取った可能性も想定される。また、柱穴ならば大型の構造物(建物)の存在を考えなければならないが、各配石土坑の位置関係も規格的とはいえず建物は想定しにくい。



88・89・90号土坑



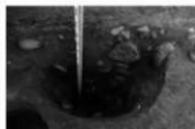
101号土坑



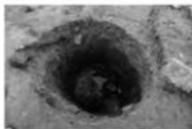
123号土坑



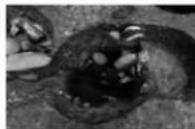
153号土坑



277号土坑



289号土坑



290号土坑



294号土坑



主な配石土坑

このことから、配石土坑は建物の柱穴ではなくシンボリックな木柱を立てた柱穴の可能性が考えられる。

二つ目は、貯蔵穴の可能性である。配石土坑は、トチノミヤクミなどの堅果類を貯蔵した土坑というものである。しかし、それを裏付ける堅果類が埋土から出土した配石土坑はなかった。水場遺構からは有機質のトチノミヤクミが大量に出土しているため、配石土坑の埋土の堅果類が分解し残存しなかった可能性は低い。堅果類をカゴや袋に入れて貯蔵して取り出したために、土坑内には堅果類が残らなかったことも想定できるがカゴや袋の痕跡は確認できなかった。

三つ目は、井戸の可能性である。配石土坑は、水を得るために地下に掘削した井戸で、123号土坑のように土坑側面に配置された礫は井戸の付帯施設であるというものである。その場合、トチノミの水漬けが想定されるが、貯蔵穴と同様にトチノミは土坑内から出土しておらず、水漬け作業を示す直接的な遺物は確認できなかった。また、配石土坑は段丘礫層まで到達しているものも確認されたが、大部分はシルト層までの掘削深度であり、発掘の際も土坑底面から水が滲む程度で水が湧き出すものは確認できなかった。さらに、下位段丘崖からは水場遺構に利用した湧水があるなかで、大型・中型の礫を配置した井戸を次々と構築して地下水を得たことも想定しにくい。このことから、現時点では配石土坑が井戸として機能した可能性は低いといえる。

このほか、土器や礫を廃棄した土坑の可能性も想定されるが、そのために多くの労働力を投入して次々と土坑を掘削したとは考えにくく、土坑内の規格的な礫の配置はそれを否定している。したがって、土器や礫を廃棄した土坑の可能性は低いといえる。

#### ⑨ 小結

以上のように、多数の配石土坑が検出された。配石土坑は水場遺構と同一時期の形成と考えられる。また、配石土坑は中型礫を主体とする礫を多数含んでいた。礫は人為的に埋め戻されたものであるが、乱雑に積み重なった状態だけではなく、土坑の側面に規格的に配置された痕跡を残すものが多数確認された。

機能については、現時点では柱穴、貯蔵穴、井戸の可能性が想定された。しかし、明確に結論付けられるだけの証拠は確認できなかった。現時点では、3つの機能の

うち配石土坑は深い掘り込みを持ち、土坑側面の規格的な礫の配置と土坑中央部の空洞部の存在から、柱穴の可能性が最も有力と考えられる。

配石土坑は、水場遺構全体の景観にかかわる遺構であるため、今後もさらに検討が必要な遺構である。

#### (4) 所見

78号土坑(第1-31、2-8図、PL.18、257)

調査区・グリッド 2区 2J・2K41

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:240cm 幅:134cm(北側は調査区外) 深さ:28cm

主軸方位 N-30°-W

埋土 黒褐色土、黄褐色砂質土層

所見 配石土坑。上面に大型礫を多数含む。礫の密集度は高い。

79号土坑(第1-31、2-8図、PL.18、257)

調査区・グリッド 2区 2J41

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:83cm 幅:64cm 深さ:11cm

主軸方位 N-65°-E

埋土 にぶい黄褐色砂層

所見 掘り込みの浅い皿状の土坑。

80号土坑(第1-31・32、2-8図、PL.18・19、257)

調査区・グリッド 2区 2J・2K 40・41

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:180cm 幅:163cm 深さ:14cm

主軸方位 N-32°-E

埋土 炭化物を含む黒褐色土

重複 81号土坑

所見 配石土坑。中型礫・大型礫を含む。80号土坑は、東西に並列する3基の土坑(80・81・82号)の西側に位置する。大洞B C～C 1式並行と考えられる土器、石鉄などが出土している。

81号土坑(第1-31・32、2-8図、PL.18・19、257)

調査区・グリッド 2区 2J40・41

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

**規模** 長さ：200cm 幅：154cm 深さ：24cm

**主軸方位** N-6°-E

**埋土** 炭化物を含む黒褐色土

**重複** 80・82号土坑

**所見** 配石土坑。中型礫・大型礫を含む。81号土坑は、東西に並列する3基の土坑(80・81・82号)の中央に位置する。大洞BC～C1式並行と考えられる土器、石鏃などが出土している。

82号土坑(第1-31・32、2-8図、PL.18・20)

**調査区・グリッド** 2区 2J40・41

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：216cm 幅：214cm 深さ：12cm

**主軸方位** N-23°-E

**埋土** 炭化物を含む黒褐色土

**重複** 81号土坑、25号集石

**所見** 配石土坑。82号土坑は、東西に並列する3基の土坑(80・81・82号)の東側に位置する。

83号土坑(第1-32、2-8図、PL.20、257)

**調査区・グリッド** 2区 2I40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：160cm 幅：110cm 深さ：40cm

**主軸方位** N-1°-W

**埋土** 黒褐色土、にぶい黄橙色砂層

**重複** 84号土坑

**出土遺物**

**所見** 配石土坑。中型礫・大型礫を含む。南側に84号土坑が重複する。大洞C2～A式に相当する鉢形土器、網代痕を有する土器底部が出土している。

84号土坑(第1-32、2-8図、PL.20、257)

**調査区・グリッド** 2区 2I40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：142cm 幅：118cm 深さ：39cm

**主軸方位** N-3°-W

**埋土** 黒褐色土、にぶい黄橙色砂層

**重複** 83号土坑

**所見** 配石土坑。大型礫を多数含む。北側に83号土坑が重複する。大洞BC～C1式に相当する土器、石鏃(下

リル)などが出土している。

85号土坑(第1-33、2-8図、PL.21、257)

**調査区・グリッド** 2区 2I40

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：180cm 幅：152cm(調査区外) 深さ：30cm

**主軸方位** N-47°-W

**埋土** 炭化物を含む黒褐色土

**重複** 15号溝

**所見** 配石土坑。中型礫を多数含む。礫の密集度は高い。

86号土坑(第1-33、2-8図、PL.21、257)

**調査区・グリッド** 2区 2K40

**平面形状** 不整形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：132cm 幅：93cm 深さ：24cm

**主軸方位** N-42°-W

**埋土** にぶい黄橙色砂層

**所見** 平面形状は不整形で、掘り込みの浅い土坑。

87号土坑(第1-33、2-8図、PL.21、257)

**調査区・グリッド** 2区 2J40

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：112cm 幅：110cm 深さ：19cm

**主軸方位** N-24°-E

**埋土** 炭化物を含む黒褐色土、にぶい黄橙色砂層

**所見** 掘り込みの浅い土坑である。

88号土坑(第1-34・35、2-9図、PL.22・23、257)

**調査区・グリッド** 2区 2J40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 挿鉢状

**規模** 長さ：178cm 幅：121cm 深さ：50cm

**主軸方位** N-83°-W

**埋土** 炭化物を含む黒褐色土

**所見** 配石土坑。小型礫・中型礫を多数含む。礫の密集度は高い。88号土坑は、東西に並列する3基の土坑(88・89・90号)の西側に位置する。天神原式、大洞BC～C1式、大洞C1式並行の土器、木葉痕を有する土器底部、土製円板、石鏃、蛇紋岩製の垂飾などが出土している。

89号土坑(第1-34・35、2-9図、PL.22・23、258)

調査区・グリッド 2区 21・2J40

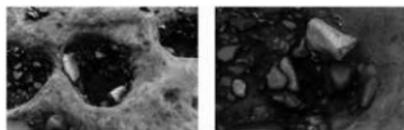
平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:197cm 幅:183cm 深さ:104cm

主軸方位 N-8°-E

埋土 炭化物を含む黒褐色土層

所見 配石土坑。小型礫・中型礫を多数含む。礫の密集度は高い。土坑側面に中型礫を配置している。89号土坑は、東西に並列する3基の土坑(88・89・90号)の中央に位置する。天神原式土器、石畿、石棒が出土している。



89号土坑

90号土坑(第1-34・35、2-10図、PL.22・24、258)

調査区・グリッド 2区 2139・40

平面形状 楕円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:272cm 幅:208cm 深さ:74cm

主軸方位 N-73°-W

埋土 炭化物を含む黒褐色土層

所見 配石土坑。小型礫・中型礫・大型礫を多数含む。礫の密集度は高い。90号土坑は、東西に並列する3基の土坑(88・89・90号)の東側に位置し、規模は最も大きい。安行3b式、大洞C B-C 1式の土器、底部、土製円板、石畿などが出土している。

91号土坑(第1-35、2-9図、PL.24、258)

調査区・グリッド 2区 2K39

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ:115cm 幅:94cm 深さ:11cm

主軸方位 N-43°-E

埋土 にぶい黄褐色土層

所見 掘り込みの浅い皿状の土坑。高井東式土器口縁部破片が出土している。

92号土坑(第1-36、2-10図、PL.25、259)

調査区・グリッド 2区 21・2J 38・39

平面形状 楕円形 断面形状 揺鉢状

規模 長さ:198cm 幅:144cm 深さ:80cm

主軸方位 N-7°-W

埋土 黒褐色土層

重複 265号土坑

所見 配石土坑。小型礫・中型礫を多数含む。天神原式、

大洞C 1式並行の土器、無文土器の口縁部破片などが出土している。

93号土坑(第1-36・37、2-9図、PL.25、258)

調査区・グリッド 2区 2139

平面形状 円形 断面形状 不明

規模 長さ:125cm 幅:99cm 深さ:71cm

主軸方位 N-70°-E

埋土 にぶい黄褐色土層、黒褐色土層

重複 94号土坑

所見 配石土坑。小型礫・中型礫を多数含む。礫の密集度は高い。94号土坑と重複し、二つの土坑に分離して調査したが、93号土坑と94号土坑は本来は一つの土坑であったと考えられる。安行3a~3b式土器、無文粗製深鉢形土器の胴部破片などが出土している。

94号土坑(第1-36・37、2-11図、PL.25・26、259)

調査区・グリッド 2区 2139

平面形状 楕円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:210cm 幅:174cm 深さ:83cm

主軸方位 N-17°-W

埋土 にぶい黄褐色土層、黒褐色土層

重複 93・100号土坑

所見 配石土坑。小型礫・中型礫を多数含む。礫の密集度は高い。93号土坑と重複し、二つの土坑に分離して調査したが、93号土坑と94号土坑は本来は一つの土坑であったと考えられる。大洞C 1式並行の深鉢形土器の口縁部破片、胴部破片、底部、土製円板などが出土している。

95号土坑(第1-37、2-11図、PL.26、259)

調査区・グリッド 2区 2L39

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:143cm 幅:136cm 深さ:50cm

**主軸方位** N-38°-W

**埋土** 炭化物を含む黒褐色土層、にぶい黄褐色土層

**重複** 5号埋土

**所見** 配石土坑。円筒状の掘り込みを持つ。小型礫・中型礫を含むものの密集度は低い。天神原式土器の口縁部破片、打製石斧などが出土している。

96号土坑(第1-38 2-11図、PL.27、259)

**調査区・グリッド** 2区 2140

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:158cm 幅:80cm 深さ:12cm

**主軸方位** N-60°-W

**埋土** にぶい黄褐色土層、黒褐色土層

**重複** 15号溝

**所見** 掘り込みの浅い土坑。北側は調査区外。

97号土坑(第1-38図、PL.27)

**調査区・グリッド** 2区 2K40・41

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:100cm 幅:93cm 深さ:12cm

**主軸方位** N-25°-E

**埋土** にぶい黄褐色砂層

**所見** 掘り込みの浅い土坑。

98号土坑(第1-38、2-11図、PL.27、259)

**調査区・グリッド** 2区 21・2J39

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 楕鉢状

**規模** 長さ:174cm 幅:140cm 深さ:29cm

**主軸方位** N-79°-E

**埋土** 黒褐色土層、にぶい黄褐色土層

**重複** 265号土坑

**所見** 断面形状は楕鉢状を呈するが、掘り込みは浅い。

99号土坑(第1-38、2-11図、PL.28、259)

**調査区・グリッド** 2区 21・2J39

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:132cm 幅:94cm 深さ:13cm

**主軸方位** N-16°-E

**埋土** にぶい黄褐色砂層

**所見** 大型礫が1点分布。掘り込みが浅く、人為的な遺

構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

100号土坑(第1-37、2-11図、PL.28)

**調査区・グリッド** 2区 2138

**所見** 北側に94号土坑が隣接。掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

101号土坑(第1-39、2-11図、PL.28)

**調査区・グリッド** 2区 2K40

**平面形状** 円形 **断面形状** 楕鉢状

**規模** 長さ:203cm 幅:175cm 深さ:62cm

**主軸方位** N-80°-E

**埋土** 黒褐色土層、いぶい黄褐色砂層

**所見** 配石土坑。小型礫・中型礫を主体に大型礫が上面に分布。高井東式土器、天神原式土器が出土している。

102号土坑(第1-38図、PL.29)

**調査区・グリッド** 2区 2K40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:112cm 幅:89cm 深さ:12cm

**主軸方位** N-7°-E

**埋土** にぶい黄褐色土層

**所見** 掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

103号土坑(第1-38、2-11図、PL.29、259)

**調査区・グリッド** 2区 2K・2L40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:128cm 幅:62cm 深さ:29cm

**主軸方位** N-18°-E

**埋土** にぶい黄褐色砂層

**重複** 108号土坑

**所見** 掘り込みの浅い土坑。

104号土坑(第1-39、2-11図、PL.29、259)

**調査区・グリッド** 2区 2K・2L 39・40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 不明

**規模** 長さ:183cm 幅:126cm 深さ:18cm

**主軸方位** N-82°-E

**埋土** 黒褐色土層、にぶい黄褐色土層

重複 105・108号土坑

所見 配石土坑。105号土坑と重複。大洞B C式土器や石鏝などが出土している。

105号土坑(第1-39、2-11図、PL.29、259)

調査区・グリッド 2区 2K・2L 39・40

平面形状 円形 断面形状 不明

規模 長さ：113cm 幅：100cm 深さ：15cm

主軸方位 N-80°-W

埋土 黒褐色土層、にぶい黄橙色土層

重複 104号土坑

所見 配石土坑。104号土坑と重複。

106号土坑(第1-39図、PL.30)

調査区・グリッド 2区 2J39・40

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：73cm 幅：51cm 深さ：10cm

主軸方位 N-78°-E

埋土 にぶい黄橙色砂層

所見 中型礫・大型礫が分布する掘り込みの浅い集石状の土坑。

107号土坑(第1-39、2-11図、PL.30、259)

調査区・グリッド 2区 2K40

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：119cm 幅：99cm 深さ：25cm

主軸方位 N-18°-E

埋土 黒褐色土層、にぶい黄橙色土層

所見 掘り込みの浅い土坑

108号土坑(第1-40、2-11図、PL.30、259)

調査区・グリッド 2区 2K・2L40

平面形状 不整形 断面形状 皿状

規模 長さ：233cm 幅：125cm 深さ：17cm

主軸方位 N-83°-W

埋土 にぶい黄橙色土層

重複 103・124号土坑

所見 掘り込みの浅い不整形の土坑。人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

109号土坑(第1-40、2-11図、PL.31、259)

調査区・グリッド 2区 2K39・40

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：120cm 幅：73cm 深さ：9cm

主軸方位 N-28°-E

埋土 黒褐色土層、にぶい黄橙色砂層

所見 掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

110号土坑(第1-40、2-12図、PL.31、260)

調査区・グリッド 2区 2J39

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ：194cm 幅：160cm 深さ：75cm

主軸方位 N-88°-E

重複 1号竪穴

所見 配石土坑。ほかに比べやや大型である。小型礫・中型礫が密集する。高井東式、天神原式、大洞C1式並行の土器のほか石鏝などが出土している。

111号～121号土坑

所見 欠番及び古代から近世の土坑。

122号土坑(第1-40、2-12図、PL.32、260)

調査区・グリッド 2区 2K・2L 40・41

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ：132cm 幅：116cm 深さ：53cm

主軸方位 N-57°-W

埋土 黒褐色土層

所見 配石土坑。小型礫・中型礫が密集して積み重なっている。天神原式土器が出土している。ほかに安行3b式の可能性のある土器が出土している。

123号土坑(第1-40、2-12図、PL.32、260)

調査区・グリッド 3区 2L40

平面形状 楕円形 断面形状 不整形

規模 長さ：123cm 幅：89cm 深さ：67cm

主軸方位 N-49°-W

埋土 黒褐色土層

重複 278号土坑

所見 配石土坑。小型礫・中型礫が土坑の上位から底面

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

まで密集して検出された。土坑下位では側面に偏平礫を立てて配置し、土坑中央部は礫のない空洞部であった。空洞部を取り囲むように、土坑側面に礫を配置し積み重ねた配石土坑で、規格的な配置の痕跡がよく残っていた。

124号土坑(第1-40、2-12図、PL.32、260)

調査区・グリッド 2区 2K・2L40

重複 108号土坑

所見 詳細不明。配石であった可能性が考えられる。

125号土坑(第1-41、2-12図、PL.32、260)

調査区・グリッド 2区 2J39

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：107cm 幅：69cm 深さ：11cm

主軸方位 N-88°-W

所見 掘り込みは浅い。配石であった可能性がある。耳飾りが1点出土している。

126～130号土坑(PL.33)

所見 126号土坑は縄文時代の土坑であるが詳細不明。127号土坑も縄文時代の土坑であるが詳細不明。配石の可能性が推測される。128・129号土坑は古代以降の土坑である。130号土坑は欠番。

131号土坑(第1-41図、PL.33)

調査区・グリッド 2区 Z32

平面形状 楕円形 断面形状 揺鉢状

規模 長さ：91cm 幅：59cm 深さ：20cm

主軸方位 N-55°-W

所見 揺鉢状の土坑で底面から礫が出土。

132号土坑(第1-41図、PL.33)

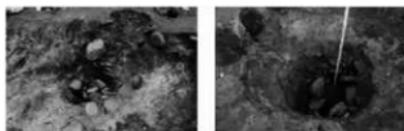
調査区・グリッド 2区 2B33

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ：82cm 幅：74cm 深さ：不明

主軸方位 N-70°-W

所見 小型礫を主体に中型礫が比較的多く分布していた。掘り込みが浅いため、配石土坑には認定していない。



123号土坑

133号土坑(第1-41、2-13図、PL.33、260)

調査区・グリッド 2区 2B32・33

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ：137cm 幅：111cm 深さ：16cm

主軸方位 N-60°-W

所見 小型礫を主体に中型礫が比較的多く分布していた。掘り込みが浅いため、配石土坑には認定していない。大洞B C～C 1式のほか佐野1 b式の可能性のある土器が出土している。

134号土坑(第1-41図、PL.33)

調査区・グリッド 2区 2A・2B 32・33

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：96cm 幅：73cm 深さ：17cm

主軸方位 N-35°-W

重複 135号土坑

所見 掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

135号土坑(第1-41、2-13図、PL.34、260)

調査区・グリッド 2区 2A・2B 32・33

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ：159cm 幅：95cm 深さ：17cm

主軸方位 N-45°-W

重複 134号土坑

所見 掘り込みの浅い土坑。遺物が出土しているものの、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

136号土坑(第1-41図、PL.34)

調査区・グリッド 1区 2T・2U41

平面形状 円形

断面形状 揺鉢状

規模 長さ：103cm 幅：92cm 深さ：24cm

**主軸方位** N-8°-W

**所見** 上位から礫が数点出土。掘り込みは比較的浅い。

137号土坑(第1-41図、PL.34)

**調査区・グリッド** 1区 2T39

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:81cm 幅:75cm 深さ:31cm

**主軸方位** N-44°-E

**所見** 円筒状の土坑。底面付近から大型礫が出土。

138号土坑(第1-41図、PL.34)

**調査区・グリッド** 2区 2F35

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:96cm 幅:95cm 深さ:24cm

**主軸方位** N-41°-E

**重複** 15号溝

**所見** 底面が平坦な土坑。

140～147号土坑(第1-42、2-13図、PL.35・36、260)

140～147号土坑は重複が著しい土坑群である。調査所見や図面、写真等を再検討して次のようにまとめた。

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**重複** 140～145・147号土坑、149号土坑、1号配石

140号土坑 配石土坑。円筒状の掘り込みを持ち、土坑下位では土坑側面に扁平礫を立てて配置、土坑中央部では礫のない空洞部である。空洞部を取り囲むように、土坑側面に礫を積み重ねて配置した配石土坑である。

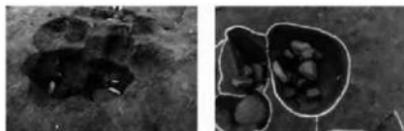
141号土坑 円形・円筒状の土坑。底面から中型礫が出土。礫の点数が比較的小ないため、配石土坑には認定していない。

142・143号土坑 詳細不明。佐野1b式土器や粗製深鉢形土器の胴部破片が143号土坑出土として取り上げられているが、重複するほかの土坑帰属の可能性もある。

144・145号土坑 配石土坑。別々の2つの土坑として調査したが1つの土坑と考えられる。円筒状の土坑で、上位からは中型礫・大型礫がまとめて出土した。土坑底面の礫の配置は規格性が弱いものの、人為的な配置と考えられるため、配石土坑とした。

146号土坑 欠番

147号土坑 配石土坑。円形・楕円状の土坑。



140～147号土坑

**所見** 140～145・147号土坑は2P42の狭い範囲の中で互いに重複して構築されており、配石土坑が重複しながら構築された痕跡と考えられる。切り合い関係の詳細は不明である。

7基の土坑を想定して調査開始したが、完掘状態から見て3つ程度の土坑にまとまる可能性がある。規模や平面形状については不明な部分があるものの、断面形状や礫の出土状態から見て、140号土坑、144・145号土坑、147号土坑は配石土坑といえる。

148・149号土坑(第1-42、2-13図、PL.36、261)

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**平面形状** 円形 **断面形状** 楕円状

**規模** 長さ:43cm 幅:41cm 深さ:27cm

**主軸方位** N-12°-E

**重複** 141号土坑、1号配石

**所見** 別々の2つの土坑として調査したが、148号土坑と149号土坑は同じ一つの土坑と考えられる。

150号土坑(第1-42、2-13図、PL.36、261)

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**平面形状** 長方形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:67cm 幅:46cm 深さ:18cm

**主軸方位** N-44°-W

**重複** 1号配石

**所見** 掘り込みが浅く、上面に大型礫が分布するため土坑ではなく配石の可能性が高い。大洞B C～C 1式土器が出土している。

151号土坑(第1-43、2-13図、PL.36、261)

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**平面形状** 不整形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:187cm 幅:93cm 深さ:26cm

**主軸方位** N-63°-W

**重複** 255・256号土坑、1号配石

**所見** 南側に中型礫がままとまって分布する。大洞BC～C1式のほか安行3b式の可能性がある土器が出土している。

152号土坑(第1-43、2-14図、PL.37、261)

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:110cm 幅:70cm 深さ:33cm

**主軸方位** N-58°-E

**重複** 153・255・256号土坑、1号配石

**所見** 153号土坑の南側に重複する土坑である。中ノ沢式土器の口縁部破片のほか、大洞BC～C1式並行の土器口縁部破片が出土している。

153号土坑(第1-43、2-13図、PL.37、261)

**調査区・グリッド** 1区 2P42・43

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:143cm 幅:135cm 深さ:113cm

**主軸方位** N-46°-W

**重複** 152・153B・257号土坑、1号配石

**所見** 配石土坑。円筒状の深い掘り込みを持つ。土坑の上位から中位では、土坑側面に中型礫が積み重なっていた。土坑底面では、中央部を礫のない空洞部にして取り囲むように中型偏平礫を立てて配置していた。人為的な配置の痕跡をよく残した配石土坑である。高井東式土器の口縁部破片が出土している。

153B号土坑(第1-43図、PL.37)

**調査区・グリッド** 1区 2P43

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:81cm 幅:66cm 深さ:32cm

**主軸方位** N-5°-E

**重複** 153号土坑、1号配石

**所見** 153号土坑の北側に重複する土坑である。

154号土坑(第1-43、2-14図、PL.37、261)

**調査区・グリッド** 2区 2G34

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:57cm 幅:56cm 深さ:19cm

**主軸方位** N-13°-E

**埋土** 炭化物や焼骨片を含む黒色土層

**所見** 円形・皿状の土坑で、中央部から中型偏平礫、割れた大型礫が重なって出土した。

155号土坑(第1-43、2-14図、PL.38、261)

**調査区・グリッド** 2区 2G34

**平面形状** 不整形 **断面形状** 不整形

**規模** 長さ:135cm 幅:118cm 深さ:17cm

**主軸方位** N-6°-E

**所見** 平面形状は不整形で、掘り込みは浅い。底面も凹凸が著しいため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

156号土坑(第1-44、2-14図、PL.38、261)

**調査区・グリッド** 2区 2G34

**平面形状** 円形 **断面形状** 揺鉢状

**規模** 長さ:96cm 幅:83cm 深さ:36cm

**主軸方位** N-11°-E

**埋土** 砂質の黒褐色土層

**所見** 埋土から小型礫・中型礫が出土しているが、規格性が認められないため配石土坑には認定していない。土製円板、異形石器が出土している。

157・158・159号土坑(第1-44図、PL.38・39)

**調査区・グリッド** 2区 2G35

**所見** いずれの土坑も掘り込みが浅く底面が不整形なため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

160号土坑(第1-44図、PL.39)

**調査区・グリッド** 2区 2G35

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:48cm 幅:47cm 深さ:8cm

**主軸方位** N-34°-E

**埋土** 黒褐色土層

**重複** 22号溝

**所見** 円形・皿状の土坑

161A・161B号土坑(第1-44、2-15図、PL.39、261・262)

調査区・グリッド 2区 2G35

平面形状 円形(161A号土坑) 断面形状 揺鉢状  
(161B土坑)

規模 長さ:125cm 幅:111cm 深さ:18cm

主軸方位 N-48°-E

埋土 黒褐色土層

重複 24号溝

所見 161A号土坑は円形・揺鉢状の土坑である。重複する161B号土坑は掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

161A号土坑ではまとまった遺物出土があった。高井東式の深鉢形土器口縁部破片、口縁・胸部破片、粗製深鉢形土器の口縁・胸部破片のほか、土製円板、石鏃、打製石斧、耳飾りなどが出土した。特に高井東式土器のまとまった出土がみられた。161B土坑からは安行3a～3b式並行の土器のほか粗製深鉢形土器口縁・胸部破片、土偶が出土した。161B土坑出土遺物については、本来は161A号土坑に帰属するものと考えられる。

162号土坑(第1-44、2-14図、PL.40、261)

調査区・グリッド 2区 2H34

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:139cm 幅:87cm 深さ:47cm

主軸方位 N-36°-W

埋土 黒褐色土層、灰白色土層、にぶい黄褐色土層

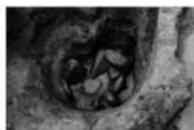
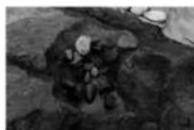
重複 269号土坑

所見 円形・円筒状の土坑。重複する小型のピットは162号土坑の一部ではなく自然地形の痕跡と考えられる。高井東式の深鉢形土器口縁部破片のほか土製円板、石鏃などが出土している。

163～170号土坑(第1-45、2-14図、PL.40・41)

調査区・グリッド 2区 2H35

所見 163～169号土坑は円形を呈するものの、小型で掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。170号土坑はAs-Kkを多く含む土層堆積が見られたことから、縄文時代ではなく古代の土坑の可能性が高い。しかも掘り込みが浅いため人為的な遺構ではなく、古代に形成された自然地形の痕跡の可能性が高



153号土坑

いと考えられる。

171号土坑(第1-45、2-14図、PL.41、261)

調査区・グリッド 2区 2H35

平面形状 楕円形 断面形状 揺鉢状

規模 長さ:70cm 幅:46cm 深さ:26cm

主軸方位 N-68°-E

埋土 黒褐色土層

所見 揺鉢状を呈する小型の土坑。中ノ沢式土器の口縁部破片が出土している

172～178号土坑(第1-45、2-14図、PL.41～43、261)

調査区・グリッド 2区 2H35・36

所見 いずれも円形を呈するものの、小型で掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

179号土坑(第1-46、2-14図、PL.43、261)

調査区・グリッド 2区 2H36

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:59cm 幅:45cm 深さ:14cm

主軸方位 N-60°-W

埋土 にぶい黄褐色土層

所見 円形・皿状を呈する小型の土坑である。遺物がまとまって出土している。網代痕を有する土器底部が出土している。

180～190号土坑(第1-46、2-14図、PL.43～46、261)

調査区・グリッド 2区 2I・2J 34・35

所見 いずれも円形を呈し、遺物が出土しているものの、小型で掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。182号土坑も扁平な中型礫を伴うものの、掘り込みが浅く底面が不整形なため、人為

的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

191号土坑(第1-46、2-17図、PL.46)

調査区・グリッド 2区 2135

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:91cm 幅:92cm 深さ:21cm

主軸方位 N-65°-E

埋土 黒色土層

重複 192号土坑

所見 円形・皿状を呈する土坑で、192号土坑に切られる。遺物がまともに出土した。浅い沈線を施した高井東式土器の口縁部破片や大洞B式並行の土器、木葉痕を有する土器底部、土製円板、石錐(ドリル)などが出土している。

192号土坑(第1-46、2-17図、PL.46)

調査区・グリッド 2区 2135

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ:191cm 幅:95cm 深さ:39cm

主軸方位 N-74°-E

埋土 黒色土層

重複 191・193号土坑

所見 楕円形・皿状を呈する土坑である。晩期前半に相当する粗製深鉢形土器などが出土している。

193・194号土坑(第1-47、2-16・17、図、PL.46、262)

調査区・グリッド 2区 2135

平面形状 円形(193号土坑) 断面形状 皿状(193号土坑)

規模 長さ:155cm 幅:100cm 深さ:46cm

主軸方位 N-73°-E

埋土 黒色土層

重複 192・233号土坑

所見 円形・皿状を呈する土坑で、192号土坑に切られる。一部が重複する233号土坑は193号土坑と同一の土坑の可能性が有る。194号土坑は、掘り込みが浅く人為的な遺構ではなく、自然地形の痕跡と考えられる。193・194号土坑は本来1つの土坑で、193号土坑が人為的に構築された土坑と考えられる。

193号土坑からはまとまった遺物の出土があった。大

洞B式(安行3a式並行)の鉢形土器口縁部破片をはじめ鉢形土器、網代痕を有する底部、手燭形土器、土製円板、土製品、耳飾りなどが出土している。また、194号土坑出土として安行3a式の深鉢形土器上半部が回収されているが、本来は193号土坑に帰属する遺物の可能性が高いと考えられる。

このように193号土坑では、耳飾りや手燭形土器などの土製品がままとっていた。また、193号土坑周辺のグリッドでは耳飾りが多く分布していた。193号土坑の性格の評価には耳飾り等の土製品の出土や周辺の耳飾りの分布範囲も加味する必要がある。

195・197号土坑(第1-47図、PL.47)

調査区・グリッド 2区 2135・36

所見 いずれも掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく、自然地形の痕跡と考えられる。

196号土坑(第1-47図、PL.47)

調査区・グリッド 2区 2135

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:51cm 幅:50cm 深さ:7cm

主軸方位 N-6°-E

埋土 にぶい黄褐色土層

所見 掘り込みを持つ土坑ではなく、側面を立てた偏平な中型礫で構成された配石と考えられる。掘り込み自体は浅く、人為的ではなく自然地形と考えられる。

198号土坑(第1-47、2-17図、PL.47、263)

調査区・グリッド 2区 2136

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:77cm 幅:68cm 深さ:15cm

主軸方位 N-54°-E

埋土 にぶい黄褐色土層

重複 224号土坑

所見 円形・皿状を呈する土坑。偏平な中型礫がままとって出土した。

199・224号土坑(第1-47、2-18図、PL.47、263)

調査区・グリッド 2区 2135・36

平面形状 円形 断面形状 皿状

**規模** 長さ:142cm 幅:121cm 深さ:15cm

**主軸方位** N-75°-W

**埋土** 黒色土層

**重複** 224号土坑

**所見** 円形・皿状を呈する土坑。重複する224号土坑を切る。199号土坑からは高井東式土器の口縁部破片が出土している。

200号土坑(第1-47、2-18図、PL.48、263)

**調査区・グリッド** 2区 2J36

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:105cm 幅:62cm 深さ:22cm

**主軸方位** N-65°-W

**埋土** 黒色土層、にぶい黄褐色土層

**所見** 楕円形・皿状を呈する土坑。高井東式土器の口縁部破片、大洞B式土器の胴部破片などが出土している。

201~210号土坑(第1-47、48図、PL.48~50)

**調査区・グリッド** 2区 2J 35~36

**所見** いずれも円形・楕円形を呈するものの、小型で掘り込みが浅いため、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

211~215号土坑(第1-48、2-18図、PL.50・51、264)

**調査区・グリッド** 2区 2J35

**所見** いずれも円形・楕円形を呈するものの、小型で掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。212号土坑出土として、大洞B C~C 1式土器の胴部破片、粗製深鉢形土器胴部破片、土製円板などが回収されている。

216~220号土坑(第1-48、2-18・19図、PL.51、264)

**調査区・グリッド** 2区 2J 36・37

**埋土** 黒色土層

**重複** 216~220号土坑。246・252・253号土坑、3号落ち込み。

**所見** 狭い範囲に複数の土坑が重複していた。当初、3号落ち込みとして調査を開始し、途中から土坑群として調査した。切り合い関係は220号→216号→217号→218号→219号として調査した。しかし、いずれの土坑も掘り

込みが浅く深さも同じである。このため、216~220号土坑は切り合い関係を持った複数の土坑群ではなく、掘り込みの浅い一つの土坑の存在の可能性、あるいは人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡の可能性が考えられる。

218号土坑出土として高井東式土器の鉢形土器上半部のほか土器底部、土製円板、石鏝(ドリル)など、219号土坑出土として粗製深鉢形土器口縁部破片、土器底部、石鏝など、220号土坑出土として高井東式土器の口縁部破片、磨製石斧破片などが回収されている。

221号土坑(第1-49図、PL.52)

**調査区・グリッド** 2区 2J37

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:42cm 幅:37cm 深さ:21cm

**主軸方位** N-15°-E

**埋土** 黒褐色土層

**重複** 222号土坑

**所見** 円形・皿状を呈する小型の土坑。

222・223号土坑(第1-49図、PL.52)

**調査区・グリッド** 2区 2J37

**所見** いずれも人為的な遺構ではなく、自然地形の痕跡と考えられる。

224号土坑(第1-47、2-19図、PL.47、264)

**調査区・グリッド** 2区 2J 36

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:198cm 幅:122cm 深さ:15cm

**主軸方位** N-34°-W

**埋土** 黒色土層

**重複** 198・199号土坑

**所見** 楕円形・皿状を呈する土坑として調査されたが、人為的な掘り込みではなく自然地形の痕跡と考えられる。また、土坑上面には中型礫がまぎれまぎれとあり、224号土坑は配石であった可能性が考えられる。高井東式土器の口縁部破片、土製円板が出土している。

225~229号土坑(第1-49、2-19・20図、PL.52・53、264・265)

**調査区・グリッド** 2区 2J35・36

**埋土** 黒褐色土層

**所見** 複数の土坑が重複し、切り合い関係は225号→227号→226号→228号→229号として調査した。しかし、いずれの土坑も掘り込みが浅く、深さも同じである。このためこれらの土坑の範囲は切り合い関係を持った複数の土坑群ではなく、掘り込みの浅い一つの竪穴状の遺構が存在した可能性が考えられる。なお、この範囲から石囲いやのように住居の痕跡の示す遺構は確認できなかった。

225号土坑出土として、高井東式土器の口縁部破片、安行3 a～3 b式土器の胴部破片、226号土坑出土として、高井東式土器の口縁部破片や無文土器口縁部破片、227号土坑として、大洞C1式並行土器の口縁部破片や石鏃、228号土坑出土として、無文土器胴部破片や石鏃、229号土坑出土として、安行3 b式土器の胴部破片、天神原式土器の口縁部破片、大型の無文深鉢形土器上半部、軽石製品などが回収されている。このように、この範囲は遺物もまとまって出土しており、竪穴状の遺構が存在した可能性が高いといえる。

230～233号土坑(第1-47・49、2-20図、PL.54、265)

**調査区・グリッド** 2区 2K35・36

**所見** 230～232号土坑は円形・楕円形を呈するものの、小型で掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形と考えられる。233号土坑は詳細不明。

234号土坑(第1-49、2-20図、PL.54、265)

**調査区・グリッド** 2区 2J36

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：118cm 幅：115cm 深さ：5cm

**主軸方位** N-16°-W

**埋土** 黒色土層

**所見** 上面に大型礫・中型礫がまとまっていた。掘り込みは浅く、土坑の掘り込み自体は人為的な掘り込みではなく自然地形の痕跡と考えられる。このため、234号土坑は土坑ではなく配石であった可能性が考えられる。高井東式土器の口縁部破片や土製円板が出土している。

235号土坑(第1-49、2-21図、PL.54・55、265)

**調査区・グリッド** 2区 2J36

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：100cm 幅：95cm 深さ：10cm

**主軸方位** N-10°-E

**埋土** 黒色土層

**重複** 236号土坑

**所見** 円形・皿状の土坑で、掘り込みは浅い。236号土坑と重複し236号土坑を切る。口縁部破片、打製石斧などが出土している。

236号土坑(第1-49図、PL.55)

**調査区・グリッド** 2区 2J36

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：65cm 幅：52cm 深さ：10cm

**主軸方位** N-79°-W

**埋土** 黒色土層

**重複** 235号土坑

**所見** 円形・皿状の土坑で、掘り込みは浅い。235号土坑と重複し、235号土坑に切られる。

237・238・239号土坑(第1-50、2-21・22図、PL.55、266)

**調査区・グリッド** 2区 2J36

**埋土** 黒色土層

**所見** 互いに重複する土坑として調査した。いずれも掘り込みは浅く断面形状は皿状を呈していた。全体に遺物がまとまって分布することから、重複した複数の土坑ではなく、一つの遺構が存在した可能性が考えられる。

237号土坑出土として高井東式、大洞B～B C式並行、天神原式土器の口縁部破片、佐野I a式土器の底部破片、石鏃などが回収されている。

240・242・243号土坑(第1-50、2-21・22図、PL.56・57、266)

**調査区・グリッド** 2区 2J36

**埋土** 黒色土層

**所見** 複数の土坑が溝状に重複していた。切り合い関係は242号→240号(243号との関係は不明)として調査した。いずれも掘り込みが浅く深さも同じで、遺物も全体に分布する。このことから切り合い関係を持った複数土坑群ではなく、溝状の掘り込みの浅い遺構が存在し、その中に遺物分布が形成された可能性が考えられる。さらに中型礫のまとまった分布範囲があることから、配石が存在した可能性も考えられる。

240号土坑からは高井東式土器の口縁突起や打製石斧など、242号土坑からは高井東式土器や中ノ沢式、大洞B式土器の口縁部破片、土製円板などが出土している。

241号土坑(第1-50、2-23図、PL.57、267)

調査区・グリッド 2区 2J36

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ:33cm 幅:26cm 深さ:7cm

主軸方位 N-49°-W

所見 楕円形・皿状を呈する小型の土坑

244号土坑(第1-50、2-23図、PL.57、267)

調査区・グリッド 2区 2J36・37

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:96cm 幅:94cm 深さ:26cm

主軸方位 N-54°-W

重複 217・218・243号土坑、3号落ち込み

所見 円形・皿状を呈する掘り込みの浅い土坑。高井東式土器の大型波状口縁破片、大型の口縁・胴部破片、大洞B式並行の土器の大型口縁部破片などが出土している。

245号土坑(第1-50図、PL.57)

調査区・グリッド 2区 2H34

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ:59cm 幅:46cm 深さ:6cm

主軸方位 N-83°-E

所見 掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形と考えられる。

246号土坑(第1-50、2-22図、PL.58、266)

調査区・グリッド 2区 2J37

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ:66cm 幅:49cm 深さ:11cm

主軸方位 N-2°-E

重複 216・217号土坑、3号落ち込み

所見 掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

247・248号土坑(第1-50、2-22図、PL.58、266)

調査区・グリッド 2区 2J37・38

所見 掘り込みが浅く、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

249号土坑(第1-51、2-23図、PL.58、267)

調査区・グリッド 2区 2J37

平面形状 楕円形 断面形状 皿状

規模 長さ:91cm 幅:43cm 深さ:14cm

主軸方位 N-34°-W

埋土 黒色土層

重複 252号土坑、3号落ち込み

所見 上面に偏平な大型礫を伴う。掘り込みは浅く、配石の可能性が考えられる。

250号土坑(第1-51、2-23図、PL.58、267)

調査区・グリッド 2区 2J37

平面形状 楕円形 断面形状 不整形

規模 長さ:77cm 幅:51cm 深さ:12cm

主軸方位 N-10°-E

埋土 黒色土層

重複 3号落ち込み

所見 掘り込みは浅く底面は不整形。遺物は出土しているものの、人為的な遺構ではなく自然地形と考えられる。

251号土坑(第1-50、2-23図、PL.59、267)

調査区・グリッド 2区 2I・2J36

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:64cm 幅:57cm 深さ:14cm

主軸方位 N-54°-W

重複 219号土坑、3号落ち込み

所見 上面から中型礫・大型礫がまともって出土した。掘り込みは浅く、配石の可能性が考えられる。

252号土坑(第1-50、2-23図、PL.59、267)

調査区・グリッド 2区 2J37

平面形状 楕円形 断面形状 不明

規模 長さ:52cm 幅:42cm 深さ:15cm

主軸方位 N-20°-E

埋土 黒色土層

**重複** 216・249・253号土坑、3号落ち込み

**所見** 掘り込みの浅い土坑。重複が著しいため、平面形状・断面形状に不明な部分がある。

253号土坑(第1-50図、PL.59)

**調査区・グリッド** 2区 2J37

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:45cm 幅:41cm 深さ:14cm

**主軸方位** N-2°-E

**埋土** 黒色土層

**重複** 216・220・252号土坑、3号落ち込み

**所見** 掘り込みの浅い土坑。重複が著しいため、平面形状・断面形状に不明な部分がある。

254号土坑(第1-50図、PL.59)

**調査区・グリッド** 2区 2J37

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:29cm 幅:25cm 深さ:6cm

**主軸方位** N-3°-W

**重複** 220号土坑、3号落ち込み

**所見** 掘り込みの浅い土坑。重複が著しいため、平面形状・断面形状に不明な部分がある。

255号土坑(第1-51、2-24図、PL.60、267)

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:111cm 幅:108cm 深さ:50cm

**主軸方位** N-57°-E

**重複** 151・256号土坑、1号配石

**所見** 配石土坑。土坑下位では側面に偏平な大型礫・中型礫が配置され、上位では中型礫が土坑側面の周囲を囲むように楕円形に配置されている。人為的な礫の配置が良く残っている配石土坑である。高井東式土器、瘤付土器、大洞C1式土器などが出土している。

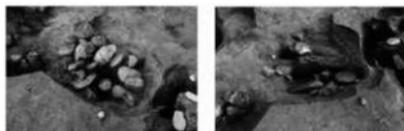
256号土坑(第1-51、2-24図、PL.60・61、267)

**調査区・グリッド** 1区 2P42

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:121cm 幅:97cm 深さ:38cm

**主軸方位** N-50°-E



255号土坑

**重複** 151・152・255・257号土坑、1号配石

**所見** 配石土坑。土坑底面に中型礫が少数配置される。人為的な配置の規格性は弱い。土坑側面の礫配置はないが、重複が著しいため切られている可能性もある。

257号土坑(第1-51図、PL.61)

**調査区・グリッド** 1区 2P42・43

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:147cm 幅:125cm 深さ:38cm

**主軸方位** N-74°-W

**重複** 152・153・256号土坑、1号配石

**所見** 配石土坑。重複が著しい。土坑底面に中型礫・大型礫が配置されるが、礫の規格的な配置は弱く、土坑側面への礫の配置はない。

258号土坑(第1-52、2-24図、PL.61、267)

**調査区・グリッド** 2区 2I34

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:94cm 幅:90cm 深さ:56cm

**主軸方位** N-49°-E

**埋土** 黒色土層

**重複** 262号土坑

**所見** 円形・円筒状を呈する土坑。北側に262号土坑が重複。土坑上には側面を立てて配置した中型礫と小型礫がまとまっている。高井東式土器の波状口縁突起のほか、底部破片、土製円板、耳飾りなどが出土している。

259号土坑(第1-52、2-24図、PL.61、267)

**調査区・グリッド** 2区 2I34

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:110cm 幅:100cm 深さ:40cm

**主軸方位** N-4°-E

**埋土** 黒色土層

**重複** 262号土坑

**所見** 円形・円筒状を呈する土坑。南側に262号土坑が重複し、さら262号土坑を挟んだ北側に259号土坑が位置する。高井東式土器、安行3 a～3 b式土器、大洞B C～C 1式土器、大洞C 1式並行土器などが出土している。

260号土坑(第1-52図、PL.61)

**調査区・グリッド** 2区 2137

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：99cm 幅：95cm 深さ：10cm

**主軸方位** N-84°-E

**埋土** 黒色土層

**重複** 267・268号土坑

**所見** 円形・皿状を呈する土坑。掘り込みは浅く、埋土や底面の状態から、人為的な遺構ではなく自然地形の痕跡と考えられる。

261号土坑(第2-25図、PL.62、267)

**所見** 配石土坑。詳細不明。写真から次のように復元した。偏平な大型礫が側面を立てた状態で土坑側面に配置されており、規格的な礫の配置が残っている。このことから配石土坑であったと考えられる。晩期前半相当と考えられる無文粗製深鉢形土器の大型破片が出土している。

262号土坑(第1-52、2-25図、PL.62、268)

**調査区・グリッド** 2区 2134

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ：64cm 幅：39cm 深さ：51cm

**埋土** 黒色土層

**重複** 258・259号土坑

**所見** 258号土坑、259号土坑により大部分が切られる。無文粗製深鉢形土器破片、底部破片などが出土している。

263号土坑(第1-52図、PL.62)

**調査区・グリッド** 2区 2138

**平面形状** 不整形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：84cm 幅：65cm 深さ：12cm

**主軸方位** N-69°-W

**埋土** 黒色土層

**所見** 偏平な大型礫・中型礫が側面を立てて配置されている。掘り込みは浅く、配石の可能性が考えられる。

264号土坑(第1-52図、PL.62)

**調査区・グリッド** 2区 2K38

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：105cm 幅：89cm 深さ：12cm

**主軸方位** N-28°-W

**埋土** にぶい黄褐色土層、黒色土層

**所見** 円形・皿状を呈する土坑。掘り込みは浅い。底面に偏平な中型礫が2点分布する。

265土坑(第1-52、2-25図、PL.62、268)

**調査区・グリッド** 2区 2J39

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ：118cm 幅：85cm 深さ：74cm

**主軸方位** N-30°-E

**埋土** 灰黄褐色砂質土層、にぶい黄褐色砂層

**重複** 92・98号土坑

**所見** 配石土坑。中型礫が土坑側面に配置されている。礫の密集度は高い。安行3 a～3 b式土器の深鉢形土器、晩期前半相当の無文粗製深鉢形土器の大型破片が出土している。

266号土坑(第1-52図、PL.63)

**調査区・グリッド** 2区 2H・2I 36・37

**平面形状** 円形 **断面形状** 掘鉢状

**規模** 長さ：137cm 幅：115cm 深さ：46cm

**主軸方位** N-61°-W

**埋土** 褐灰色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**所見** 円形・掘鉢状を呈する土坑。底面には地山礫層の小礫が露出している。

267号土坑(第1-52図、PL.63)

**調査区・グリッド** 2区 2137

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：103cm 幅：100cm 深さ：34cm

**主軸方位** N-85°-W

**埋土** 褐灰色砂質土層

**重複** 260号土坑

**所見** 円形・皿状を呈する土坑。

268号土坑(第1-53図、PL.63)

**調査区・グリッド** 2区 2I37

**平面形状** 円形 **断面形状** 搦鉢状

**規模** 長さ:103cm 幅:90cm 深さ:44cm

**主軸方位** N-28°-E

**埋土** 褐灰色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**重複** 260号土坑

**所見** 円形・搦鉢状を呈する土坑。

269号土坑(第1-53図、PL.63)

**調査区・グリッド** 2区 2I34

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 搦鉢状

**規模** 長さ:90cm 幅:74cm 深さ:64cm

**主軸方位** N-44°-W

**埋土** 褐灰色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**重複** 162号土坑

**所見** 円形・搦鉢状を呈する小型の土坑。土坑上面から球状の中型礫、底面から偏平な中型礫が出土。

270号土坑(第1-53、2-25図、PL.64、268)

**調査区・グリッド** 2区 2I39

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:58cm 幅:57cm 深さ:36cm

**主軸方位** N-53°-E

**埋土** 灰黄褐色砂質土層

**所見** 配石土坑。他の配石土坑に比べ小型の配石土坑。土坑上位では小型礫・中型礫・大型礫が密集して配置され、中位では偏平な大型礫が側面を立てて配置されている。高井東式土器や無文粗製深鉢形土器の大型破片が出土している。

271号土坑(第1-53、2-26図、PL.64、268)

**調査区・グリッド** 2区 2K・2L-39

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 搦鉢状

**規模** 長さ:108cm 幅:73cm 深さ:17cm

**主軸方位** N-60°-E

**埋土** 灰黄褐色砂質土層、褐灰色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**所見** 土坑下位に偏平な大型礫が重なって分布。

272号土坑(第1-53、2-26図、PL.64・65、268)

**調査区・グリッド** 2区 2K39

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:140cm 幅:83cm 深さ:23cm

**主軸方位** N-44°-W

**埋土** 黄褐色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**重複** 273号土坑

**所見** 亜角礫状の大型礫を中心に中型礫が密集して分布していた。礫の下位から土器や石鏃、磨製石斧破片が出土。掘り込みは浅く、礫の出土状態から集石といえる。273号土坑を切る。

273号土坑(第1-53、2-26図、PL.64・65、268)

**調査区・グリッド** 2区 2K39

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:110cm 幅:77cm 深さ:23cm

**主軸方位** N-45°-W

**埋土** 黄褐色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**重複** 272号土坑

**所見** 楕円形・皿状を呈する土坑。272号土坑に切られる。

274号土坑(第1-53図、PL.66)

**調査区・グリッド** 2区 2I39

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ:89cm 幅:69cm 深さ:50cm

**主軸方位** N-11°-E

**埋土** 灰黄褐色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層

**重複** 1号竪穴、10号配石

**所見** 配石土坑。土坑上位では偏平な中型礫が分布し、中位では側面に中型礫を配置した痕跡が残っていた。底面に大型礫・中型礫が配置される。小型礫は地山礫層が表出したもので、礫層の上面まで掘削されたことを示す。

275号土坑(第1-53、2-26図、PL.66、268)

**調査区・グリッド** 3区 2O39

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:155cm 幅:64cm 深さ:15cm

**主軸方位** N-40°-E

**埋土** 黒褐色砂質土層

**所見** 円形・皿状を呈する土坑。安行3 a～3 b式土器の胴部破片、土製円板、磨製石斧のような刃部を有する独站状石器などが出土している。

276号土坑(第1-54、2-26図、PL.66、268)

**調査区・グリッド** 3区 2040

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：127cm 幅：75cm 深さ：22cm

**主軸方位** N-35°-E

**埋土** 黒褐色砂質土層(1)、灰黄褐色砂層(2)、にぶい黄褐色砂層(3)。1と2の間に鉄分凝固層が薄く堆積。

**重複** 279号土坑、2号列石

**所見** 円形・皿状を呈する土坑。大洞B式土器の口縁部破片や石鏃などが出土している。

277号土坑(第1-54、2-27図、PL.67、269)

**調査区・グリッド** 3区 2L40

**平面形状** 円形 **断面形状** 円筒状

**規模** 長さ：149cm 幅：89cm 深さ：74cm

**主軸方位** N-64°-E

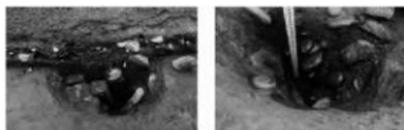
**埋土** 黒褐色土層(7層)、褐灰色土層(8層)、黒褐色土層(9層)。7層は炭化物や焼骨片を含み、下部に灰層がブロック状に堆積していた。この灰層は水場遺構1号灰層ブロックの灰層とよく似ていた。土坑の上位には、上層からAs-Kk、As-Bの一次堆積層、黒色土、砂礫層、黒褐色土層(遺物包含層)が堆積。土坑を掘り込んだ時の生活面は遺物包含層の下位と考えられる。

**重複** 33号配石

**所見** 配石土坑。3区北側の調査区境界から検出された。33号配石(配石土坑)が重複する。

土坑下位では中央部に小型礫が密集しており、人為的に埋め戻されたものである。土坑中位から下位では土坑側面に人為的に中型礫を配置した痕跡が認められた。

また、水場遺構1号灰層ブロックの灰に類似した灰層がブロック状に検出された。水場遺構1号灰層ブロックは灰を伴う作業(アク抜き)の痕跡の可能性があり、水場遺構と同一時期の遺構と考えられる。このことから、277号土坑と水場遺構、水場遺構1号灰層ブロックは同じ時期に形成された可能性が高いと考えられる。安行



277号土坑

3 a式、中ノ沢式並行、天神原式、佐野Ⅱ式土器の口縁部破片、土製品、石鏃などが出土している。

以上のように、277号土坑は、水場遺構と同じ時期に配石土坑として掘削されて使用された遺構と考えられる。277号土坑の機能終了後に配石土坑の礫配置の痕跡がまだ残っている状態の土坑の中に礫や土、遺物によって埋め戻され、その時に灰も一緒に混入したと考えられる。

278号土坑(第1-54図、PL.67・68)

**調査区・グリッド** 3区 2L40

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：64cm 幅：48cm 深さ：18cm

**主軸方位** N-21°-E

**埋土** 黒褐色土層

**重複** 123号土坑

**所見** 上面に扁平な中型礫が配置される。配石の下位に浅く皿状に掘り込まれた土坑である。

279号土坑(第1-54、2-26図、PL.68、268)

**調査区・グリッド** 3区 2039・40

**平面形状** 円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ：152cm 幅：87cm 深さ：32cm

**主軸方位** N-44°-E

**埋土** 灰黄褐色砂質土層(灰白色の灰を5%含む)、にぶい黄褐色砂層。

**重複** 276号土坑、2号列石

**所見** 円形・皿状の土坑。2号列石と重複し、切り合い関係は判別できなかった。埋土に灰を含むことから水場遺構1号灰層ブロックの一部を切っている可能性が考えられる。

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

280・281号土坑(第1-54・56、2-26・28図、PL.68・69、268・269)

調査区・グリッド 3区 2N39・40

平面形状 円形 断面形状 皿状

規模 長さ:175cm 幅:160cm 深さ:23cm(280号)

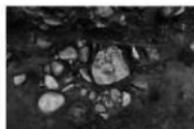
主軸方位 N-29°-E(280号)

埋土 280号:灰黄褐色砂質土層(灰白色の灰を5%含む)、にぶい黄褐色砂層。281号:灰黄褐色砂質土層(灰白色の灰を5%含む)

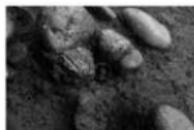
所見 円形・皿状の土坑。灰を含むことから水場遺構1号灰層ブロックの一部を切っている可能性が考えられる。280号土坑から安行3 a~3 b式土器の口縁部破片、安行3 a式の可能性がある浅鉢形土器の大型口縁部破片、天神原式土器の大型口縁・胴部破片、晩期前半相当の無文深鉢形土器の大型口縁部破片、耳飾り、石鏃、石錐(ドリル)、軽石製品、石製玉類などが各種の遺物が出土している。



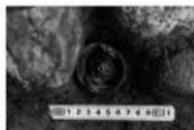
奥が280号土坑、手前は7号埋裏



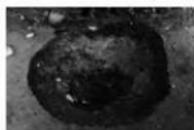
検出時の状況



280号土坑の耳飾り



土坑中位



完掘

282号土坑

282号土坑(第1-55・56、2-29図、PL.69・70、270)

調査区・グリッド 3区 2M40

平面形状 円形 断面形状 掘鉢状

規模 長さ:162cm 幅:127cm 深さ:65cm

主軸方位 N-50°-W

埋土 覆土には褐灰色土層、暗青灰色シルト質土層、褐灰色土層。土坑上位にはAs-Kk一次堆積層、26号集石の礫層(As-Kk一次堆積層直下の古代の遺構)、黒色土層(古代の畑の耕作土)、黒褐色土層(遺物包含層)が堆積。282号土坑上位と26号集石との間には黒色土層を挟むため、26号集石の構成礫とは分離できる。また、土坑を掘り込んだ時の生活面は遺物包含層の下位である。

重複 7号埋裏、292号土坑と重複。282号土坑の東側に7号埋裏があり、7号埋裏に切られる。7号埋裏口縁部破片の標高は282号土坑上面の垂角礫状大型礫の下面よりもやや高い。また、282号土坑は下位に重複する292号土坑を切る。新旧関係は、292号土坑→282号土坑→7号埋裏となる。

所見 配石土坑。3区北側の調査区境界から検出された。円形・掘鉢状を呈するが、断面形状は底面が小さく漏斗状に近い形状である。7号埋裏と重複し7号埋裏に切られる。掘削深度は青灰色シルト層で下位段丘面の段丘礫

層までは到達していない。

土坑上面(検出面)では、垂角礫状の大型礫を中心に中型礫・小型礫、土器が密集して分布し、集石と同じ出土状況であった。土坑上面の密集した礫は、人為的に埋め戻されたものと考えられるが、礫の配置の規格性は弱く、無作為に埋め戻されたものと考えられる。密集した礫の隙間から完形の耳飾りが出土している。

土坑中位では、扁平な大型礫・中型礫が側面を立てて配置され、中央部が礫のない空洞部となっている。規格的な配置の痕跡がよく残っている。中位から磨製石斧が出土している。

土坑下位では、土坑側面に小型礫・中型礫を配置した痕跡が一部残っている。

佐野1 a式土器の可能性ある晩期前半相当の深鉢形土器の大型口縁・胴部破片をはじめ、天神原式土器の口縁部破片、大洞B C~C 1土器、大洞C 1土器、軽石製品、磨製石斧、石鏃、耳飾りなど多種多様な遺物が出土している。特に土坑上位の礫の隙間から出土した完形の耳飾り、中位出土の磨製石斧が特筆される。

282号土坑は配石土坑として掘削し使用され、土坑の機能終了後に人為的な礫の配置がまだ残っている状態の

土坑を埋め戻したものと考えられる。埋め戻しの際には、礫のほか磨製石斧や耳飾り、土器も一緒に廃棄されたと考えられる。上面の礫の密集状態は埋め戻した最終的な様子をよく示したものと見える。

283号土坑(第1-55、2-30図、PL.70、270)

調査区・グリッド 3区 2M40

所見 3区北側の調査区境界で検出。282号土坑の東側に位置する。遺物分布範囲を土坑に認定して調査したが、掘り込みは確認できなかった。高井東式土器の大型口縁部破片、底部などが出土している。

284号土坑(第1-55、2-26図、PL.70・71、268)

調査区・グリッド 3区 2L39

平面形状 円形 断面形状 楕円状

規模 長さ:77cm 幅:67cm 深さ:37cm

主軸方位 N-36°-W

埋土 灰黄褐色土層

重複 15号配石

所見 円形・楕円状を呈する土坑。中央部から偏平な中型礫が側面を立てた状態で出土した。

285号土坑(第1-55、2-27図、PL.71、269)

調査区・グリッド 3区 2M40

平面形状 円形 断面形状 楕円状

規模 長さ:98cm 幅:93cm 深さ:29cm

主軸方位 N-54°-E

埋土 灰黄褐色土層(焼骨片を含む)、灰黄褐色土層(炭化物を含む)、にふい黄褐色土

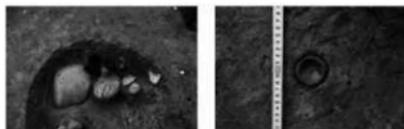
所見 円形・楕円状の土坑。土坑底面に偏平な大型礫・中型礫がやや斜めではあるが平坦面を上(平置き)にして配置されていた。ただし、配石土坑に見られる偏平礫の側面を規格的に立てる配置とは異なっていたため、配石土坑には認定していない。高井東式土器の口縁部破片、耳飾り、石鏃、石錐(ドリル)などが出土している。

286号土坑(第1-55、2-30図、PL.71・72、271)

調査区・グリッド 3区 2L・2M40

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:66cm 幅:63cm 深さ:46cm



285号土坑

主軸方位 N-45°-W

埋土 灰黄褐色土層

重複 15号配石

所見 円形・円筒状を呈する土坑。土坑上位から土器がまとまって出土し、中位から偏平な大型礫が出土した。天神原式土器の大型口縁部破片、打製石斧、石鏃などが出土している。

287号土坑(第1-55、2-27図、PL.72、269)

調査区・グリッド 3区 2M40

平面形状 楕円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:64cm 幅:54cm 深さ:40cm

主軸方位 N-48°-W

埋土 褐灰色土層、褐灰色土層(シルト質)

所見 円形・円筒状の土坑。底面に小型礫・中型礫が分布。大洞BC-C1式土器が出土している。

288号土坑(第1-55、2-30図、PL.72、271)

調査区・グリッド 3区 2L40

平面形状 楕円形 断面形状 楕円状

規模 長さ:67cm 幅:55cm 深さ:42cm

主軸方位 N-54°-W

埋土 灰黄褐色土層、褐灰色土層

所見 円形・円筒状の土坑。土坑の中位から偏平な大型礫1点が側面を立てた状態で出土した。

289号土坑(第1-55、2-31図、PL.72・73・77、271)

調査区・グリッド 1区 2N41

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:118cm 幅:107cm 深さ:89cm

主軸方位 N-43°-W

埋土 灰黄褐色土層、褐灰色土層

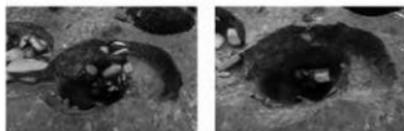
重複 22・30号配石

**所見** 配石土坑。円形・円筒状を呈する。土坑上面では礫は散漫な分布であった。土坑側面(南側半周部分)には小型礫・中型礫が配置されており、規格的な配置の痕跡が残っていた。土坑底面では中型礫が数点配置されていたものの全面ではなかった。掘削深度は暗青灰色シルト層で、下位段丘面の段丘礫層までは到達していない。天神原式並行土器と考えられる大型口縁部破片、天神原式土器の口縁部破片などが出土している。

289号土坑は22号配石の下位から検出されたことから22号配石よりも古い遺構と考えられる。



289号土坑



290号土坑

290号土坑(第1-57、2-30図、PL.73・74・77、271)

調査区・グリッド 1区 2N41

平面形状 不整形 断面形状 不整形

規模 長さ:162cm 幅:125cm 深さ:88cm

主軸方位 N-61°-W

埋土 灰黄褐色土層、褐灰色土層、灰黄褐色土層、オリブ灰色土層

重複 291号土坑、22号配石

**所見** 配石土坑。円形・円筒状を呈する。土坑上面では中型礫が集中していた。土坑側面には小型礫・中型礫が配置された痕跡がわずかに残っていた。土坑中位から上位に積み重なった小型礫・中型礫の出土状況は規格的に配置されたものではなく、土坑内に礫を無作為に埋め戻した状態を示していると考えられる。土坑底面には礫の配置は確認できなかった。掘削深度は青灰色砂層で、下位段丘面の段丘礫層までは到達していない。

高井東式土器、大洞BC式土器のほか、天神原式土器と考えられる粗製深鉢形土器の大型口縁部破片が出土している。290号土坑は22号配石の下位から検出されたことから、22号配石よりも古い遺構と考えられる。

291号土坑(第1-57、2-31図、PL.73・74・77、271)

調査区・グリッド 1区 2N・2041

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:203cm 幅:152cm 深さ:71cm

主軸方位 N-36°-W

埋土 灰黄褐色土層

重複 290・294号土坑、22・29号配石。291・294号土坑は22号・29号配石の下位から検出され、22号・29号配石

よりも古い遺構といえる。

291号土坑と290・294号土坑との切り合いの前後関係については、前後関係を示す証拠が検出できなかったため判断できないが、近接した時間幅のなかで次々と構築されたことは確実といえる。

土坑上位の配石検出段階での礫の出土状況は294号土坑と一体化しており、2つの土坑は区別ができなかった。この出土状況は2基の土坑が同時に埋め戻されたことを示していると考えられる。

**所見** 配石土坑。円形・円筒状を呈する。掘削深度は暗青灰色シルト層で下位段丘面の段丘礫層までは到達していない。高井東式土器、天神原式土器の口縁部破片が出土している。

291号土坑は294号土坑と重複し、検出時は1基の土坑(291号土坑)であった。291号土坑上位の礫を撤去後に2基の土坑が重複していることが判明したため、新たに294号土坑を追加して調査した。

以下、①上位の配石検出段階、②上位の配石撤去段階、③291号・294号土坑調査段階に区分して報告する。

#### ① 上位の配石検出段階

検出時は楕円形を呈する1基の土坑で、埋土を除去すると扁平な中型礫・大型礫で構成された配石が検出された。礫は平坦面を上にならべさせたものを主体にした積み重ね状態であり、一部側面を立てた礫も確認された。規格的に配置した様子がよく残った状態といえる。

この段階では、291号土坑と294号土坑の礫は一体化しており分離はできなかった。この一体化した礫の配置状

態は、291号と294号が同時に埋め戻されたことを裏付ける証拠といえる。

### ② 上位の配石撤去段階

291号土坑と294号土坑の上位の配石を撤去すると、その下からさらに二つの中型礫・大型礫のまとまりと土坑の平面プランが検出された。西側を291号土坑、東側を294号土坑として調査した。

### ③ 291・294号土坑調査段階

291号土坑の上位では、平置きと側面を立てた偏平な中型礫・小型礫が検出された。礫は無作為に埋め戻したのではなく、規格的に配置された状態といえる。

291号土坑の下位では土坑側面に立てて配置した偏平な大型礫が1点検出された。294号土坑のように土坑側面に多数の中型礫・大型礫を配置した痕跡は291号土坑では確認できなかった。

292号土坑(第1-58・59、2-32・33図、PL.75・76、272)

調査区・グリッド 3区 2M・2N40

平面形状 正方形(北側は調査区外のため詳細は不明であるが、南側の形状から見て正方形と推定される)

断面形状 皿状

規模 長さ:428cm 幅:245cm(北側は調査区外) 深さ:54cm

主軸方位 N-62°-W

埋土 暗褐色土層、にぶい黄褐色土層、青灰色砂質シルト層

重複 282号土坑、7・8号埋喪、22・32号配石、30号集石。292号土坑をめぐる新旧関係は、292号土坑→282号土坑→7・8号埋喪・22号配石・32号集石である。32号配石との新旧関係は判断できなかった。

所見 底面が平坦で正方形を呈する竪穴状の遺構である。3区北側の調査区境界に位置し、北側半分は調査区外である。竪穴建物の平面形状を呈するが、炬や焼土、柱穴など住居としての痕跡は確認できなかった。土坑に登録して調査したが、遺構の性格は竪穴といえる。

加曾利B2～B3式土器の口縁部破片、高井東式土器、天神原式土器の口縁部破片のほか、安行2式～3a式土器の大型口縁部破片、大洞BC～C1式土器の大型口縁部破片、晩期前半相当の無文粗製深鉢形土器の大型口縁部破片、網代痕を有する底部破片、注口土器の注



292号土坑

口部破片、土製円板、石核、大型の石鎌などが出土しており、出土遺物の構成は多種多様である。

南壁沿いには偏平な中型礫・大型礫が東西方向に連なった配石を呈して検出された。土坑内に構築された配石である。配石礫は平坦面を上に平置きにして、規格的に配置されており、積み重なった状態も確認された。

また、西壁付近からは大型の土器破片が潰れた状態で出土し、その周囲には中型礫も分布していた。配石と土器の高さはほぼ同じであり、配石と土器・中型礫の分布は層位的には同一時期に形成されたと考えられる。ただし、これらの遺物は土坑底面直上ではなく、やや高い位置に分布しており、土坑底面に埋土が堆積している過程で廃棄されたと考えられる。

292号土坑は複数の遺構と重複し、新旧関係は292号土坑→282号土坑→7・8号埋喪・22号配石・32号集石である。これらの遺構のなかで最も古いといえる。

このように、292号土坑は正方形を呈する竪穴と考えられる。検出された遺構の中で、正方形の竪穴は292号土坑以外には1号竪穴だけである。なお、1号竪穴は突出部付き3重石囲い<sup>1)</sup>を伴う住居で、耳飾りが多数出土した特殊な遺構である。

また、292号土坑は、炬が検出されなかったため(調査区外に存在する可能性も残る)、住居としては評価していない。しかし、検出状況や出土遺物の多様な構成、遺物出土状況からみて特殊な遺構であったと考えられる。

293号土坑(第1-58、2-31図、PL.76、271)

調査区・グリッド 1区 2040・41

平面形状 楕円形 断面形状 円筒状

規模 長さ:156cm 幅:100cm 深さ:85cm

主軸方位 N-70°-W

重複 22号配石。293号土坑は22号配石の下位から検出され、22号配石よりも古いといえる。

**所見** 配石土坑。楕円形・円筒状を呈する。土坑側面に中型礫を配置した痕跡が一部残っていた。掘削深度は暗青灰色シルト層で下位段丘面の段丘礫層までは到達していない。

高井東式土器や中ノ沢式土器の口縁部破片のほか曾谷式・安行1式の可能性がある口縁部破片、石鏃、耳飾りが出土している。特に耳飾りは土坑下位の側面から出土しており、土坑に共存することは確実である。したがって、土器型式との共存関係から耳飾りの時期を検討する際の有効な資料になると評価できる。

294号土坑(第1-58、2-31図、PL.76・77、271)

調査区・グリッド 1区 2N・2041

平面形状 円形 断面形状 円筒状

規模 長さ：123cm 幅：110cm 深さ：117cm

主軸方位 N-69°-E

**埋土** 暗褐色土層、にぶい黄褐色土層、にぶい褐色土層、黒褐色土層、褐灰色砂質土層、灰色砂質土層。土坑中央部は礫のない空洞部で、そこに褐灰色砂質土層が堆積。

**重複** 291号土坑、22・29号配石。詳細は、291号土坑を参照。

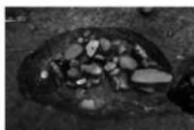
**所見** 配石土坑。円形・円筒状を呈する。土坑側面に規格的に礫を配置した様子がよく残っている。掘削深度は段丘礫層の上面で、土坑底面に露出した小礫は段丘礫層の地山の礫である。

294号土坑は291号土坑と重複。検出時は1基の土坑(291号土坑)として調査。上位の礫を撤去後に2基の土坑が重複していることが判明し、新たに294号土坑を追加して調査した。

291号土坑で報告したように、①上位の配石検出段階、②上位の配石撤去段階、③291・294号土坑調査段階に区分して調査した。①・②については291号土坑を参照。ここでは③について報告する。

③ 291・294号土坑調査段階

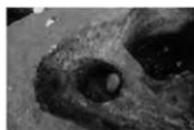
294号土坑の下位から上位まで、空洞部を取り囲むように土坑側面全周に中型礫・大型礫が配置されていた。礫は比較的大きめの中型礫を主体に、30cmを超える大型礫も含まれていた。土坑底面には礫の配置はなかった。底面に露出した小型礫は地山の低位段丘面の段丘礫層の礫である。



①上位の配石検出段階(1基の土坑で調査開始。左：礫上位に暗褐色土層が堆積。右：配石の様子)

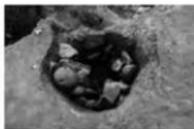


②上位の配石撤去段階(2基の土坑の重複。左：南から、右：北から)、西側の礫集中部が291号、東側の礫集中部が294号)



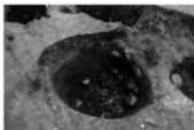
③291・294号土坑調査段階(左：南東から、右：南から291号、右294号)

291・294号土坑



土層と礫の堆積

土坑側面の礫検出状態



撤去した土坑内の礫

完掘  
(土坑側面の礫一部残存)

294号土坑

## 24号配石(第1-84、2-56図、PL.96、286)

24号配石は配石土坑に認定したため、本節で記載した。遺構名は発掘時点のものを踏襲した。

調査区・グリッド 1区 2041

平面形状 楕円形 断面形状 搦鉢状。土坑側面に礫が配置された全体的な断面形状は、上面が広がり底面が小さくなる漏斗状に近い。

規模 長さ:168cm 幅:128cm 深さ:90cm

主軸方位 N-85°-E

重複 上位に22号配石が重複し、その下位から検出された。したがって22号配石よりも層位的には古い。

礫の配置 搦鉢状の深い掘り込み(土坑)の中に礫が配置された配石土坑である。礫は、下位、中位、上位というように下から上まで土坑全体に配置されていた。

埋篋 検出されなかった。

所見 配石土坑。配石として遺構登録して調査を開始し、調査途中で配石土坑であることが判明した。遺構名は変更せず、調査を進めた。

掘削深度は暗青灰色シルト層で、下位段丘面の段丘礫層までは到達していない。天神原式土器の口縁部破片が出土している。

上面では、中型礫が密集していた。偏平な中型礫が、中央の小さな空洞部を取り囲むように礫側面を立てて配置され、さらにその上に偏平中型礫が平置きされていた。規格的な配置がよく残っていた。

中位では、中型礫が中央の空洞部を取り囲むように土坑側面全周に配置されていた。

下位では、偏平中型礫、亜角礫状中型礫が側面を立てて土坑側面の半周に配置されていた。底面には根石のような礫の配置はなかった。

土坑内の礫の残存状況は良好で、土坑の下位から上面まで規格的な配置の様子がよくわかる配石土坑である。規格的な礫の配置が破壊されて埋め戻されたのではなく、配石土坑の機能が終了した当時の状態を保持したまま人為的に埋めもどされたことを示していると考えられる。

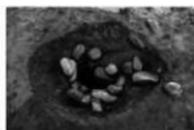
## 33号配石(第1-85、2-71図、PL.100、296)

調査区・グリッド 2区 2L40

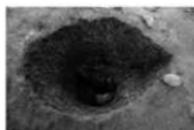
平面形状 円形 断面形状 搦鉢状



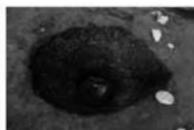
検出時の状態



上位の礫配置

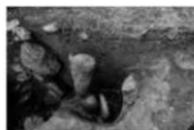


下位の礫配置



完掘状態

24号配石(配石土坑)



33号配石(配石土坑)



規模 長さ:73cm 幅:52cm 深さ:62cm

主軸方位 N-45°-E

埋土 灰黄褐色砂礫層(1層)、褐灰色土層(2層)、灰黄褐色土層(3層)。1層の上位に部分的にAs-kk、As-Bが確認された。

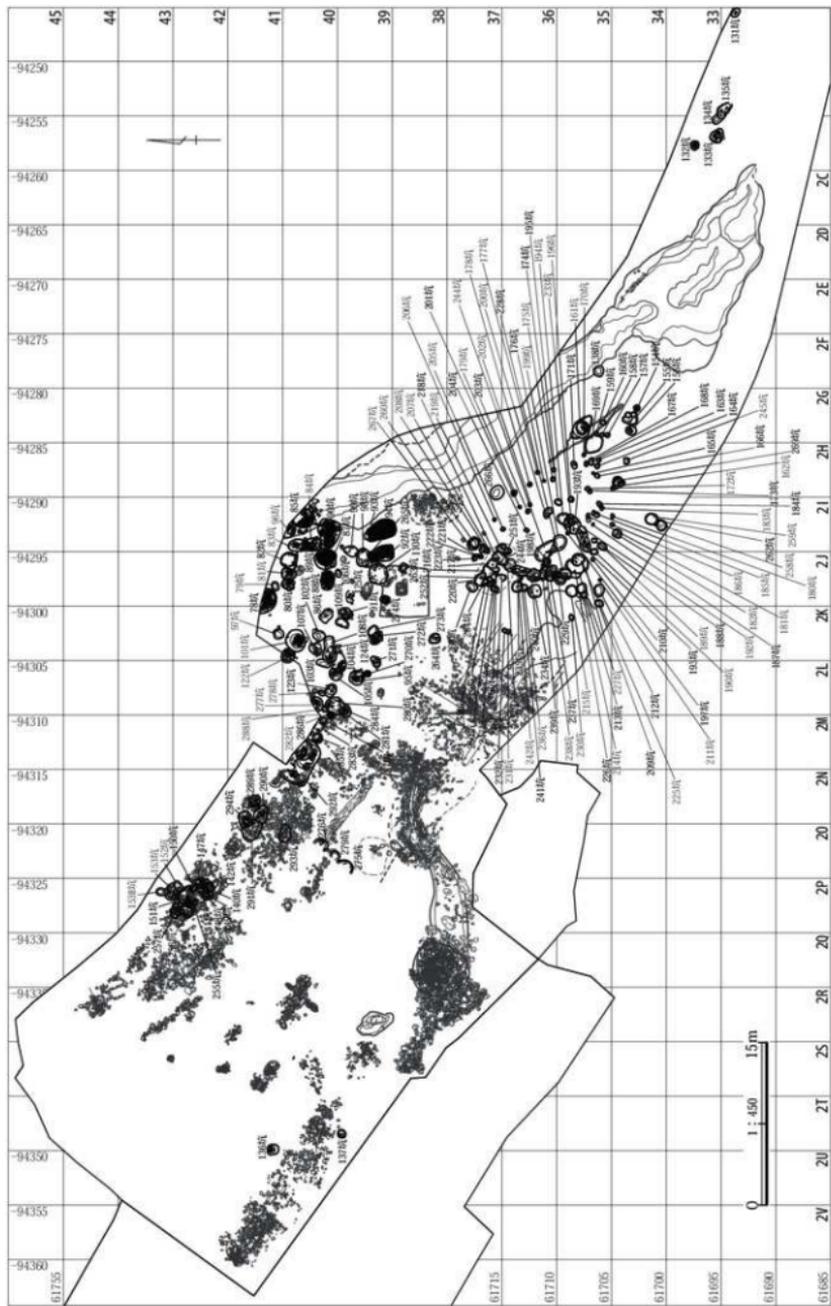
重複 277号土坑

礫の配置 土坑の中に大型礫・中型礫を配置。偏平な中型礫の側面を上を立てて配置し、その上に棒状の大型礫を立てて配置している。底面には礫はなかった。

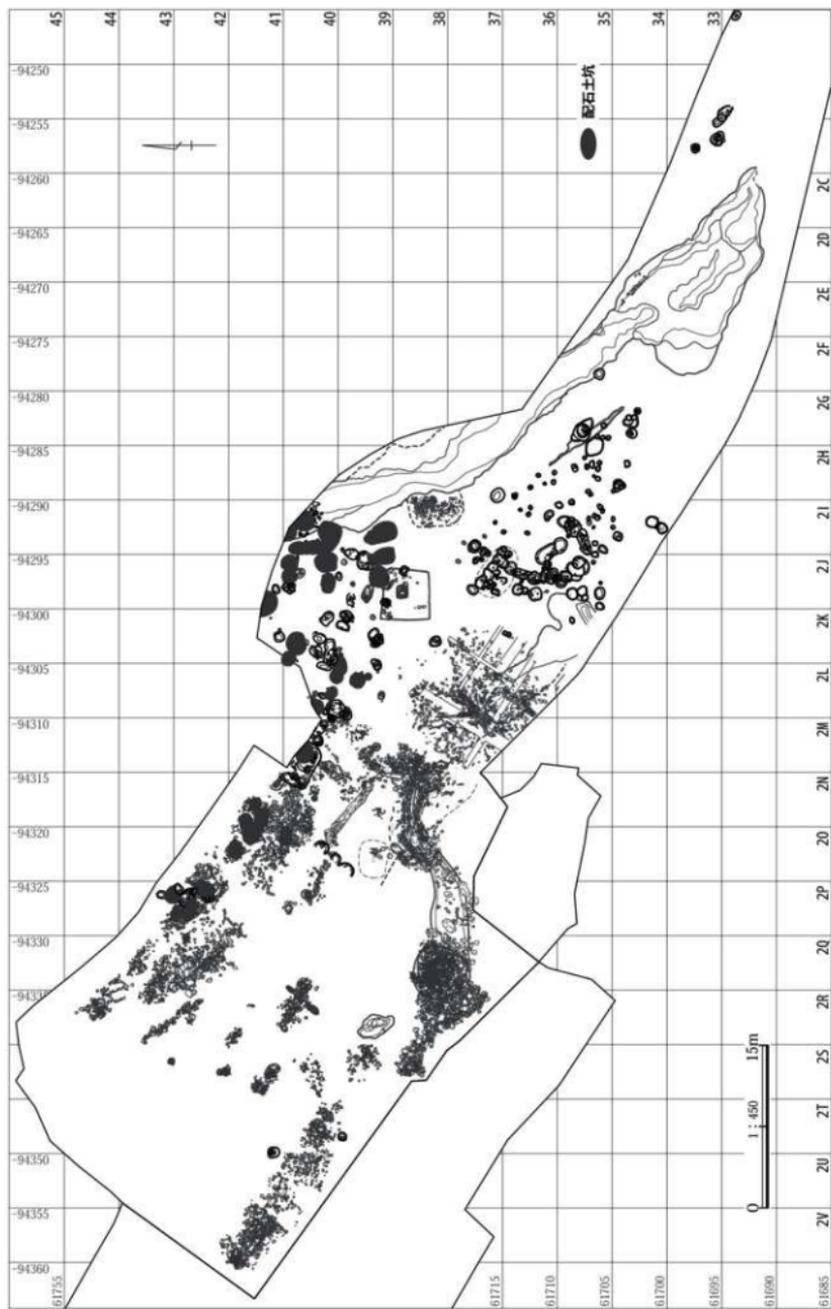
埋篋 検出されなかった。

所見 配石土坑。搦鉢状の土坑の中に構築された配石。礫の状況から見て、土坑の中に礫を無作為に廃棄したというよりも、規格的に大型礫や中型礫を立てて配置していると考えられる。礫を立てた内側は空洞部となっている。

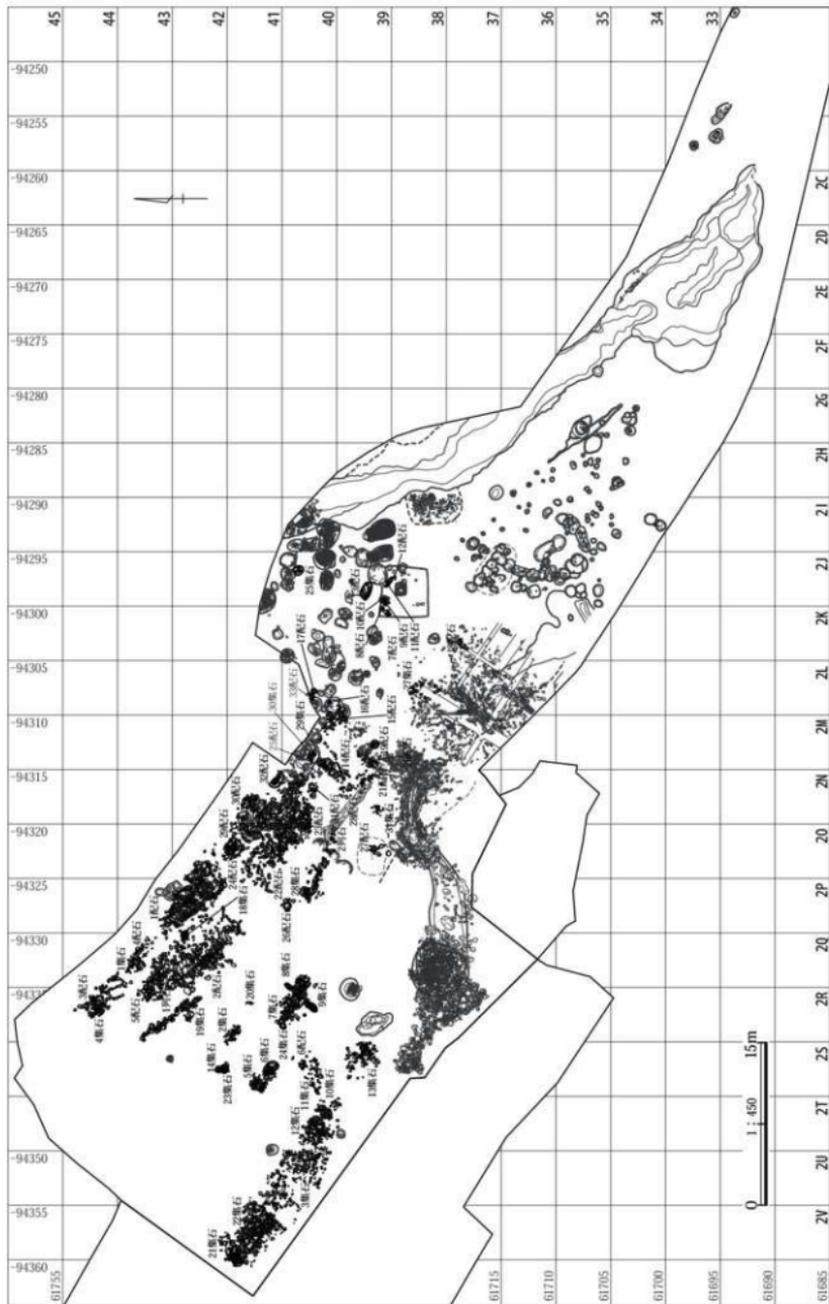
33号配石はほかの配石土坑と比べ配置した礫の数が少ないが、大型礫と中型礫の側面を立てて配置している点は共通している。配石土坑と同じ機能を持った遺構と考えられる。



第28图 土坑全体图

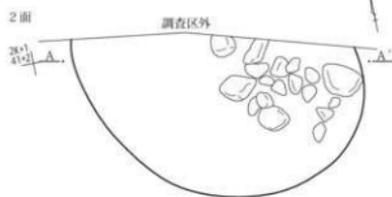


第29圖 配石土坑全体圖



第30圖 土坑、配石、礫石全体図

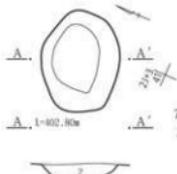
78号土坑



78号土坑

- 1 黒褐色土10YR6/3 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' にぶい黄褐色土10Y 砂(地山)。

79号土坑

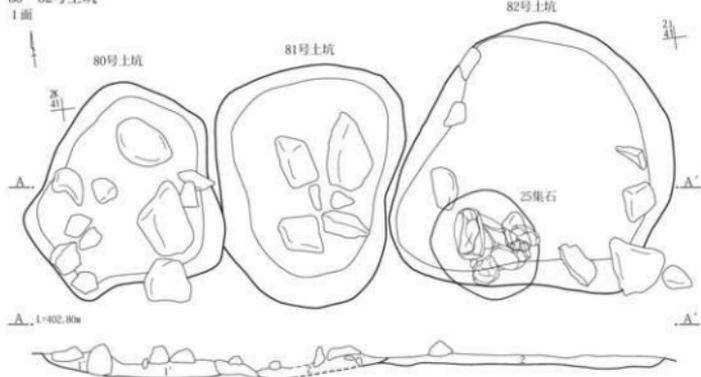


79号土坑

- 2 にぶい黄褐色土10YR 6/4 砂。  
黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。



80~82号土坑



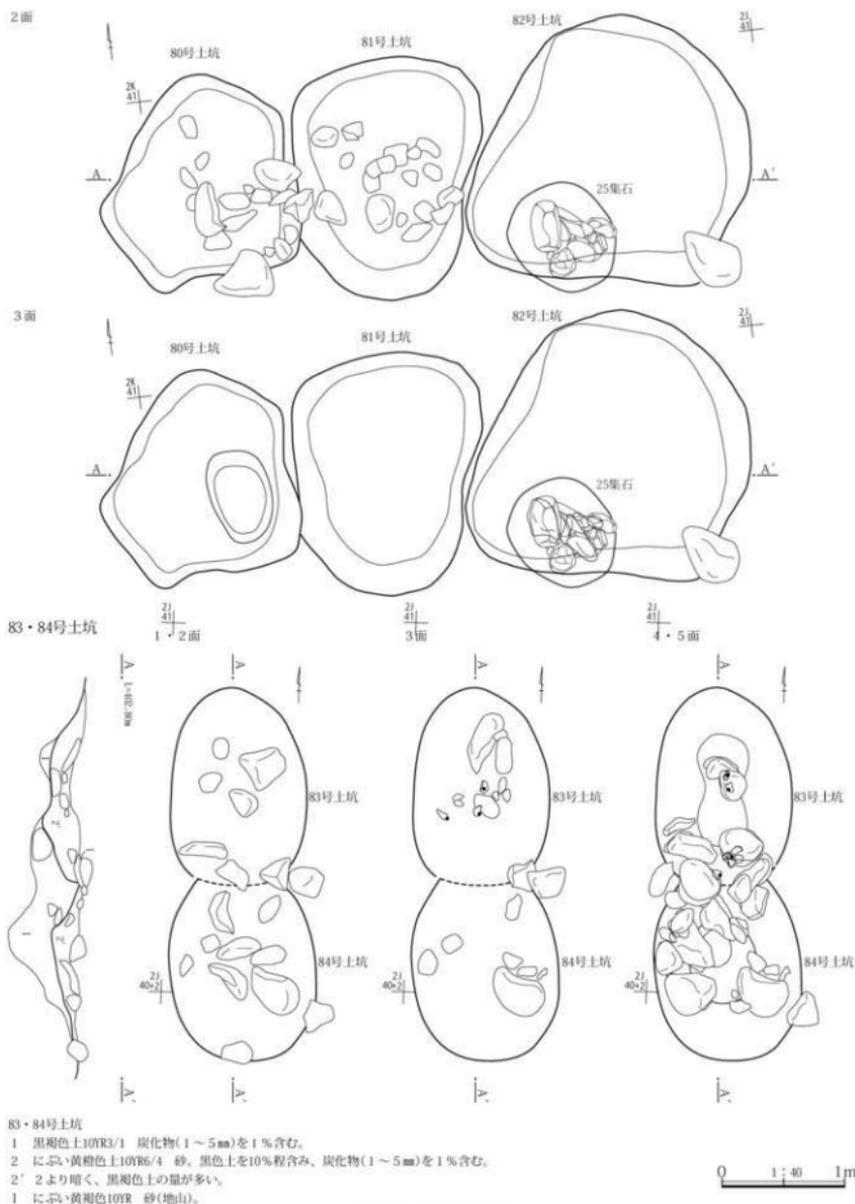
80・81・82号土坑

- 1 黒褐色土10YR6/3 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。

0 1:40 1m

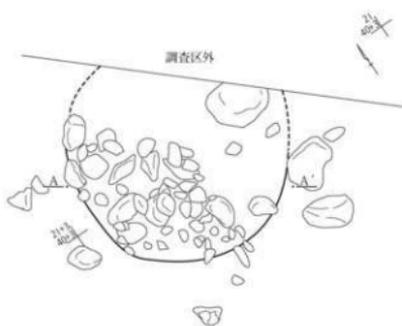
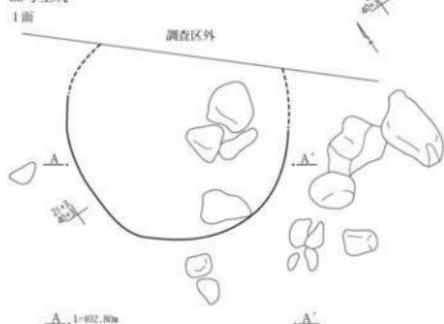
第31図 78~82号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第32図 80~84号土坑

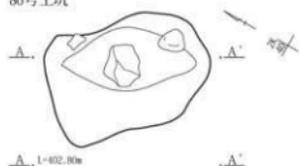
85号土坑



85号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい

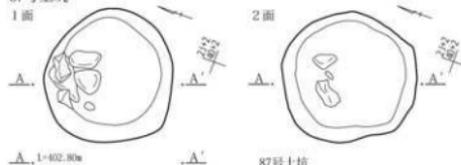
86号土坑



86号土坑

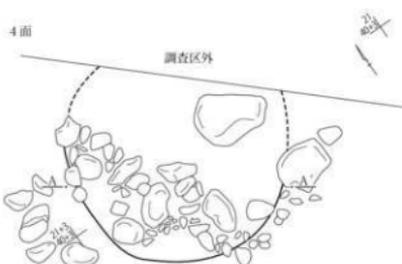
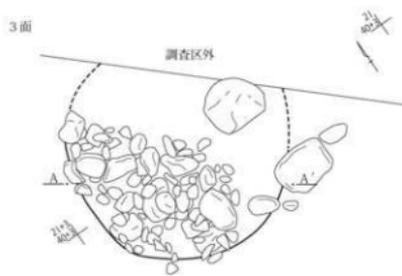
2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含む、炭化物(1~5mm)を1%含む。  
2' 2より暗く、黒褐色土の量が多い。  
1 にぶい黄褐色土10YR 砂(地山)。

87号土坑



87号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい  
2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含む、炭化物(1~5mm)を1%含む。



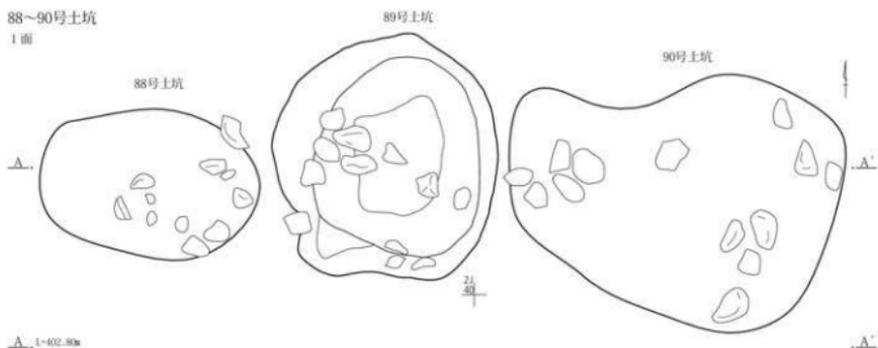
0 1:40 1m

第33図 85~87号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物

88~90号土坑

1面

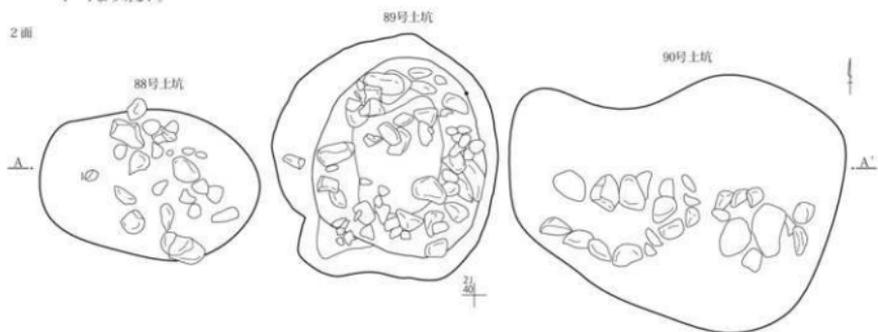


88・89・90号土坑

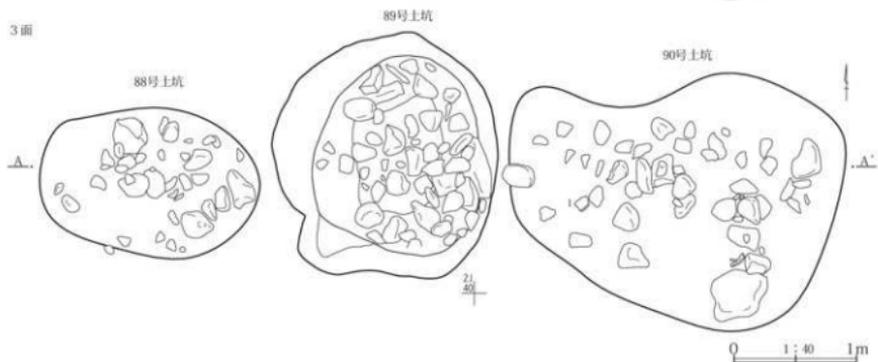
1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。

1' 1より明るい。

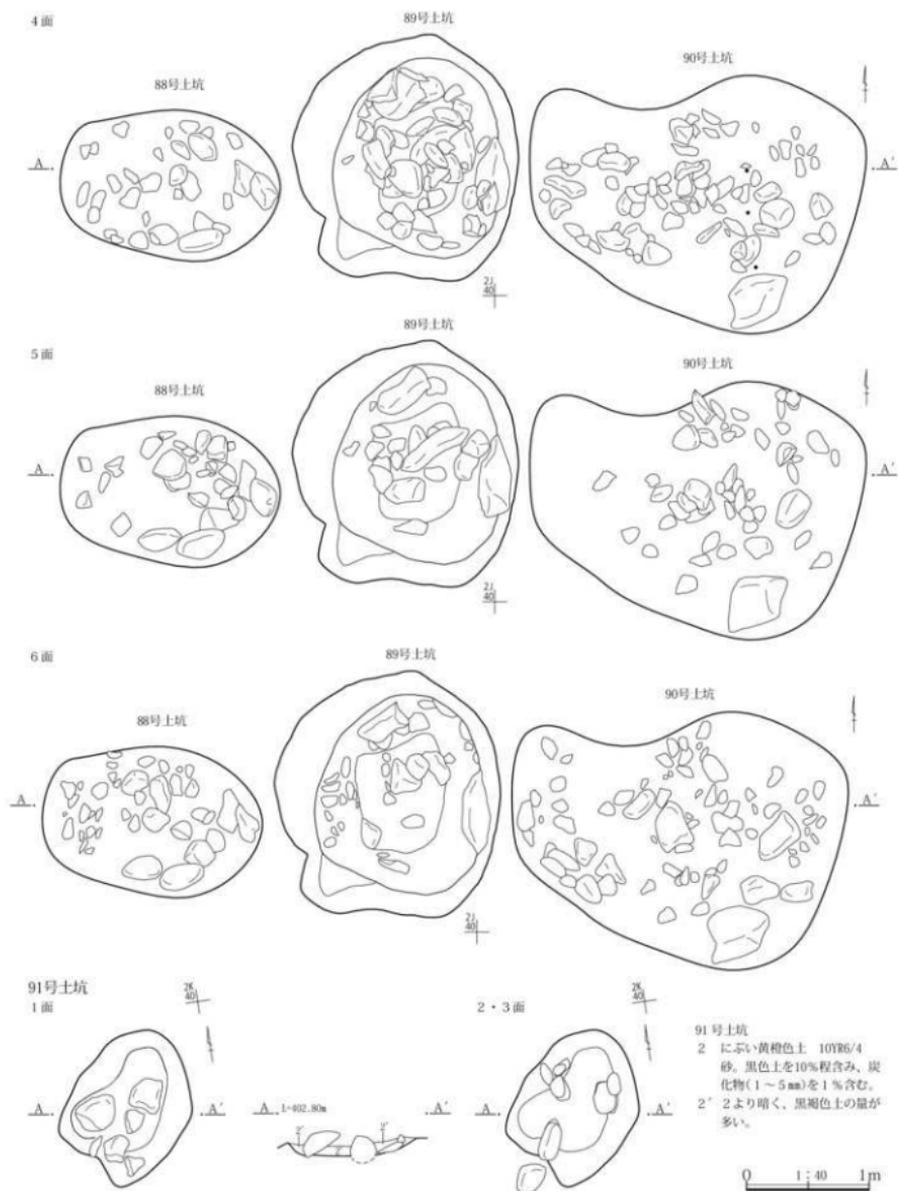
2面



3面



第34図 88~90号土坑

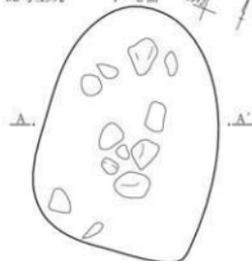


第35図 88~91号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物

92号土坑

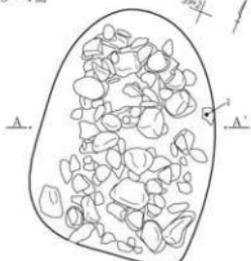
1・2面



A-A', L=402.70m



3・4面



92号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。

93・94・100号土坑

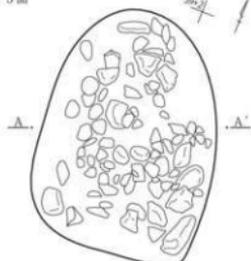
1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。

2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。

2' 2より暗く、黒褐色土の量が多い。

1 にぶい黄褐色土10YR 砂(地山)。

5面

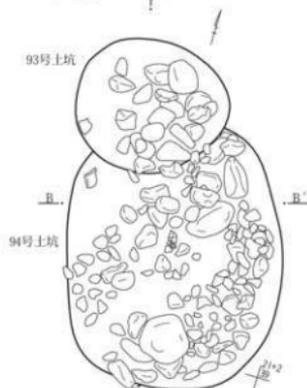


93・94・100号土坑



A-A', L=402.70m

1・2面



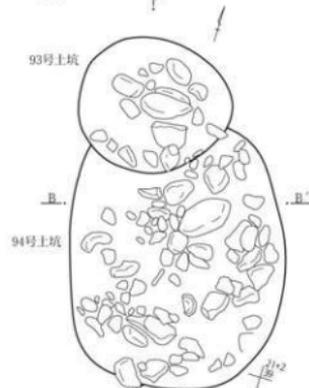
93号土坑

94号土坑

100号土坑

B-B', L=402.70m

3面



93号土坑

94号土坑

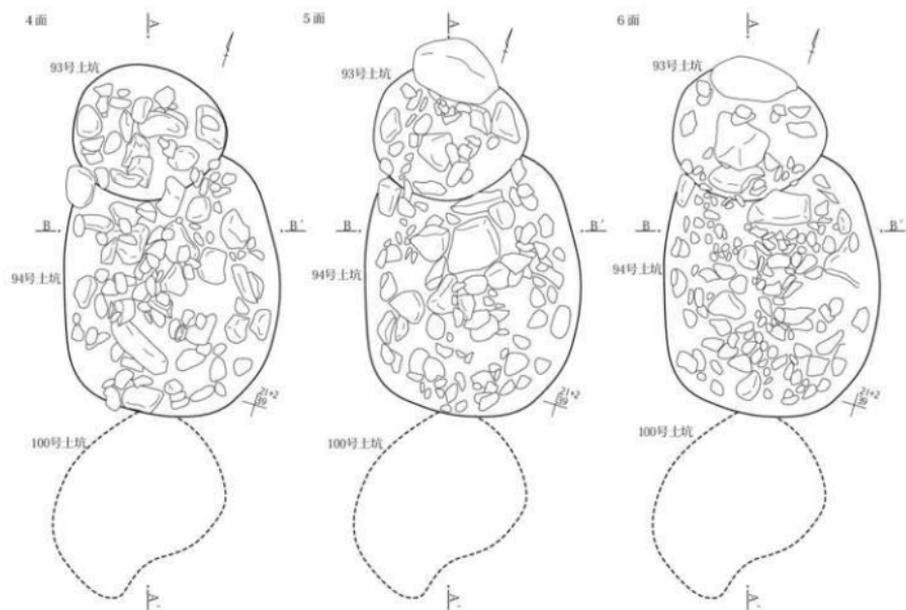
100号土坑

B-B', L=402.70m



0 1:40 1m

第36図 92~94・100号土坑



95号土坑

1面



A-A', l=402.8cm



2面



3面



4面



95号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。

1' 1より明るい。

2 にふい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。

2' 2より暗く、黒褐色土の量が多い。

0 1:40 1m

第37図 93~95・100号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物

96号土坑

1面



2面



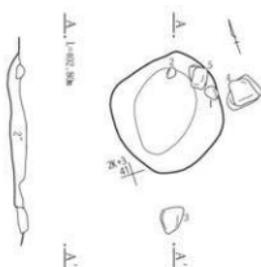
3・4面



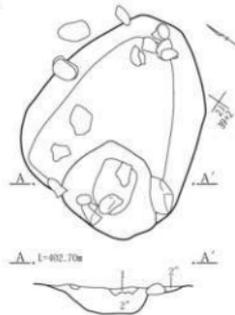
96~99・102・103号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。
- 2' 2より暗く、黒褐色土の量が多い。
- 2'' 2より明るく、黒褐色土の量が少ない。

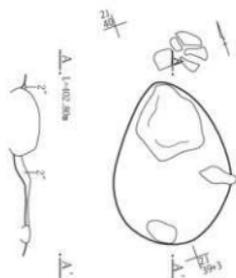
97号土坑



98号土坑



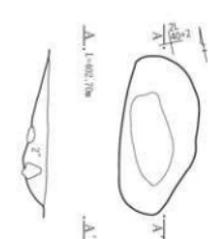
99号土坑



102号土坑



103号土坑

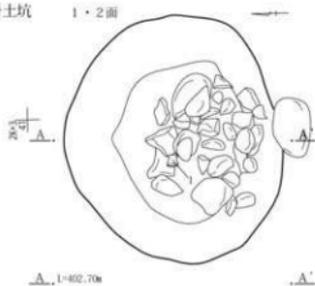


0 1:40 1m

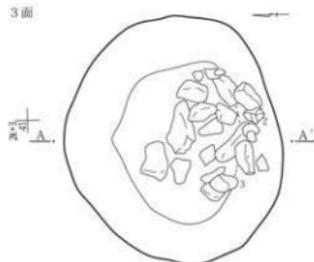
第38図 96~99・102・103号土坑

101号土坑

1・2面



3面

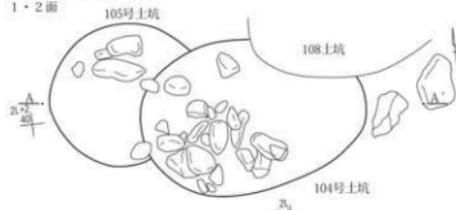


101号土坑

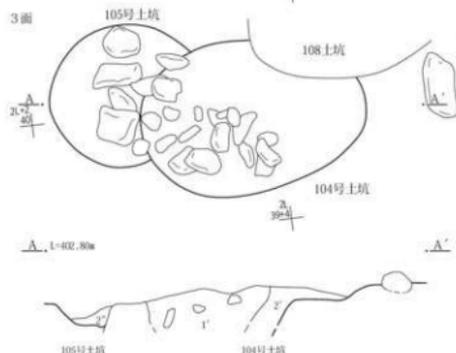
- 1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい。  
2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。

104・105号土坑

1・2面



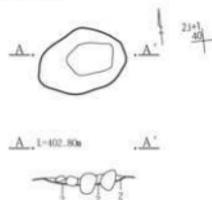
3面



105・104号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい。  
2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。  
2' 2より暗く、黒褐色土の量が多い。  
2'' 2より明るく、黒褐色土の量が少ない。

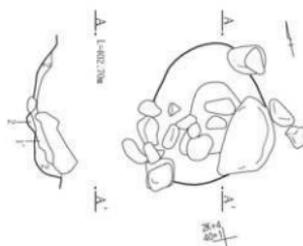
106号土坑



106号土坑

- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。

107号土坑



107号土坑

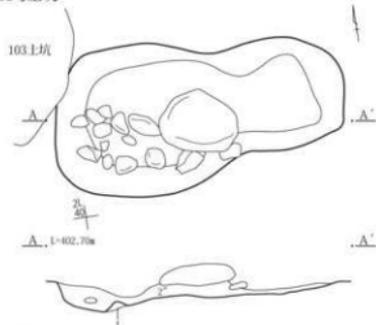
- 1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' 1より明るい。  
2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。

0 1:40 1m

第39図 101・104~107号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物

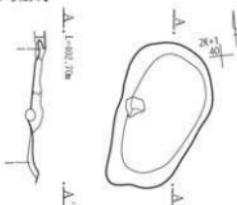
108号土坑



108号土坑

- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。  
2' 2より明るく、黒褐色土の量が少ない。  
1 にぶい黄褐色土10YR 砂(地山)。

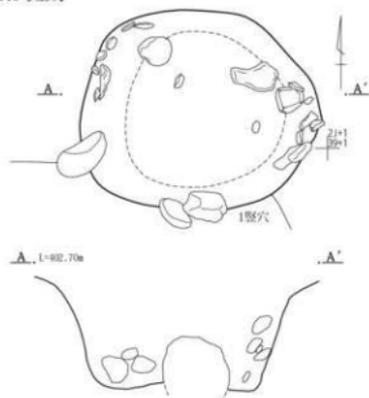
109号土坑



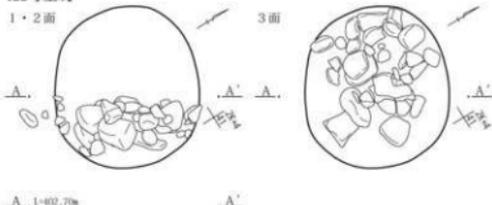
109号土坑

- 1 黄褐色の砂が2%入る。  
2 にぶい黄褐色土10YR6/4 砂。黒色土を10%程含み、炭化物(1~5mm)を1%含む。  
1' にぶい黄褐色土10YR 砂(地山)。

110号土坑



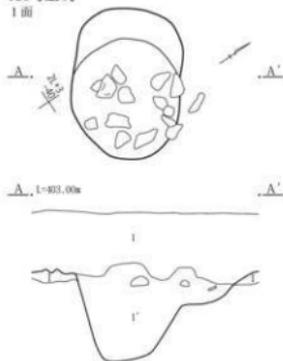
122号土坑



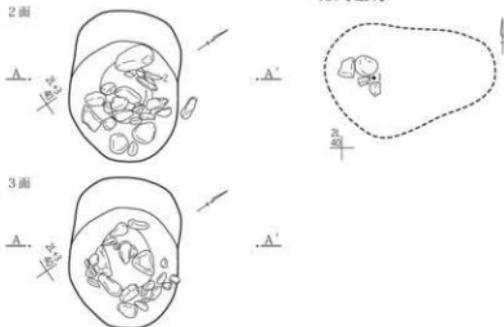
122・123号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 炭化物(1~5mm)を1%含む。表土。  
1' 1より明るい。  
1' にぶい黄褐色土10YR 砂(地山)。

123号土坑



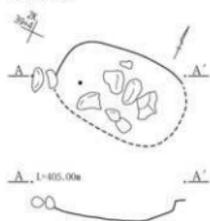
124号土坑



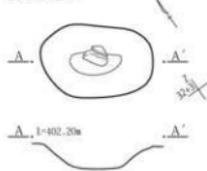
第40図 108~110・122~124号土坑

第3節 土坑

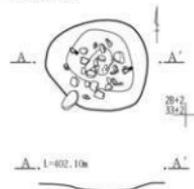
125号土坑



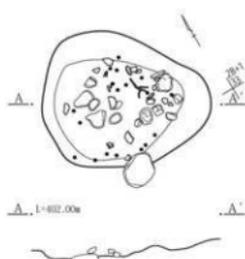
131号土坑



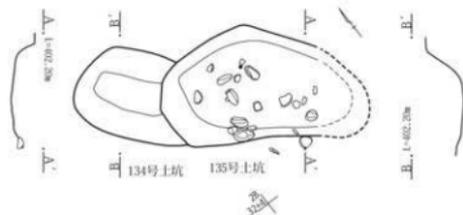
132号土坑



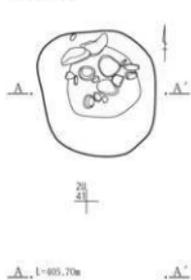
133号土坑



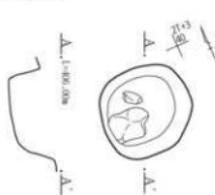
134・135号土坑



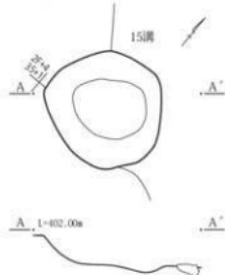
136号土坑



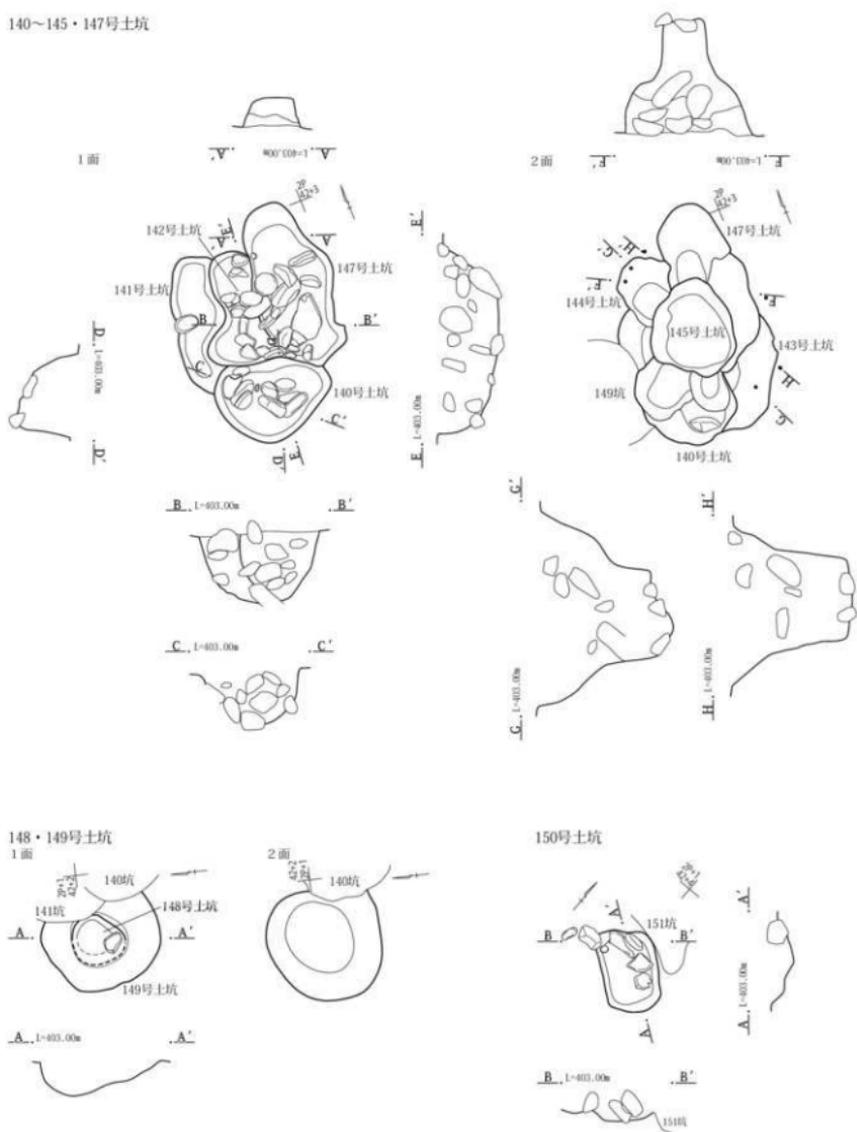
137号土坑



138号土坑

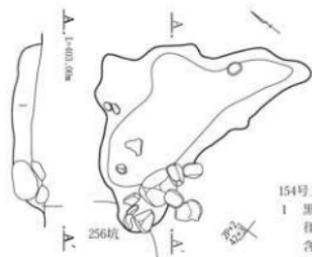


第41圖 125・131~138号土坑

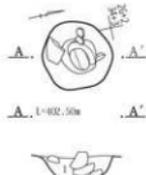


第42図 140~145・147~149号土坑

151号土坑



154号土坑



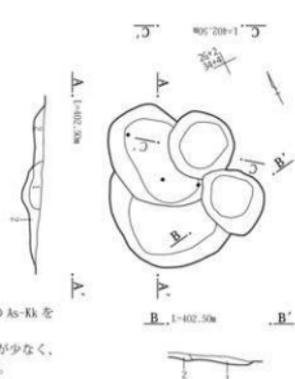
154号土坑

1 黒色土 10YR2/1 砂質。  
径10mmの焼骨と炭化物を2~3%の割合で  
含む。径5.0cmの小礫を2~3%の割合で含  
み、上面には、角礫を作る。

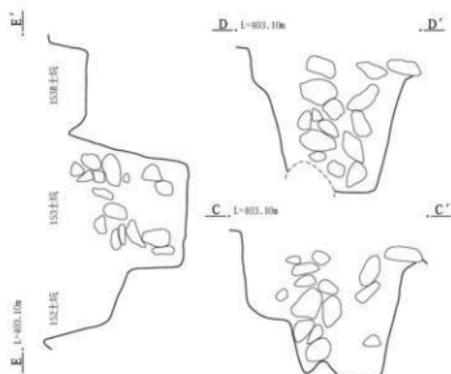
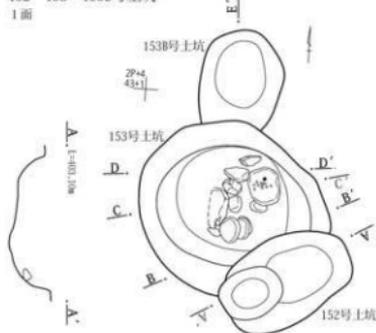
155号土坑

1 黒褐色 10YR3/1 砂質。下面に青灰色のAs-Kkを  
25%、地山ブロックを20%含む。  
2 黒褐色 10YR3/1 砂質。1層よりもAs-Kkが少なく、  
赤色粒子を10%、地山ブロックを20%含む。

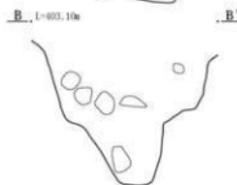
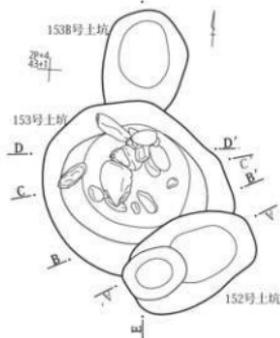
155号土坑



152・153・153B号土坑



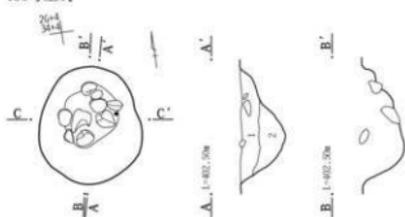
2面



0 1:40 1m

第43図 151~155号土坑

156号土坑



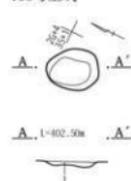
157号土坑

157号土坑



158号土坑

158号土坑



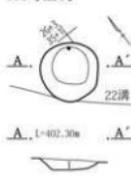
- 1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に少量含む。

159号土坑

159号土坑



160号土坑



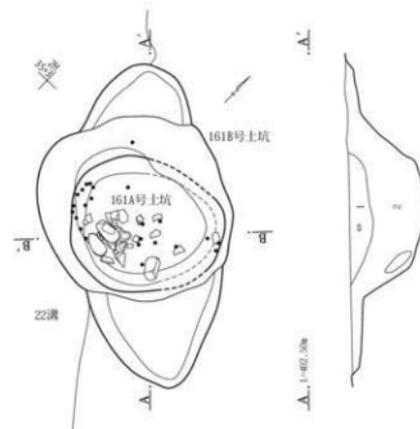
159号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に少量含む。

160号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、5～10cm地山をブロック状に少量含む。径3～5cmの炭化物を少量含む。

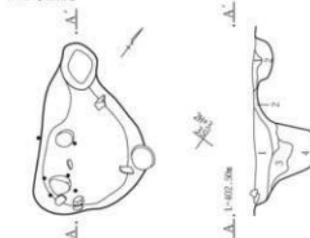
161号A・B土坑



161号土坑

- 1 黒色土7.5YR1.7/1 砂質。12層相当。5mmの焼骨、黄褐色粒子、赤褐色粒子を10%含み、土器片を多量に含む。  
2 黒褐色土10YR3/1 砂質。14層相当。2～3mmの焼骨と黄色粒子10%含む。

162号土坑



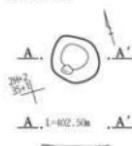
162号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 砂質。10cmAs-Kkを10%含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に少量含む。  
2 灰白色土5Y7/1 砂質。径10cmのブロック状のAs-Kkを多く含み、3～5mmの黄色粒子を10%含む。  
3 灰白色土5Y7/1 砂質。にぶい黄褐色土5/4をブロック状に20%含み、黄色粒子を10%含む。  
4 にぶい黄褐色土5/4 砂質。地山。



第44図 156～162号土坑

163号土坑



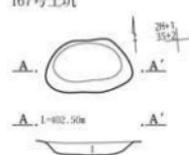
163号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、にぶい黄褐色土5/4をブロック状に少量含む。

164号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に微量含む。

167号土坑



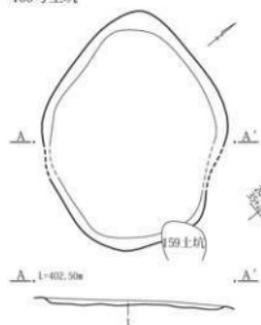
167号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Bを多く含み、黄褐色土をブロック状少量含む。

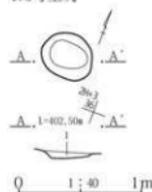
168号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に少量含む。

169号土坑



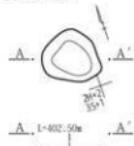
175号土坑



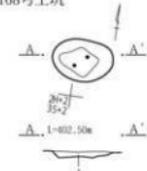
176号土坑



164号土坑



168号土坑



169号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を20～25%、地山をブロック状に微量に含む。

172・173号土坑

1 黒褐色土10YR 3/1 砂質。炭化物を含み、黄色粒子を1'よりも多く含む。

174号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。2～3cmのAs-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に20%含む。

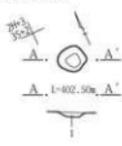
175号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に少量含む。

176号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを1～2cmのブロック状に少量含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、炭化物を少量含む。

165号土坑



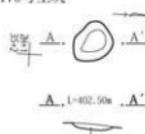
165号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を20%、地山をブロック状に少量含む。にぶい黄褐色土5/4をブロック状10%、赤色粒子を5%含む。

166号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Bを多く含み、黄褐色土をブロック状少量、赤色粒子を微量含む。

170号土坑



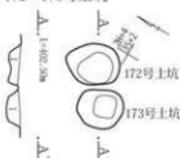
170号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを少量含み、径5cmの地山をブロック状に少量含む。

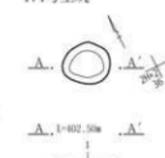
171号土坑

1 黒褐色土10YR3/1砂質。As-Kkを多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に少量含む。

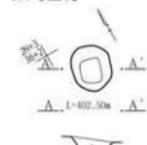
172・173号土坑



174号土坑



177号土坑



177号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを1～2cmのブロック状に多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に微量に含む。炭化物を少量含む。

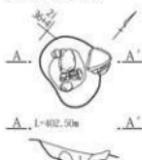
178号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 シルト質。As-Kkを1～2cmのブロック状に多く含み、径2～5mmの赤色粒子を15%、地山をブロック状に微量に含む。土器片を含む。

第45図 163～178号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物

2区179号土坑



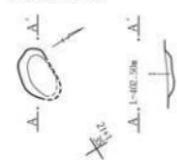
179号土坑

1 にふい黄褐色土1.7YR/1 砂質。2~3mmの焼骨を10%、5cmの黄色ブロックを5%、10~20cmの角礫を中量含む。

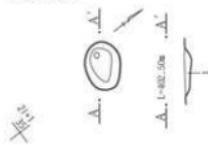
180号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを1~2cmのブロック状に10%含む、径2~5mmの黄色粒子を10%含む。

2区180号土坑



183号土坑



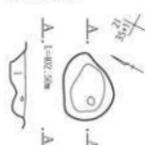
183号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 シルト質。As-Kkを1cmのブロック状に径3~5mmの黄色粒子を10%含む。

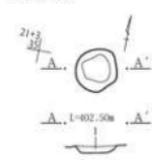
184号土坑

1 にふい黄褐色土10YR5/4 砂質。As-Kkを1cmのブロック状に径3~5mm黄色粒子を10%含む。

184号土坑



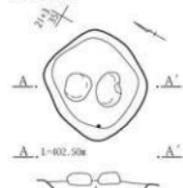
181号土坑



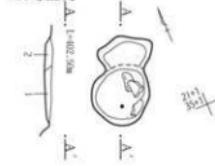
181・182号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを1cmのブロック状に径1cmの黄色粒子を10%含む。

182号土坑



185号土坑



185号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを1cmのブロック状に少量、炭化物を微量含む。  
2 黒褐色土10YR3/1 シルト質。As-Kkを1cmのブロック状に少量含む。

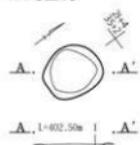
186号土坑



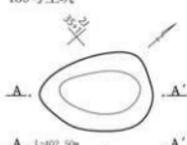
187号土坑



188号土坑



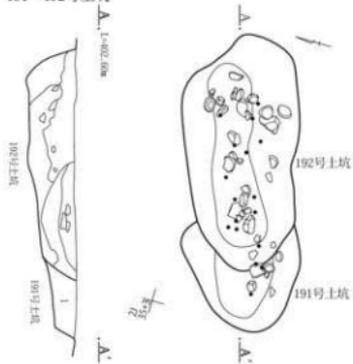
189号土坑



190号土坑



191・192号土坑



186号土坑

1 にふい黄褐色土10YR5/4 砂質。焼骨と炭化物を微量含む。

187号土坑

1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkを少量、5mm程の黄色粒子を微量含む。

188号土坑

1 にふい黄褐色土10YR5/4 砂質。黄色粒子と赤色粒子、焼骨、炭化物を微量含む。

189号土坑

1 にふい黄褐色土10YR5/4 砂質。赤色粒子を少量、焼骨、炭化物を微量含む。

190号土坑

1 黒土1.7.5YR1.7/1 砂質がやや強い3層相当。炭化物、焼骨を少量含む。

191号土坑

1 黒土10YR2/1 砂質。黄褐色土をブロック状に含み、焼骨を少量、炭化物を微量含む。

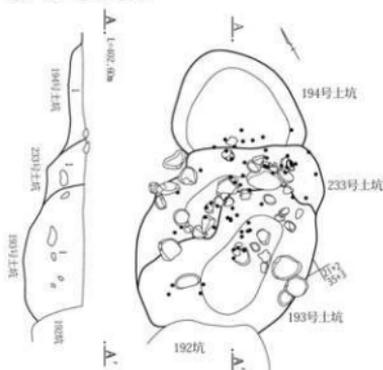
192号土坑

1 黒土10YR2/1 砂質。20~30cmの円礫を多く含み、2~3mmの焼骨を少量、炭化物を微量含む。



第46図 179~192号土坑

193・194・233号土坑



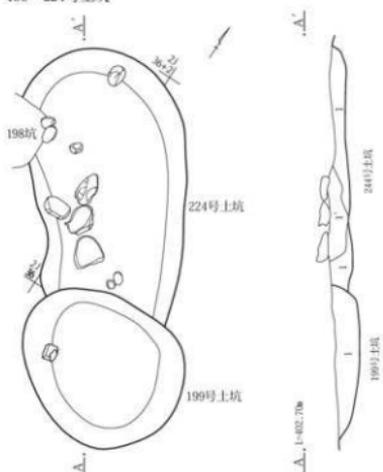
193・194号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質, 20~30cmの円礫を中量, 2~3mmの黄色粒子, 炭化物, 焼骨を少量含む。

233号土坑

1 30cm以下の円礫を含み, 炭化物を微量含む。

199・224号土坑



199号土坑

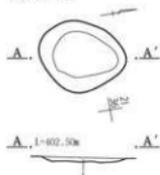
1 黒色土10YR1.7/1 12層相当, 5mm程の黄色粒子, 1~2mm程の焼骨を少量含む。

224号土坑

1 黒褐色土10YR2/1 砂質, 黄色土をブロック状に含み, 5mm程の黄色粒子微量, 炭化物を少量含む。

1' 黒色土10YR1.7/1 12層相当, 1~2mm程の焼骨, 炭化物を少量含む。

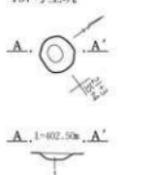
195号土坑



195・196号土坑

1 ぶい黄褐色土10YR5/4 砂質, 焼骨・炭化物を少量, 10~20cmの焼けた円礫を含む。

197号土坑



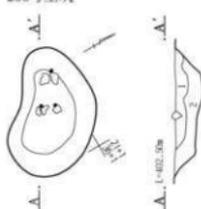
197号土坑

1 黒色土7.5YR1.7/1 砂質がやや強い13層相当, 黄色土をブロック状に含み, 焼骨を微量に含む。

198号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質, 12層相当, 5cm程の黄色土をブロック状に少量含み, 2~3mmの焼骨, 炭化物を中量含む。

200号土坑

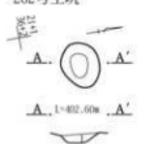


200号土坑

1 黒色土10YR1.7/1 12層相当, 10~20cmの角礫を多く含み, 2~3cm程の黄色粒子をブロック状に含む。

2 ぶい黄褐色土10YR5/4 砂質, 黒色土をブロック状に含み, 焼骨と炭化物を少量, 黄色粒子を微量含む。

202号土坑

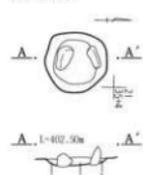


201~203号土坑

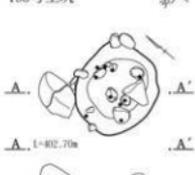
1 黒褐色土10YR3/1 砂質, As-粘土を少量, 5mm程の黄色粒子と炭化物を少量含む。

第3節 土坑

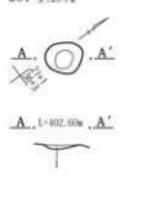
196号土坑



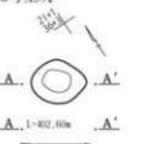
198号土坑



201号土坑

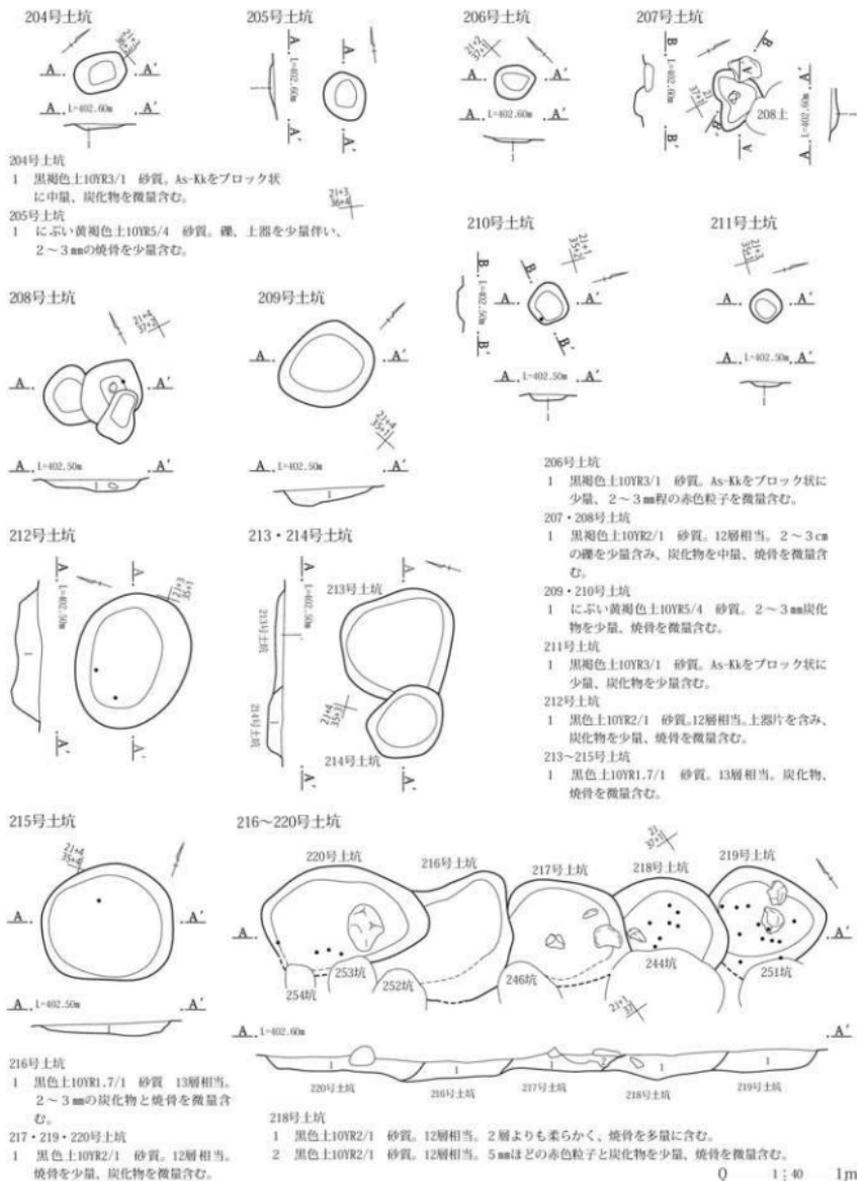


203号土坑



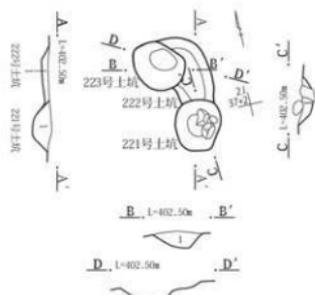
第47図 193~203・224・233号土坑

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第48図 204~220号土坑

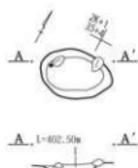
## 221～223号土坑



## 221～223号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkをブロック状に少量、礫・炭化物、赤色粒子を少量含む。

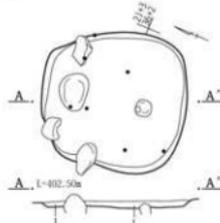
## 230号土坑



## 230・232号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 砂質。As-Kkをブロック状に少量、炭化物、焼骨を微量含む。

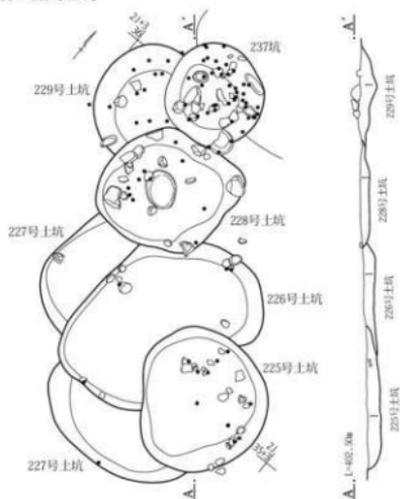
## 234号土坑



## 234号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。黄色土をブロック状に含み、2～3mmの焼骨、炭化物を少量含む。

## 225～229号土坑



## 225号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。5mm程の黄色粒子を少量、2～3mmの炭化物、焼骨を微量含む。

## 226号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。黄色土をブロック状に含み、5mm程の黄色粒子、炭化物を少量含む。

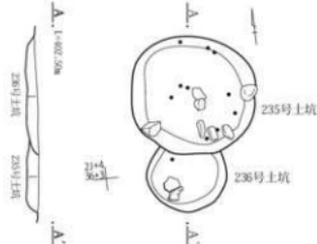
## 228号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。20cm以下の礫を中量含み、5mm程の黄色粒子を少量、2～3mmの炭化物、赤色粒子を中量含む。

## 229号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。黄色土をブロック状に含み、5mm程の黄色粒子、赤色粒子、焼骨を少量含む。

## 235・236号土坑



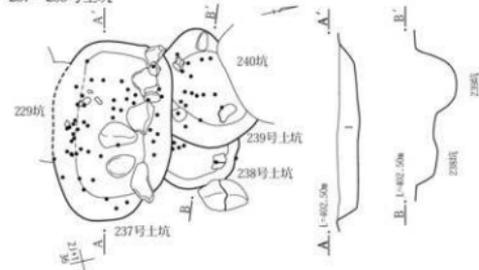
## 235・236号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。黄色土をブロック状に含み、5mm程の焼骨、黄色粒子、炭化物を少量含む。

0 1:40 1m

第4章 縄文時代の遺構と遺物

237～239号土坑



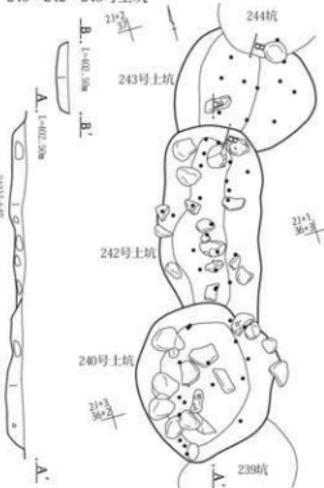
237号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。黄色土をブロック状に含み、10cm程の礫を中量、5mm程の黄色粒子を中量、焼骨、炭化物を少量含む。土器片含む。

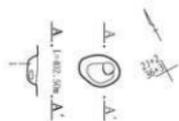
240～243号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。10～20cm程の礫を中量、5mm程の黄色粒子を少量、2～3mmの焼骨を中量、炭化物を少量含む。

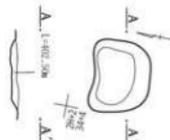
240・242・243号土坑



241号土坑



245号土坑



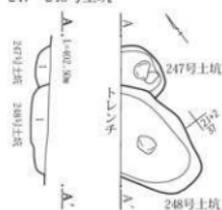
245号土坑

1 黒色土10YR1.7/1 砂質。13層相当。5mm程の黄色粒子を中量、2～3mm炭化物を少量含む。土器片を含む。

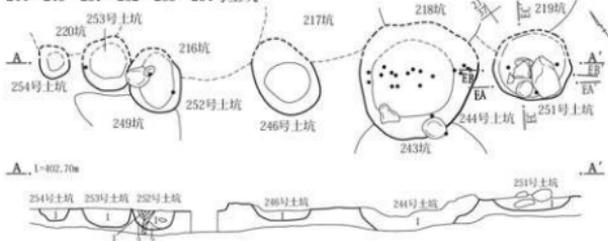
247・248号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。黄色土をブロック状に含み、2～3mmの黄色粒子、焼骨、炭化物を少量含む。

247・248号土坑



244・246・251・252・253・254号土坑



244・246号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。黄色土をブロック状に含み、2～3mmの黄色粒子、焼骨、炭化物を少量含む。土器片を多く含む。

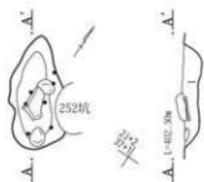
251～254号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。20cm程の礫を少量。5mm程の黄色粒子を中量。2～3mmの黄色粒子微量、焼骨、炭化物を少量含む。  
2 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。黄色土をブロック状に含み、5mm程の黄色粒子を中量。2～3mmの黄色粒子微量、焼骨、炭化物を少量含む。



第50図 237～248・251～254号土坑

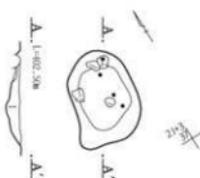
249号土坑



249号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。5mm程の黄色粒子を中量、2~3mmの黄色粒子、炭化物を少量含む。

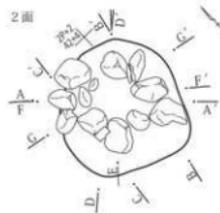
250号土坑



250号土坑

1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。20cm程の礫を少量、2~3mmの黄色粒子、焼骨を中量含む。

255号土坑



A, L=402.90m

A'



E, L=402.90m

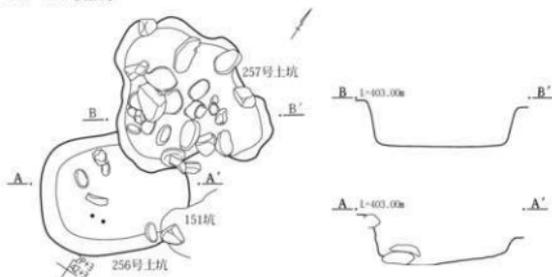
F'

G, L=402.90m

G'



256・257号土坑

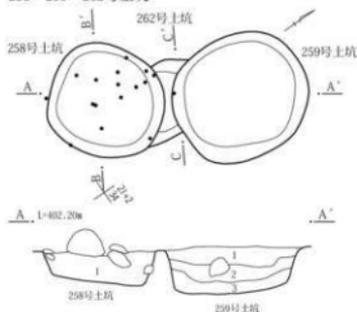


0 1:40 1m

第51図 249・250・255~257号土坑

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

258・259・262号土坑



258・259・262号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。粘性あり。12層相当。10cm程の礫を中量、3～5mmの黄色粒子を中量、2～3mmの炭化物中量、焼骨を少量含む。
- 2 黒色土10YR2/1 1層より砂味強い。12層相当。2～3mmの炭化物中量。焼骨を少量含む。
- 3 黒色土10YR2/1 砂質。砂味が強い。粘性なし。12層相当。1層よりも2～3mmの焼骨、炭化物を少量含む。

264号土坑



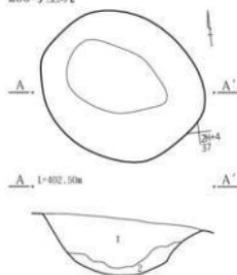
264号土坑

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 砂質。黄色土をブロック状に含み、2～3mmの炭化物、焼骨を少量含む。
- 2 黒色土10YR2/1 砂質。粘性あり。2～3mmの炭化物、焼骨を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 砂質。鉄分凝縮が認められ、2～3mmの焼骨を少量含む。

265号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径1～3mmの炭化物を1%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂層10YR5/4 径1mmのやや粗粒の砂で構成される。

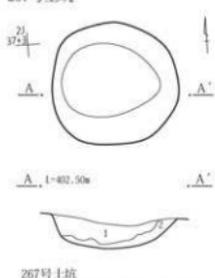
266号土坑



266号土坑

- 1 褐灰色砂質土10YR4/1 径3～5mmの炭化物を3%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 地山の砂層の二次堆積土。

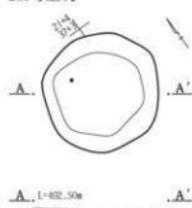
267号土坑



267号土坑

- 1 褐灰色砂質土10YR4/1 径3～5mmの炭化物を3%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 地山の砂層の二次堆積土。

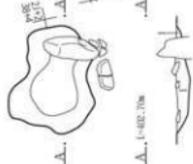
260号土坑



260号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。粘性あり。12層相当。5mmの炭化物を中量、2～3mmの黄色粒子、焼骨を少量含む。

263号土坑



263号土坑

- 1 黒色土10YR2/1 砂質。12層相当。2～3mmの炭化物、焼骨を中量含む。

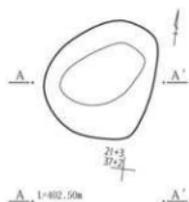
265号土坑



0 1:40 1m

第52図 258～260・262～267号土坑

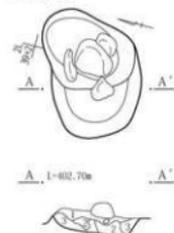
268号土坑



268号土坑

- 1 褐灰色砂質土10YR4/1 径3~5mmの炭化物を3%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 地山の砂層の二次堆積土。

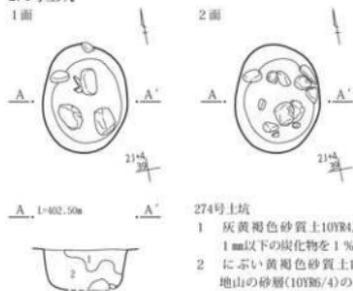
271号土坑



271号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR5/2 径1mm以下の白色粒子を1%含む。
- 2 褐灰色砂質土10YR4/1 径3~5mmの炭化物を3%含む。
- 3 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 鉄分沈殿、かたくしまる。

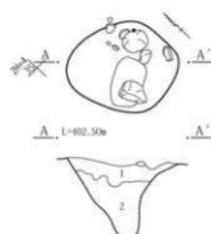
274号土坑



274号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径1mm以下の炭化物を1%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 地山の砂層(10YR6/4)の二次堆積土。

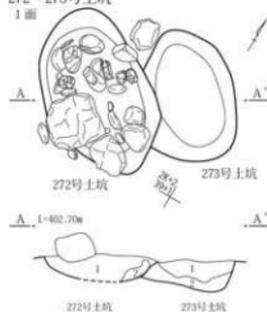
269号土坑



269号土坑

- 1 褐灰色砂質土10YR4/1 径50~100mm大の黒褐色ブロックを炭状に含む。上面に球状の大型礫(円石)、小型礫が分布。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 地山の砂層の二次堆積土。

272・273号土坑

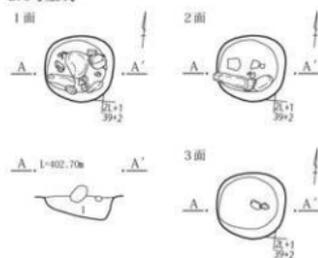


272号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径1mm以下の炭化物を1%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR6/4 地山のブロック。

273号土坑

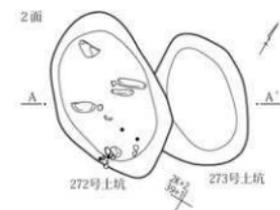
270号土坑



270号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR5/2 径1mm以下の白色粒子を1%含む。

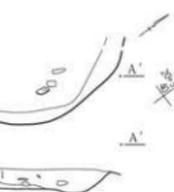
272号土坑



272号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径1mm以下の炭化物を1%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 地山の砂層(10YR6/4)の二次堆積土。

273号土坑



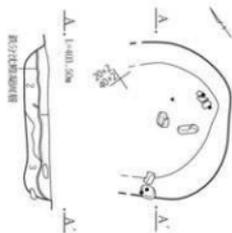
275号土坑

- 1 黒褐色砂質土10YR3/1 灰黄褐色砂層(10YR6/2)をブロック状(径20~40mm)に含む。径3~5mmの炭化物を3%含む。径1~3mmの小礫を1%含む。
- 2 黒褐色砂質土10YR3/2 鉄分凝固ブロック(5YR5.6明赤褐色、径10~20mm)を10%含む。

0 1:40 1m

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

##### 276号土坑



##### 276号土坑

- 1 黒褐色砂質土10YR3/1 灰黄褐色砂層(10YR6/2)をブロック状(径20~40mm)に含む。径3~5mmの炭化物を3%含む。径1~3mmの小礫を1%含む。
- 2 灰黄褐色砂層10YR4/2 径1mm以下の細粒の砂を主体。径2~3mmの炭化物を1%含む。
- 3 にぶい黄褐色砂層10YR5/3 径1mm以下の細粒の砂を主体。わずかに上部を包含する。

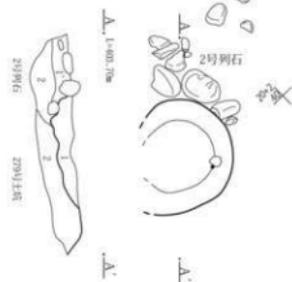
##### 278号土坑



##### 278号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/1 ややシルト質。径1~2mmの炭化物を1%含む。

##### 279号土坑

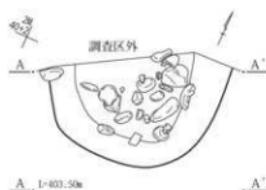


##### 279号土坑

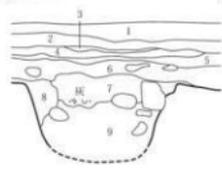
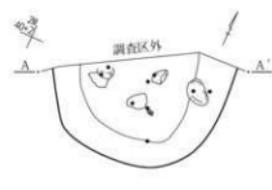
- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径10~20mmの灰白色粘土(10YR7/1)を5%含む。
- 2 にぶい黄褐色砂10YR5/3 径1mm以下の細粒の砂(地山)。

##### 277号土坑

1面



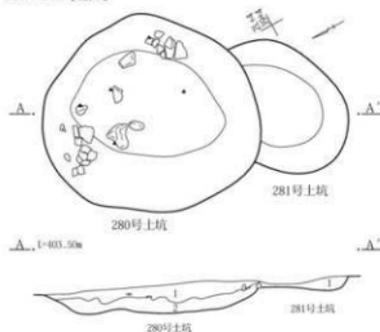
2面



##### 277号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/4 天明泥流下の旧表土。As-Kk混土。径10~50mmの礫を30%含む。
- 2 暗褐色軽石10YR3/4 As-Kk一次堆積層。
- 3 褐灰色火山灰10YR6/1 As-B一次堆積層。径1mm以下の極細粒アッシュ。
- 4 黒色土10YR2/1 粘性強く、混入物のない黒色土。As-KkとAs-Bの間に堆積した土層。
- 5 灰黄褐色砂層10YR6/2 径1mm以下の砂。径1~10mmの小礫で構成される。
- 6 黒褐色土10YR3/1 縄文包含層セクションX層と同じ。砂質上で径5~100mmの礫を含む。主体は径10~20mmの小礫。
- 7 黒褐色土10YR3/1 径1~5mmの炭化物と骨片を5%含む。灰黄褐色粘土(10YR6/2)を下部に含む。
- 8 褐灰色土10YR4/1 径1~5mmの炭化物を1%含む。
- 9 黒褐色土10YR3/1 径1~5mmの炭化物を5%含む。骨片はみられないため分離。

##### 280・281号土坑



##### 280号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径3~10mmの炭化物を10%含む。径10~20mmの灰白色粘土(10YR7/1)を5%含む。炭化物が多い。
- 2 にぶい黄褐色砂10YR5/3 径1mm以下の細粒の砂(地山)。

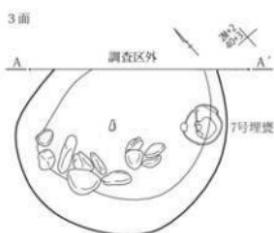
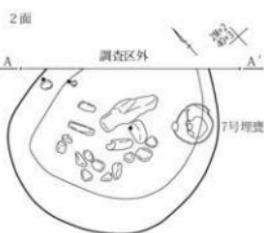
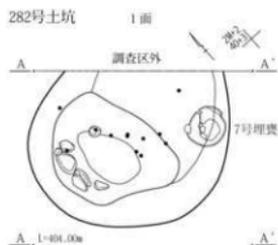
##### 281号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 径10~20mmの灰白色粘土(10YR7/1)を5%含む。斑状に分布。炭化物はほとんどない。

0 1:40 1m

第54図 276~281号土坑

282号土坑



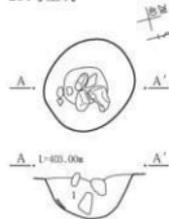
282号土坑

- 1 As-Kk混土層
- 2 As-Kk一次堆積層
- 3 黒褐色土10YR3/1 平安の畑、耕上。
- 4 黒褐色土10YR3/2 縄文包含層X層。
- ① 褐灰色土10YR4/1
- ② 暗青灰色土10B3/1 シルト質。
- ③ 褐灰色土10YR5/1

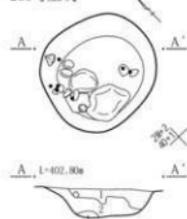
283号土坑



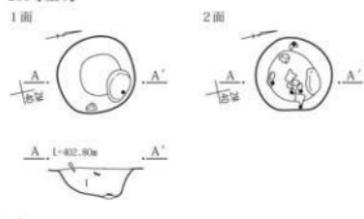
284号土坑



285号土坑



286号土坑



284号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 径1~2mmの白色粒子(骨片の可能性大)を3%含む。径2~5mmの炭化物を5%含む。

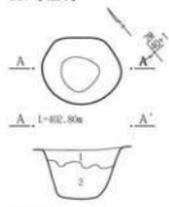
285号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 径1~2mmの白色粒子(骨片の可能性大)を3%含む。径2~5mmの炭化物を5%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 径1~3mmの炭化物を3%含む。
- 3 濃い黄褐色土10YR6/3

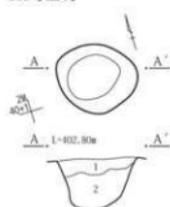
286号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 径1~2mmの白色粒子(骨片の可能性大)を3%含む。径2~5mmの炭化物を5%含む。

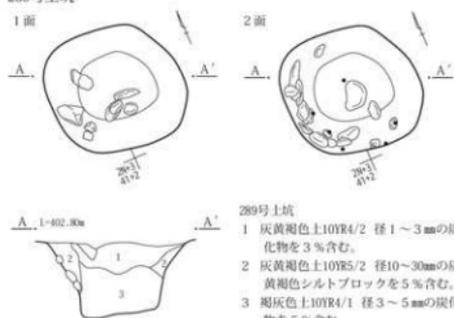
287号土坑



288号土坑



289号土坑



287号土坑

- 1 褐灰色土10YR5/1 褐色ブロック(径10mm、鉄分沈殿)を5%含む。
- 2 褐灰色土10YR4/1 シルト質。径3~5mmの炭化物を5%含む。

288号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR6/2
- 2 褐灰色土10YR4/1 径3~5mmの炭化物を3%含む。

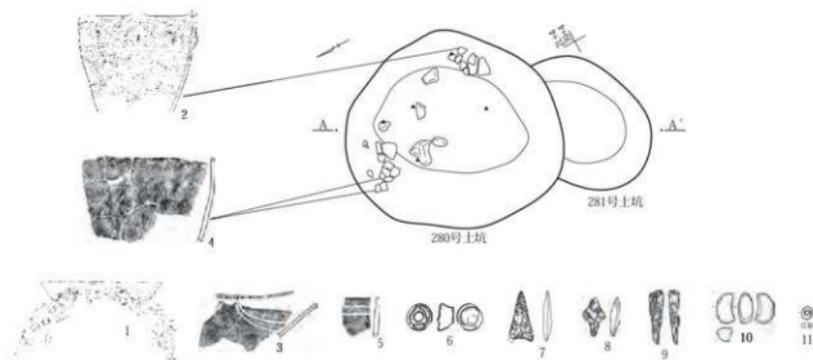
289号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 径1~3mmの炭化物を3%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 径10~30mmの灰黄褐色シルトブロックを5%含む。
- 3 褐灰色土10YR4/1 径3~5mmの炭化物を5%含む。

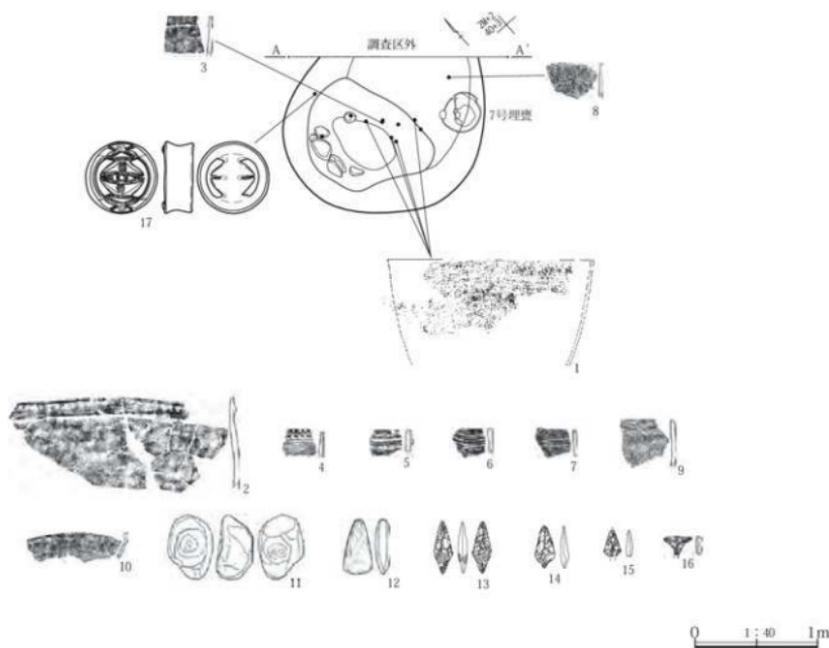


第55図 282~289号土坑

280号土坑



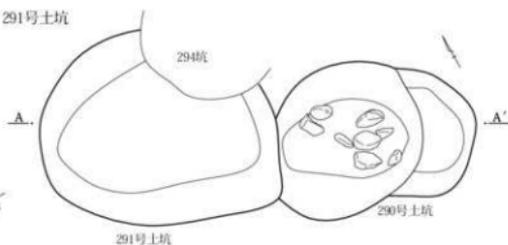
282号土坑



第56図 280・282号土坑遺物出土状況

290・291号土坑

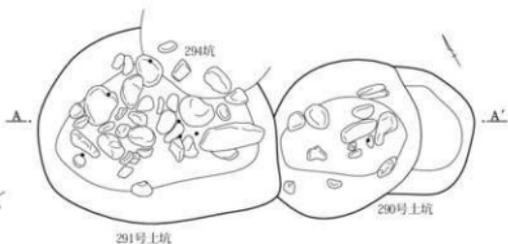
1面



290号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 径1~3mmの炭化物を3%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 径10~30mmの灰黄褐色シルトブロックを5%含む。
- 3 相灰色土10YR4/1 径3~5mmの炭化物を5%含む。
- 4 灰黄褐色土10YR6/2 径30~50mmの灰黄褐色シルトブロック、青灰色シルトブロック、1層のブロックの混土層。
- 5 オリーブ灰色土10YR5/2 オリーブ灰色シルトブロック。

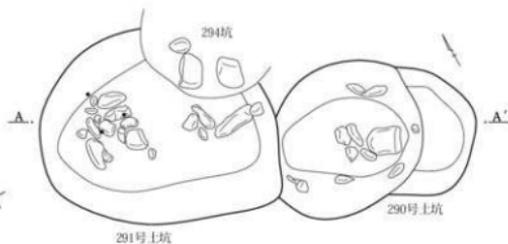
2面



291号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 径1~3mmの炭化物を3%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 径10~30mmの灰黄褐色シルトブロックを5%含む。

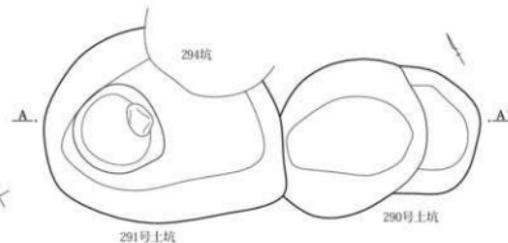
3面



291号土坑

290号土坑

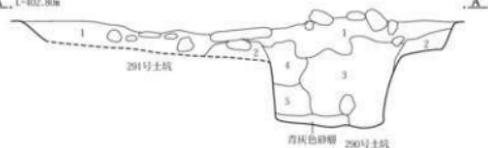
4面



291号土坑

290号土坑

A, L=402.80m

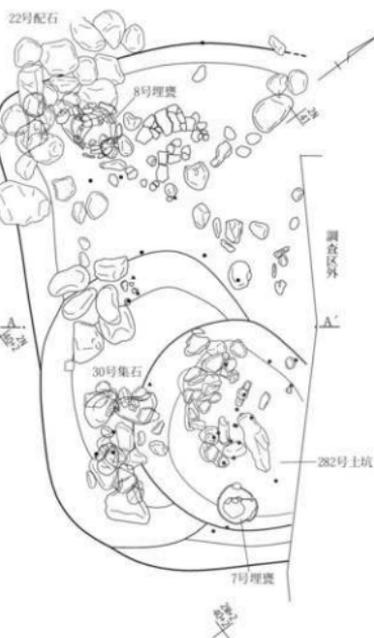
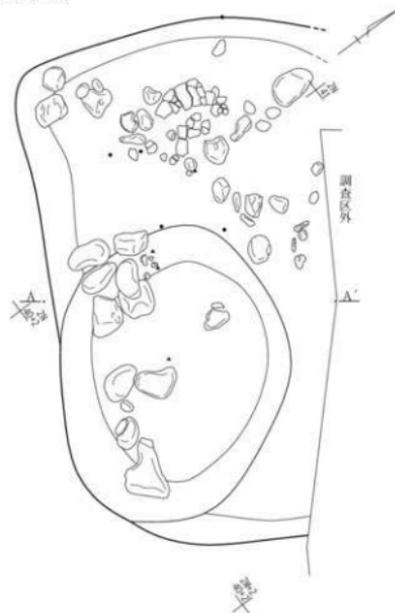


青灰色砂層 290号土坑

0 1:40 1m

第57図 290・291号土坑

292号土坑



A, 1=403.00m

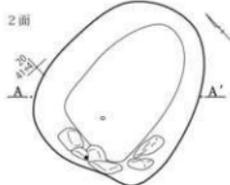
A'



292号土坑

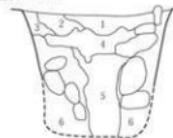
- 1 暗褐色土10YR3/3 径10~30mmの灰黄褐色シルトブロックを3%含む。径1~3mmの炭化物を3%含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/4 1層を斑状に含む。
- 3 青灰色砂質シルト土5G5/1 地山の青灰色シルトの二次堆積土。

294号土坑



A, 1=402.70m

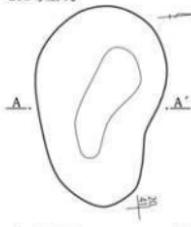
A'



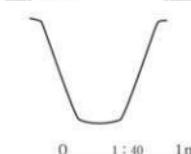
294号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 径1~3mmの碎片を3%含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3
- 3 にぶい黄褐色土10YR6/3 2層をしみ状に含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 径5~10mmの炭化物を3%含む。
- 5 褐灰色砂質土10YR4/1
- 6 灰色砂質土10Y4/1 本層に大型の礫を含む。

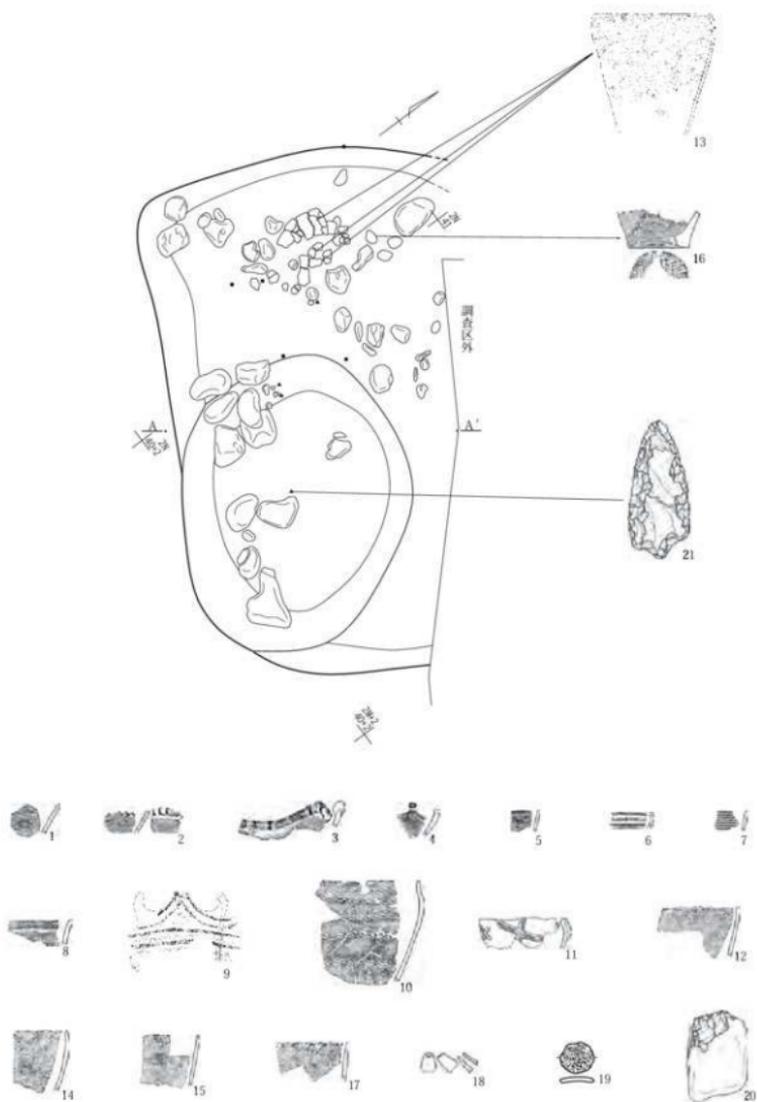
293号土坑



A, 1=402.50m



第58図 292~294号土坑



第59圖 292号土坑遺物出土狀況

## 第4節 配石

### (1) 概要

配石は計32基を調査した。配石は、中型礫・大型礫を主体とした礫を人為的かつ規格的に配置した遺構であり、多数の礫と土器や石器などの遺物で構成される遺構である。礫は川原石の偏平礫を利用したものが大部分で、偏平礫の平坦面を上(平置き)にした平面的な配置、側面を立てた立体的な配置、上下に積み重ねた配置のように規格的な配置が認められた。

配石は、掘り込みを伴わず遺物包含層に構築されたものが主体であった。配石を構成する礫の底面が配石形成当時の生活面を示していると考えられる。

一方、掘り込みを持つ土坑には、土坑のなかに礫を規格的に配置した配石も確認された。このような配石はむしろ土坑である。また、礫の配置の規格外は配石土坑と同じであるため、こうした配石は配石土坑として土坑の項目で報告した。本来は土坑番号を登録して調査すべきものであったが、調査開始時点では掘り込みを持たない通常の配石か、あるいは下位に掘り込みを持つ配石土坑なのかは区別できなかった。このため、配石の遺構番号を登録して調査を開始した。調査途中で、配石土坑であることが判明しても、既に登録された写真や図面などの記録類、遺物注記等の混乱を防ぐため、途中での遺構名称・番号の変更は行わなかった。

24号配石・33号配石は配石土坑に認定したため、土坑の項目で記載した。

### (2) 配石と埋篋、配石土坑について

埋篋を伴う配石が、1号配石、3号配石、22号配石で確認された。これらの配石は大型で、特に22号配石は検出された配石のなかでは最大規模であり、複数の埋篋を伴っていた。

また、22号配石の下位からは複数の配石土坑が検出された。これによって22号配石は層位的に配石土坑よりも新しいことが確認された。配石土坑は、大型の22号配石よりよりも古く、水場遺構に伴う可能性が高くなったと推定される。さらに、22号配石の下位には、水場遺構谷地部(2N・20 39・40)の最下位から巨木とその周辺から

トチノミ類が検出された。22号配石が水場遺構よりも新しい時期の遺構であることを層位的に確認することができたといえる。

また、16号配石のように径50cm以下の小型の土坑の中に偏平礫の側面を石囲い<sup>4)</sup>のように立てて配置した小型の配石も複数検出された。

### (3) 礫の大きさの区分

ここでは礫の大きさを次のように区分して記載した。  
小礫：概ね5cm以下、小型礫：概ね5～10cm以下、中型礫：概ね10～30cm、大型礫：概ね30cm以上。

### (4) 所見

1号配石(第1-62～69、2-34～37図、PL.78～84、273～275)

調査区・グリッド 1区 20～2Q 42・43

平面形状 不整形 断面形状 平坦

規模 長さ：820cm 幅：405cm

主軸方位 N-37°-W

重複 140～145・147～153・255～257号土坑

礫の配置 礫は密集部と空白部を持って配置されていた。また、配石の南西部には北西から南東方向に列石のように直線状に配置されていた。礫の下面はほぼ水平で、掘り込みの中ではなく当時の生活面に配置されたと考えられる。

埋篋 6か所の埋篋(1号配石1号埋篋～6号埋篋)を伴う。このうち1号配石3号～6号埋篋の4か所は1m×1mの範囲内に集中していた。これについての所見は、埋篋の項目で記載した。

所見 内側に複数の埋篋を伴う大型の配石。配石の下位からは、多数の土坑が検出された。南西に1mほど離れて2号配石が位置する。

土器では、高井東式土器、中ノ沢式土器、大洞BC～C1式土器、大洞C1式並行土器、天神原式土器、佐野II式土器、浮線文土器などのほか、土製円板も出土している。石器では、石鎌が出土している。

2号配石(第1-70～72、2-38・39図、PL.84、275・276)

調査区・グリッド 1区 2P～2R 41～43

平面形状 不整形 断面形状 不整形

規模 長さ：1040cm 幅：520cm

**主軸方位** N-35°-W

**重複** 5号配石、18号集石

**磔の配置** 大型磔、中型磔、小型磔が密集部と空白部を持ちながら配置される。全体的には北西から南東方向に細長く配置されている。大型磔には80cm近い巨磔も何点かある。密集部では小型磔が多く配置されている。

**埋瘞** 検出されなかった。

**所見** 長軸が約10mの大型の配石。長軸の方向は隣接する1号配石と平行し、西側に隣接する1号列石とも平行する。遺物は、天神原式土器と考えられる口縁部破片、木葉痕を有する土器底部、石鏝などが出土している。

3号配石(第1-73~76、2-40~45図、PL.85~87、276~279)

**調査区・グリッド** 1区 2Q・2R 43・44

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:595cm 幅:260cm

**主軸方位** N-28°-W

**重複** 4号集石

**磔の配置** 3号配石内をA~H区画に分割して調査した。配石は密集部と空白部を持って配置されている。B区画とG区画では密集。E区画とF区画では半円形に磔が配置され、中央部は空白部であった。D区画内には埋瘞が配置されていた。

**埋瘞** 北側のD区画内に1か所(3号配石D号埋瘞)。所見は埋瘞の項目に記載した。

**所見** 大洞B C~C 1式の深鉢形土器を埋瘞に伴う配石。重複する4号集石及び各区画の新旧関係は、B・C区画→A・D・E・F区画→4号集石である。

土器については、高井東式、安行3 a式、安行3 b式、佐野1 b式、天神原式、天神原式並行、大洞B C~C 1式、大洞B C~C 1式並行、大洞C 1式、大洞C 1式並行などのほか、晩期前半相当の無文粗製深鉢形土器、網代痕を有する土器底部、注口土器破片、土偶破片、耳飾りなどが出土している。石器については、岩版がまもって出土したほか、磨製石斧や石鏝、石錐(ドリル)などが出土している。

4号配石(第1-77・78、2-46~49図、PL.87、279~281)

**調査区・グリッド** 1区 2Q43

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:335cm 幅:120cm

**主軸方位** N-44°-W

**重複** 1号集石

**磔の配置** 中心部に大型磔を配置。中心部の径は約1m。周辺部は小型磔が散漫に分布。

**埋瘞** 検出されなかった。

**所見** 中心部に大型磔を配置した配石で、多数の遺物が出土している。

土器では、高井東式、安行1式、瘤付土器、安行3 b式、大洞B式、大洞B C~C 1式、大洞C 2式、天神原式土器などのほか、晩期前半相当の無文粗製深鉢形土器などが出土している。石器では、石鏝や石錐(ドリル)、打製石斧などが出土している。

5号配石(第1-77、2-50図、PL.87、281・282)

**調査区・グリッド** 1区 2Q・2R43

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:345cm 幅:245cm 深さ:不明

**主軸方位** N-52°-W

**重複** 2号配石

**磔の配置** 中型磔を配置、周辺部は散漫な配置。磔は小型磔、中型磔を主体とする。

**埋瘞** 検出されなかった。

**所見** 中型の配石。配置の規格性は弱く、集石状である。2号配石の北西に隣接し重複する。約1m南西側に1号列石が位置する。多数の遺物が出土している。

土器では、高井東式、天神原式、大洞C 1式などのほか、晩期前半相当の無文粗製深鉢形土器、手燭形土器と考えられる土製品、土製円板などが出土している。石器では、石鏝、石錐(ドリル)、打製石斧などが出土している。

6号配石(第1-79・80、2-51~54図、PL.88、282~284)

**調査区・グリッド** 1区 2S44

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:385cm 幅:185cm

**主軸方位** N-66°-E

**磔の配置** 中型磔が集中して配置される部分が5か所ほど認められる。ほかは散漫な配置。南側には大型磔がまもっている。

**埋瘞** 検出されなかった。

**所見** 中型の配石で、密集部と散漫部で構成される。多数の遺物が出土している。

土器では、高井東式、安行1式、安行3a式、中ノ沢式、佐野1a式、天神原式、大洞C1式並行などのほか、晩期前半相当の無文粗製深鉢形土器も多数出土している。さらに、土偶破片や土製円板、耳飾りなども出土している。石器では、石鎌、石錐(ドリル)、打製石斧、磨製石斧などが出土している。

7・8・9・10号配石(第1-81、2-55図、PL.89、285)

**調査区・グリッド** 2区 2J・2K39

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:180cm 幅:100cm(7~10号配石)

**主軸方位** N-45°-E(7~10号配石)

**重複** 1号竪穴

**磔の配置** 7号配石は大型磔で構成される。7号配石から見て北東側に8号配石、東側にやや離れて9号配石・10号配石が隣接する。

**埋塞** 検出されなかった。

**所見** 7~10号配石は1.8m×1mの範囲内にある。4か所の配石として分割調査した。分布を見ると7号配石と8号配石、9号配石と10号配石の二つの配石にまともと考えられる。いずれも小型の配石である。南東側に1号竪穴が重複する。

11・12号配石(第1-81、2-55図、PL.89、285)

**調査区・グリッド** 2区 2J38・39

**平面形状** 列状(11・12号配石)

**規模** 長さ:150cm 幅:50cm(11号・12号配石)

**主軸方位** N-45°-W(11号・12号配石)

**重複** 1号竪穴

**磔の配置** 11号配石の南東側に12号配石が隣接。大型磔、中型磔が長さ150cmの範囲に列状に配置される。

**埋塞** 検出されなかった。

**所見** 11号・12号配石は互いに隣接する一つの配石で、小型の配石。南側に1号竪穴が重複。12号配石から耳飾りが出土している。

13号配石(第1-82、2-55図、PL.89、285)

**調査区・グリッド** 2区 2J39

**平面形状** 楕円形 **断面形状** 皿状

**規模** 長さ:160cm 幅:87cm 深さ:15cm

**主軸方位** N-63°-W

**埋土** 炭化物を少量含む黄褐色砂質土

**重複** 4号埋塞が一部重複

**磔の配置** 掘り込みの浅い楕円形の土坑の側面部に磔を配置。磔は偏平磔、垂円磔を縦置き、横置きに配置。磔のない部分にも本来は磔が配置されていた可能性があり、楕円形を呈する配石であったと考えられる。底面に磔の配置はない。

**埋塞** 西側に4号埋塞が重複

**所見** 楕円形の土坑を伴う配石。4号埋塞が重複。土坑側面部に磔が配置されている。規模からみて配石墓であった可能性は低い。無文粗製深鉢形土器の口縁部破片が出土している。

14号配石(第1-82、2-55図、PL.92、285)

**調査区・グリッド** 3区 2H・2N 39・40

**平面形状** 半円形 **断面形状** 不整形

**規模** 長さ:460cm 幅:187cm 深さ:12cm

**主軸方位** N-45°-E

**埋土** 黒褐色土

**磔の配置** 小型磔・中型磔・大型磔を利用し、半楕円形に配置。縁部では散漫。

**埋塞** 検出されなかった。

**所見** 半楕円形に磔を配置。配置状況からみて人為的な配置と考えられる。配石の内側に浅い掘り込みを持ち、遺物がまとまって出土した。14号配石は、遺物包含層のやや上位から検出された。中ノ沢式、佐野1b~II式、天神原式などのほか、石錐(ドリル)などの遺物が出土している。

15号配石(第1-82、2-55図、PL.90・91、285)

**調査区・グリッド** 3区 2L・2M 39・40

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:295cm 幅:215cm

**主軸方位** N-58°-W

**埋土** 褐灰色土

**重複** 284・286号土坑 南側に2号集中

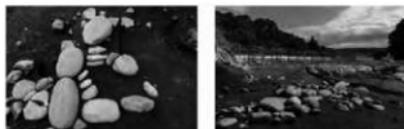
**礫の配置** 小型礫・中型礫・大型礫を利用。大型礫には長さ50cmほどの扁平大型礫が複数ある。この扁平大型礫は平坦面を上にして横置きして、北西から南東方向に直線状に配置されていた。この直線状の配置を中心軸として南北の両側に中型礫が配置されていた。中型の隙間には小型礫が埋め込まれていた。下位から中型礫、小型礫の側面(小口面)を3点ずつ上にして配置された場所が2か所確認された。何らかの意図を持って規格的に配置したものである。掘り込みは確認できなかった。配石下面が当時の生活面であったと考えられる。

**埋蔵** 検出されなかった。

**所見** 扁平な大型礫を直線状に配置し、それに付随する配石で構成される中型の配石。南側に2号集中が隣接する。2号集中と形成時期は近接していると考えられる。高井東式土器の口縁部破片、土製円板、石籬、石錐(ドリル)などの遺物が出土している。



15号配石



15号配石

16号配石(第1-82図、PL.92)

**調査区・グリッド** 3区 2L40

**平面形状** コの字状 **断面形状** 挿鉢状

**規模** 長さ:35cm 幅:34cm 深さ:20cm

**主軸方位** N-44°-E

**埋土** 炭化物をわずかに含む褐色土、焼土は検出されなかった。

**重複** 約1m南東に15号配石が隣接

**礫の配置** 礫は、挿鉢状の掘り込みの土坑の側面にコの字状に配置されている。礫は中型扁平礫で側面(小口面)を上にして配置されている。底面には礫の配置なし。

**埋蔵** 検出されなかった。

**所見** コの字状配置の小型の配石。礫は土坑の縁辺に石囲状に配置されるが、焼土は検出されず礫や土坑側面にも被熱の痕跡は確認できなかったことから、火の使用を伴う石囲い<sup>4)</sup>の可能性は低いと考えられる。遺物の出土はなかった。

17号配石(第1-83、2-56図、PL.93、285)

**調査区・グリッド** 3区 2L40

**平面形状** 円形 **断面形状** 挿鉢状

**規模** 長さ:50cm 幅:46cm 深さ:16cm

**主軸方位** N-2°-E

**埋土** 褐色土、灰黄褐色土。焼土の検出なし。

**礫の配置** 礫は、挿鉢状の掘り込みを持つ小型の土坑の対向する側面に配置されている。中型扁平礫2点が側面を立てて平行に配置され、それに小型礫が付随して配置されている。底面に礫の配置はなし。

**埋蔵** 検出されなかった。

**所見** 小型の配石。土坑の対向する側面に礫2点を平行配置していた。焼土は検出されず、礫や土坑側面にも被熱の痕跡は確認できなかった。礫は平行配置だが、コの字状配置の16号配石と同じ規模である。このため、16号配石と同じ性格の可能性が考えられる。高井東式土器の口縁部破片、網代痕を有する土器底部が出土している。

18号配石(第1-83図、PL.93)

**調査区・グリッド** 2区 2K37

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:135cm 幅:65cm

**主軸方位** N-50°-E

**重複** なし

**礫の配置** 扁平な大型礫の平坦面を上にして横置き(平置き)した配置で、周辺に中型礫・小型礫を配置。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 大型礫の周囲に小型礫・中型礫を配置した小型の配石。掘り込みは伴わない。配石の下面が当時の生活面で、そこに礫を配置したと考えられる。

19号配石(第1-83、2-56図、PL.93、285)

**調査区・グリッド** 3区 2M39

**平面形状** 円形 **断面形状** 筒状

**規模** 長さ：73cm 幅：68cm 深さ：24cm

**主軸方位** N-52°-W

**埋土** 褐灰色土、黒褐色土、灰黄褐色土、焼土は検出されなかった。

**礫の配置** 土坑上面に中型礫が配置されている。偏平な中型礫の側面を立てて配置されていた。配石下面は平坦であった。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 土坑を伴う配石。側面を立てて配置した中型礫があった。礫の配置の規格性に16号配石や17号配石との共通性が伺える。安行1式の可能性がある口縁部破片、瘤付土器の可能性のある胴部破片が出土している。

20号配石(第1-83図、PL.93・94)

**調査区・グリッド** 3区 2M39

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ：233cm 幅：210cm 深さ：不明

**主軸方位** N-40°-E

**礫の配置** 自然木の周囲に偏平な大型礫を主体に、小型礫・中型礫が配置される。礫は平坦面を上にした横置き。配置の規格性は弱い。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 自然木(2M39No94)の周囲に検出された配石。自然木と配石の時間的な前後関係については判断できなかった。配石の底面はほぼ平坦。自然木は、樹種同定の結果、ケヤキであることが判明した。

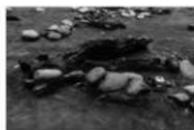
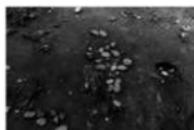
21号配石(第1-83図、PL.94)

**調査区・グリッド** 3区 2N39

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ：226cm 幅：150cm

**主軸方位** N-54°-W



20号配石と2M39No94自然木

**重複** なし。東側に20号配石が隣接

**礫の配置** 自然木の周囲に偏平な大型礫・中型礫を配置。礫は平坦面を上にした横置き。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 自然木の周囲に検出された配石。自然木と配石の時間的な前後関係については判断できなかった。配石下面は隣接する20号配石とほぼ同じである。

22号配石(第1-86～98、2-57～70図、PL.101～110、286～296)

**調査区・グリッド** 3区 2N-2P 40～42

**平面形状** 不整形

**断面形状** 配石はほぼ平坦に配置され、配石を取り除いた下位は浅い皿状の窪みを呈していた。配石下位のこの窪みには黒褐色土が堆積し、遺物を多数含んでいた。配石の中心部付近が最深度40cmの皿状の窪みとなり、周辺部に行くにしたがって浅くなる。

皿状の窪みは、全体のプランが明確に確認できなかったものの、配石の範囲とほぼ一致し、配石下位から多数の遺物が出土したことから、人為的に掘り込まれた皿状の土坑と考えられる。

**規模** 長さ：1,250cm 幅：775cm 深さ：40cm

**主軸方位** N-54°-W

**埋土** 黒褐色土層、灰黄褐色土、暗褐色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層、灰黄褐色砂層(地山の砂層)、暗褐色土層。1層(黒褐色土層)の上面に配石が配置されている。1層は遺物包含層と同じ土層で、焼骨片や炭化物を含み多数の遺物を包含していた。5層との境界はレンズ状堆積を示し、遺物もレンズ状に廃棄された状態で出土した。焼土は確認できなかった。

**重複** 289～294号土坑、23・24・29～32号配石、8～11号埋裏

**礫の配置** 大型礫を主体に、多種多様な形状、大きさの

礫を利用して規格的に配置している。

配石全体をA区画、B区画、C区画、D区画に4分割して説明する。

① A区画(2041グリッド)

配石の礫は南東部にまとまり、北側及び西側は空白部であった。南東コーナー付近では大型礫・中型礫が径1mほどの環状を呈して展開していた。中心部が空白部となる状態は配石土坑と類似している。周辺部では小型礫が弧状に展開し、南側のC区画に連続していた。

② B区画(2841グリッド)

配石の礫は南西部にまとまり、東側は空白部であった。南西部では大型礫、中型礫を主体に小型礫も配置されていた。大型礫、中型礫の配置に規格性は見られず、小型礫は隙間を埋めるように配置されていた。

③ C区画(2040グリッド)

配石の礫は北東部の概ね3×3mの範囲にまとまる。北東コーナーには大型礫、中型礫がまとまる。周辺部には小型礫が配石の縁辺部を形作るように弧状に配置され、北側のA区画に連続していた。配石下面の北東部は皿状の窪みとなり黒褐色土が堆積し、ここから遺物が多数出土した。

④ D区画(2840グリッド)

22号配石の主体となる区画である。配石の礫は北半部にまとまり、南半部は空白部であった。北東部に8号埋裏、9号埋裏が位置し、いずれも配石礫の下位から検出された。

北半部には、長さ(東西)約5m×幅(南北)約1mの範囲に大型礫・中型礫がまとまって配置されていた。大型礫は平坦面を上にして横置きで配置されていた。小型礫は配石全体の縁辺部を形作るように弧状に配置され、西側のC区画に連続していた。

9号埋裏に隣接する南側では、4点ほどの大型礫・中型礫が側面(小口面)を立てて、北から南へ順序を持って並べるように斜めに積み重ねて配置されており、さらにその南側でも横置きに並べて配置されており、この部分では規格性の強い礫の配置が伺える。

ただし、9号埋裏周辺部以外のD区画では、大型礫の上に大型礫・中型礫が積み重なるように不規則に配置され、隙間には小型礫が埋め込まれるように配置されていた。この傾向は、8号埋裏の周辺でよく認められた。し



22号配石(東から)



22号配石・B区画(北から)



22号配石・B区画(北から)



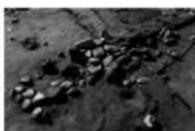
22号配石・D区画(北から)



22号配石・D区画(東から)



22号配石下位の遺物出土状況  
(南東から)



22号配石下位の埋裏  
(左8号、右9号)と配石

たがって、9号埋裏周辺部を除くと、22号配石全体における大型礫・中型礫の配置は規格性が弱いといえる。

**埋裏** 配石の下面から8号埋裏・9号埋裏が検出され、配石の周辺部から10号・11号埋裏が検出された。埋裏は配石の東半部にまとまる傾向が見られた。

**所見** 22号配石は、本遺跡で検出された配石の中で最も大型の配石である。配石の下位に浅い皿状の土坑、埋裏を伴う。遺物は晩期前葉から中葉の土器がまとめて出土した(第1-94-98図)。

配石は、中央部に大型礫・中型礫を配置して直線形状を形作り、それに付随するように周縁部に小型礫を配置して円形形状を形作る構造となっている。

中央部(D区画・2N40グリッド北半部)では、偏平な大型礫がまとまり、さらに長さ約7m・幅約1mにわたって直線状に大型礫が積み重なって配置されていた。また、周縁部(D区画の中央部西側からC区画北東側)では、小型礫・中型礫が弧状にまとまって配置され、大型礫の間には小型礫が埋め込まれ、配石の南半部でこの様子が強く認められた。

このように、22号配石の平面形状は、全体的には不整形だが、周縁部の円形の小型礫の配置や中央部の直線状の大型礫の配置を見ると、一見平面形状は柄鏡形に類似する。しかし、中央部の積み重なった礫の状況からみて敷石住居の礫の配置とは異なり、22号配石が柄鏡形敷石住居の痕跡であった可能性は低いといえる

#### 23号配石(第1-83、2-56図、PL.95、285)

**調査区・グリッド** 3区 2040

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:125cm 幅:113cm

**主軸方位** N-47°-W

**重複** 22号配石

**礫の配置** 偏平な大型礫・中型礫を配置。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 22号配石と重複するが、22号配石よりもやや上位から検出されたため、別の配石として調査した。配石の礫底面に高低差があるが、掘り込みの有無は判断できなかった。土器では、佐野Ⅱ式、天神原式土器のほか、深鉢形土器の大型の破片が出土している。石器では、石鏃、石錐(ドリル)、玉類などの遺物が出土している。

#### 24号配石

配石土坑であるため、土坑の項目に記載した。

#### 25号配石(第1-84、2-56図、PL.96、285)

**調査区・グリッド** 3区 2M40

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:223cm 幅:155cm 深さ:不明

**主軸方位** N-53°-E

**重複** 下位に29・30号集石

**礫の配置** 大型礫を立てて配置。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 大型礫・中型礫からなる小型の配石。下位に29号・30号集石。これらの集石よりも上位から検出されたため、集石とは別の遺構と判断した。安行3a~3b式、天神原式土器、浮線土器などが出土している。

#### 26号配石(第1-84、2-56図、PL.97、286)

**調査区・グリッド** 1区 2P40

**平面形状** 円形 **断面形状** 筒状

**規模** 長さ:137cm 幅:117cm 深さ:18cm

**主軸方位** N-33°-W

**埋土** にふい黄褐色砂層。焼土は検出されなかった。

**礫の配置** 偏平な中型礫を利用して、その側面を立てて石囲いが状に配置し、さらにその周囲に中型礫を配置した配石である。東側に隣接する大型礫・中型礫は地山の段丘礫層の礫の可能性がある。

**埋裏** 検出されなかった。

**所見** 段丘礫層の上面を掘り込んで構築された小型の配石である。偏平な中型礫・大型礫の側面を立て、中央の空洞部を取り囲むように円形に配置している。外側には中型礫も平置きに配置されている。礫には被熱痕跡は確認できず、焼土や炭化物も検出されなかった。瘡付土器第IV段階の可能性のある口縁部破片、網代痕を有する土器底部破片が出土している。

#### 27号配石(第1-84、2-56図、PL.97・98、286)

**調査区・グリッド** 3区 2039

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:210cm 幅:123cm

**主軸方位** N-20°-E

**重複** 水場遺構1号灰層ブロックが下位に重複。南側に水場遺構貯水場・作業場が隣接。

**礫の配置** 50cm近い偏平な大型礫3点と中型礫を配置。大型礫周辺は空白、北側に中型礫が集中。礫の配置は平坦面を上にした横置き。

**埋没** 検出されなかった。

**所見** 大型礫と中型礫で構成される配石。水場遺構作業場から約1m北側に離れて検出された。水場遺構と関連する遺構で、水場遺構と同一時期に形成されたと考えられる。

偏平な大型礫(27号配石No.1)には使用痕(摩耗痕)が顕著に残っており、石皿として利用されたと考えられる。27号配石が位置する2039グリッドからは磨石が多数出土しており、大型礫(石皿)と出土した磨石はセットになって使用されたと考えられる。

また、配石の下位に水場遺構1号灰層ブロックが重複していた。27号配石は水場遺構1号灰層ブロックよりも層位的には新しいが、配石はその直上に形成されているため時間間隔は小さいと考えられる。

28号配石(第1-85、2-71図、PL.99)

**調査区・グリッド** 3区 2N39

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:233cm 幅:165cm 深さ:不明

**主軸方位** N-80°-E

**重複** なし

**礫の配置** 自然木の周囲に偏平な大型礫を配置。礫は、平坦面を上にした配置した横置き。配置の規格性は弱い。

**埋没** 検出されなかった。

**所見** 自然木の周囲に検出された配石。自然木は南側に斜めに倒れた状態で検出された。この自然木は、樹種同定によりケヤキであることが判明した。

29号配石(第1-84、2-71図、PL.99、296)

**調査区・グリッド** 1区 2041

**平面形状** 不整形 **断面形状** 不整形

**規模** 長さ:130cm 幅:115cm

**主軸方位** N-50°-W

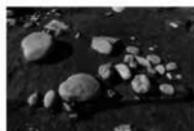
**重複** 291・294号土坑が平面的に重複。22号配石の下位



27号配石(左)と水場遺構(右)



石皿



石皿と配石礫

27号配石

から検出。

**礫の配置** 偏平な中型礫を主体に大型礫、小型礫を配置。全体的に配置は不整形であるが、偏平な中型礫の側面を上にして四角く配置し、規格性が認められる部分もあった。

**埋没** 検出されなかった。

**所見** 平面・断面とも不整形な小型の配石。22号配石の下位から検出され、層位的には22号配石よりも古い遺構と考えられる。

30号配石(第1-85図、PL.99)

**調査区・グリッド** 1区 2N41

**平面形状** 不整形 **断面形状** 平坦

**規模** 長さ:180cm 幅:77cm

**主軸方位** N-40°-W

**重複** 289号土坑、22号配石

**礫の配置** 偏平な中型礫を配置。配置の規格性は弱い。

**埋没** 検出されなかった。

**所見** 中型礫を散漫に配置した規格性の弱い小型の配石である。

31号配石(第1-85、2-71図、PL.100、296)

調査区・グリッド 3区 2N40

平面形状 不整形 断面形状 平坦

規模 長さ：95cm 幅：85cm

主軸方位 N-56°-E

重複 22号配石

**磔の配置** 偏平な中型磔を主体的に配置。磔は、東側では平坦面を上にした横置き、西側では側面を上にした縦置きが見られる。全体的な配置の規格性は弱い。

**埋蔵** 検出されなかった。

**所見** 配置の規格性の弱い小型の配石である

32号配石(第1-85図、PL.100)

調査区・グリッド 3区 2N41

平面形状 楕円形 断面形状 平坦(土坑底面に配置)

規模 長さ：150cm 幅：85cm (北東側は調査区外)

主軸方位 N-53°-W

重複 292号土坑、22号配石

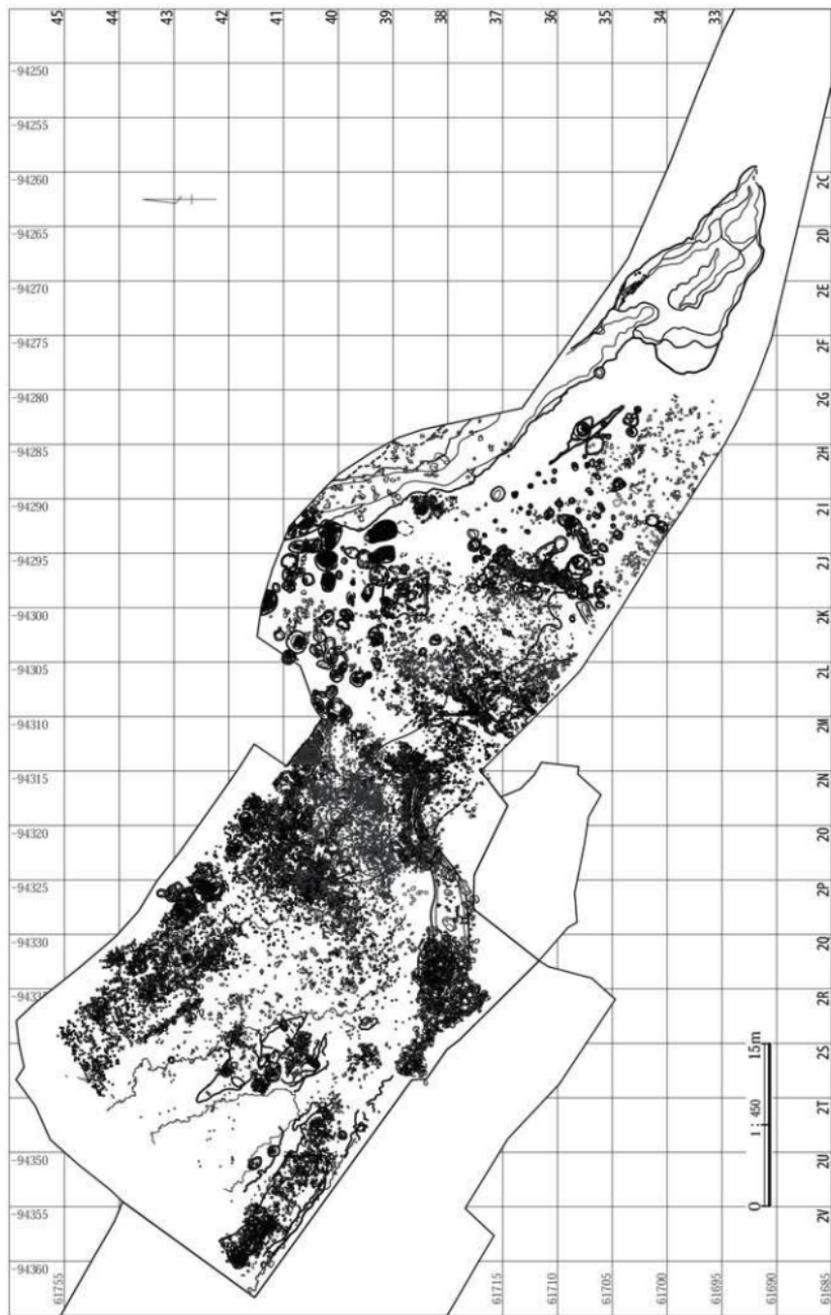
**磔の配置** 土坑の底面に大型磔・中型磔を配置。西側では、偏平な大型磔が2点側面を立てて並べて配置され、東側では中型磔が重なるように配置されていた。

**埋蔵** 検出されなかった。

**所見** 土坑の中に構築された小型の配石。平坦な土坑底面に大型磔を立てて配置している。

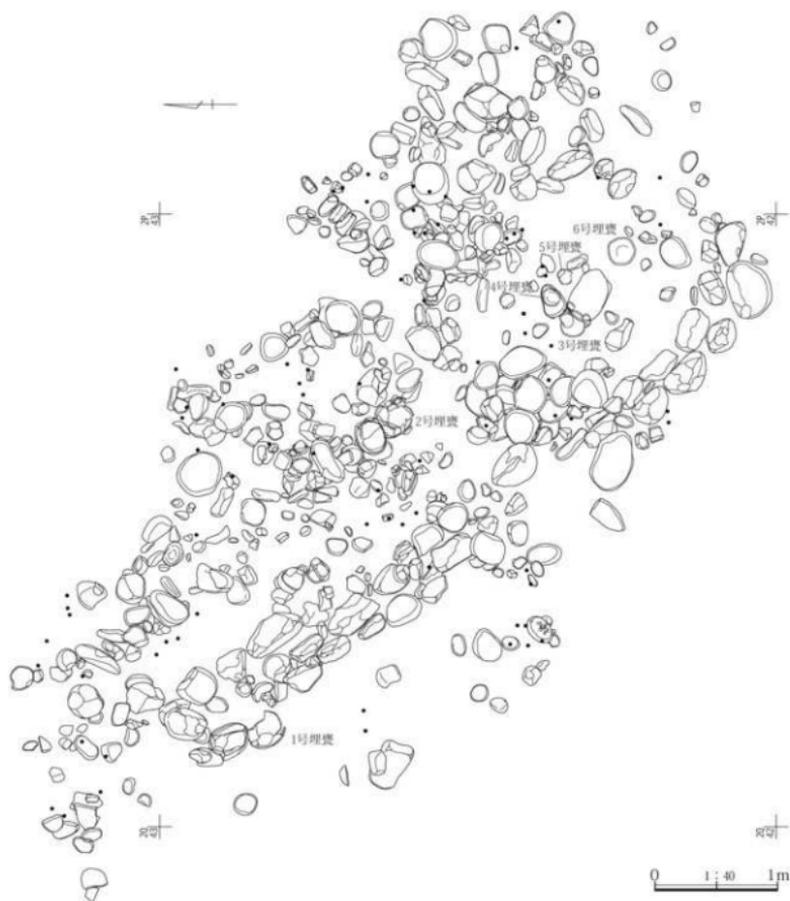
33号配石

配石土坑であるため、土坑の項目に記載した。



第560图 配石全体图



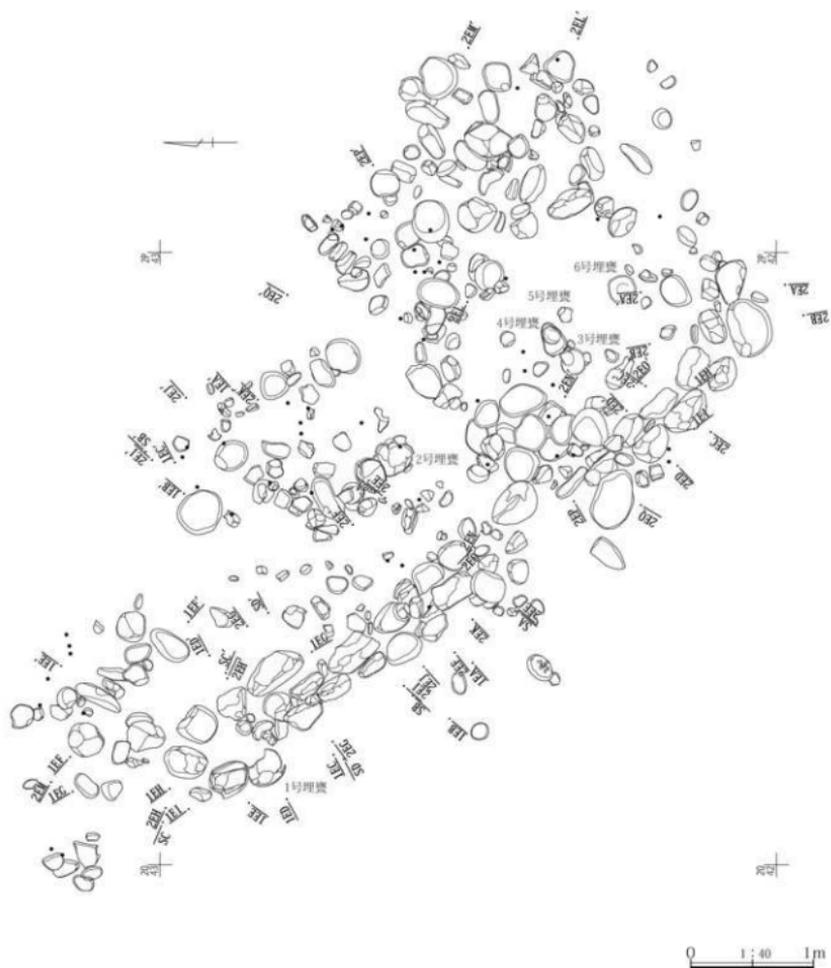


1号配石

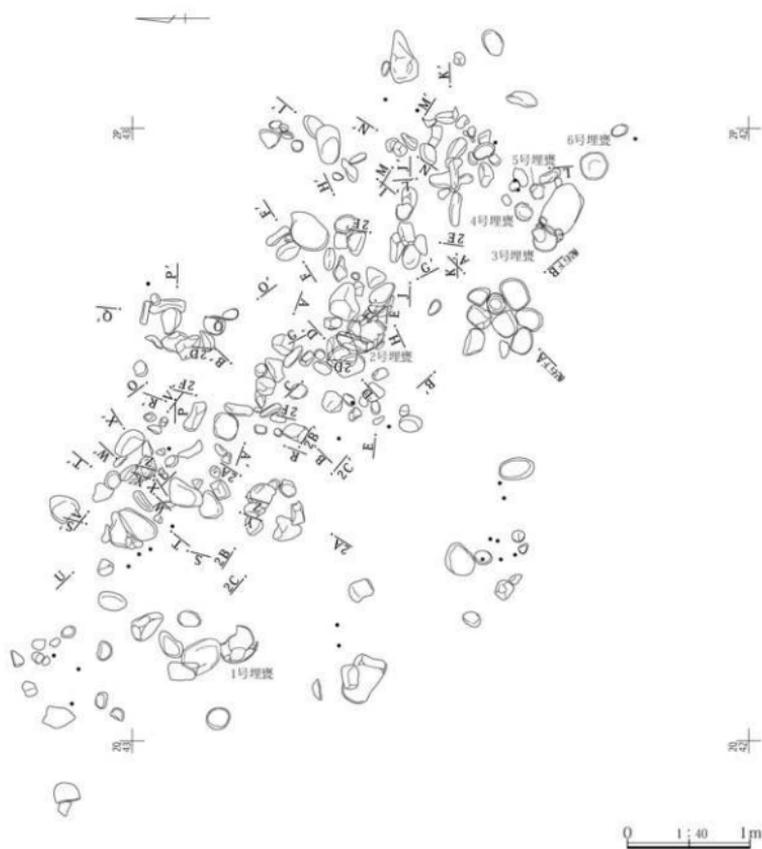


1号配石

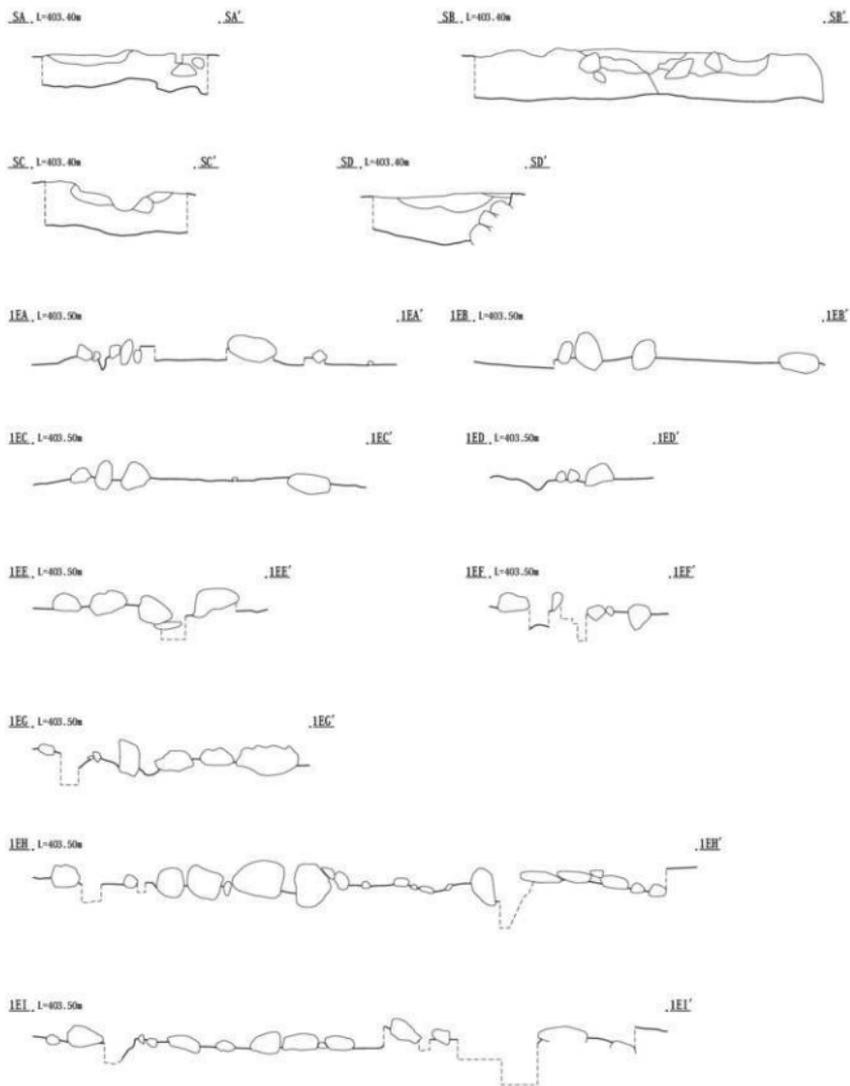
第62図 1号配石1~3面



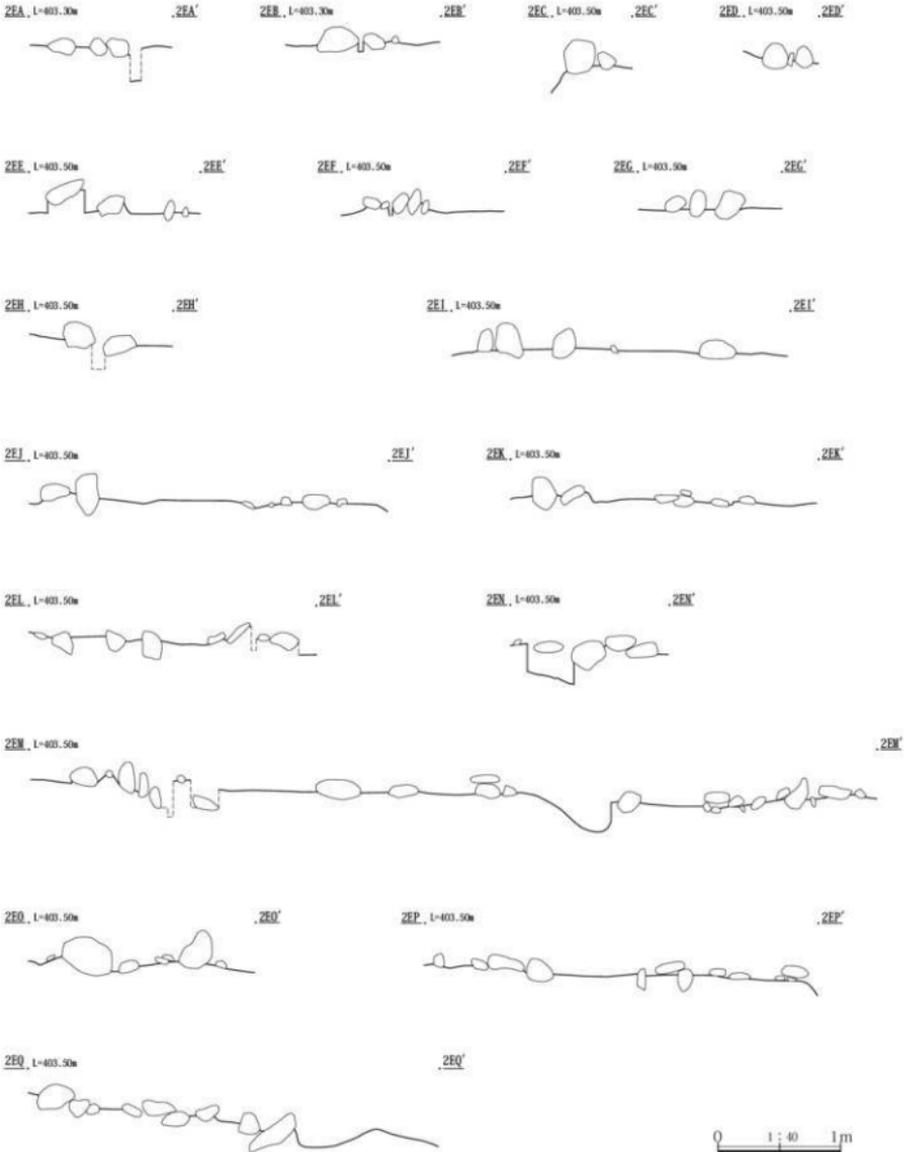
第63図 1号配石1・2面



第64圖 1号配石3面



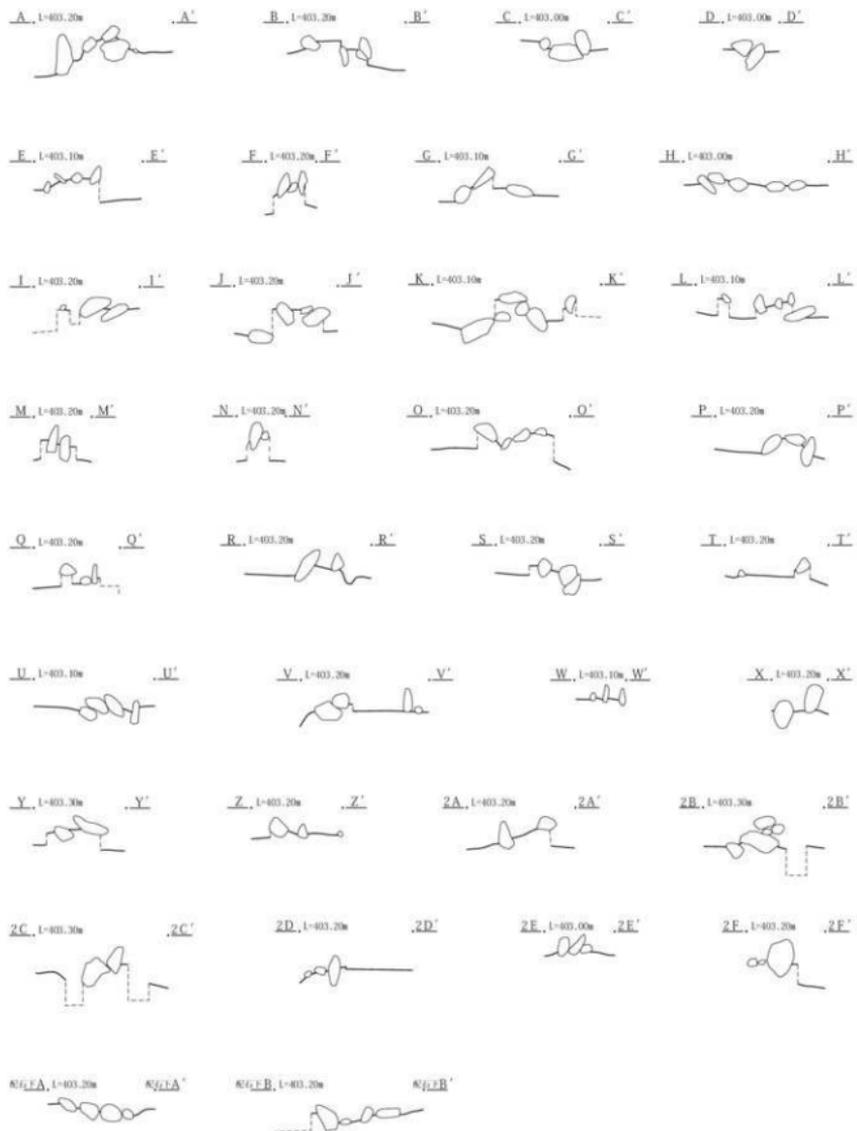
第65図 1号配石1面エレベーション図



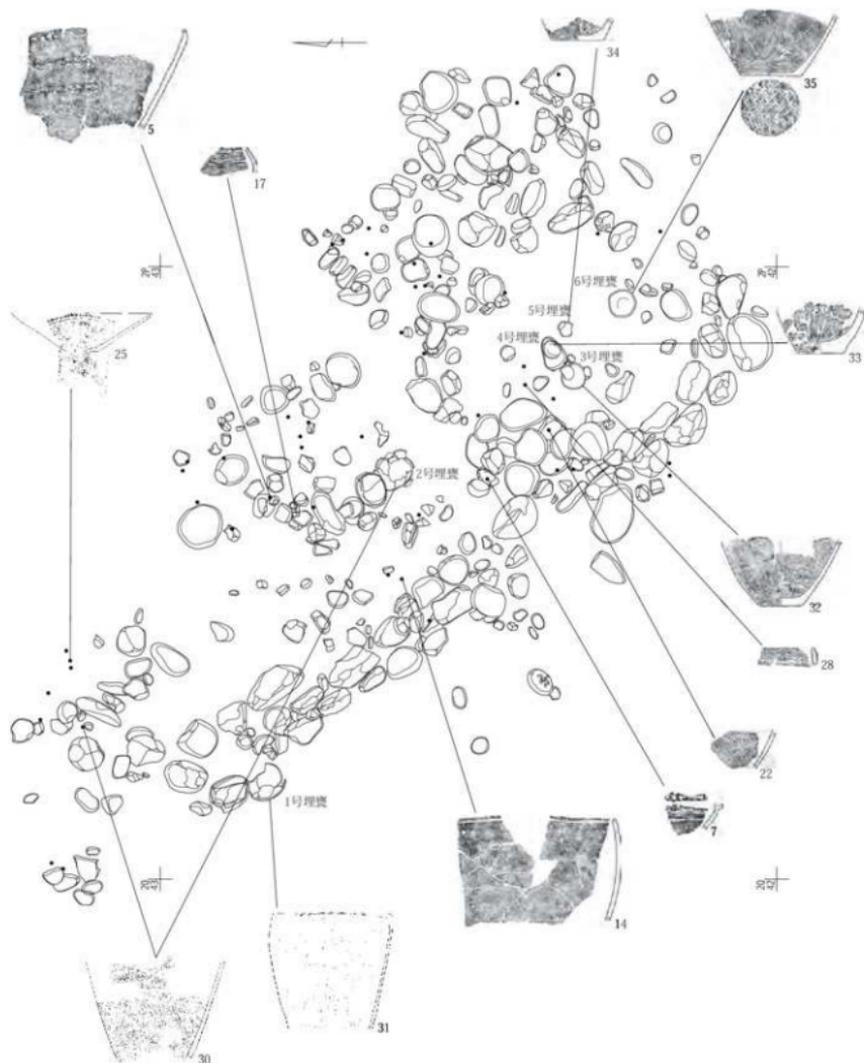
第66図 1号配石1面エレベーション図

0 1:40 1m

第4章 縄文時代の遺構と遺物

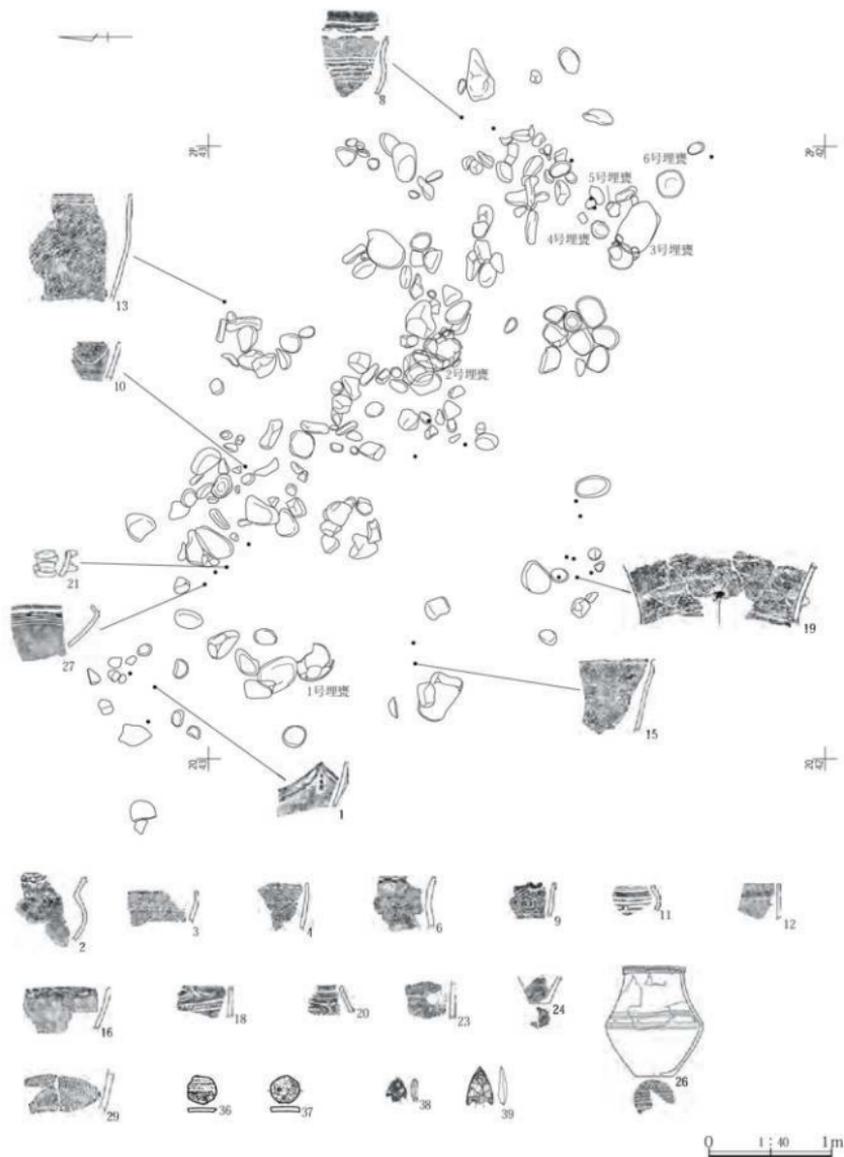


第67図 1号配石1面エレベーション図

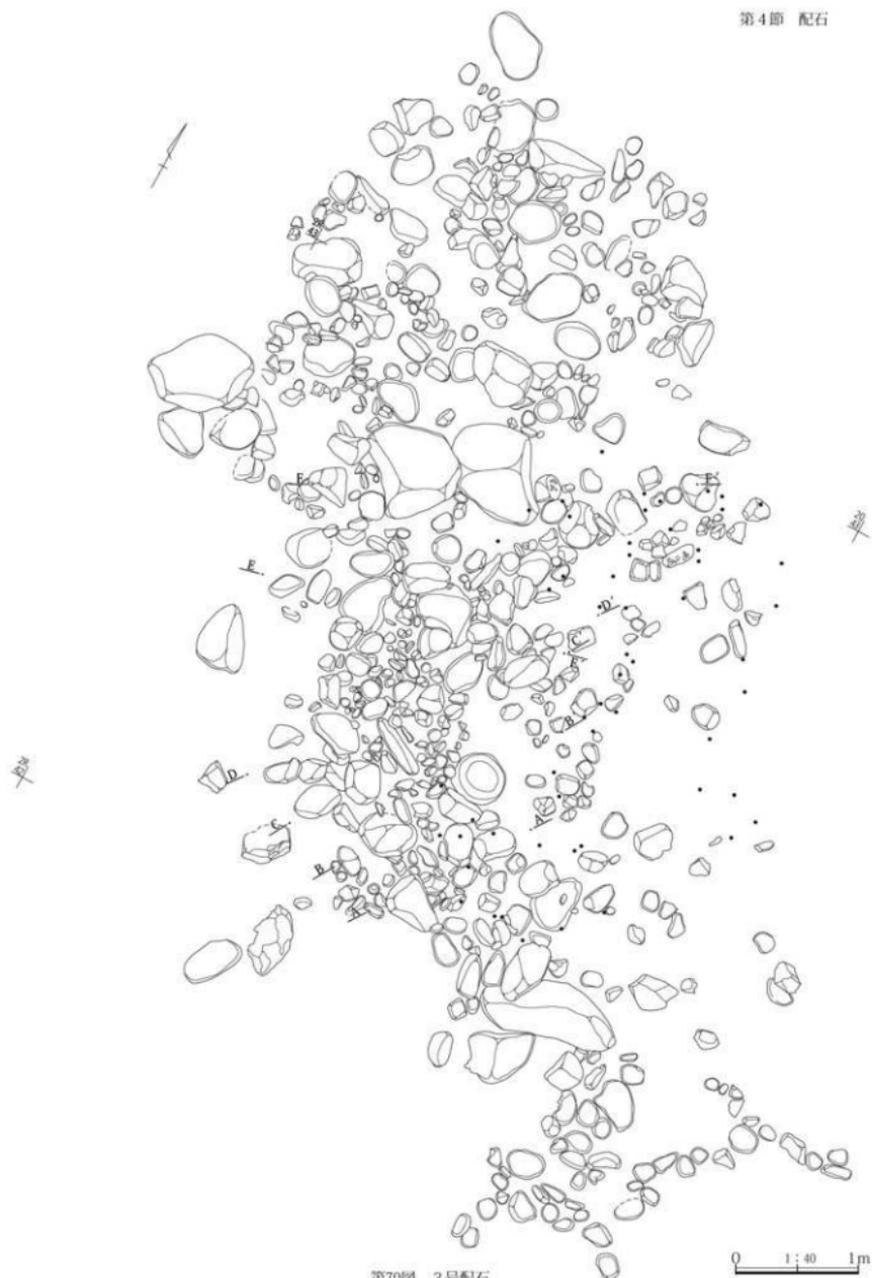


第68图 1号配石1・2面遺物出土状況

0 1:40 1m



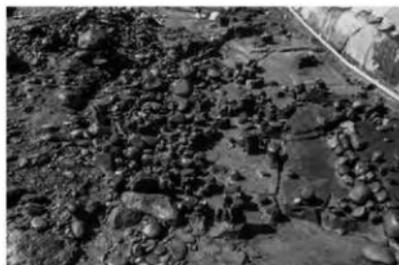
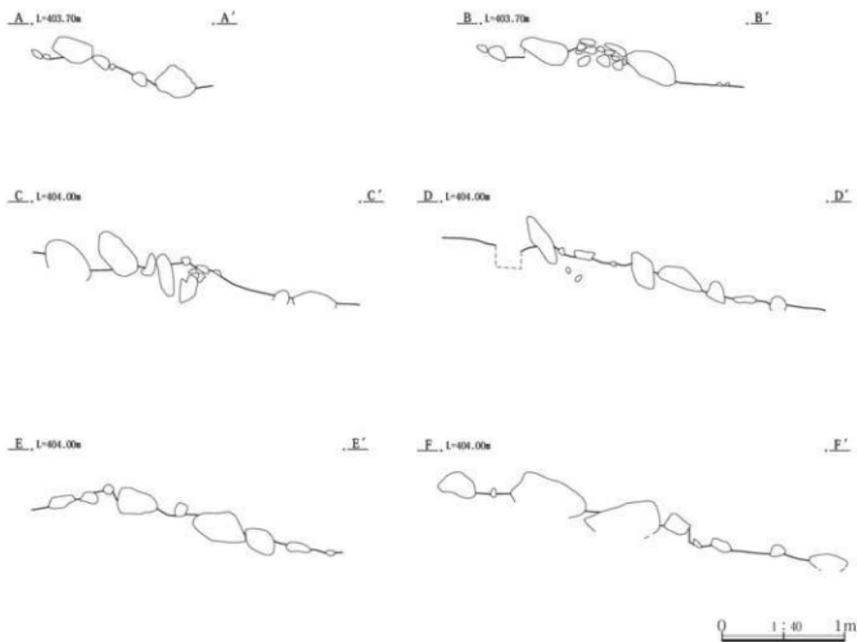
第69図 1号配石3面遺物出土状況



第70图 2号配石

0 1:40 1m

第4章 縄文時代の遺構と遺物

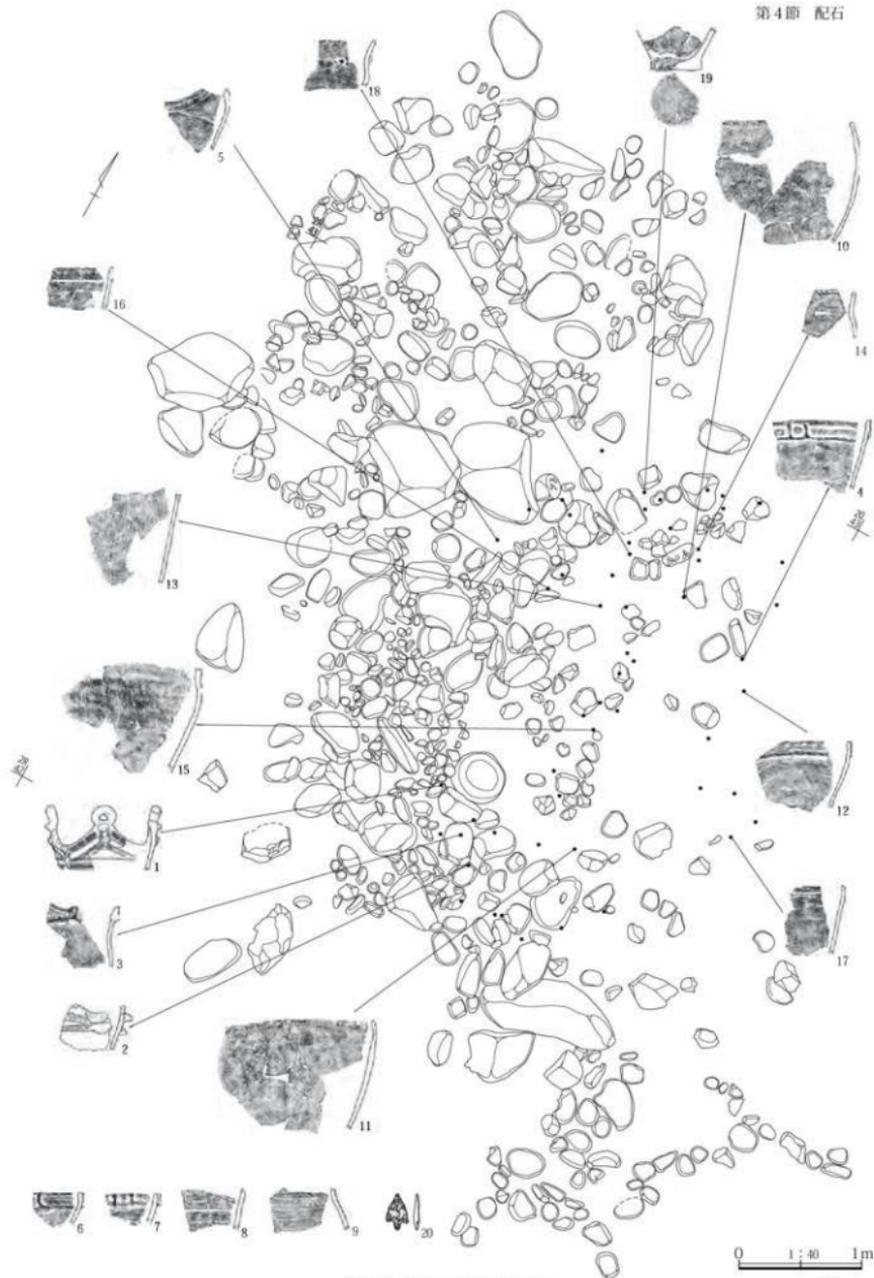


2号配石

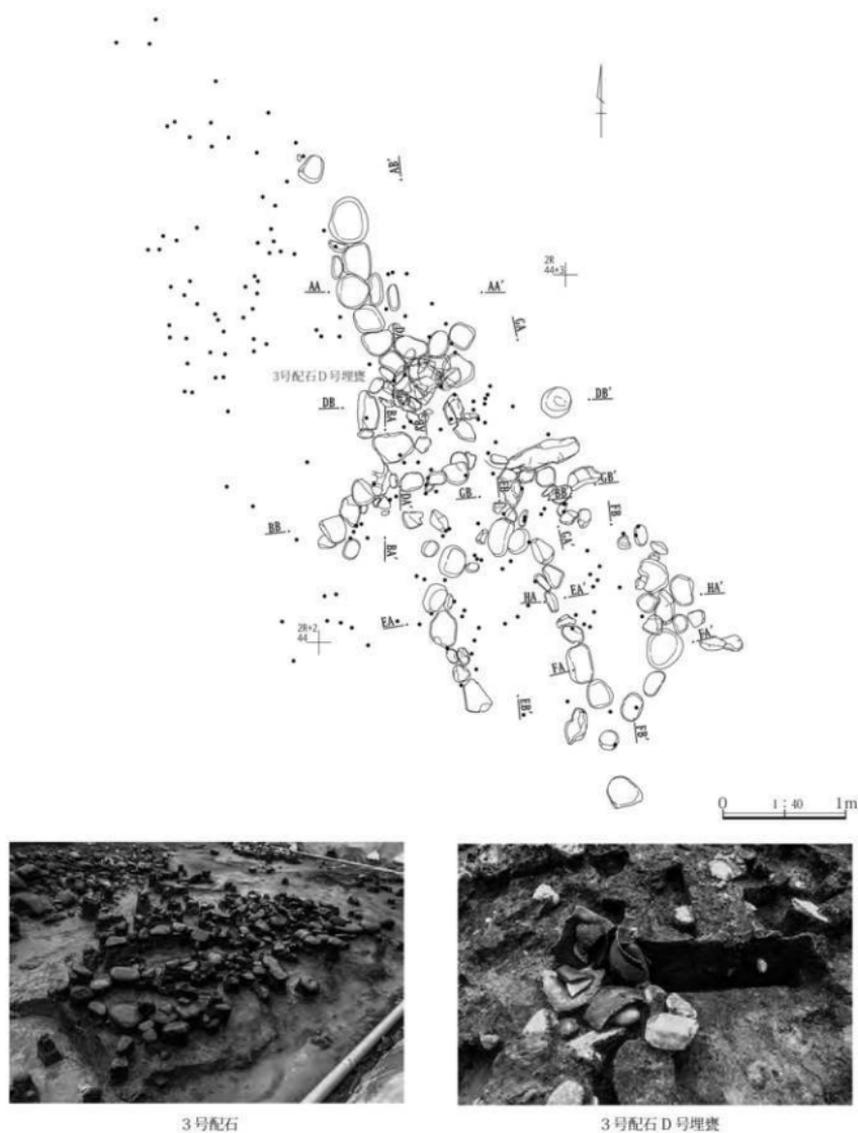


2号配石

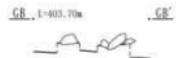
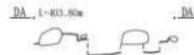
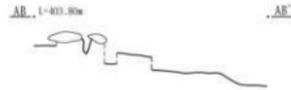
第71図 2号配石エレベーション図



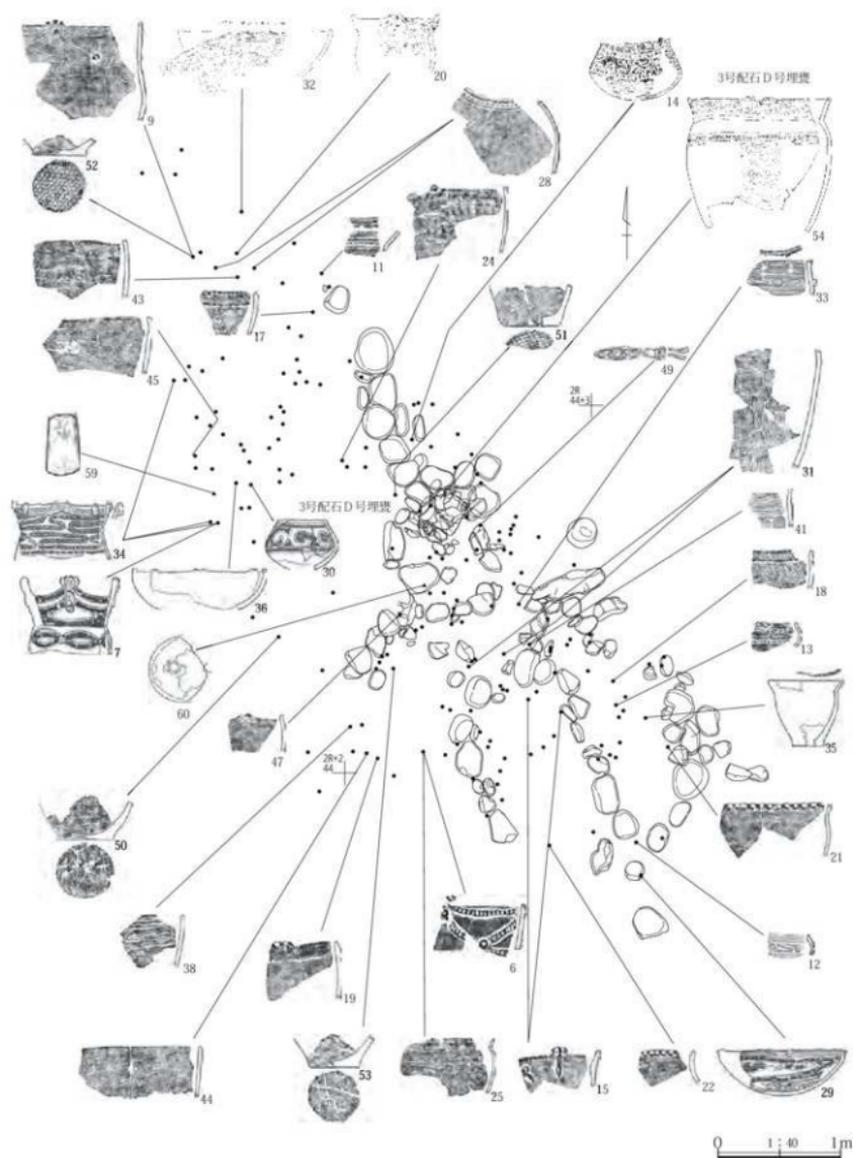
第72图 2号配石遺物出土状況



第73図 3号配石



第74図 3号配石エレベーション図



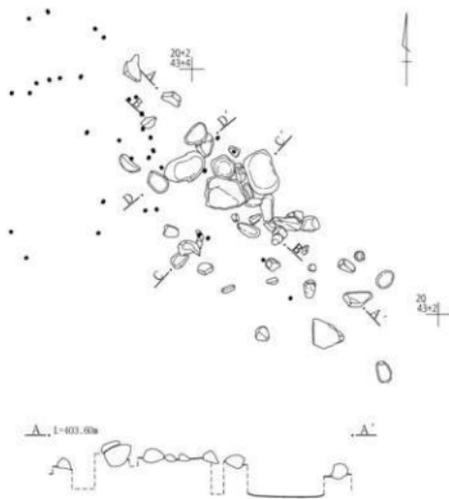
第75図 3号配石遺物出土状況(1)



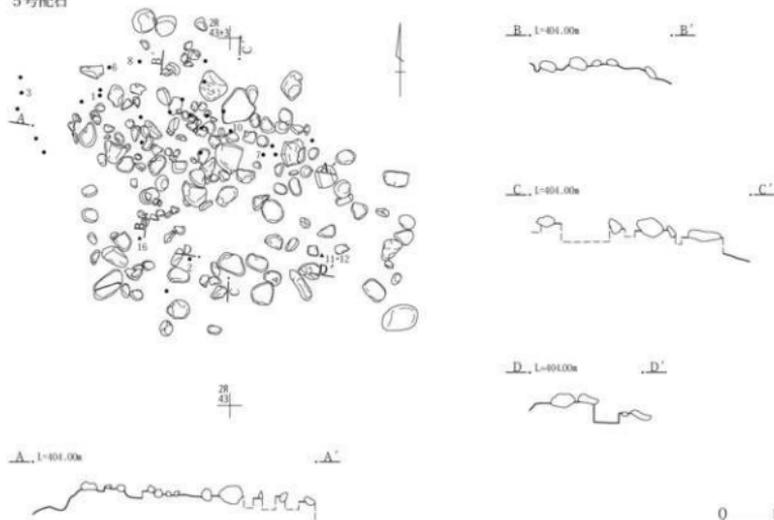
第76图 3号配石遺物出土状況(2)

第4章 縄文時代の遺構と遺物

4号配石

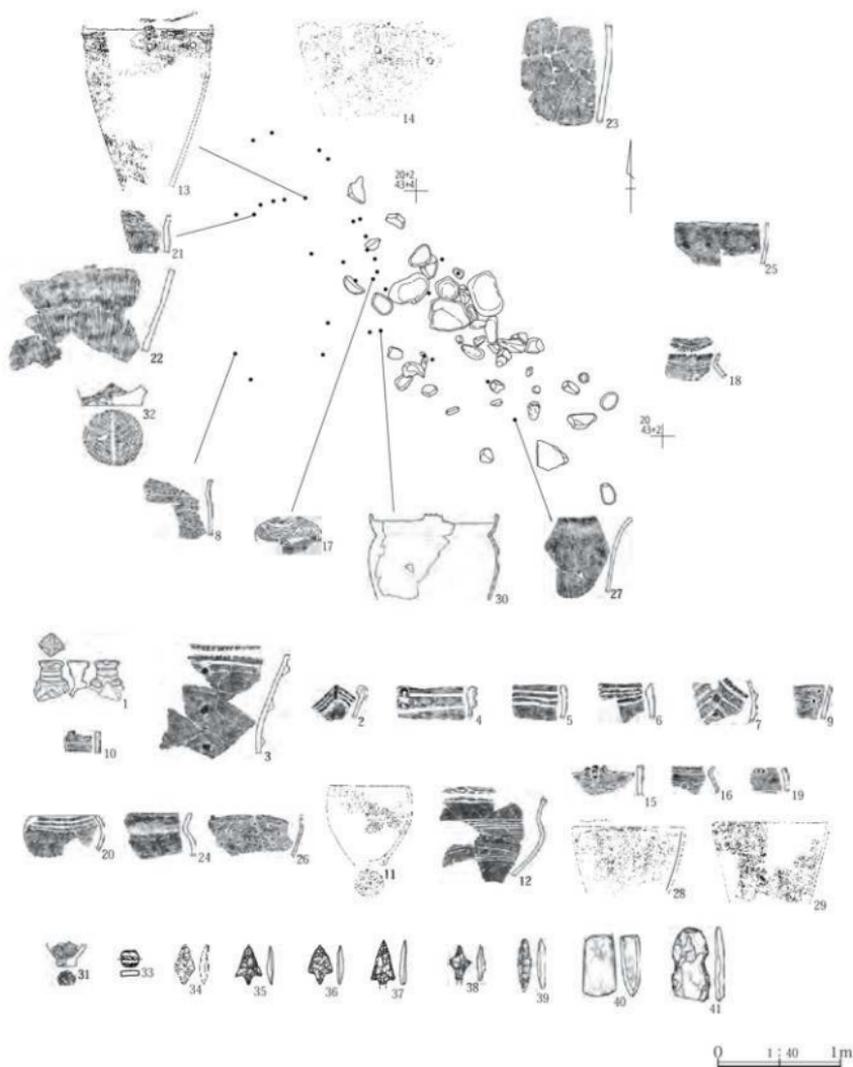


5号配石

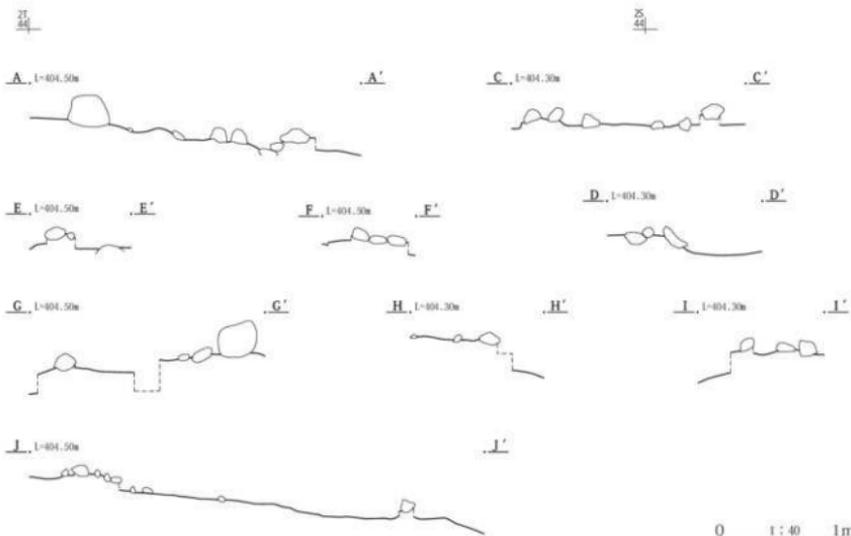


第77図 4・5号配石

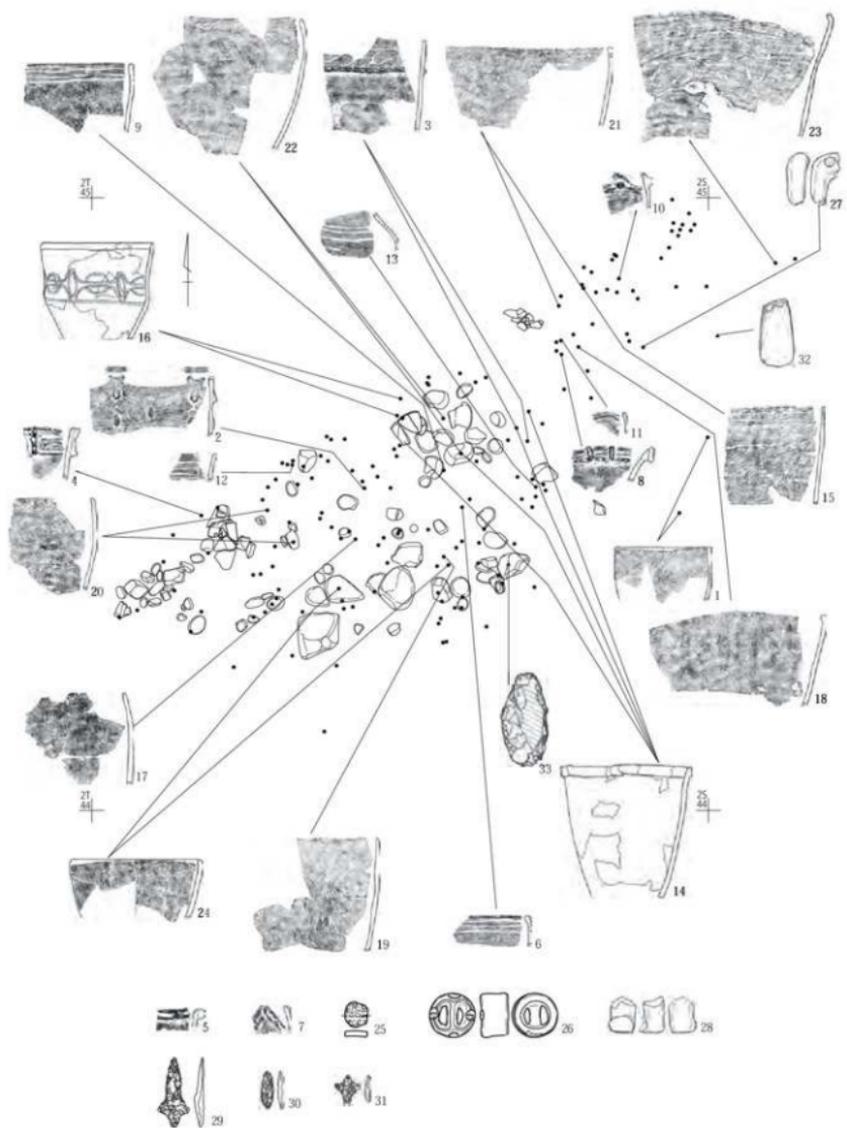
0 1:40 1m



第78图 4号配石遺物出土状況

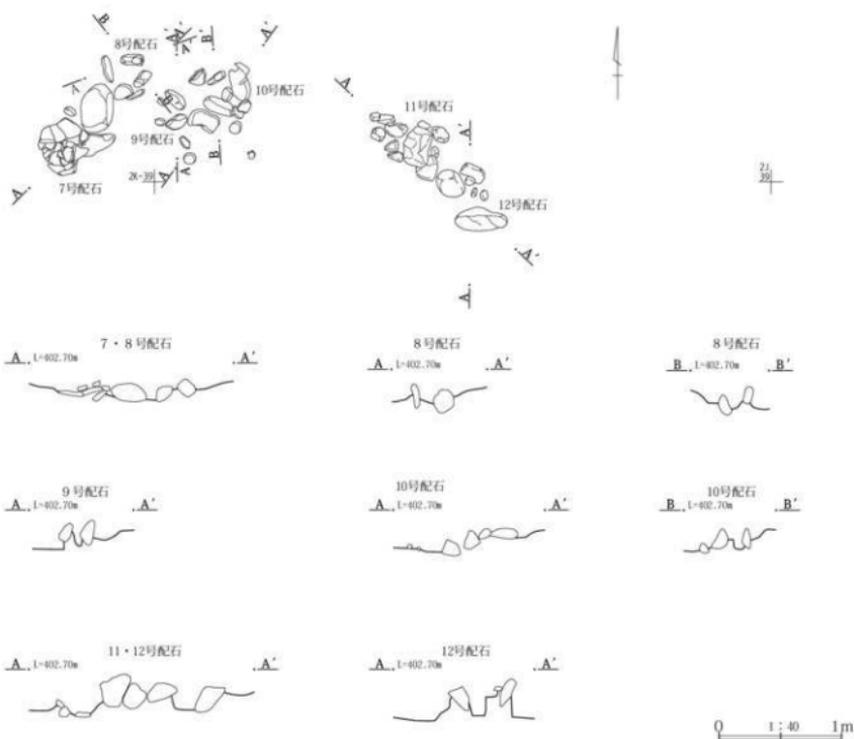


第79図 6号配石



第80圖 6号配石遺物出土状況

7～12号配石



7～12号配石



7～12号配石

第81図 7～12号配石

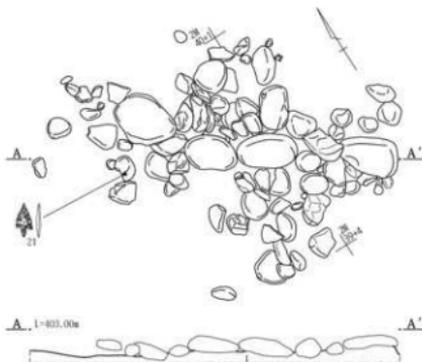
13号配石



13号配石

- 1 灰黄褐色砂質土層10YR4/2 径1mm以下の極小の砂質土。  
径3~5mmの炭化物を1%含む。

15号配石

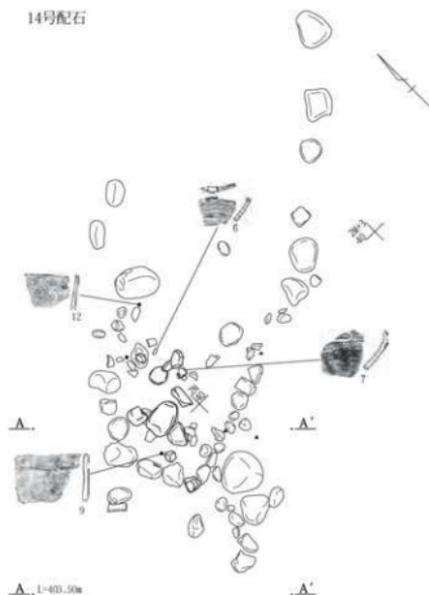


15号配石

- 1 褐灰色土層10YR4/1 やや砂礫。地山の灰黄褐色シルトを径10mmで  
斑状に含む。かたくしまる。径2~3mmの炭化物を3%含む。

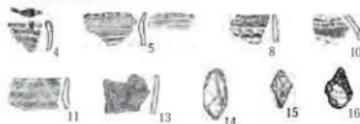


14号配石

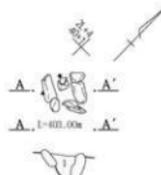


14号配石

- 1 黒褐色土層10YR3/2 黒色土(10YR3/1)を主体に径1mm以下の砂を  
20%含む。  
2 黒褐色土層10YR3/1 径1mm以下の白色粒子を3%含む。X層よ  
りも黒色度がある。



16号配石



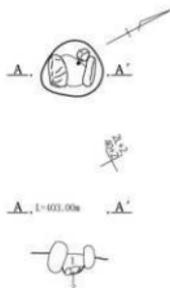
16号配石

- 1 褐灰色土層10YR4/1 やや砂礫。地山の灰黄褐色シルトを径10mm  
で斑状に含む。かたくしまる。径2~3mmの炭化物を3%含む。



第4章 縄文時代の遺構と遺物

17号配石



18号配石



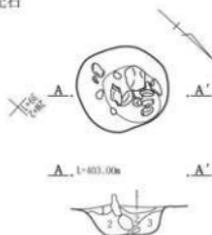
17号配石

- 1 褐色土10YR4/1 やや砂礫。地山の灰黄褐色シルトを径10mmで斑状に含む。かたくしまる。径2~3mmの炭化物を3%含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。地山の灰黄褐色シルト質土層と1層の混土層。

20号配石



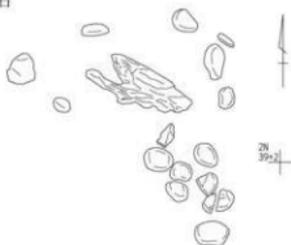
19号配石



19号配石

- 1 褐色土10YR4/1 砂質。径1~5mmの炭化物を3%含む。
- 2 黒褐色土10YR3/1 1層を斑状に含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 やや粘質。

21号配石



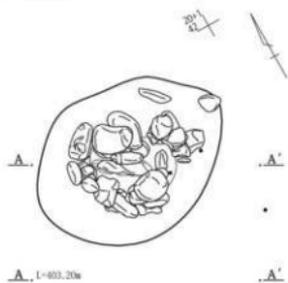
23号配石



0 1:40 1m

第83図 17~21・23号配石

24号配石



24号配石

1 黒褐色土10/R3/1 径1mm以下の白色粒子を3%含む。砂質がかる。

25号配石



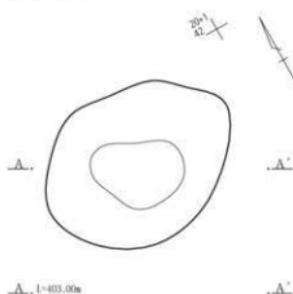
25号配石

1 黒褐色土10/R3/1 径1mm以下の白色粒子を3%含む。X層と同じだが、粘性あり。

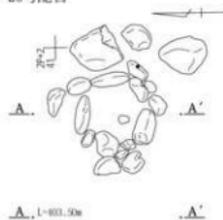
27号配石



24号配石完掘



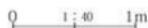
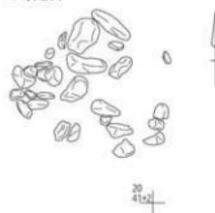
26号配石



26号配石

1 に近い黄褐色砂10/R5/3 径1mm以下の細粒の砂層。

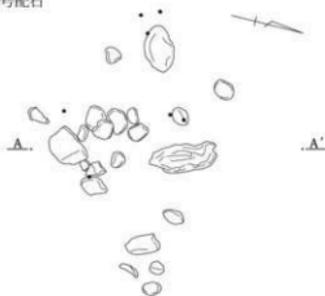
29号配石



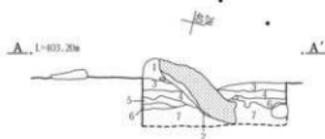
第84図 24～27・29号配石

第4章 縄文時代の遺構と遺物

28号配石



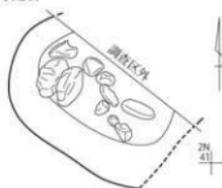
28号配石セクションA-A'



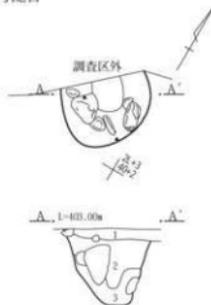
28号配石

- 1 黒褐色砂質土10YR3/1 縄文包含層X層と同じ。
- 2 黒褐色土10YR3/1 粘性強い・黒色土。しまり強い。
- 3 暗灰黄色砂 2.5YR5/2 径1mm以下の細粒の砂層。
- 4 褐灰色砂10YR 4/1 径1mm以下の細粒の砂を主体。径1~2mmの粗粒の砂を10%含む。
- 5 黄褐色砂 2.5YR5/3 径1mm以下の細粒の砂層。
- 6 灰黄褐色砂10YR4/2 径1mm以下の細粒の砂層。径3~5mmの炭化物を3%含む。
- 7 黒褐色土10YR3/1 粘性強い、しまり強い。

32号配石



33号配石



33号配石

- 1 灰黄褐色砂礫 10YR5/2 径10~30mm大の小礫を30%含む。
- 2 褐灰色土 10YR4/1 径3~5mmの炭化物を5%含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 径1~3mmの炭化物を3%含む。

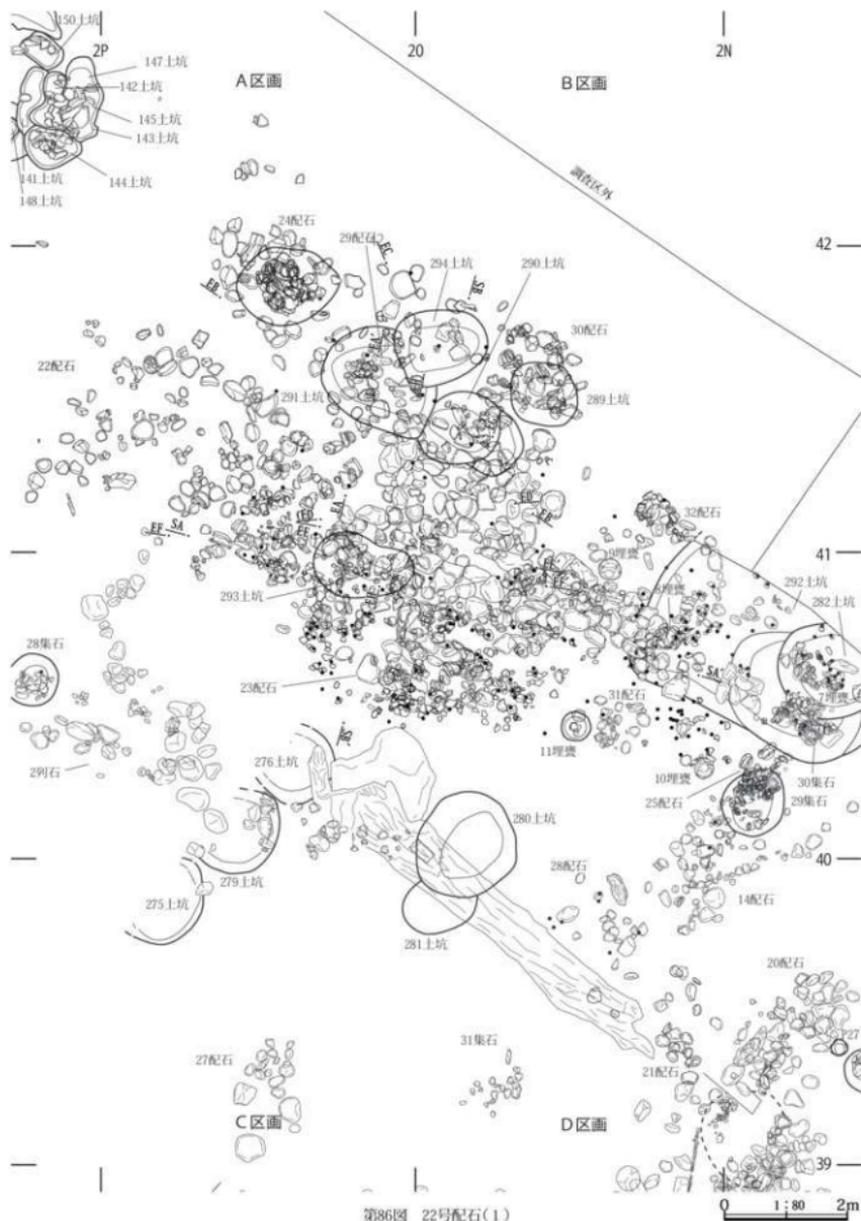
30号配石



31号配石

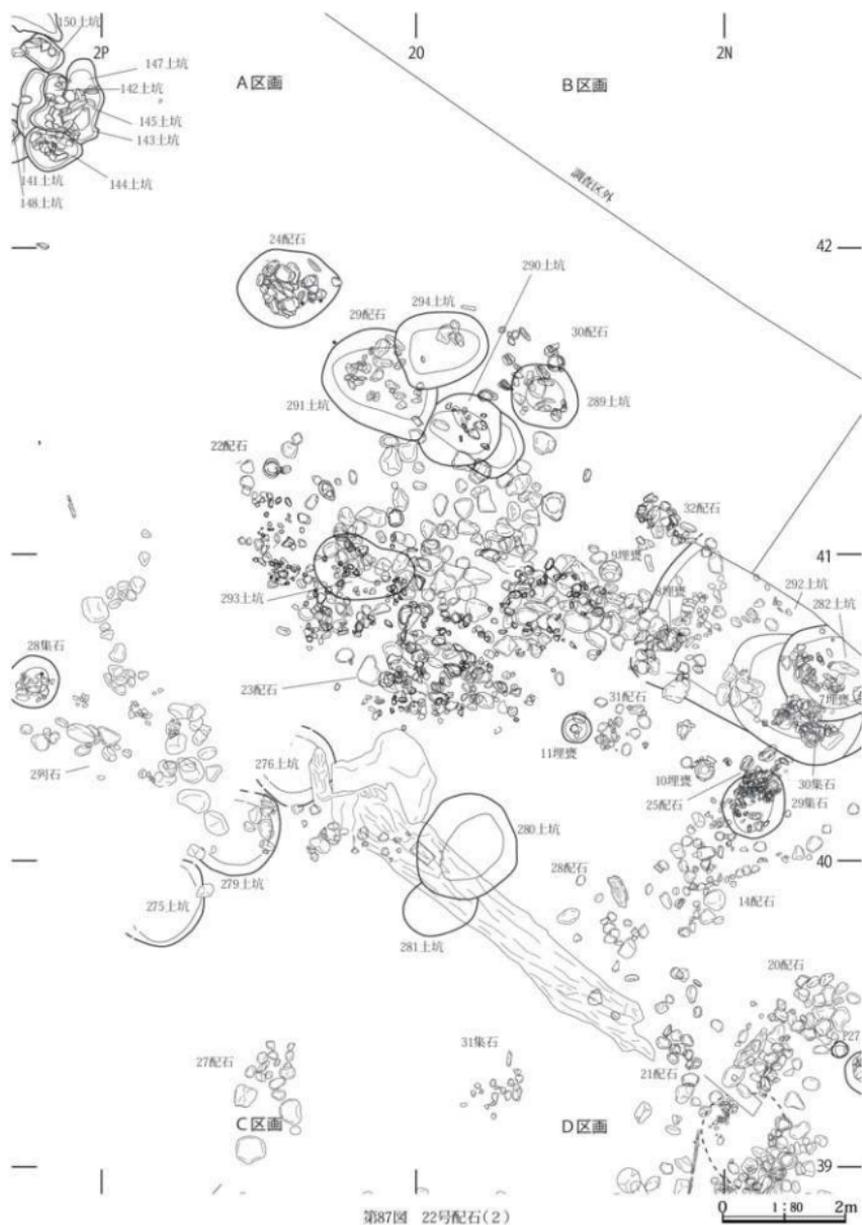


第85図 28・30~33号配石

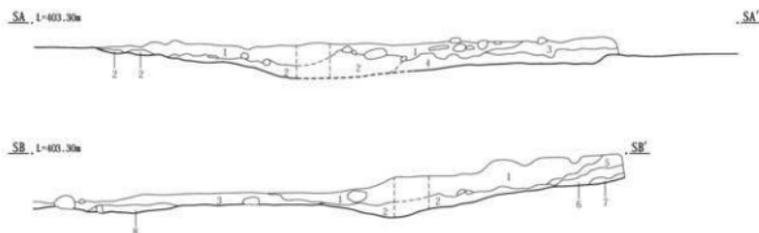


第86图 22号配石(1)

第4章 縄文時代の遺構と遺物

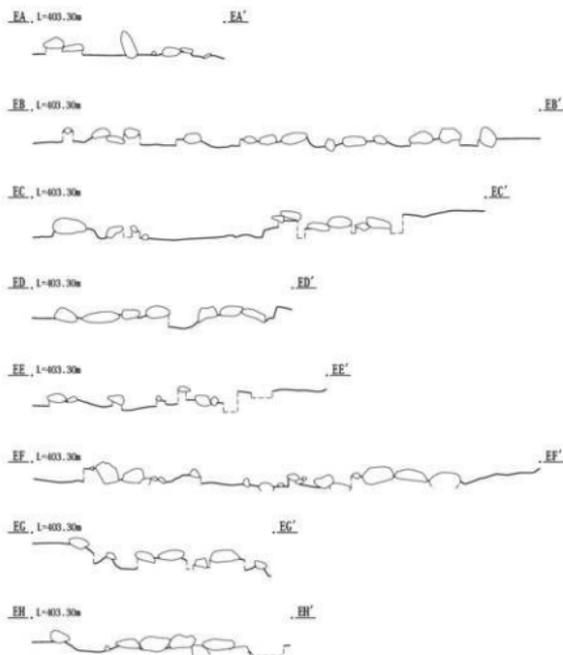


第87図 22号配石(2)



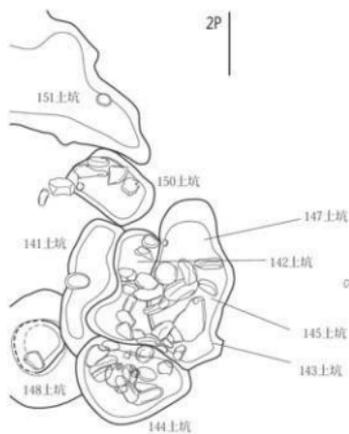
## 22号配石

- 1 黒褐色土10YR3/2 径3～5mm大の骨片、炭化物を5%含む。1層の上面に22号配石の礫が配置される。5層との境界はレンズ状の堆積で、土器及び礫がレンズ状に産集される。本層から大量の土器、石器、礫が出上。
- 2 黒褐色土10YR3/1 1層より暗色でやや砂質を帯びる。
- 3 黒褐色土10YR3/3 径1～2mmの白色粒子を1%含む。
- 4 灰黄褐色土10YR3/2 3層と灰黄褐色土(10YR5/2)の混土層。
- 5 暗褐色砂質土10YR3/4 1層と6層の混土層。
- 6 灰黄褐色砂質土10YR4/3 径1～5mmの炭化物を3%含む。砂質味強。
- 7 灰黄褐色砂10YR6/2 砂層。地山。
- 8 暗褐色土10YR3/4 土坑の覆土。



0 1:60 2m

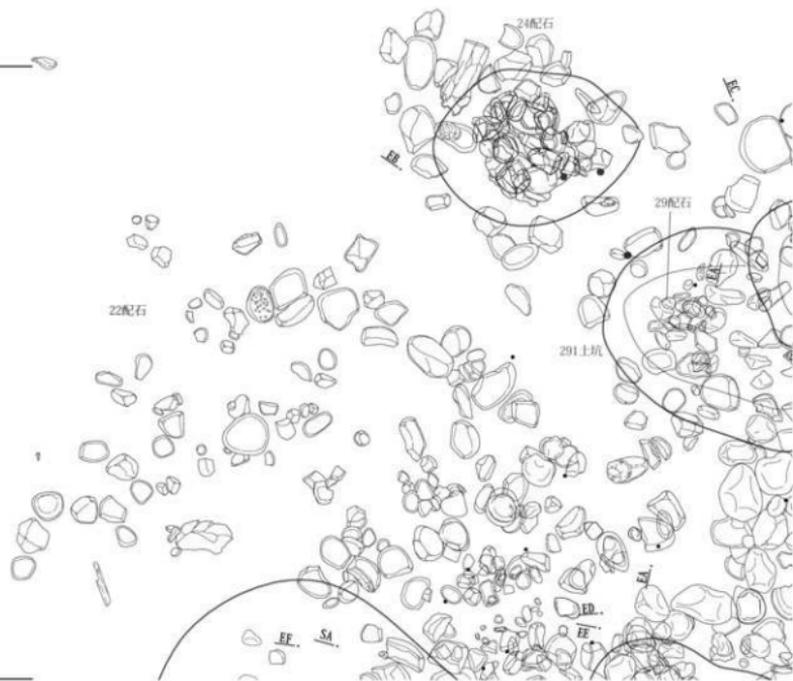
第88図 22号配石セクション・エレベーション図



A区画

42

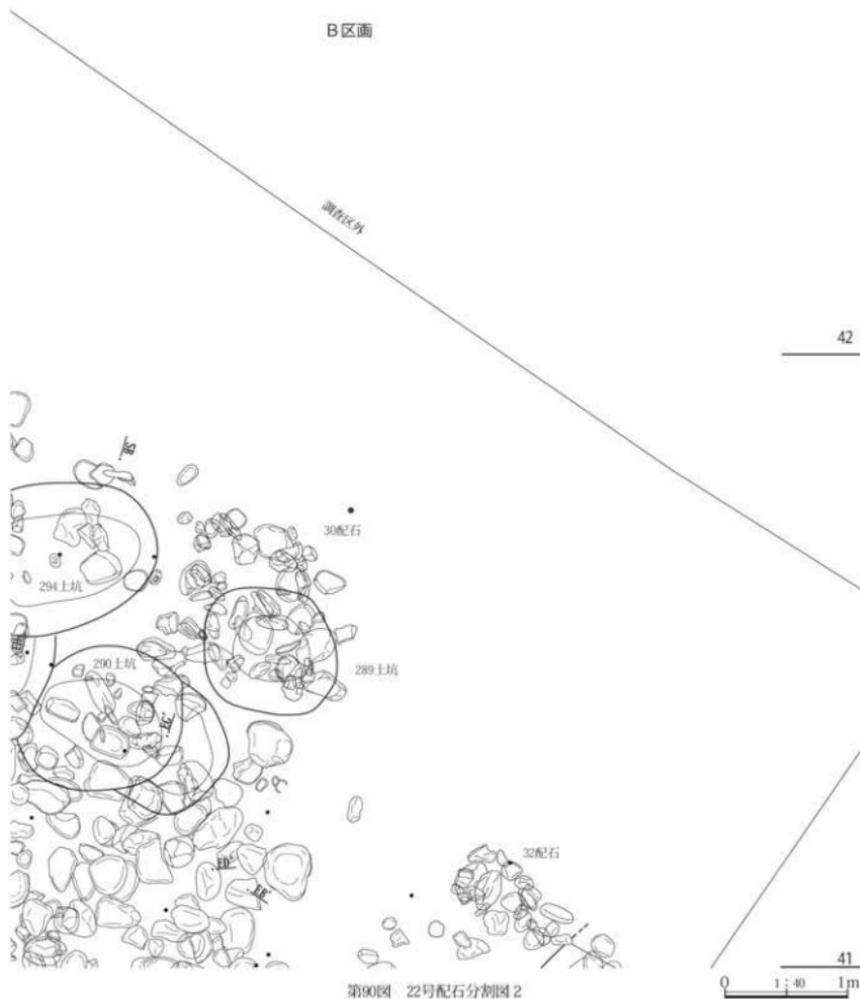
41

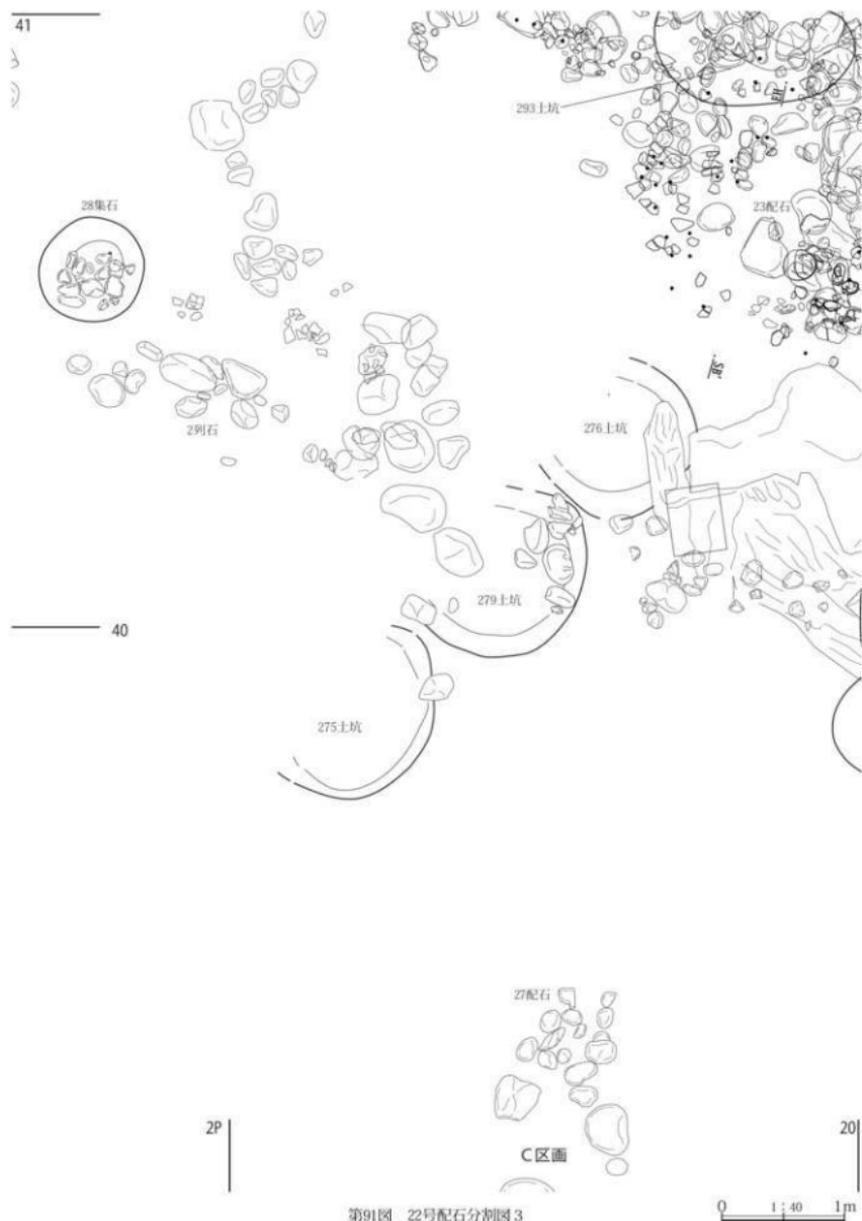


第80図 22号配石分割図1

20

2N

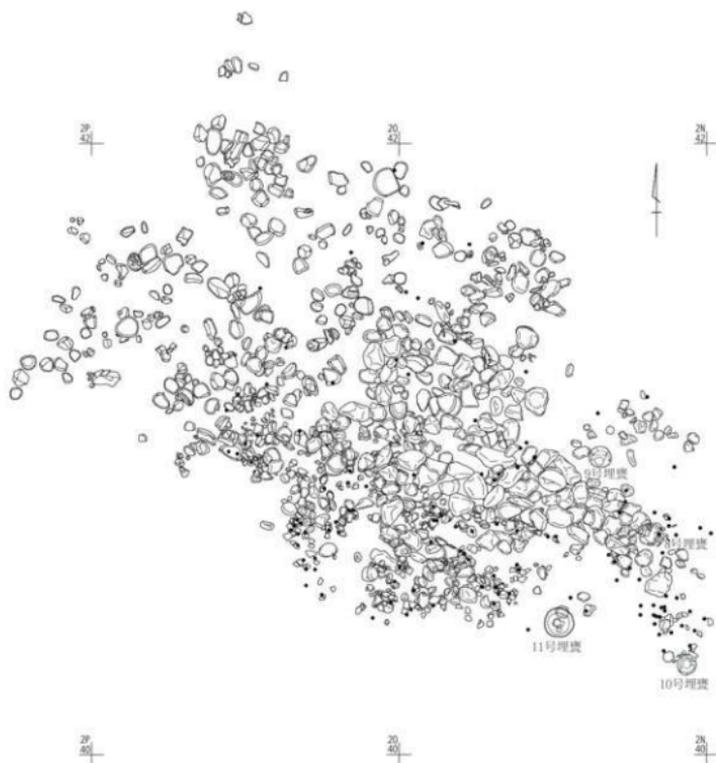




第91図 22号配石分割図3

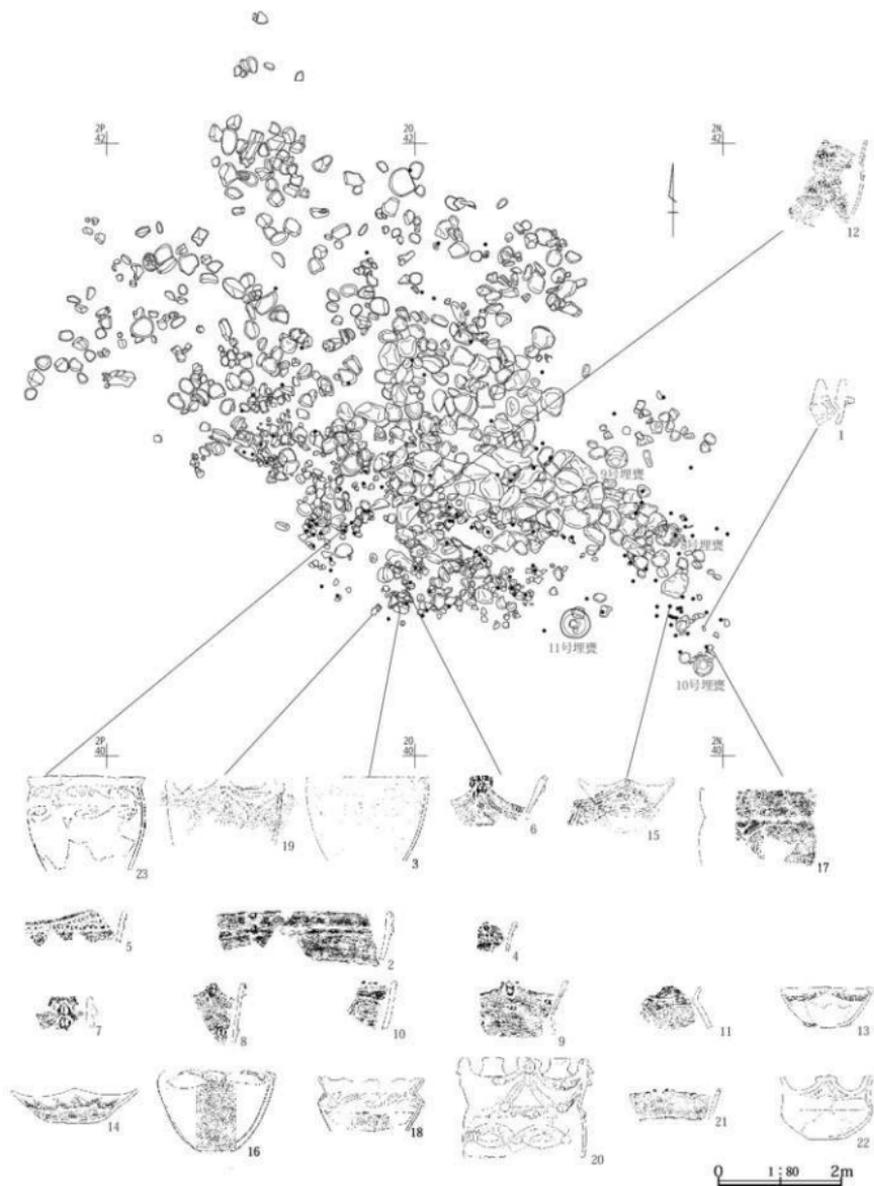


第92図 22号配石分割图4

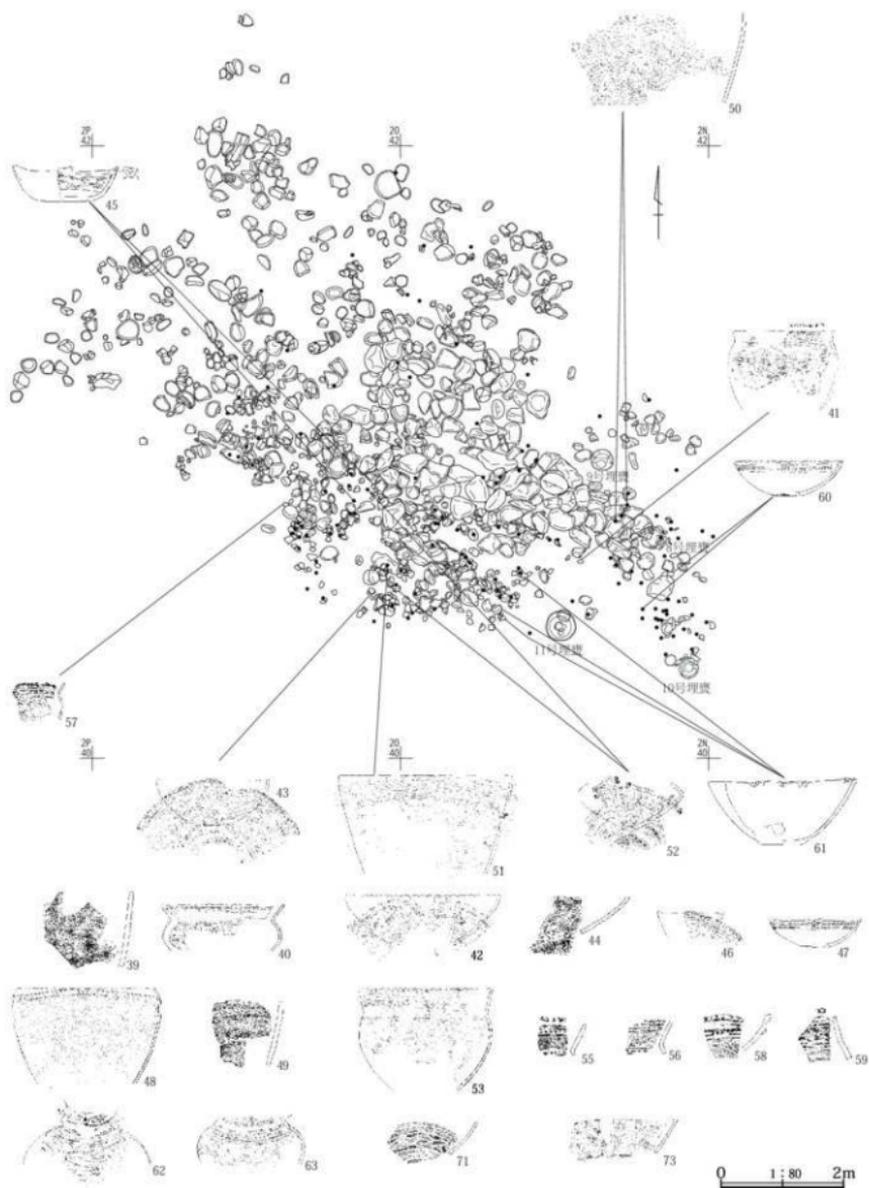


0 1:80 2m

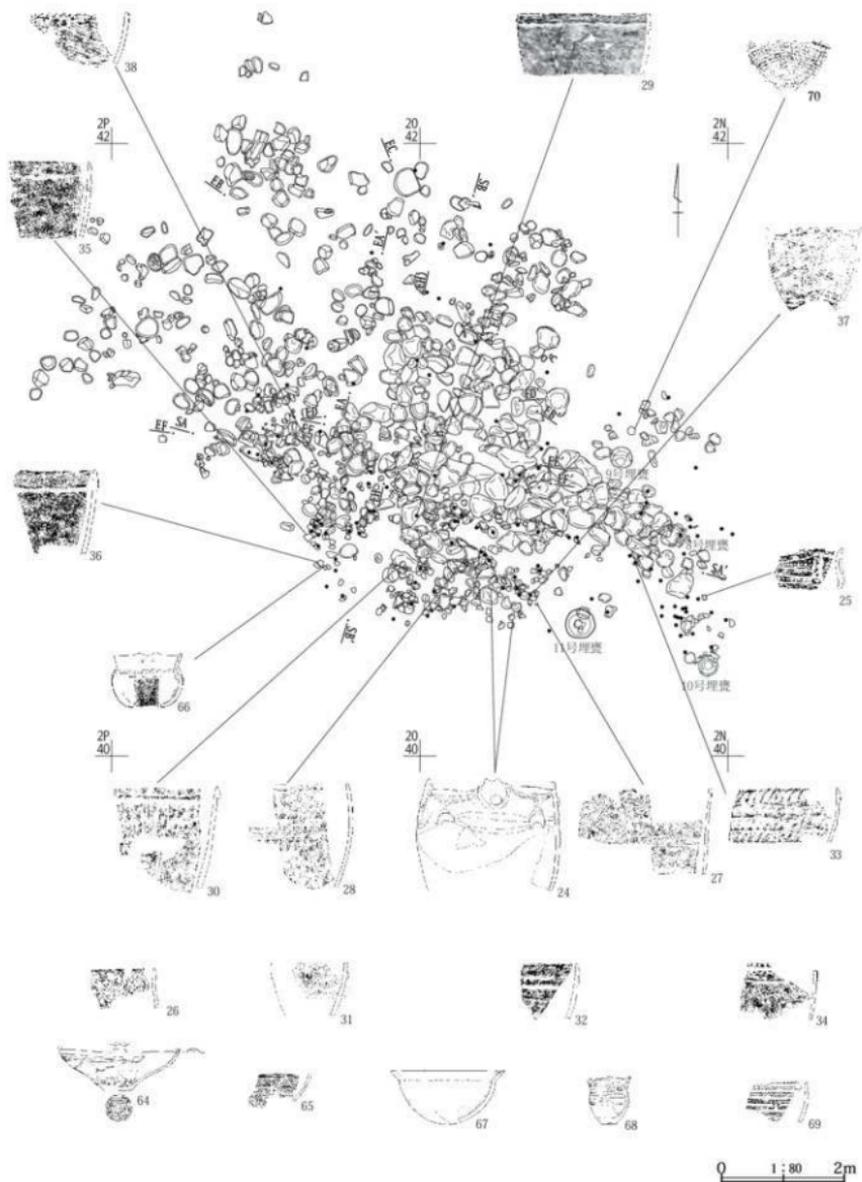
第93図 22号配石遺物出土状況(1)



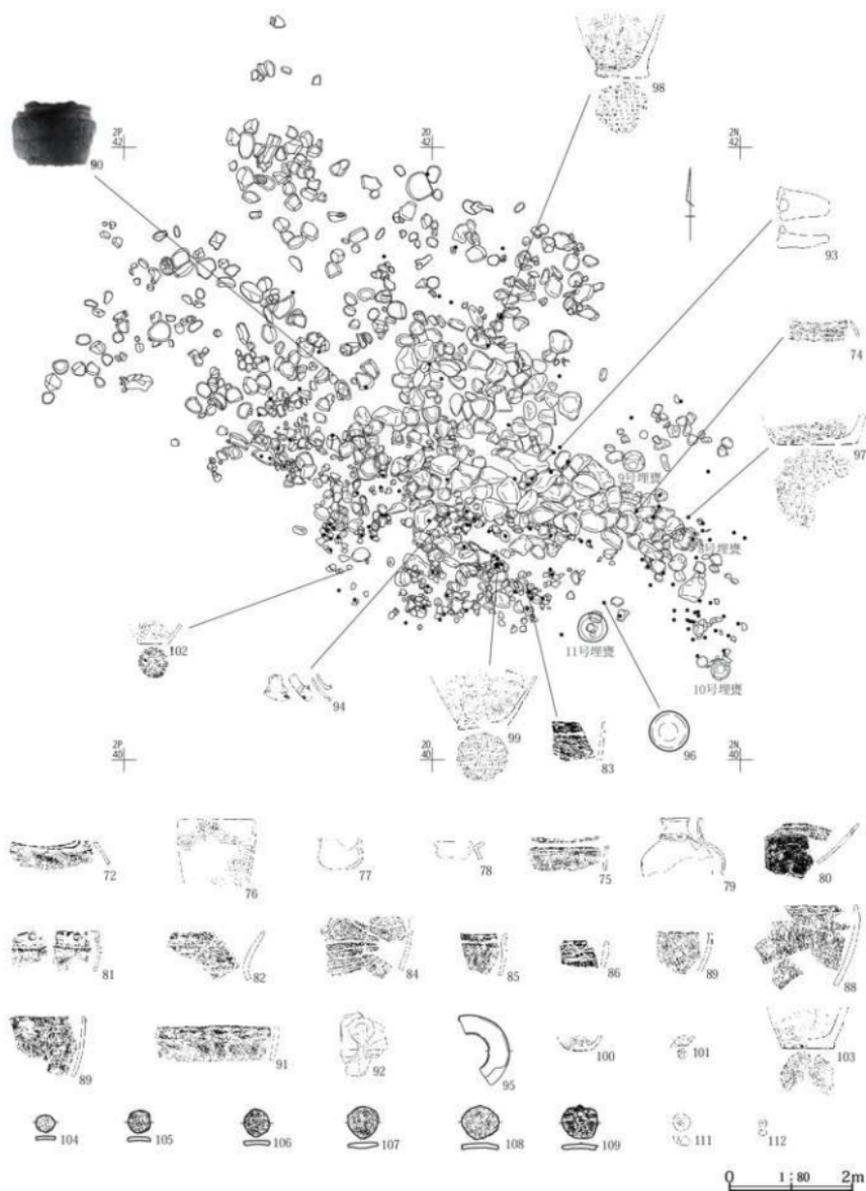
第94圖 22号配石遺物出土狀況(2)



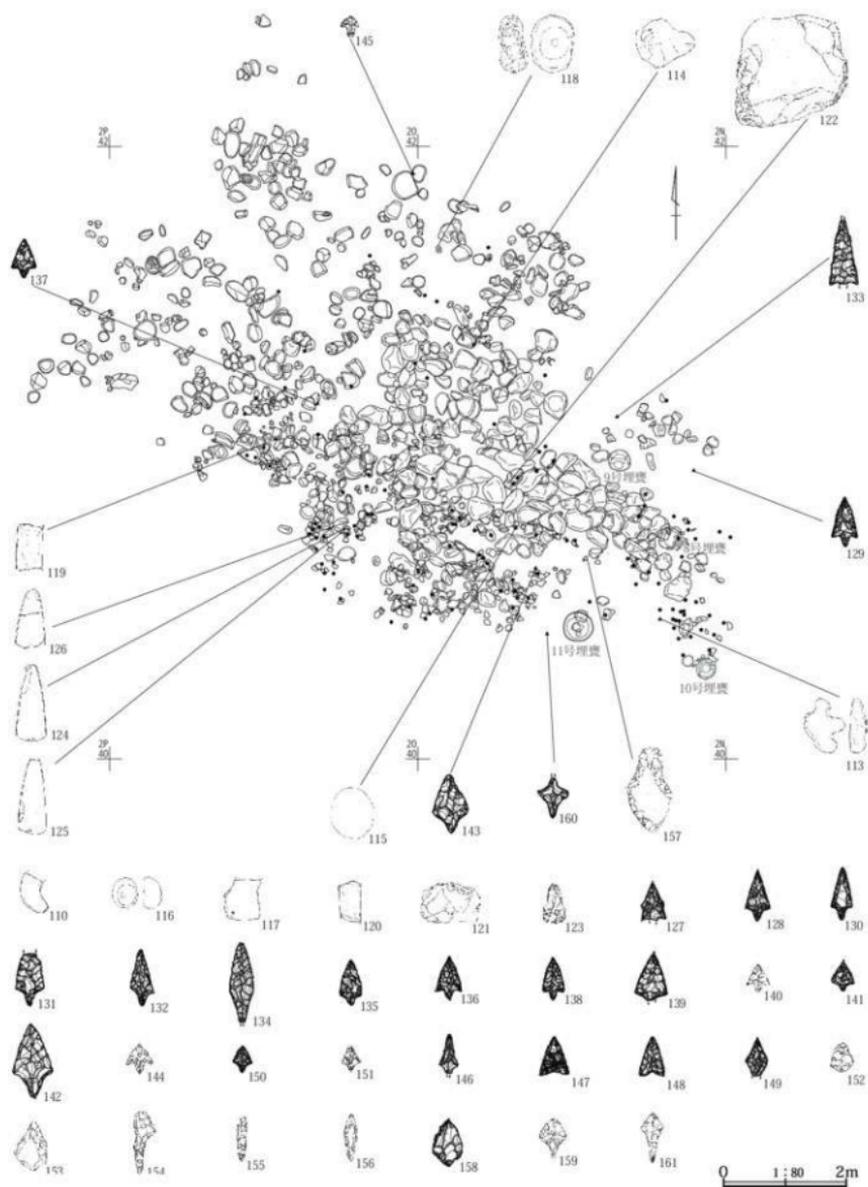
第95図 22号配石遺物出土状況(3)



第96図 22号配石遺物出土状況(4)



第97図 22号配石遺物出土状況(5)



第98图 22号配石遺物出土狀況(6)